

一色青海遺跡Ⅳ

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第233集

# 一色青海遺跡Ⅳ

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書  
第233集

2026

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第233集

いっしきあおかい  
一色青海遺跡Ⅳ

2026

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

## 序

一色青海遺跡は県道馬飼井堀線の建設によって、平成3年度に一色長畑遺跡という名前で初めて発掘調査のメスが入りました。

その後は、日光川上流浄化センターの建設に伴い平成5年度から本格的に調査が始まり、幾度かの中断期間を経ながらも、令和5年度にいたるまで30年以上の長きに渡っておよそ4万㎡もの広大な面積を、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査してきました。

調査が始まった頃は、濃尾平野に数多くあるごく標準的な規模の弥生時代集落のひとつにすぎないと考えられてきましたが、平成15年度の発掘調査では集落の中心に、南北およそ16m、東西およそ5mという、同時期においては東日本で最大級の大型掘立柱建物跡が見つかり、一躍世間の注目を浴びる遺跡となりました。この大型掘立柱建物のまわりには一辺が10mを超える巨大な竪穴建物跡もたくさん確認されています。

さらに平成21年度の調査では、赤い顔料を使って鹿を6頭も描いた絵画土器が発見されたことで、マスコミやインターネット上で大きな話題を呼びました。

このような大発見が相次いだことにより、一色青海遺跡は決して普通の集落ではなく、今では清須市の朝日遺跡に次ぐ、弥生時代中期の濃尾平野を代表する大集落として広く知られています。

このように、さまざまな全国規模の大発見に彩られて愛知県埋蔵文化財センターが行ってきた一色青海遺跡の調査も、この報告書をもって一応の終了となります。

最後になりましたが、本遺跡の発掘調査につきまして、長きに渡って事業者や地元住民の方々をはじめとする多くの方々に御協力をいただきました。また、関係各機関及び関係者の御指導と御支援を賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。

令和8年3月31日

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
理事長 佐藤 正美

# 例 言

1. 本書は、愛知県稲沢市一色青海町、儀長町、井堀野口町、平和町須ヶ谷にわたって所在する一色青海遺跡（愛知県遺跡番号 270013）の発掘調査報告書である。
2. 平成 30 年度、令和元年度の発掘調査は、日光川上流流域下水道事業に伴う事前調査として、愛知県建設局下水道課一宮建設事務所から愛知県教育委員会を通じて、令和 3 年度、令和 5 年度は、日光川上流流域下水道事業水処理施設築造工事の事前調査として愛知県建設局下水道課から愛知県民文化局を通じて、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが管理委託を受けて実施した。調査対象面積は平成 30 年度調査が 1,300 m<sup>2</sup>、令和元年度調査が 1,800 m<sup>2</sup>、令和 3 年度調査が 1,040 m<sup>2</sup>、令和 5 年度調査が 440 m<sup>2</sup>である。
3. 調査期間は以下のとおりである。  
平成 30 年度：平成 30 年 6 月～11 月、令和元年度：令和元年 5 月～10 月、令和 3 年度：令和 3 年 5 月～10 月、令和 5 年度：令和 5 年 6 月～9 月
4. 調査担当者は以下のとおりである。  
平成 30 年度：酒井俊彦（主任専門員）、鈴木恵介（調査研究主任）  
令和元年度：樋上昇（主任専門員）、鈴木恵介（調査研究主任）  
令和 3 年度：堀木真美子（主任専門員）、鈴木恵介（調査研究主任）  
令和 5 年度：樋上昇（主任専門員）、鈴木恵介（調査研究主任）
5. 発掘調査は、各遺跡とも調査支援を受けて実施した（令和 5 年度のみ掘削管理業務と測量業務を分割して委託）。社名、主要なスタッフは以下のとおりである。  
平成 30 年度調査：株式会社 文化財サービス（現場代理人：広瀬八郎、調査補助員：大西健吾、測量士：小林一浩）  
令和元年度調査：株式会社 シン技術コンサル（現場代理人：中西孝和、調査補助員：中村毅、測量士：星英司）  
令和 3 年度調査：株式会社 島田組（現場代理人：近藤秀敏、調査補助員：高見澤太基、測量士：前田芳孝）  
令和 5 年度調査：株式会社 波多野組（掘削業務－現場代理人：石黒君好）、橋本技術株式会社（測量業務－測量士：土田富司→川崎雄二）
6. 出土遺物の分類作業は株式会社イビソクに、土器・石器の実測・トレース作業は株式会社アルカに、木器の実測・トレース作業は株式会社文化財サービスに、写真撮影は写真工房遊に、図版編集作業は国際文化財株式会社に、炭化物の放射性炭素年代測定分析及び樹種同定は株式会社パレオ・ラボに業務を委託した。
7. 図面校正については、土器：永井宏幸、石器：川添和暁、木器：樋上 昇が行った。
8. 発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。  
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県下水道科学館、愛知県建設局一宮建設事務所都市施設整備課、愛知県民文化局文化財文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センター、稲沢市教育委員会、公益財団法人 愛知水と緑の公社（五十音順、敬称略）
9. 発掘調査及び報告書作成にあたり、次の方々から御教示・御協力をいただいた。  
石井智大、石黒立人、鶴来航介・宮腰健司（五十音順、敬称略）
10. 本書の執筆は、鈴木恵介・永井宏幸・樋上 昇・柳原麻子（以上、愛知県埋蔵文化財センター）他が担当した。詳細は下記のとおりである。  
鈴木恵介（第 1・2・5 章、第 3 章第 2 節）、永井宏幸（第 3 章第 1 節）・樋上 昇（第 3 章第 3 節、第 4 章第 3 節まとめ）、伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze（第 4 章第 1 節）・小林克也（第 3 章第 1 節、第 3 節）・柳原麻子（第 4 章第 2 節）
11. 本書の編集は鈴木恵介・樋上 昇が行った。
12. 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。ただし新基準で表記してある。
13. 発掘調査及び整理については、多くの発掘作業員、整理補助員、関係各社の皆様の協力を得た。記して感謝する次第である。
14. 遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に行った。
15. 調査記録及び写真記録は愛知県埋蔵文化財センター（愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 電話 0567-67-4161）で保管している。
16. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管している。

# 目次

第1章 調査の概要	
第1節 調査の経緯	1
第2節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境	2
第2章 遺構	
第1節 遺構の概要	3
第2節 基本層序	3
第3節 個別遺構	3
第3章 遺物	
第1節 土器	77
第2節 石器	109
第3節 木器	123
第4章 自然科学分析	
第1節 放射性炭素年代測定	131
第2節 大型植物遺体	136
第3節 出土木材の樹種同定	140
第5章 総括	
第1節 一色青海遺跡の遺構分布状況	155
第2節 特筆すべき遺構（18区 302SI）	155
第3節 重複する竪穴建物跡の方位	156
第4節 放射性炭素年代測定の結果について	156
付表	159
遺構写真図版	遺構写真図版 1～12
遺物写真図版	遺物写真図版 1～20
報告書抄録	

# 挿図目次

図 1-1 一色青海遺跡周辺の遺跡 (S=1:50,000) .....	2	図 2-36 個別遺構図_18_306SX-2 (S=1:50) .....	38
図 2-1 遺構平面図_1面 (S=1:800) .....	4	図 2-37 個別遺構図_18_330SI-1 (S=1:50) .....	39
図 2-2 遺構平面図_2面 (S=1:800) .....	5	図 2-38 個別遺構図_18_330SI-2 (S=1:50) .....	40
図 2-3 遺構分割図_1面-1 (S=1:200) .....	6	図 2-39 個別遺構図_18_330SI-3 (S=1:50) .....	41
図 2-4 遺構分割図_1面-2 (S=1:200) .....	7	図 2-40 個別遺構図_18_302SI-1 (S=1:50) .....	42
図 2-5 遺構分割図_1面-3 (S=1:200) .....	8	図 2-41 個別遺構図_18_302SI-2 (S=1:50) .....	43
図 2-6 遺構分割図_1面-4 (S=1:200) .....	9	図 2-42 個別遺構図_18_302SI-3 (S=1:50) .....	44
図 2-7 遺構分割図_1面-5 (S=1:200) .....	10	図 2-43 個別遺構図_18_302SI-4 (S=1:50) .....	45
図 2-8 遺構分割図_1面-6 (S=1:200) .....	11	図 2-44 個別遺構図_18_308SI (S=1:50) .....	46
図 2-9 遺構分割図_1面-7 (S=1:200) .....	12	図 2-45 個別遺構図_18_234SK (S=1:50) .....	47
図 2-10 遺構分割図_1面-8 (S=1:200) .....	13	図 2-46 個別遺構図_18_285SK (S=1:50) .....	49
図 2-11 遺構分割図_2面-1 (S=1:200) .....	14	図 2-47 個別遺構図_19_030SK (S=1:50) .....	50
図 2-12 遺構分割図_2面-2 (S=1:200) .....	15	図 2-48 個別遺構図_19_200SD・600SD 土層断面図-1 (S=1:100) .....	51
図 2-13 遺構分割図_2面-3 (S=1:200) .....	16	図 2-49 個別遺構図_19_200SD・600SD 土層断面図-2 (S=1:100) .....	52
図 2-14 遺構分割図_2面-4 (S=1:200) .....	17	図 2-50 個別遺構図_19_400NR 西半検出部 (S=1:200) .....	53
図 2-15 遺構分割図_2面-5 (S=1:200) .....	18	図 2-51 個別遺構図_19_400NR 東半検出部 (S=1:200) .....	54
図 2-16 遺構分割図_2面-6 (S=1:200) .....	19	図 2-52 個別遺構図_19_400NR 土層断面図 (S=1:200) .....	55
図 2-17 遺構分割図_2面-7 (S=1:200) .....	20	図 2-53 個別遺構図_21_007SK・012SK・013SK・020SK (S=1:50) .....	57
図 2-18 遺構分割図_2面-8 (S=1:200) .....	21	図 2-54 個別遺構図_21_035SK (S=1:50) .....	58
図 2-19 基本土層断面図_18_北壁-1 (S=1:100) .....	22	図 2-55 個別遺構図_21_058SK (S=1:50) .....	58
図 2-20 基本土層断面図_18_北壁-2 (S=1:100) .....	23	図 2-56 個別遺構図_21_066SI 完掘 (S=1:50) .....	59
図 2-21 基本土層断面図_19_北壁東側 (S=1:100) .....	24	図 2-57 個別遺構図_21_066SI 炭化物・焼土 出土状況図(S=1:50) .....	60
図 2-22 基本土層断面図_19_北壁西側 (S=1:100) .....	25	図 2-58 個別遺構図_21_066SI 土層断面図 (S=1:50) .....	61
図 2-23 基本土層断面図_19_西壁 (S=1:100) .....	26	図 2-59 個別遺構図_21_1280SI (S=1:50) .....	62
図 2-24 基本土層断面図_21_北壁 (S=1:100) .....	27	図 2-60 個別遺構図_21_400NR (S=1:200) .....	63
図 2-25 基本土層断面図_21_北西壁_西壁 (S=1:100) .....	28	図 2-61 個別遺構図_23_002SD (S=1:80) .....	64
図 2-26 個別遺構図_18_100SK (S=1:50) .....	29	図 2-62 個別遺構図_23_009SK (S=1:50) .....	65
図 2-27 個別遺構図_18_018SK (S=1:50) .....	29	図 2-63 個別遺構図_23_016SK (S=1:50) .....	65
図 2-28 個別遺構図_18_010SZ・020SZ・007SD-1 (S=1:120) .....	30	図 2-64 個別遺構図_23_040SD (S=1:50) .....	65
図 2-29 個別遺構図_18_010SZ・020SZ・007SD-2 (S=1:120) .....	31	図 2-65 個別遺構図_23_030SD (S=1:80) .....	66
図 2-30 個別遺構図_18_010SZ・020SZ・007SD-3 (S=1:120) .....	32	図 2-66 個別遺構図_23_035SI・044SI・051SI・053SI (S=1:50) .....	67
図 2-31 個別遺構図_18_029SD (S=1:50) .....	33	図 2-67 個別遺構図_23_044SI・053SI 土層断面図 (S=1:50) .....	68
図 2-32 個別遺構図_18_274SI・279SI・310SI・326SI-1 (S=1:50) .....	34	図 2-68 個別遺構図_23_035SI・051SI 土層断面図 (S=1:50)	
図 2-33 個別遺構図_18_274SI・279SI・310SI・326SI-2 (S=1:50) .....	35		
図 2-34 個別遺構図_18_274SI・279SI・310SI・326SI-3 (S=1:50) .....	36		
図 2-35 個別遺構図_18_306SX-1 (S=1:50) .....	37		

.....	69	図 3-34	一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -3	.....	112		
図 2-69	個別遺構図 _23_065SI・069SI-1 (S=1:50)	.....	70	図 3-35	一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -4	.....	114
図 3-70	個別遺構図 _23_065SI・069SI -2 (S=1:50)	.....	71	図 3-36	一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -5	.....	115
図 2-71	個別遺構図 _23_066SI (S=1:50)	.....	72	図 3-37	一色青海遺跡 2019 年度出土石器 -1	.....	117
図 2-72	個別遺構図 _23_058SK (S=1:50)	.....	73	図 3-38	一色青海遺跡 2019 年度出土石器 -2	.....	118
図 2-73	個別遺構図 _23_060SK (S=1:50)	.....	74	図 3-39	一色青海遺跡 2021 年度出土石器 -1	.....	119
図 2-74	個別遺構図 _23_061SK (S=1:50)	.....	75	図 3-40	一色青海遺跡 2021 年度出土石器 -2	.....	120
図 3-1	2018 年度調査出土石器 -1 (S=1:4)	.....	78	図 3-41	一色青海遺跡 2023 年度出土石器	.....	121
図 3-2	2018 年度調査出土石器 -2 (S=1:4)	.....	79	図 3-42	石製工具による加工痕と加工動作	.....	123
図 3-3	2018 年度調査出土石器 -3 (S=1:4)	.....	80	図 3-43	鉄製工具による加工痕と加工動作	.....	124
図 3-4	2018 年度調査出土石器 -4 (S=1:4)	.....	81	図 3-44	一色青海遺跡 200SD 出土木器 -1 (S=1:6)	.....	125
図 3-5	2018 年度調査出土石器 -5 (S=1:4)	.....	82	図 3-45	一色青海遺跡 200SD 出土木器 -2/600SD 出土木器 -1 (S=1:4・1:6・1:12)	.....	126
図 3-6	2018 年度調査出土石器 -6 (S=1:4)	.....	83	図 3-46	一色青海遺跡 600SD 出土木器 -2 (S=1:6・1:8)	.....	127
図 3-7	2018 年度調査出土石器 -7 (S=1:4)	.....	84	図 3-47	一色青海遺跡 400NR 出土木器 -1 (S=1:6)	.....	128
図 3-8	2018 年度調査出土石器 -8 (S=1:4)	.....	85	図 3-48	一色青海遺跡 400NR 出土木器 -2/002SD・082SD 出土木器 / 遺構不明木器 (S=1:6)	.....	129
図 3-9	2018 年度調査出土石器 -9 (S=1:4)	.....	86	図 3-49	一色青海遺跡 274SK・305SK・302SK 出土木器 (S=1:4)	.....	130
図 3-10	2018 年度調査出土石器 -10 (S=1:4)	.....	87	図 4-1	マルチプロット図	.....	131
図 3-11	2018 年度調査出土石器 -11 (S=1:4)	.....	88	図 4-2	暦年較正結果	.....	134
図 3-12	2019 年度調査出土石器 -1 (S=1:4)	.....	89	図 4-3	一色青海遺跡出土大型植物遺体	.....	138
図 3-13	2019 年度調査出土石器 -2 (S=1:4)	.....	90	図 4-4	一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 (1)	.....	149
図 3-14	2019 年度調査出土石器 -3 (S=1:4)	.....	91	図 4-5	一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 (2)	.....	150
図 3-15	2019 年度調査出土石器 -4 (S=1:4)	.....	92	図 4-6	一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 (3)	.....	151
図 3-16	2021 年度調査出土石器 -1 (S=1:4)	.....	93	図 4-7	一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 (4)	.....	152
図 3-17	2021 年度調査出土石器 -2 (S=1:4)	.....	94	図 4-8	一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 (5)	.....	153
図 3-18	2021 年度調査出土石器 -3 (S=1:4)	.....	95	図 4-9	一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 (6)	.....	154
図 3-19	2021 年度調査出土石器 -4 (S=1:4)	.....	96	図 _5-1_18 区	の竪穴建物跡の方位	.....	157
図 3-20	2021 年度調査出土石器 -5 (S=1:4)	.....	97	図 _5-2_21 区	の竪穴建物跡の方位	.....	157
図 3-21	2021 年度調査出土石器 -6 (S=1:4)	.....	98	図 _5-3_23 区	上層の竪穴建物跡の方位	.....	157
図 3-22	2023 年度調査出土石器 -1 (S=1:4)	.....	99	図 _5-4_23 区	下層の竪穴建物跡の方位	.....	157
図 3-23	2023 年度調査出土石器 -2 (S=1:4)	.....	100				
図 3-24	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -1	.....	101				
図 3-25	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -2	.....	102				
図 3-26	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -3	.....	103				
図 3-27	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -4	.....	104				
図 3-28	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -5	.....	105				
図 3-29	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -6	.....	106				
図 3-30	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -7	.....	107				
図 3-31	一色青海遺跡 出土石器 写真図版 -8	.....	108				
図 3-32	一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -1	.....	110				
図 3-33	一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -2	.....	111				

## 表目次

表 4-1 測定試料および処理	132	表 5-1 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（表 4-2 と同じ）	158
表 4-2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	133	表 6-1 一色青海遺跡 18 区遺構一覧表	159
表 4-3 一色青海遺跡出土大型植物遺体同定結果	137	表 6-2 一色青海遺跡 19 区遺構一覧表	159
表 4-4 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（樹種・ 器種別：樋上改変）	140	表 6-3 一色青海遺跡 21 区遺構一覧表	160
表 4-5 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（試料番 号順）	146	表 6-4 一色青海遺跡 23 区遺構一覧表	160
表 4-6 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（試料番 号順）	147	表 6-5 一色青海遺跡出土土器観察表-1	161
表 4-7 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（試料番 号順）	148	表 6-6 一色青海遺跡出土土器観察表-2	162
		表 6-7 一色青海遺跡出土土器観察表-3	163
		表 6-8 一色青海遺跡出土土器観察表-4	164
		表 6-9 一色青海遺跡出土石器観察表	165
		表 6-10 一色青海遺跡出土木器観察表	166

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査の経緯

一色青海遺跡の発掘調査は平成30年度から令和5年度にかけて、計4カ年度に渡って実施された。平成21年度以前の過去の調査については、愛知県埋蔵文化財センター2014『一色青海遺跡Ⅲ』に詳述されており、ここでは割愛する。平成30年度は愛知県建設部下水道課一宮建設事務所による日光川上流流域下水道事業に伴う事前調査として愛知県教育委員会の委託を受け、平成30年6月から11月にかけて本発掘調査（現在の本発掘調査Bに相当）を実施。令和元年度は愛知県建設部下水道課一宮建設事務所による日光川上流流域下水道事業に伴う事前調査として愛知県教育委員会の委託を受け、令和元年5月から10月にかけて本発掘調査（現在の本発掘調査Bに相当）を実施。令和3年度は愛知県建設局下水道課による日光川上流流域下水道事業水処理施設築造工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として令和3年5月から10月にかけて本発掘調査Bを実施。令和5年度は、愛知県建設局下水道課による日光川上流流域下水道事業水処理施設築造工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じて委託を受け、令和5年6月から令和5年9月にかけて本発掘調査Bを実施した。

各年度の調査対象面積は、平成30年度が1,300㎡、令和元年度が1,800㎡、令和3年度が1,040㎡、令和5年度が440㎡、各年度合計で4,580㎡である。

調査対象地は日光川上流浄化センターの敷地内に位置し、浄化センター建設に伴って盛土を施された旧耕作地である。旧耕作地周辺にあった建屋・側溝等の構造物は撤去後に基礎部分を含めて掘削され、その部分については遺構面が欠損していた。

調査においては、過去の調査方法を鑑みて、各年度の調査区共に浄化センター建設時の盛土および旧耕作土除去面を第1面とし、主に第1面では中世の土坑・溝等が検出された。18区と23区では、この第1面で弥生時代の方形周溝墓001SZ、010SZ等も検出されている。第1面で検出された中世の土坑・溝・包含層、18区では方形周溝墓の盛土も除去した状態を第2面とした。第2面では竪穴建物跡・溝・自然河道・土坑等が検出された。

調査実施に当たっては、一色青海遺跡特有の事情として調査区周辺の地下水位が高く、標高0.3m以下では常に滞水し遺構の形状が保持できない状況にあった。前述の第1面の標高は0.2～0.5m、第2面の標高は0m～0.3m程度であり、いずれも遺構面が地下水によって水没する標高にある。掘削された遺構内の標高はさらに低くなる。そのため発掘調査の実施にあたってはウエルポイント工法を用いて調査区内での地下水位を低下させて掘削作業を行う必要があった。ウエルポイントは各年度の調査区を半周程度囲うように設置され、これによって1.0m程度地下水位が低下した。これにより、ほとんどの遺構は掘削できたものの、旧河道や溝の一部の底面は標高-1.0m以下の部分もあり、深い部分まで完全には排水できなかった。なお調査中はウエルポイント工法の使用に伴う周辺地盤の低下についても懸念されたが、月毎に調査区周辺の構造物の標高を計測し確認を行なったところ、構造物の標高の低下は全く確認されなかった。また、ウエルポイントで汲み上げた地下水は沈砂池で一定時間滞留させた後に場外へ排出したが、地下水の水質検査をポンプの汲み上げ直後と沈砂池滞留後の2地点で実施し、水質検査の数値に問題がないことを確認した上で排出した。

出土遺物は、各年度の調査毎に発掘調査現地詰所にて一次整理作業（洗浄・乾燥）を行い、愛知県

埋蔵文化財センターへ収納した。

令和6年度には遺物の分類・注記・実測・トレース作業は委託業務として実施し、平成30年度～令和5年度調査の遺構図面の整理および出土遺物の分析・記録等の整理報告書作成業務を実施した。

## 第2節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境

一色青海遺跡は、稲沢市一色青海町・儀長町・井掘野口町・平和町須ヶ谷にかけて位置する。地形的には現在の三宅川右岸の自然堤防内に位置する(図1-1)。図1-1は一色青海遺跡を中心とする図の範囲内で、『まっぷあいち 愛知県文化財マップ 埋蔵文化財 記念物』に「弥生時代」「弥生土器」の記載のある遺跡に限って掲載した。

一色青海遺跡に近接する遺跡には跡ノ口遺跡(2・弥生時代中期～後期)、長田遺跡(3・弥生時代中期～後期)、須ヶ谷遺跡(4・弥生時代前期～中期)、野口・北出遺跡(6・弥生時代前期～中期)が存在する。各遺跡間の関係については、野口・北出遺跡および須ヶ谷遺跡から一色青海遺跡への変遷が想定され、須ヶ谷遺跡では一色青海遺跡と並行した時期に遺構が存在したことも指摘されている(愛知県埋蔵文化財センター2014)。一色青海遺跡の東側には、堀之内花ノ木遺跡(23)、琵琶戸遺跡(24)、高町畑遺跡(25)、流遺跡(26)など弥生時代中期～後期の遺跡が存在する。これらの遺跡が位置する微高地は、縄文海進高潮期以降の汀線安定期(縄文時代中期前半)に形成された海浜性浜堤のうち、海側から数えて二列目の浜堤列(第二浜堤)とされている(愛知県埋蔵文化財センター2014)。

また、一色青海遺跡の西側には、日光川と領内川に挟まれた微高地上に弥生時代の遺跡が立地する。

### 引用文献

愛知県埋蔵文化財センター2014『一色青海遺跡Ⅲ』



- 1.一色青海遺跡 2.跡ノ口遺跡 3.長田遺跡 4.須ヶ谷遺跡 5.儀長・正楽寺遺跡 6.野口・北出遺跡 7.北出・高見遺跡 8.一色城跡下層遺跡
- 9.一色市場遺跡 10.市新田遺跡 11.丸甲小西辺遺跡 12.報導寺遺跡 13.三丸洲中島遺跡 14.物見塚遺跡 15.甲下・山新田遺跡
- 16.五ツ屋東遺跡 17.東西野遺跡 18.大宮廻遺跡 19.重本・横地遺跡 20.大塚遺跡 21.五万出遺跡 22.尾張国分寺跡
- 23.堀之内花ノ木遺跡 24.琵琶戸遺跡 25.高町畑遺跡 26.流遺跡 27.大福寺遺跡 28.高土井遺跡 29.長島遺跡 30.柳前遺跡
- 31.寺脇遺跡 32.今村西出遺跡 33.今村丹波遺跡 34.浄土寺遺跡 35.麻畑遺跡 36.郷中遺跡 37.中曽根遺跡 38.高畷遺跡

図1-1 一色青海遺跡周辺の遺跡 (S=1:50,000)

# 第2章 遺構

## 第1節 遺構の概要（図2-1～図2-18）

主な弥生時代の遺構は方形周溝墓、竪穴建物跡、土坑、溝、河道がある。今回報告する調査区内では、東端に位置する18区・23区で方形周溝墓、竪穴建物跡、土坑、溝が検出され、西端に位置する21区で竪穴建物跡、土坑、溝が検出された。調査範囲の中央の19区では溝と河道が検出された。

中近世の遺構は、全域で平面形が方形や隅丸方形を呈する土坑が検出された。18区では溝、21区では平面形が円形の土坑が主に検出された。

遺構の密度は各調査区間で大きな差があり、18区と23区では竪穴建物跡が複数重複していたため多数の遺構が検出された。19区や21区では溝（200SD・600SD）、河道（400NR）が調査区内で大きな面積を占めたため遺構の数としては少数となった。遺物の出土状況もほぼ遺構の分布に伴って、竪穴建物跡が数多く検出された18区で多い状況となっている。

## 第2節 基本層序（図2-19～図2-25）

基本層序として、図2-19～25を示した。18区・21区・23区各調査区北壁を基本土層とした。23区は、周囲が全てすでに調査が行われていたため、調査区壁面での断面図作成は不可能であった。また、同様に18区・19区・21区も既調査区に面した南面部分での断面図作成は不可能であった。

主な層位は上から順に、現代の耕作土（床土を含む）、中近世の堆積（耕作土を含む）があり、これらを除去して弥生時代中期の遺構や中近世の深く掘削された遺構（18区175SSD等）が検出される遺構面（検1）に達する。さらに方形周溝墓の墳丘盛土（18区010・020SZ）や、200SDの溢水時の堆積（18区・19区・21区）を除去すると、竪穴建物跡が多数検出される居住域（18区）、溝や旧河道（600SD・400NR）が検出される遺構面（検2）に達する。各調査区に共通して湧水は標高0.3m付近から発生する。

## 第3節 個別遺構（図2-26～図2-77）

### 1. 18区の遺構

#### 100SK（図2-26）

100SKは18区北壁沿で検出された土坑。279SI等の居住域と200SDの間に位置する。長辺2.28m、短辺1.35m、深さ0.18mを測る。埋土は地山である灰色シルトをブロック状に含み、一色青海遺跡で多数検出されている、平面形が方形を呈する中世以降の土坑である。

#### 175SD・185SK（図2-8・19）

175SDは18区東半部で南北に連なる溝状の遺構である。175SDの北半部は連なる溝として、中央より南は長さ約5m、幅1.8mの土坑状となり、上部の浅い溝で連結される。南への連続については、18区内でも、南の23区でも検出されておらず、18区内で終わっている。185SKは調査区の中程で175SDに連なる長さ4.7m、幅1.6mの土坑。175SDの南半部分の形状に似ている。攪乱によって両端が欠損し、

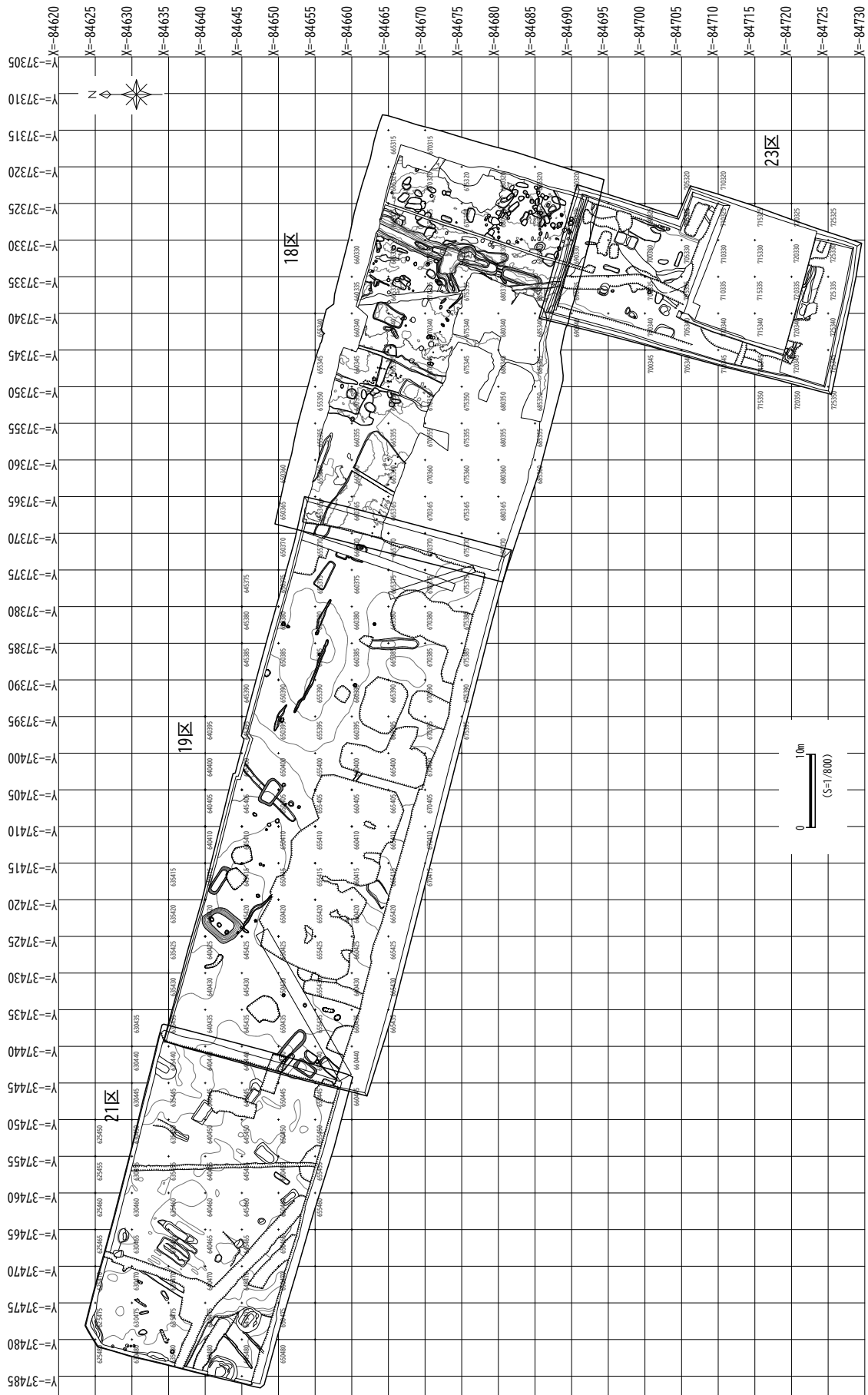


図 2-1 遺構平面圖\_1面 (S=1:800)

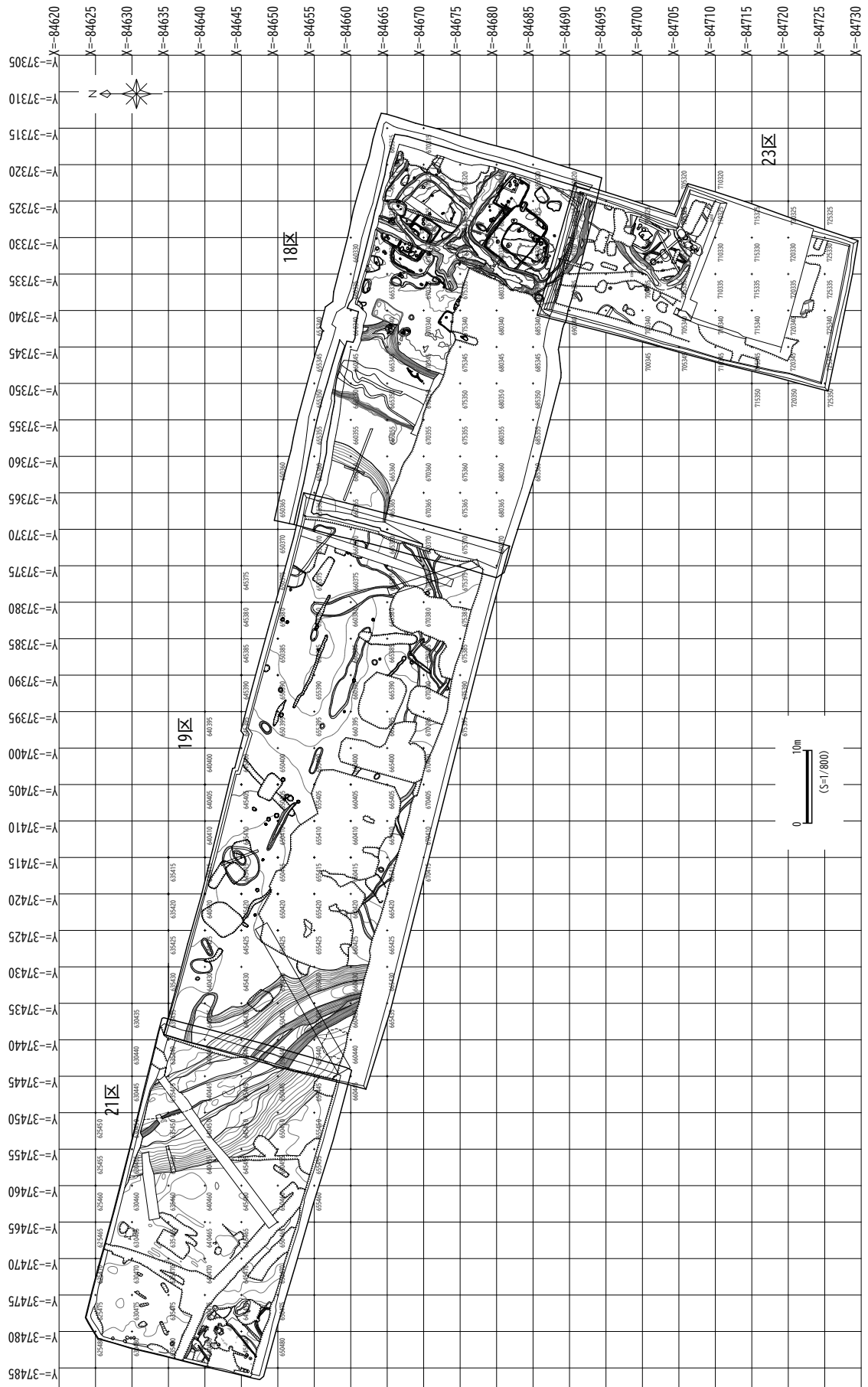


図 2-2 遺構平面図\_2面 (S=1:800)

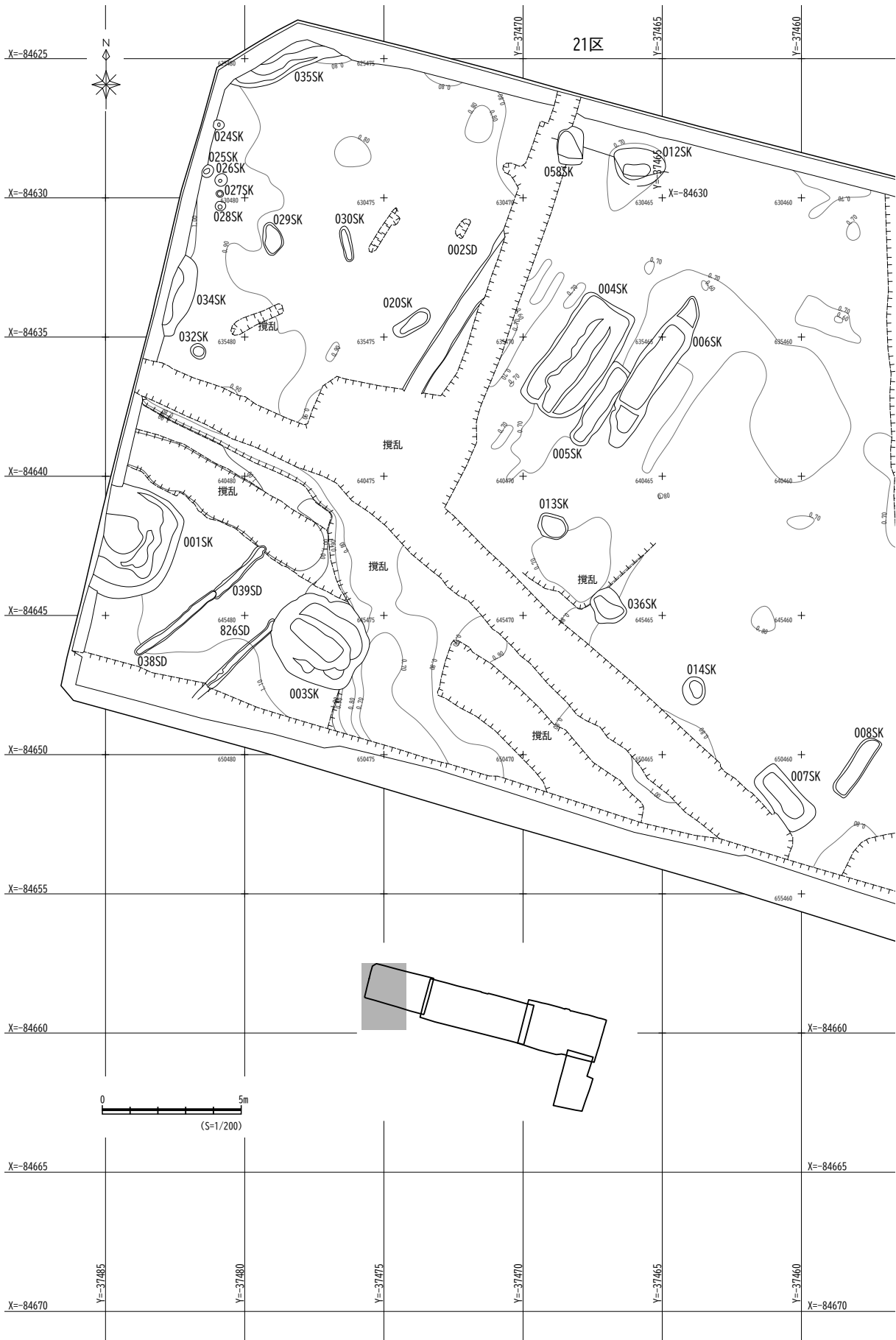


图 2-3 遺構分割図\_1面-1 (S=1:200)

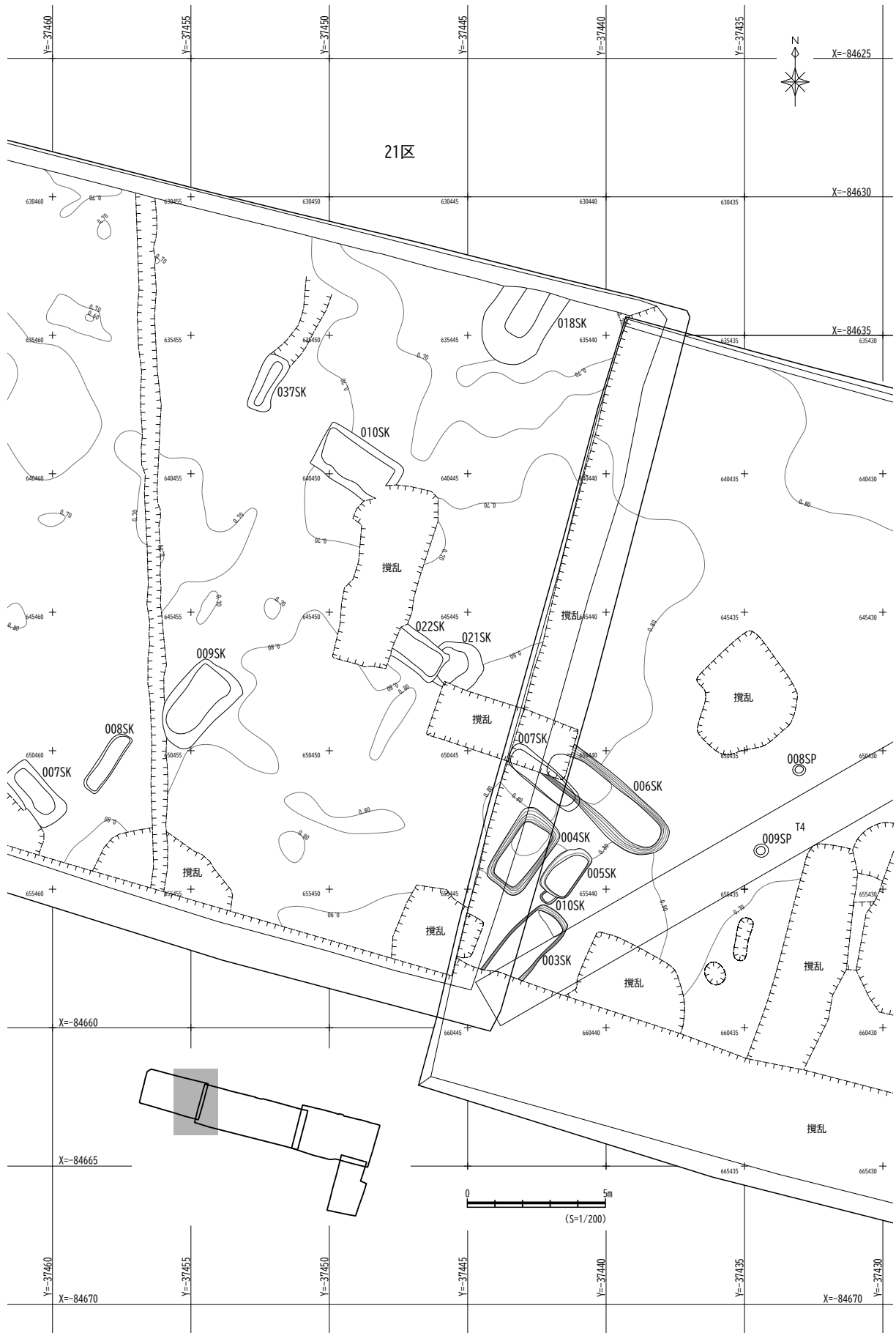


图 2-4 遺構分割図\_1面-2 (S=1:200)

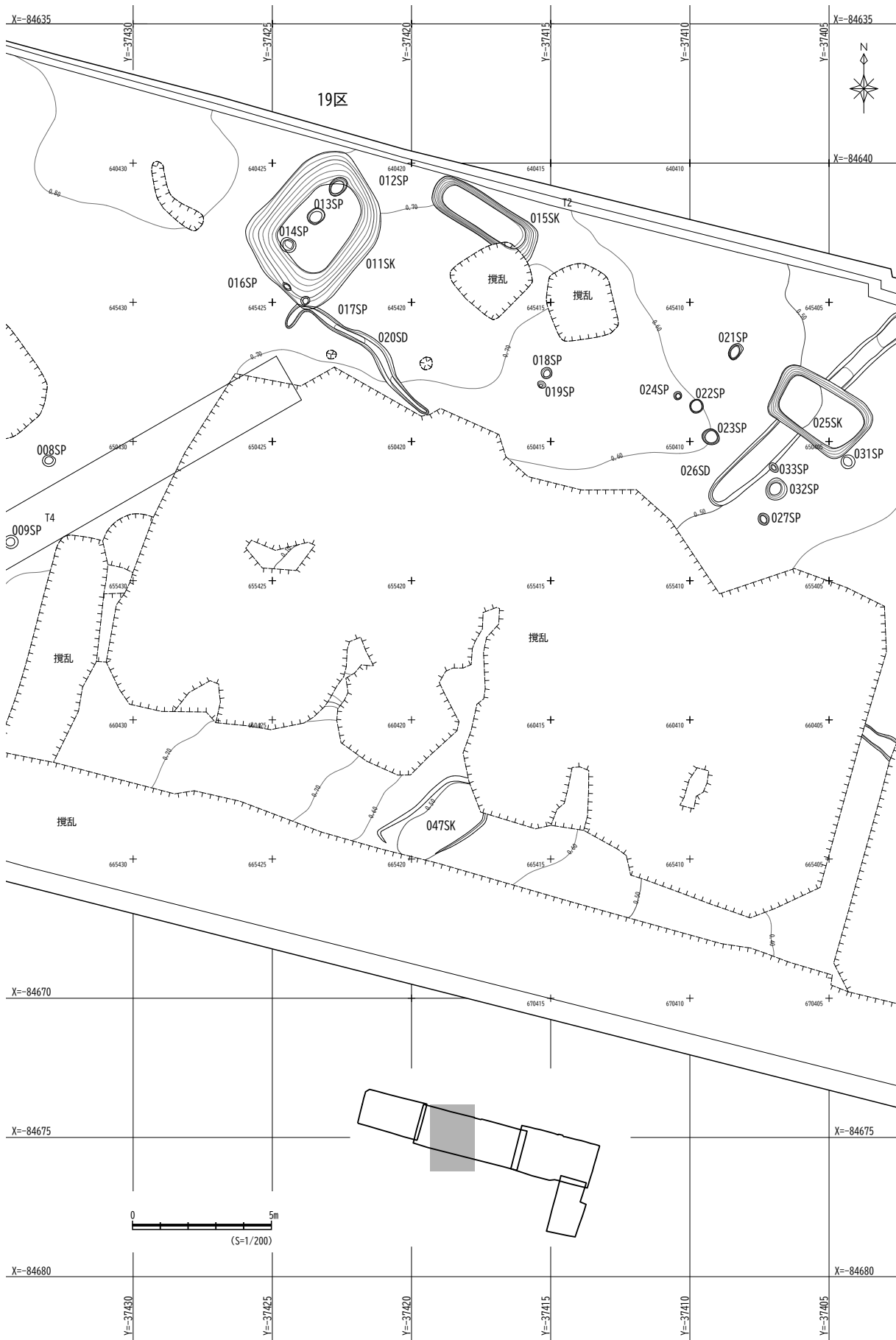


図 2-5 遺構分割図\_1面-3 (S=1:200)

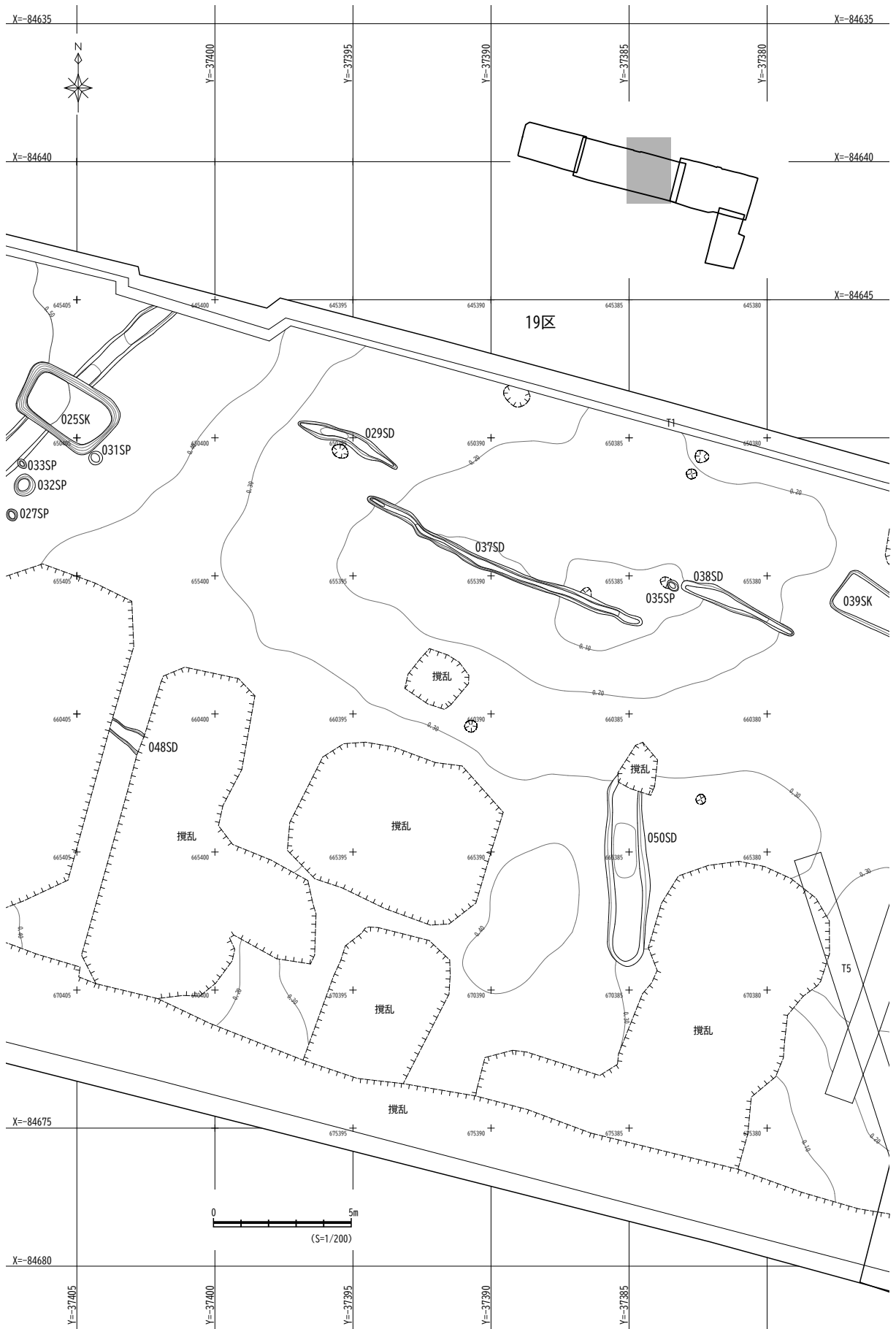


图 2-6 遺構分割図\_1面-4 (S=1:200)



図 2-7 遺構分割図\_1面-5 (S=1:200)



图 2-8 遺構分割図\_1面-6 (S=1:200)

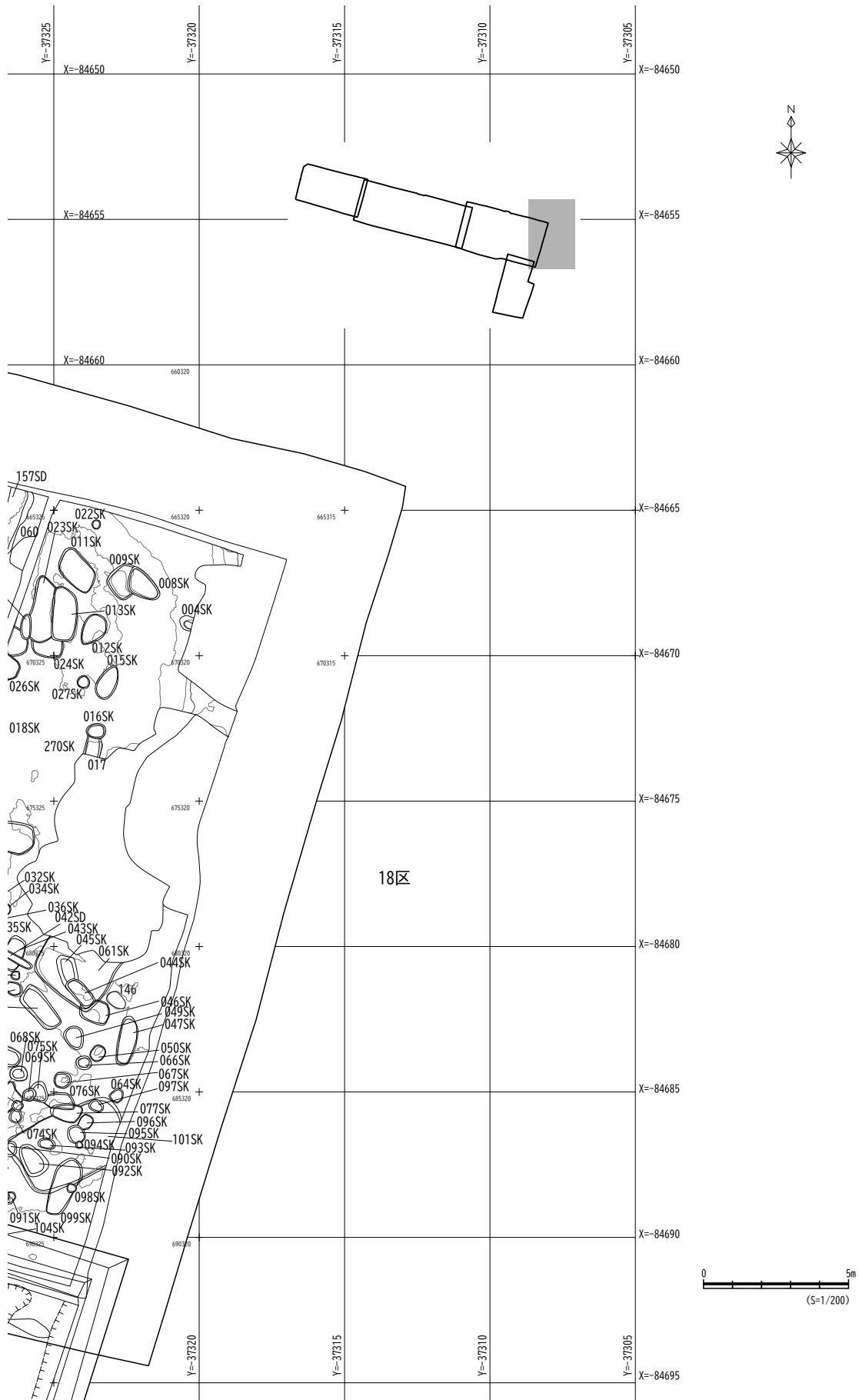


图 2-9 遺構分割図\_1面 -7 (S=1:200)

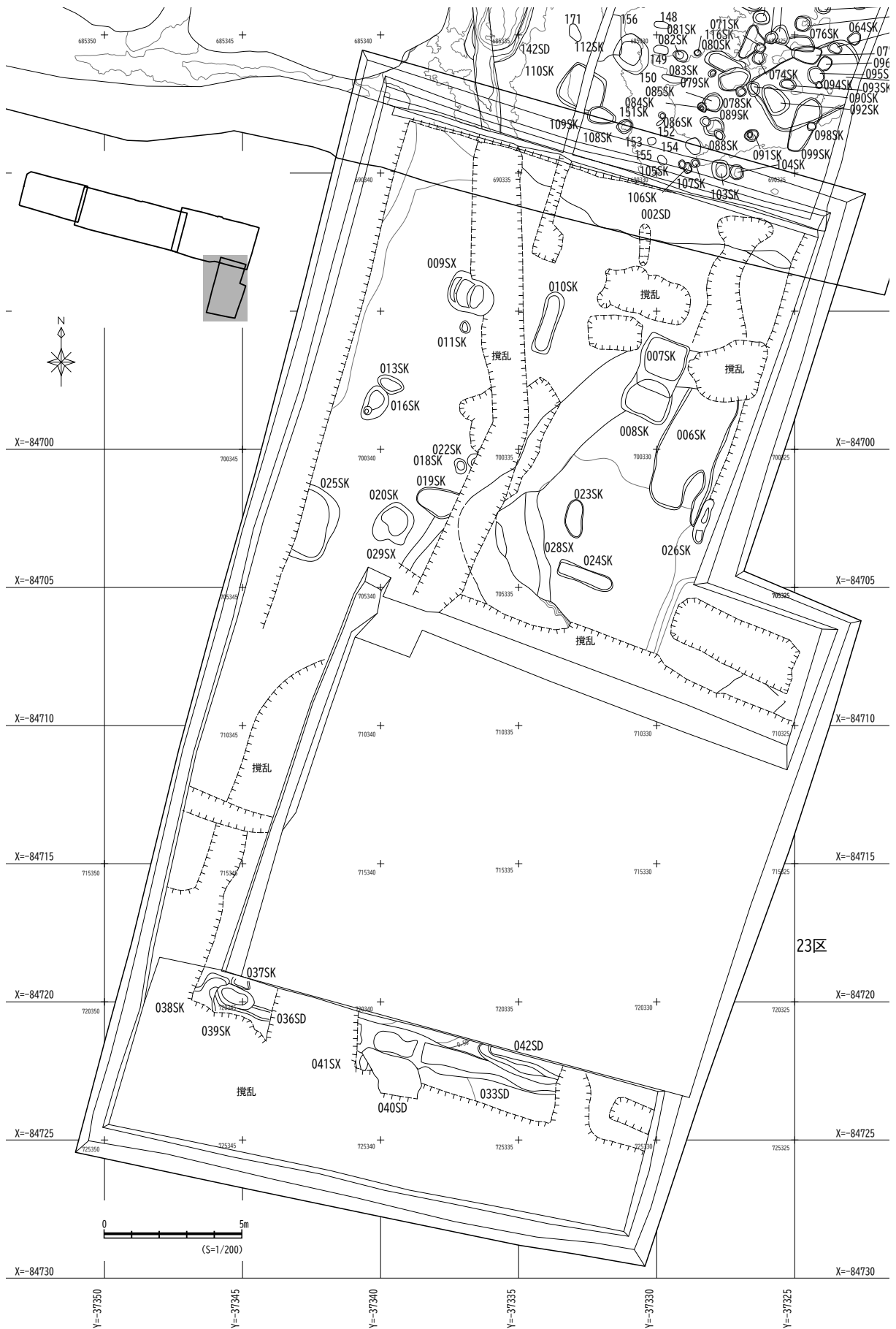


图 2-10 遺構分割図\_1面-8 (S=1/200)

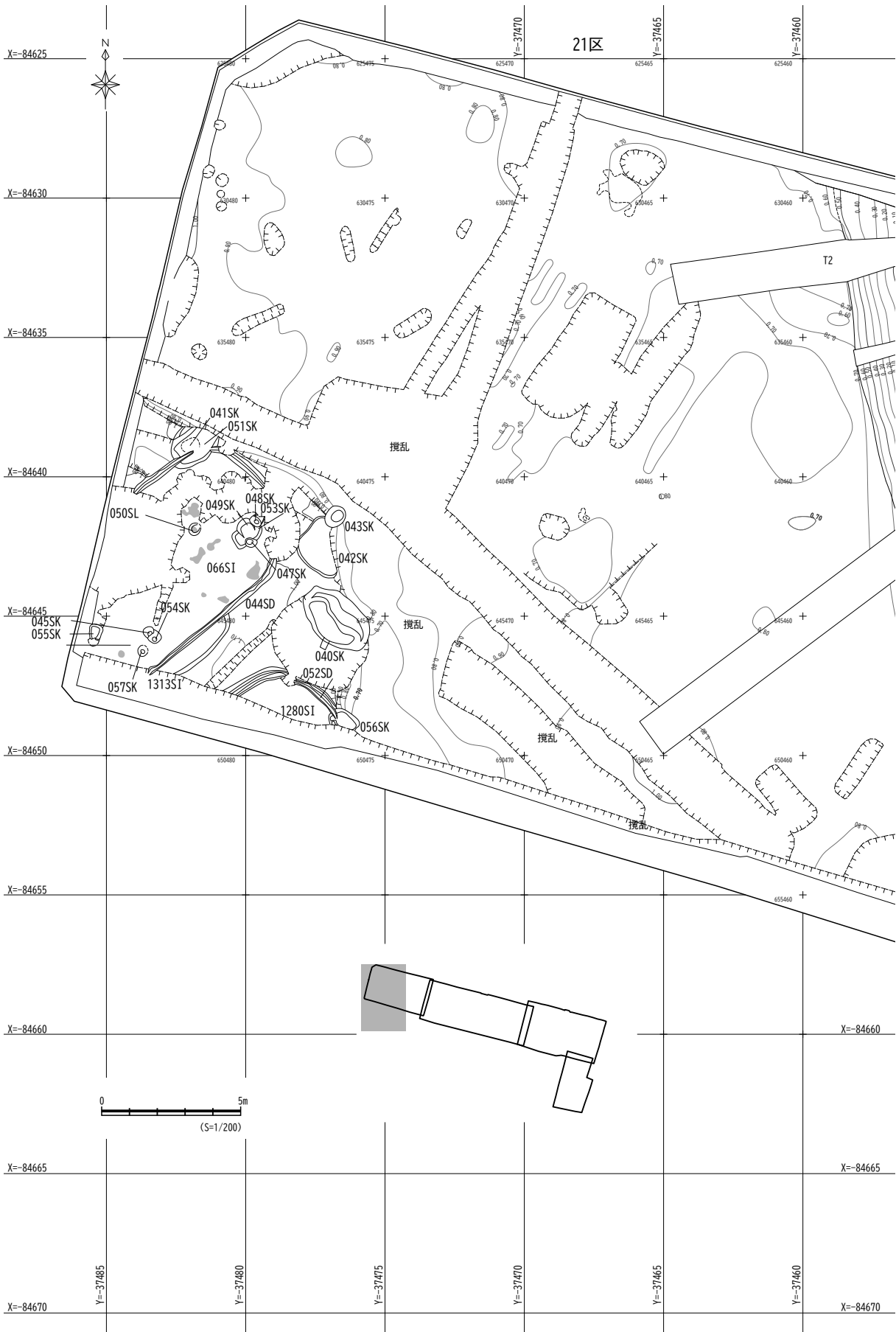


图 2-11 遺構分割図\_2面-1 (S=1:200)

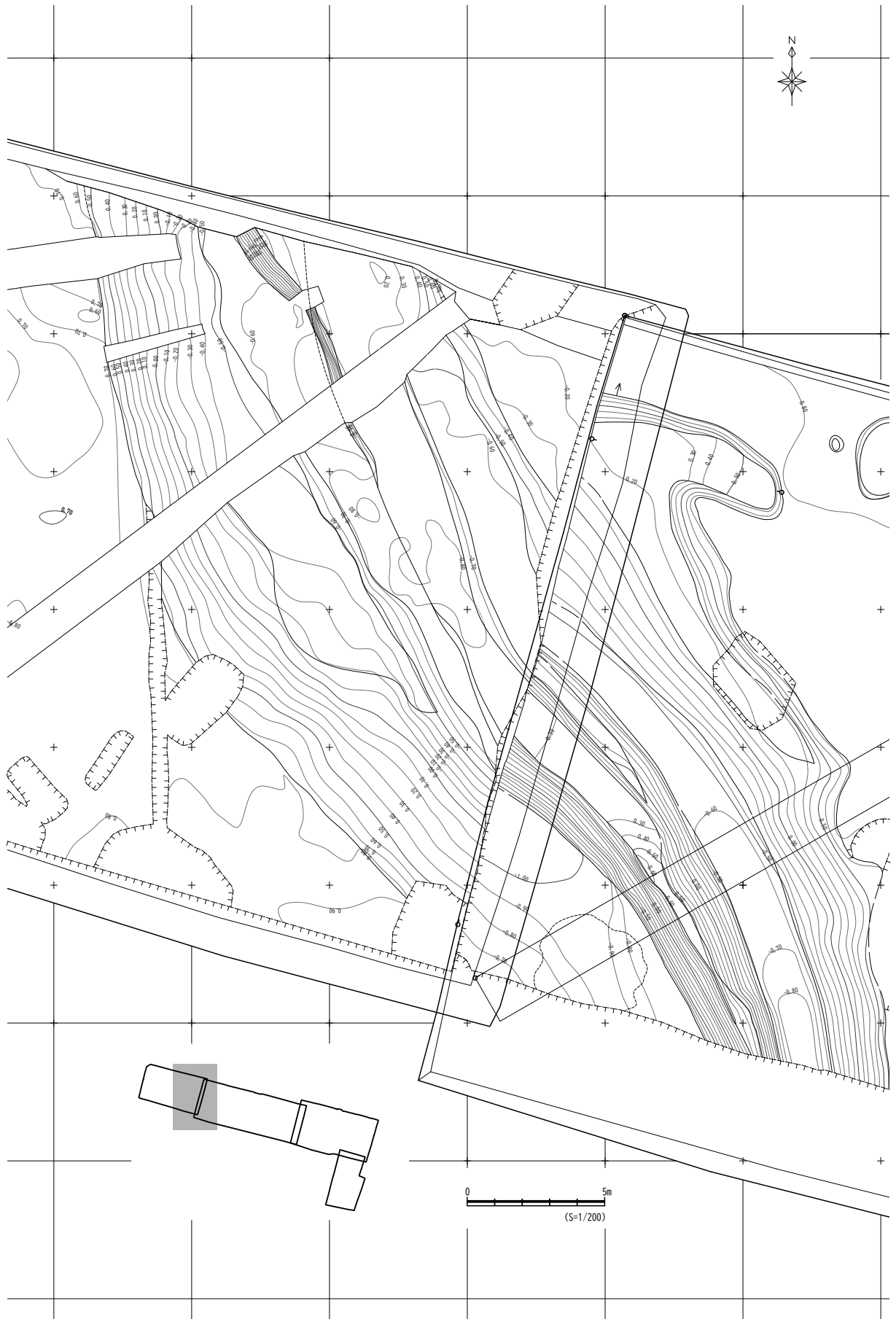


图 2-12 遺構分割図\_2面-2 (S=1/200)

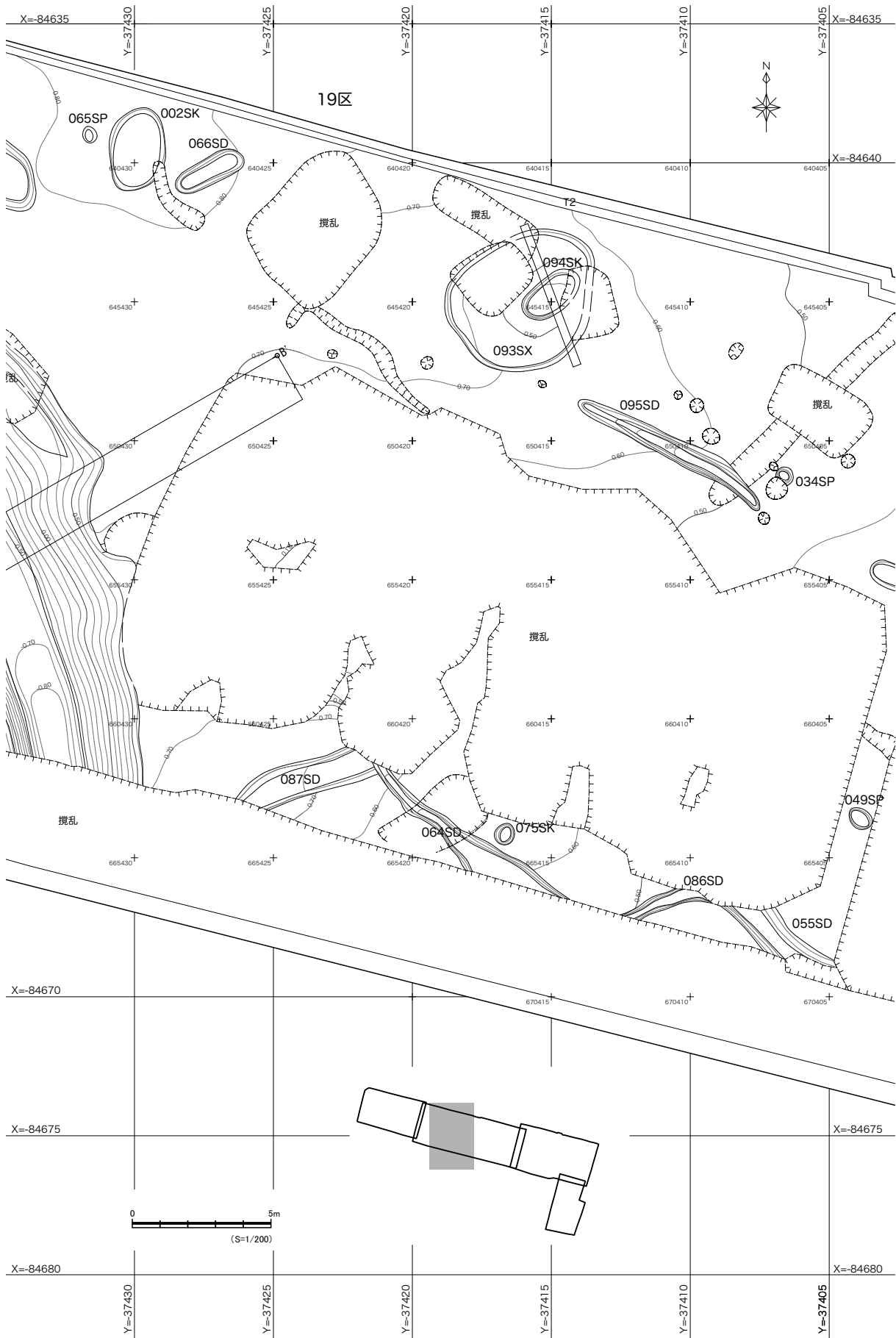


図 2-13 遺構分割図\_2面-3 (S=1:200)

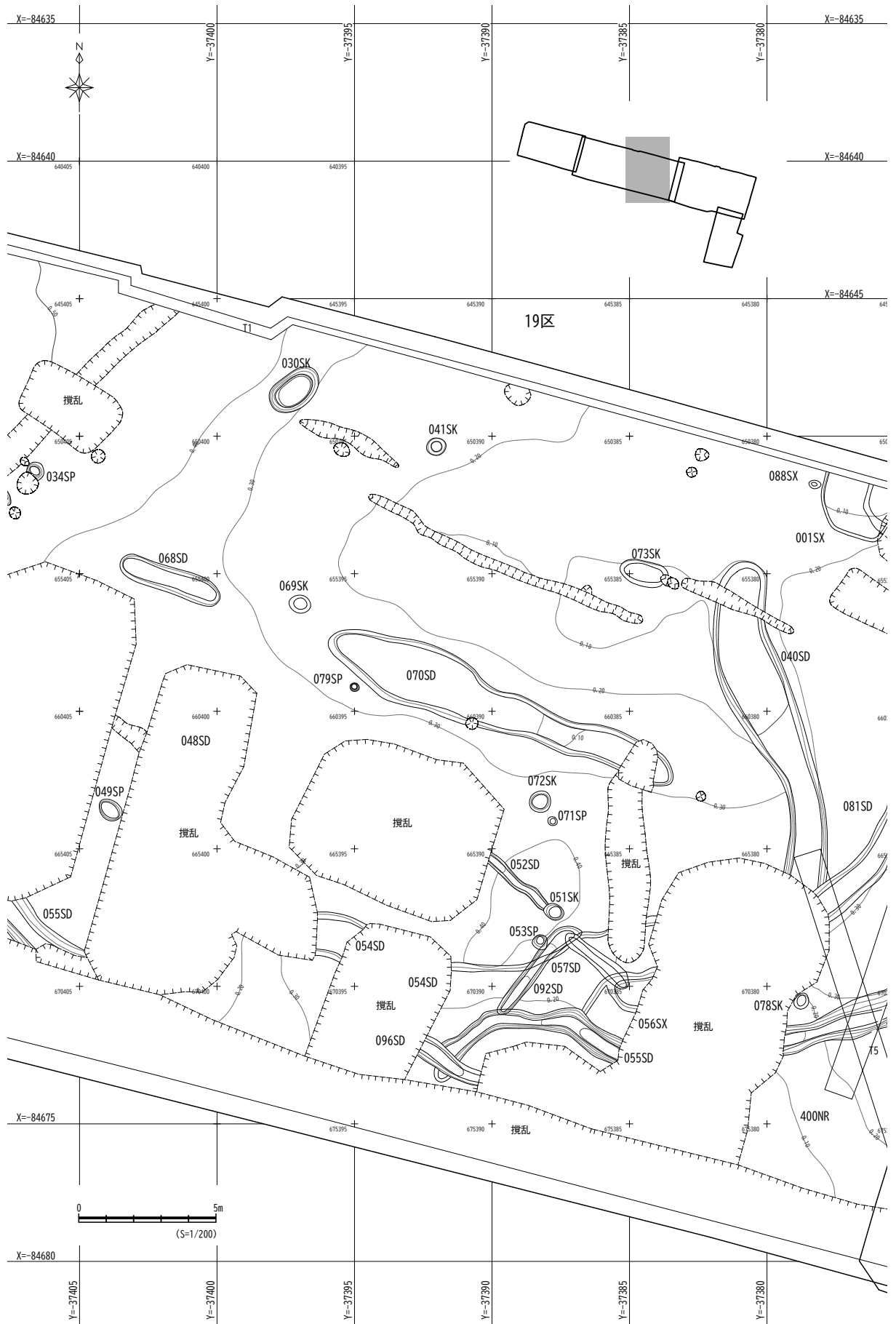


图 2-14 遺構分割図\_2面-4 (S=1:200)



図 2-15 遺構分割図\_2面-5 (S=1:200)



図 2-16 遺構分割図\_2面-6 (S=1/200)

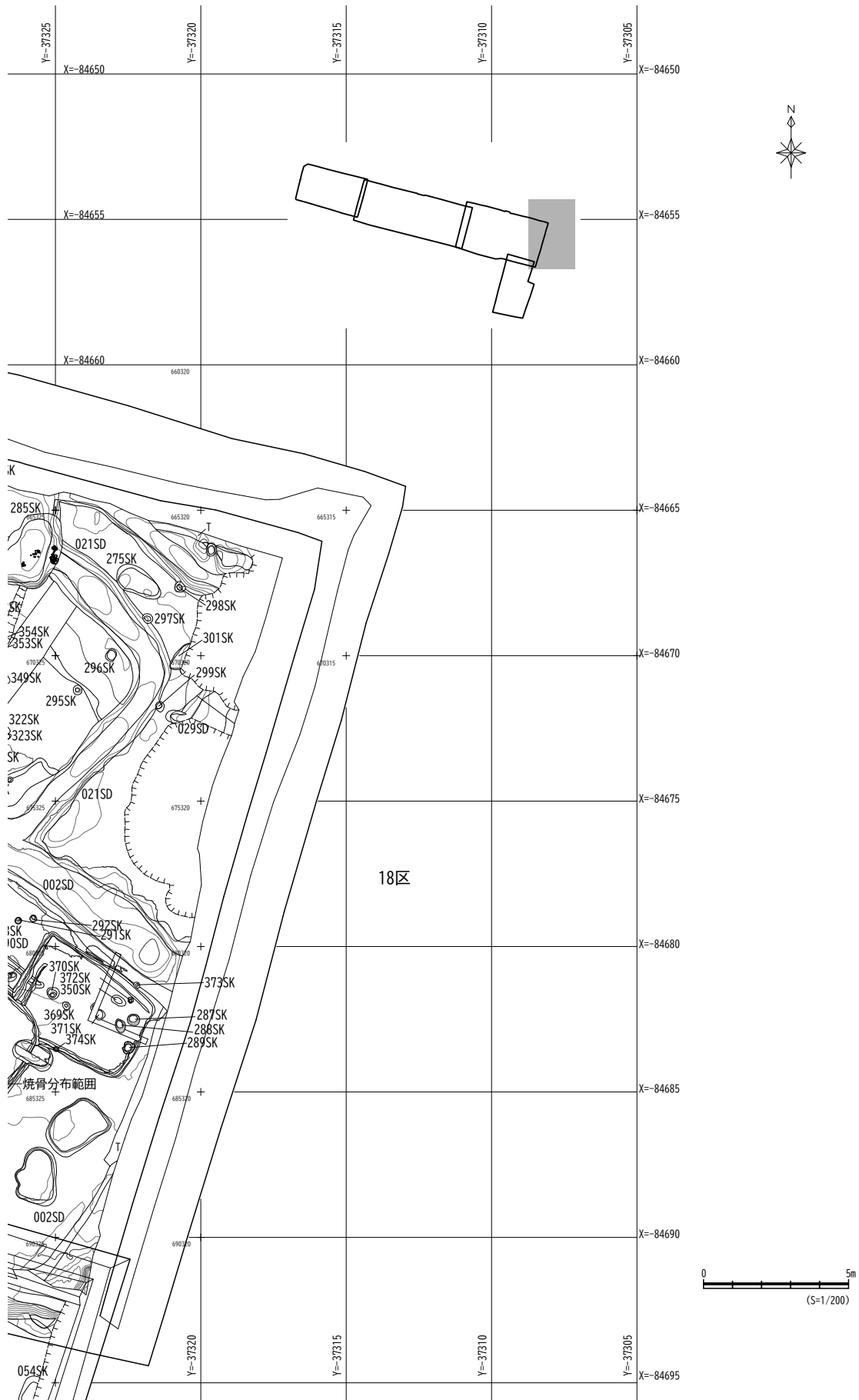


图 2-17 遺構分割図\_2面-7 (S=1/200)



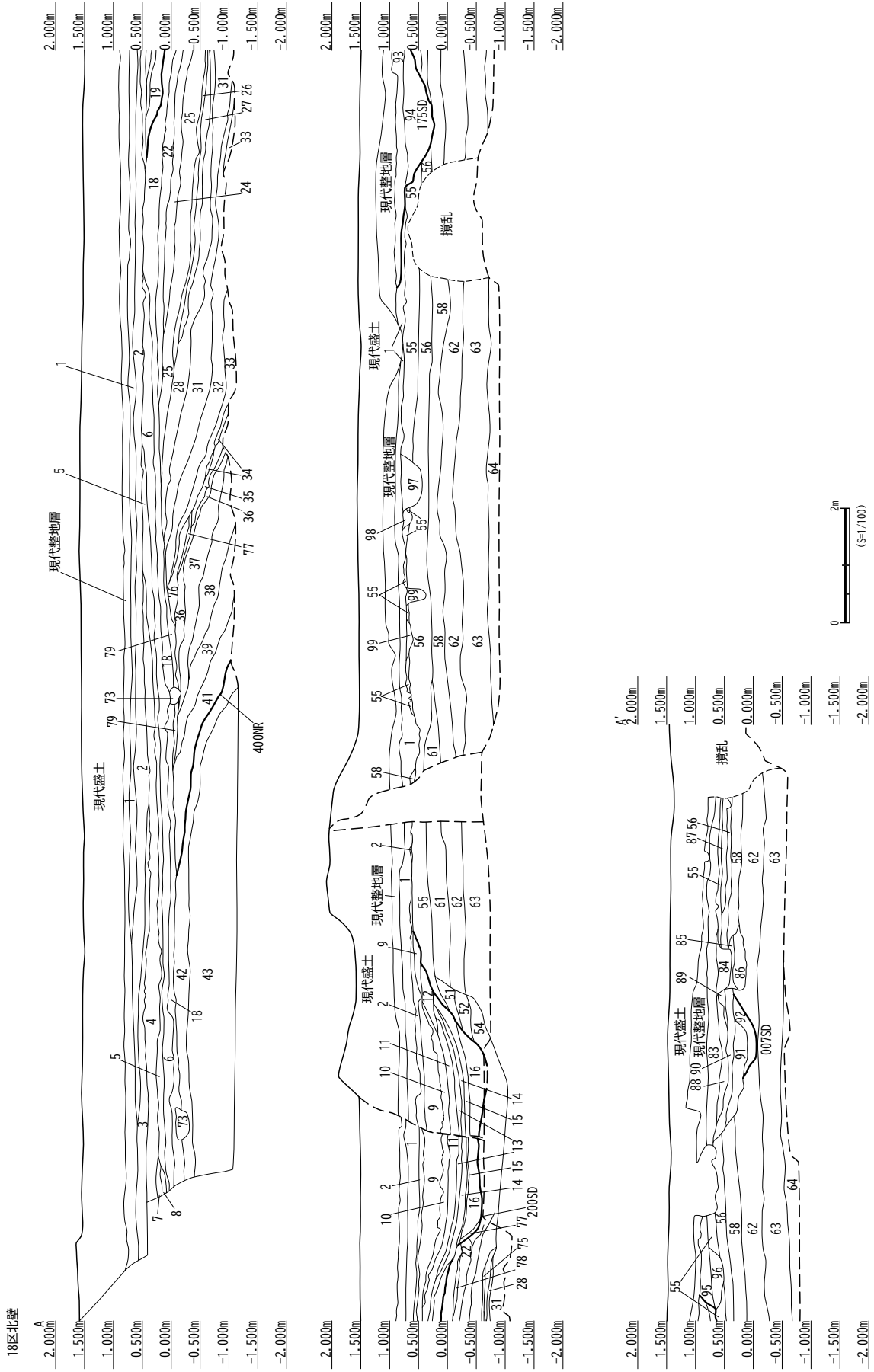
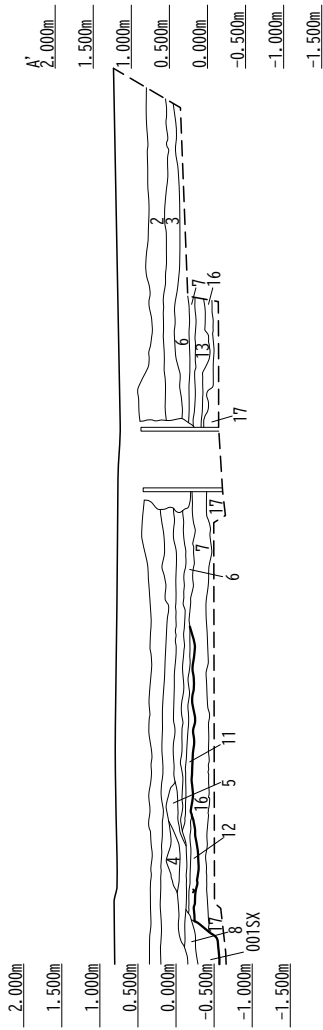
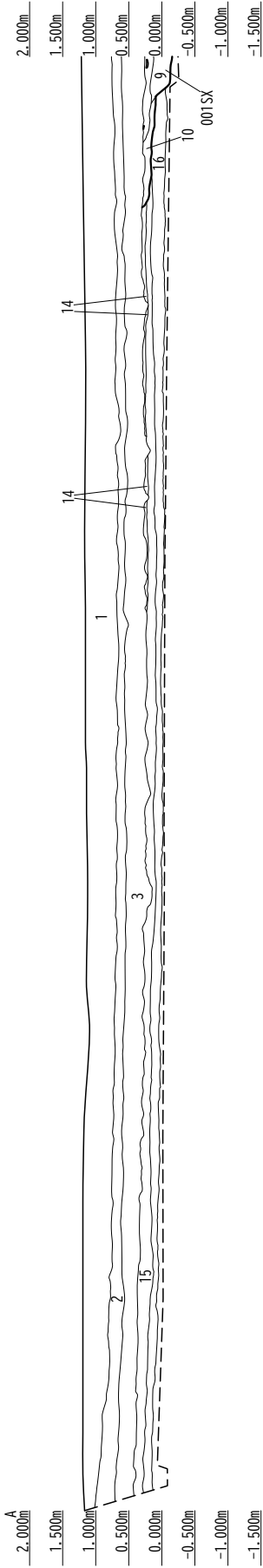


图 2-19 基本土層断面图\_18\_北壁-1 (S=1:100)

1. 2.5V5/2 黄褐色 シルト [現代整地土]
2. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘土質シルト [近～現代耕作土]
3. 2.5V5/2 暗灰黄色 粘土質シルト [近～現代耕作土]
4. 2.5V2/1 黒色 粘土質シルト [中世耕作土か]
5. 5V5/2 灰オリーブ色 粘土質シルト [弥生時代耕作土か]
6. 2.5V3/1 暗灰黄色 粘土質シルト [弥生時代耕作土か]
7. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘土質シルト [弥生時代耕作土か]
8. 5V5/2 灰オリーブ色 粘土質シルト [弥生時代耕作土か]
9. 10VR2/2 黒褐色 粘土質シルト [1～8 200SD上層]
10. 2.5V6/3 にかい黄色 粘土質シルト (黒色のラミナが平行に入る。層上面は凹凸が顕著にみられる)
11. 2.5V5/1 黄灰色 粘土質シルト (層上位3cm程は土壌化?により10V2/1黒色化する)
12. 5V4/1 灰色 粘土質シルト (φ5mm以下の炭化植物片混じる)
13. 7.5V5/1 灰色 粘土質シルト (黒色の炭化植物の薄片が多く入る)
14. 5V5/1 灰色 粘土と5V2/1黒色シルト質粘土 (炭化植物が多く混じる)の互層
15. 2.5V3/2 黒褐色 シルト質粘土 (層上位3cm程は5V5/1灰色を呈する。炭化もしくは未炭化の植物が非常に多く混じる腐植土層)
16. 2.5V3/2 黒褐色 シルト (土器多く混じる。極細粒混じる。炭化もしくは未炭化の植物が非常に多く混じる腐植土層)
17. 2.5V2/1 黒色 粘土質シルト～10V5/1灰色シルト (東側へ削方変化 植物・自然木が多く混じる腐植土層 極細粒・土器混じる) [9～14 200SD下層]
18. 2.5G5/1 オリーブ灰色 シルト質極細粒砂 (木質・土器混じる ラミナ明瞭) [間層]
19. 2.5V5/3 黄褐色 粘土
20. 10VR3/2 黒褐色 粘土質シルト (層上位腐植土層～下位2.5G5/1オリーブ灰色極細粒砂 ラミナ明瞭)
21. 11の土にベース土がやや斑状に混じる (φ1cm以下の炭・焼土片や多く混じる)
22. 5V6/1 灰色 シルト質極細粒砂と5V4/1灰色シルトの互層 (ラミナ明瞭)
23. 5V5/1 灰色 シルト質極細粒砂 (層下位に炭化植物が多く混じる腐植土あり ラミナ明瞭)
24. 5V4/1 灰色 シルト質極細粒砂 (ラミナ明瞭)
25. 10V5/1 灰色 極細粒砂と5V3/2腐植土混じりシルトの互層 (ラミナ明瞭)
26. 10V5/1 灰色 極細粒砂～細粒砂 (ラミナ明瞭)
27. 10V5/1 灰色 極細粒砂 (5V3/2腐植土混じりシルトが互層状に入る)
28. 10V5/1 灰色 極細粒砂
29. 5V4/2 灰オリーブ色 シルト (腐植土層)
30. 10V5/1 灰色 極細粒砂 (ラミナ明瞭)
31. 10V5/1 灰色 極細粒砂と7.5V4/1シルトの互層 (ラミナ明瞭)
32. 10V5/1 灰色 極細粒砂～細粒砂 (ラミナ明瞭)
33. 10V5/1 灰色 細粒砂と7.5V4/1シルトの互層 (ラミナ明瞭)
34. 10V5/1 灰色 極細粒砂～細粒砂 (腐植土層)
35. 5V4/2 灰色 極細粒砂～細粒砂 (腐植土少し混じる)
37. 7.5V4/1 灰色 シルト (腐植土と極細粒砂混じる)
38. 10V5/2 オリーブ灰色 極細粒砂～細粒砂 (自然木多く混じる)
39. 5V5/2よりやや暗い 灰オリーブ色 シルト質極細粒砂 (31の土より腐植土・シルト多く混じる)
40. 5V5/2 灰オリーブ色 シルト質極細粒砂 (腐植土混じる)
41. 5V5/2 灰オリーブ色 シルト質極細粒砂 (腐植土多く混じる)
42. 10V5/1 灰色 極細粒砂 (10V4/1灰色シルト混じる 腐植土やや多く混じる)
43. 10V5/1 灰色 極細粒砂～細粒砂 [流路より下の基盤層]
44. 10V6/1 灰色 細粒砂～中粒砂 [弥生時代耕作土]
45. 2.5V5/2 暗灰黄色 粘土質シルト [弥生時代耕作土]
46. 2.5V4/1 黄灰色 粘土質シルト [弥生時代耕作土]
47. 5V5/2 灰オリーブ色 シルト質極細粒砂 (5V4/1灰色腐植土多く混じる)
48. 5V5/2 灰オリーブ色 シルト質極細粒砂 (腐植土ブロック状に少し混じる)
49. 5V4/1 黄灰色 シルト (微細な炭少し混じる 土器混じる) [噴砂]
50. 5V5/3 灰オリーブ色 細粒砂
51. 5V3/1 黒褐色 粘土質シルト (腐植土多く混じる) [107～104 200SD下層]
52. 5V4/1 灰色 シルト質極細粒砂 (腐植土・φ5mm以下の炭混じる)
53. 5V5/1 灰色 細粒砂
54. 5V4/1 灰色 シルトと5V5/1灰色極細粒砂の互層 (腐植土混じる)
55. 10V5/1 灰色 シルト (5V6/4細粒砂がまだら状に混じる) [18と同一か]
56. 5V5/1 灰色 シルト (5V6/1シルトがラミナ状に混じる)
57. 5V4/1 灰色 シルト (φ1cm以下の炭混じる しまり良い)
58. 5V5/1よりやや暗い 灰色 シルトと5V7/2極細粒砂の互層 (ラミナ明瞭)
59. 10V6/1 灰色 極細粒砂～細粒砂 (ラミナ乱れる)
60. 5V4/1 灰色 シルト質極細粒砂
61. 5G6/1 オリーブ灰色 極細粒砂と10V5/1シルトの互層
62. 10V5/1 灰色 シルト質極細粒砂 (腐植土層 ラミナ明瞭)
63. N5/ 灰色 極細粒砂と2.5G4/1シルトの互層
64. 5V3/1 オリーブ黒色 シルト質極細粒砂 (腐植土多く混じる)
65. 5V3/1 オリーブ黒色 シルト (5V5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック少し混じる φ5mm以下の炭混じる) [001SD]
66. 5V5/2 灰オリーブ色 シルト (φ5mm以下の炭・焼土粒混じる) [328S1]
67. 10V6/1 灰色 シルト (5V7/2灰白色極細粒砂少し混じる)
68. 10V6/1 灰色 シルト (土器混じる)
69. 5V5/1 灰色 シルト (極細粒砂混じる)
70. 2.5V3/1 黒褐色 シルト (φ1cm以下の炭混じる 腐植土・土器小片多く混じる)
71. 5V4/1 灰色 シルトと5V2/1黒色粘土質シルトの互層 [200SD最下層]
72. 10V5/1 灰色 シルト (土器混じる 層下位に炭化物集積する)
73. 2.5V2/1 黒色 粘土
74. 5V4/1 灰色 シルト (腐植土層)
75. 5V4/1 灰色 シルトと5V7/2灰白色極細粒砂の混土 (腐植土少し混じる)
76. 5V4/1 灰色 シルト (5V7/2灰白色極細粒砂少し混じる)
77. 10VR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト
78. 7.5V5/2 灰オリーブ色 シルト (5V7/2灰白色極細粒砂少し混じる)
79. 5V6/1 灰色 シルト質極細粒砂 (5V4/1灰色シルトが混じる ラミナ乱れる)
80. 5V6/1 灰色 シルト質極細粒砂と5V4/1灰色シルトの互層 (ラミナ明瞭)
81. 5V4/1 灰色 シルト質極細粒砂 (5V2/1黒色腐植土多く混じる)
82. 5V2/1 灰色 粘土質シルト
83. 5V2/1 黒色 シルト (φ5cm以下の10V5/1灰色シルトブロック φ1cm以下の炭多く混じる)
84. 2.5V1.7/1 黒色 シルト (炭化物集積層)
85. 5V5/1 灰色 シルト (φ1cm以下の炭・10V5/1灰色シルトブロック混じる)
86. 5V3/1 黒褐色 シルト
87. (φ2cm以下の炭やや多く混じる φ3cm以下の10V5/1灰色シルトブロック多く混じる)
88. 5V3/1 オリーブ黒色 シルト (ベース土ブロック・φ5mm以下の炭混じる)
89. 5V5/1 灰色 シルト (φ2cm以下の炭混じる)
90. 5V4/1 灰色 シルト (細かいベース土・φ2cm以下の炭混じる)
91. 7.5V4/1 灰色 シルト (5V4/1灰色シルトブロック少し混じる φ5mm以下の炭やや多く混じる)
92. 7.5V5/1 灰色 シルト質極細粒砂
93. 10VR3/3 黒褐色 シルト (極細粒砂・φ2mm以下の炭・焼土混じる)
94. 10VR3/3 黒褐色 粘土質シルト (極細粒砂・φ5mm以下の炭少し混じる)
95. 10VR3/3 黒褐色 粘土質シルト (極細粒砂少し混じる)
96. 10V5/1 灰色 シルト
97. 10VR3/3 黒褐色 シルト (5V5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂、層下位に炭化物集積する)
98. 2.5V4/1 黄灰色 シルト (5V5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂、φ5mm以下の炭少し混じる)
99. 10VR3/3 黒褐色 シルト

図 2-20 基本土層断面図\_18\_北壁-2 (S=1:100)

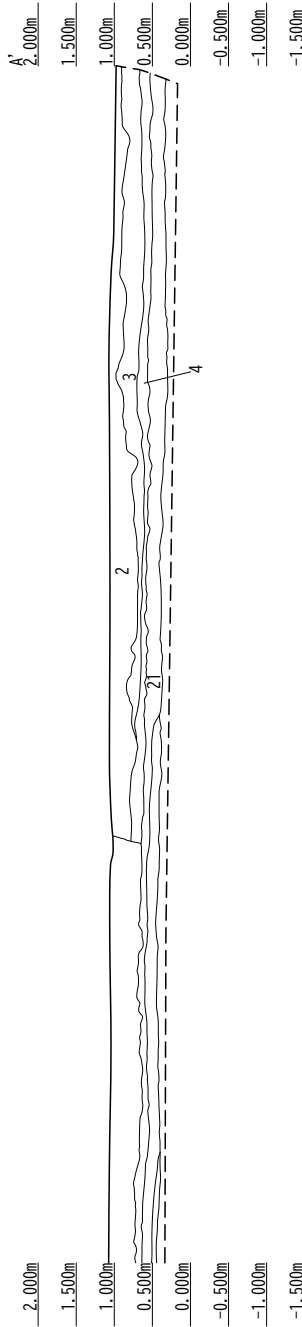
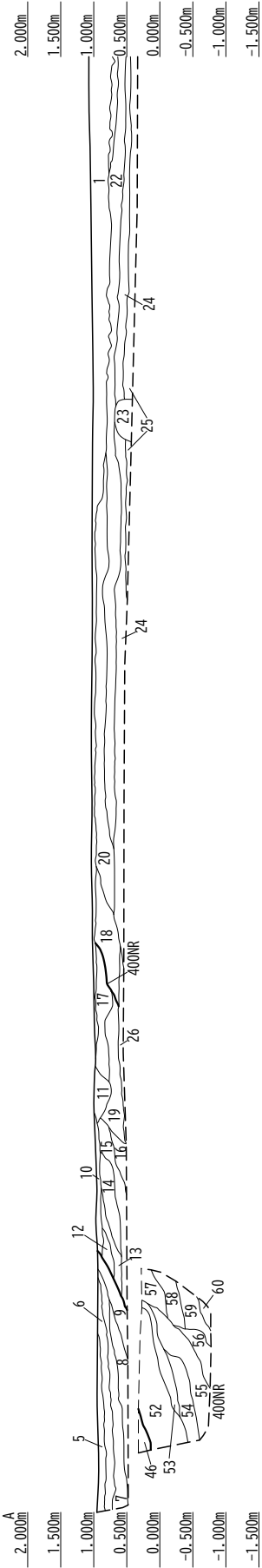
19区北壁東側



- 現代表土・攪乱
1. 5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト 5Y4/1 灰色粘土質シルト含む
  2. 5Y3/2 黒褐色粘土 (畦畔か)
  3. 5Y3/2 オリーブ黒色シルト質粘土 (畦畔か)
  4. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト質粘土 (畦畔か)
  5. 5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト
  6. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト
  7. 5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト (001SX)
  8. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト (001SX)
  9. 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト 炭化物・土器片含む (001SX)
  10. 5Y4/1 灰色粘土質シルト 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト含む (001SX)
  11. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト (001SX)
  12. 10Y8/3/1 シルト質粘土 土器片含む
  13. 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト
  14. 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト
  15. 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト
  16. 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト
  17. 2.5G5/1 オリーブ灰色砂質シルト しまり強い

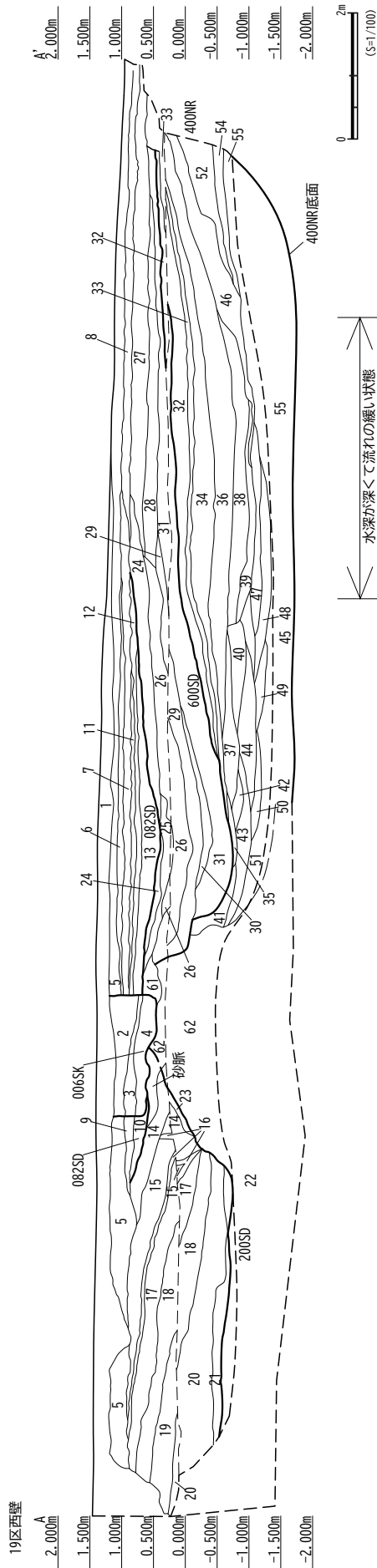
図 2-21 基本土層断面図\_19\_北壁東側 (S=1:100)

19区北壁西側



1. 現代表土  
 2. 現代表土 (7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト質粘土を主とし、シルトや細粒砂混入)  
 3. 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト質粘土  
 4. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト  
 5. 5Y3/2 オリーブ黒色粘土質シルト  
 6. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト  
 7. 5Y5/3 灰オリーブ色シルト質粘土  
 8. 2.5Y4/2 暗灰色粘土質シルト 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂含む (600SD)  
 9. 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂 (600SD)  
 10. 5Y6/2 灰オリーブ色極細粒砂  
 11. 5Y6/3 オリーブ黄色極細粒砂 (400NR)  
 12. 5Y6/3 オリーブ黄色極細粒砂 (400NR)  
 13. 5Y6/2 灰オリーブ色極細粒砂 (400NR)  
 14. 5Y6/3 オリーブ黄色極細粒砂 (400NR)  
 15. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂 (400NR)  
 16. 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂 (400NR)  
 17. 5Y7/2 灰白色シルト (400NR)  
 18. 5Y7/2 灰白色極細粒砂 (400NR)  
 19. 5Y7/2 灰白色極細粒砂 (400NR)  
 20. 7.5Y6/2 灰オリーブ色シルト  
 21. 7.5Y7/2 灰白色極細粒砂  
 22. 7.5Y7/2 灰白色極細粒砂  
 23. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト  
 24. 7.5Y6/2 灰オリーブ色極細粒砂  
 25. 7.5Y5/2 灰オリーブ色砂質シルト  
 26. 2.5Y6/2 にぶい黄色極細粒砂 (400NR)
- (46以降は西壁面と共通)  
 46. 2.5Y4/2 暗灰色粘土質シルト 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂含む (600SD)  
 52. 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂と2.5Y4/2 暗灰色粘土質シルトのラミナ (400NR)  
 53. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂 (400NR)  
 54. 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂 (400NR)  
 55. 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) と5Y7/1 灰白色極細粒砂のラミナ (400NR)  
 56. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂 (400NR)  
 57. 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト 5Y7/1 灰白色極細粒砂含む (400NR)  
 58. 2.5Y6/2 にぶい黄色極細粒砂 (400NR)  
 59. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂 (400NR)  
 60. 2.5Y5/2 暗灰色粘土質シルト (400NR)

図 2-22 基本土層断面図\_19\_北壁西側 (S=1:100)

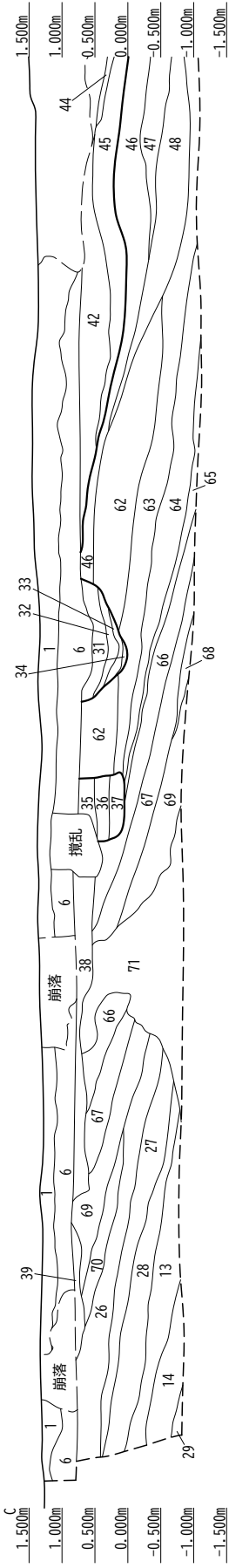


- 表土
1. 513/2 オリープ黒色粘土質シルト 2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土 514/3 暗オリープ色シルト質粘土の斑土
  2. 514/3 暗オリープ色シルト質粘土と513/2 オリープ黒色粘土質シルトと2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土の斑土
  3. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土と513/2 オリープ黒色粘土質シルトと515/2 オリープ色粘土の斑土
  4. 513/2 オリープ黒色粘土質シルト 513/2 オリープ黒色粘土質シルトのブロック含む
  5. 513/2 オリープ黒色粘土質シルト
  6. 514/2 暗オリープ色シルト質粘土
  7. 514/2 暗オリープ色シルト質粘土
  8. 2. 514/3 オリープ褐色シルト質粘土
  9. 514/3 暗オリープ褐色シルト質粘土
  10. 2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土 515/2 暗オリープ色粘土がラミナ状に混入 炭化物多く含む (082SD)
  11. 515/2 暗オリープ色粘土 (082SD)
  12. 2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土 (082SD)
  13. 2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土 515/2 暗オリープ色粘土がラミナ状に混入 炭化物多く含む (082SD)
  14. 2. 515/3 黄褐色シルト質粘土 (200SD)
  15. 514/2 暗オリープ褐色シルト質粘土 (200SD)
  16. 514/1 灰色粘土質シルト (200SD)
  17. 2. 514/2 暗灰黄色シルト (200SD)
  18. 514/2 暗オリープ色シルトと517/2 灰白色極細粒砂の互層 (200SD)
  19. 517/2 灰白色極細粒砂と514/2 暗オリープ色シルトの互層 (200SD)
  20. 517/2 灰白色極細粒砂 514/2 暗オリープ色シルトをラミナ状に含む (200SD)
  21. 517/2 灰白色極細粒砂 514/2 暗オリープ色シルトをラミナ状に含む (200SD)
  22. 517/2 灰白色中粒砂 7. 513/2 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) 含む (200SD)
  23. 7. 513/2 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) (200SD)
  24. 2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルト 517/2 暗オリープ褐色シルト質粘土ブロック含む (600SD)
  25. 2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルト 517/1 灰白色中粒砂と2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土ブロック含む (600SD)
  26. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 (600SD)
  27. 515/3 暗オリープ色シルト質粘土 2. 513/2 暗オリープ褐色シルト質粘土ブロック少量含む (600SD)
  28. 515/2 暗オリープ色シルト 515/2 暗オリープ色極細粒砂をラミナ状に含む (600SD)
  29. 2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルト 層上部は2. 515/3 黄褐色極細粒砂をラミナ状に含む (600SD)
  30. 2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルト 2. 515/3 黄褐色極細粒砂の互層 (600SD)

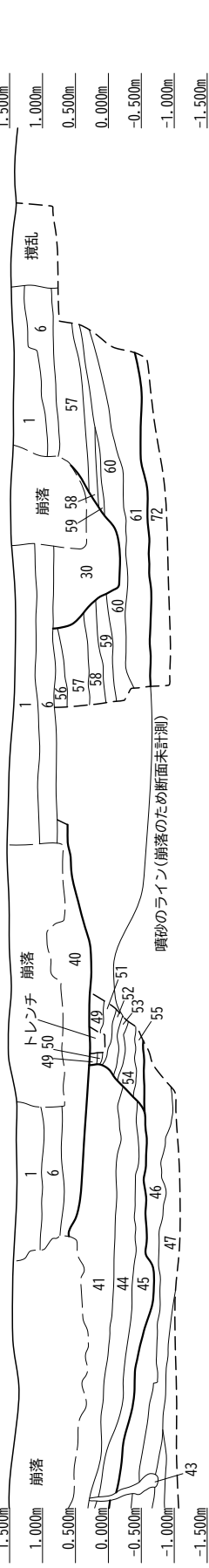
31. 層上部は2. 515/3 黄褐色極細粒砂 北側 (上部) は2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルトと2. 515/3 黄褐色極細粒砂の互層 (600SD)
32. 517/3 灰白色細粒砂 (400NR)
33. 10YR4/2 黒褐色シルト質粘土 (400NR)
34. 10YR4/2 暗灰黄色粘土質シルトと517/3 浅黄色極細粒砂の互層 (400NR)
35. 2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルト 2. 515/3 黄褐色極細粒砂と517/2 灰白色中粒砂を含む (400NR)
36. 層上部は517/3 浅黄色細粒砂 層下部は10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 (400NR)
37. 517/3 灰白色中粒砂 10YR4/2 暗灰黄色粘土質シルト含む (400NR)
38. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
39. 517/3 灰白色中粒砂 しまり強い (400NR)
40. 517/3 灰白色中粒砂 10YR4/2 暗灰黄色粘土質シルトブロック含む (400NR)
41. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
42. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
43. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
44. 517/3 灰白色中粒砂 10YR4/2 暗灰黄色粘土質シルト含む (400NR)
45. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
46. 2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルト 7. 517/1 灰白色極細粒砂含む (400NR)
47. 517/3 灰白色中粒砂 10YR4/2 暗灰黄色粘土質シルト含む (400NR)
48. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
49. 517/3 灰白色中粒砂 しまり強い (400NR)
50. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
51. 517/3 灰白色中粒砂 (400NR)
52. 7. 517/1 灰白色極細粒砂と2. 514/2 暗灰黄色粘土質シルトのラミナ (400NR)
53. 2. 516/2 灰白色極細粒砂 (400NR)
54. 7. 517/1 灰白色極細粒砂 (400NR)
55. 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) と517/1 灰白色極細粒砂のラミナ (400NR)
56. 2. 514/1 黄褐色粘土質シルト 517/1 灰白色極細粒砂含む (400NR)
57. 2. 516/2 暗灰黄色極細粒砂
58. 2. 516/2 暗灰黄色極細粒砂
59. 2. 516/2 暗灰黄色極細粒砂
60. 2. 515/2 暗灰黄色粘土質シルト
61. 2. 516/2 暗灰黄色極細粒砂
62. 516/2 暗オリープ色中粒砂

図 2-23 基本土層断面図\_19 西壁 (S=1:100)

21区北壁

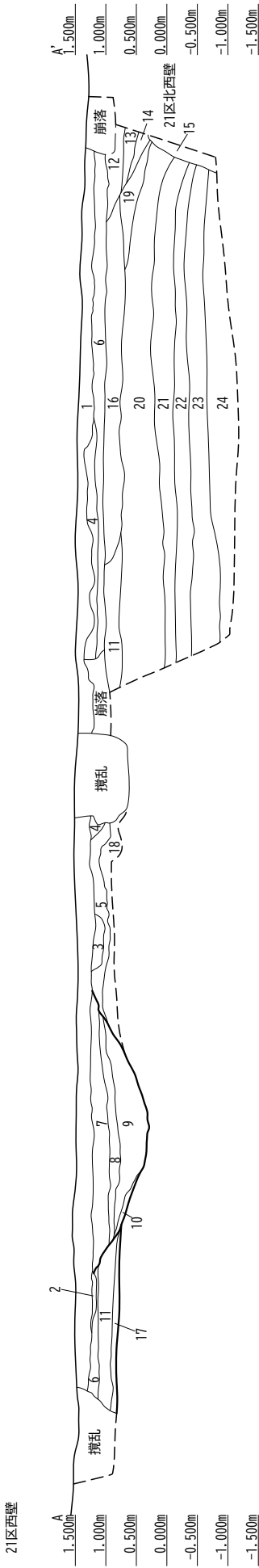


21区北壁

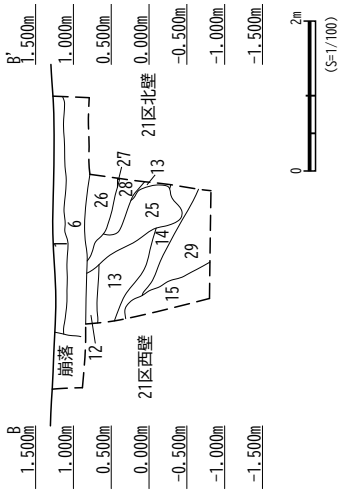


1. 2.5V4/3 オリーブ褐色 粗粒砂 (表土)
2. 2.5V4/3 オリーブ褐色 細粒砂
3. 2.5V5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂
4. 2.5V4/2 暗灰黄色 シルト
5. 2.5V4/3 オリーブ褐色 シルト
6. 10P3/3 暗褐色 シルト (包含層)
7. 2.5V4/2 暗灰黄色 シルト (001SK)
8. 2.5V5/3 黄褐色 シルト (001SK)
9. 2.5V3/2 黒褐色 シルト (001SK)
11. 2.5V5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 炭化物を含む (包含層)
12. 2.5V5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
13. 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂
14. 2.5V5/2 暗灰黄色 細粒砂
15. 2.5V4/1 黄灰色 シルト 2.5V5/2 暗灰黄色 細粒砂が混じる
16. 2.5V4/2 暗灰黄色 極細粒砂
17. 2.5V4/3 オリーブ褐色 極細粒砂 (066S1埋土)
19. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂
20. 2.5V4/2 暗灰黄色 細粒砂
21. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂
22. 2.5V3/1 黒褐色 シルト 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる  
腐植土非常に多く含む
23. 2.5V2/1 黒色 シルト 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる  
腐植土非常に多く含む
24. 2.5V3/1 黒褐色 粘質極細粒砂
25. 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂
26. 2.5V6/2 灰黄色 極細粒砂
27. 2.5V6/2 灰黄色 シルト 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる
28. 2.5V6/2 灰黄色 シルト 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる
29. 2.5V6/1 黄灰色 細粒砂
30. 10P4/1 褐色 シルト (018SK)
31. 2.5V4/1 黄灰色 シルト (012SK)
32. 2.5V4/1 黄灰色 極細粒砂 遺物片を含む (012SK)
33. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂 炭化物を含む (012SK)
34. 2.5V4/1 黄灰色 シルト 炭化物を含む (012SK)
35. 2.5V4/1 灰色 シルト 遺物片を含む (058SK)
36. 2.5V4/1 黄灰色 シルト 炭化物を含む (058SK)
37. 2.5V3/1 黒褐色 シルト 炭化物を含む (058SK)
38. 2.5V3/2 黒褐色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
39. 2.5V7/1 灰白色 極細粒砂
40. 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂 (082SD)
41. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 (200SD)
42. 2.5V4/2 暗灰黄色 極細粒砂
43. 2.5V5/2 暗灰黄色 細粒砂
44. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 (200SD)
45. 2.5V5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 (200SD)
46. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂
47. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂
48. 5V5/1 灰色 細粒砂 下層に2.5V2/1 黒色 腐植土層
49. 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂 (600SD)
50. 2.5V3/2 黒褐色 極細粒砂 炭化物を含む (600SD)
51. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 2.5V3/2 黒褐色 極細粒砂が混じる (600SD)
52. 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂 (600SD)
53. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂が混じる (600SD)
54. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂 2.5V5/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる (600SD)
55. 2.5V3/1 黒褐色 粘質極細粒砂 2.5V5/1 黄灰色 細粒砂が混じる (600SD)
56. 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂 2.5V3/2 黒褐色 極細粒砂が混じる 炭化物を含む (400NR)
57. 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 2.5V3/2 黒褐色 極細粒砂が混じる (400NR)
58. 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂 (400NR)
59. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂が混じる (400NR)
60. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる (400NR)
61. 2.5V3/1 黒褐色 シルト (400NR)
62. 2.5V6/1 黄灰色 粘質極細粒砂
63. 2.5V5/1 黄灰色 粘質極細粒砂
64. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂
65. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂
66. 2.5V5/1 黄灰色 粘質極細粒砂 2.5V3/1 黒褐色 シルトが下層に混じる
67. 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂が下層に混じる
68. 2.5V3/1 黒褐色 シルト
69. 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂
70. 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂 2.5V6/1 黄灰色 細粒砂が混じる
71. 2.5V4/2 暗灰黄色 細粒砂 2.5V5/2 暗灰黄色 極細粒砂が混じる
72. 2.5V4/2 暗灰黄色 細粒砂 (噴砂)

図 2-24 基本土層断面図\_21\_北壁 (S=1:100)



21区北西壁



- |     |         |             |                             |
|-----|---------|-------------|-----------------------------|
| 1.  | 2.5V4/3 | オリープ褐色      | 粗粒砂 (表土)                    |
| 2.  | 2.5V4/3 | オリープ褐色      | 細粒砂                         |
| 3.  | 2.5V5/2 | 暗灰黄色シルト     |                             |
| 4.  | 2.5V4/2 | 暗灰黄色シルト     |                             |
| 5.  | 2.5V4/3 | オリープ褐色シルト   | (包含層)                       |
| 6.  | 2.5V4/2 | 暗灰黄色シルト     | (001SK)                     |
| 7.  | 2.5V4/2 | 暗灰黄色シルト     | (001SK)                     |
| 8.  | 2.5V5/3 | 黄褐色シルト      | (001SK)                     |
| 9.  | 2.5V3/2 | 黒褐色シルト      | 2.5V4/1 黄灰色 細粒砂が混じる (001SK) |
| 10. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 炭化物を含む (包含層)                |
| 11. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 炭化物を含む                      |
| 12. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
| 13. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
| 14. | 2.5V4/1 | 黄灰色シルト      | 2.5V5/2 暗灰黄色 細粒砂が混じる        |
| 15. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
| 16. | 2.5V4/3 | オリープ褐色 極細粒砂 | (066S1埋土)                   |
| 17. | 2.5V4/3 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                             |
| 18. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                             |
| 19. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
| 20. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
| 21. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色シルト     | 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる     |
| 22. | 2.5V3/1 | 黒褐色シルト      | 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる     |
| 23. | 2.5V2/1 | 黒色シルト       | 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる     |
| 24. | 2.5V3/1 | 黒褐色 粘質極細粒砂  |                             |
| 25. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
| 26. | 2.5V6/2 | 灰黄色 粘質極細粒砂  |                             |
| 27. | 2.5V6/2 | 灰黄色 粘質極細粒砂  |                             |
| 28. | 2.5V6/2 | 灰黄色シルト      | 2.5V4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる     |
| 29. | 2.5V6/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                             |
| 30. | 10R4/1  | 褐灰色 粘土質シルト  | (018SK)                     |
| 31. | 2.5V4/1 | 黄灰色シルト      | (012SK)                     |
| 32. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 遺物片を含む (012SK)              |
| 33. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 炭化物を含む (012SK)              |
| 34. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 炭化物を含む (012SK)              |
| 35. | 5V4/1   | 灰色シルト       | 遺物片を含む (058SK)              |
| 36. | 2.5V4/1 | 黄灰色シルト      | 炭化物を含む (058SK)              |
| 37. | 2.5V3/1 | 黒褐色シルト      | 炭化物を含む (058SK)              |
| 38. | 2.5V3/2 | 黒褐色 粘質極細粒砂  | 炭化物を含む                      |
| 39. | 2.5V7/1 | 灰白色 粘質極細粒砂  |                             |
| 40. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                             |
- 
- |     |         |             |                                |
|-----|---------|-------------|--------------------------------|
| 41. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 42. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 43. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 44. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 45. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 46. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 47. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                                |
| 48. | 5V5/1   | 灰色 粘質極細粒砂   | 下層に2.5V2/1 黒色 腐植土層             |
| 49. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |
| 50. | 2.5V3/2 | 黒褐色 粘質極細粒砂  | 炭化物を含む                         |
| 51. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 2.5V3/2 黒褐色 粘質極細粒砂が混じる         |
| 52. | 5V5/1   | 灰色 粘質極細粒砂   |                                |
| 53. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂が混じる            |
| 54. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 2.5V5/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる         |
| 55. | 2.5V3/1 | 黒褐色 粘質極細粒砂  | 2.5V5/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる         |
| 56. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 2.5V3/2 黒褐色 粘質極細粒砂が混じる         |
| 57. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 炭化物を含む (600SD)                 |
| 58. | 5V5/1   | 灰色 粘質極細粒砂   | (600SD)                        |
| 59. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 5V5/1 灰色 粘質極細粒砂が混じる (600SD)    |
| 60. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる (600SD) |
| 61. | 2.5V3/1 | 黒褐色シルト      | (600SD)                        |
| 62. | 2.5V6/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                                |
| 63. | 2.5V5/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                                |
| 64. | 2.5V5/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                                |
| 65. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                                |
| 66. | 2.5V5/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  | 2.5V3/1 黒褐色シルトが下層に混じる          |
| 67. | 2.5V5/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 2.5V4/1 黄灰色 粘質極細粒砂が下層に混じる      |
| 68. | 2.5V3/1 | 黒褐色シルト      |                                |
| 69. | 2.5V4/1 | 黄灰色 粘質極細粒砂  |                                |
| 70. | 5V5/1   | 灰色 粘質極細粒砂   | 2.5V6/1 黄灰色 粘質極細粒砂が混じる         |
| 71. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 | 2.5V5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂が混じる        |
| 72. | 2.5V4/2 | 暗灰黄色 粘質極細粒砂 |                                |

図 2-25 基本土層断面図\_21\_北西壁\_西壁 (S=1:100)

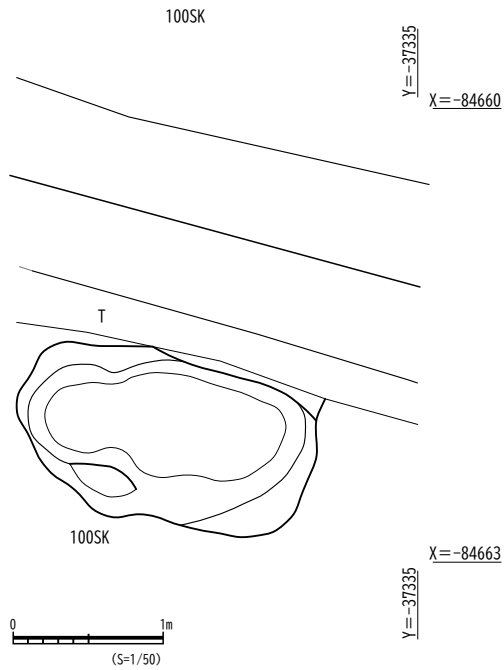


図 2-26 個別遺構図\_18\_100SK (S=1:50)

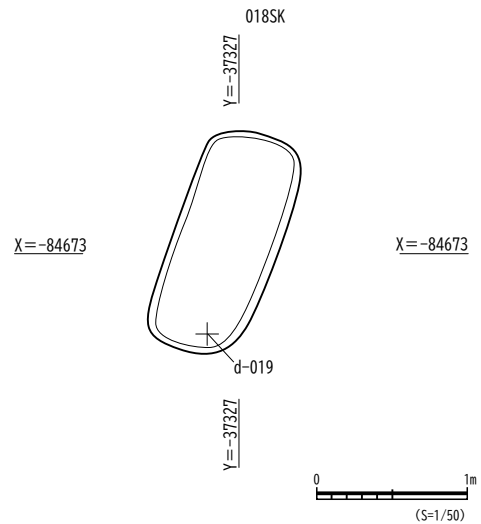


図 2-27 個別遺構図\_18\_018SK (S=1:50)

175SD との接続部分や、さらに南に連続するのかは不明。遺物は羽釜や山茶碗の破片が出土し、時期は中世以降と考えられる。021SD(020SZ 周溝) や 002SD(010SZ) の西端部を縦断して掘削されており、これら下層の遺物を多く包含する状況であった。図化された土器や石器は本来下層遺構に属するものと考えられる。

#### 018SK (図 2-27)

018SK は 020SZ 南辺、021SD の境付近に位置する平面形が方形の土坑である。中世の出土遺物は見られないが、検出面から中世以降の時期と判断した。出土遺物には石器があるが、下層の 020SZ や 021SD に属したものであろう。

#### 010SZ (図 2-28 ~ 30)

010SZ は 18 区南東部に位置する方形周溝墓である。周溝 001SD、002SD が付属する。検出面での計測値は一辺が約 12.5m、周溝 001SD 底からの高さが約 0.7m を測る。埋葬施設はすでに滅失している。墳丘盛土が下層の 330SI・302SI・308SI を覆っており、010SZ の墳丘盛土の一部で見られる炭化物は下層の 302SI に由来すると考えられる。

#### 001・002SD (図 2-28 ~ 30)

001SD は 010SZ の周溝の北半部である。010SZ の西辺部分を上層遺構の 175SD が削平しており、001SD は 175SD に分断された北側を、南側は 002SD として区分している。最大幅は 2.44m を測る。出土遺物は 175SD に削平された 010SZ 西辺部分に 001SD の底部分が残存した状況の中でまとまって検出された土器 4 点を図化した。

002SD からは遺物の出土は見られたものの図化できる状況には至らなかった。002SD は後年調査が行われた 23 区北辺部分で連続部分が検出された。

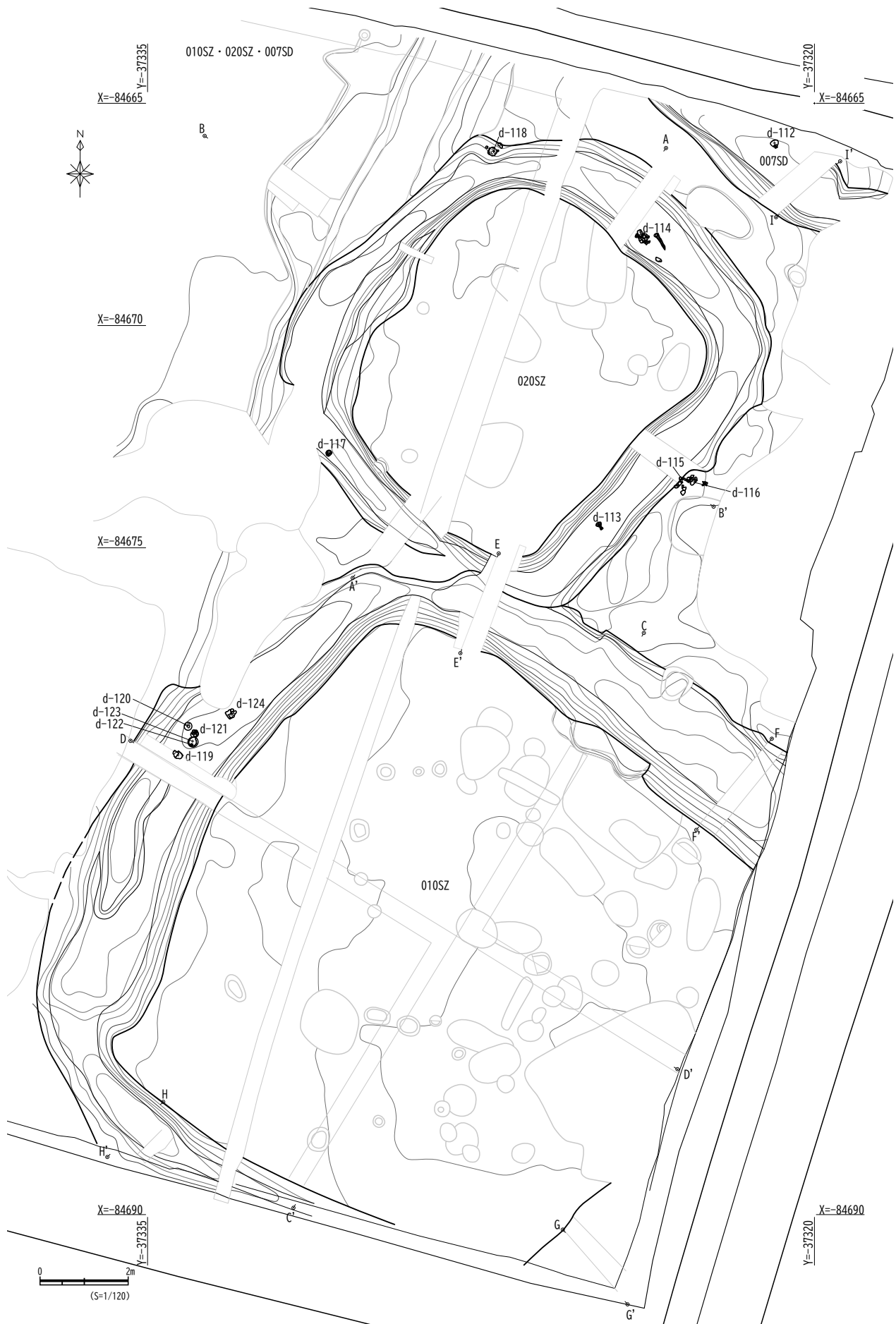
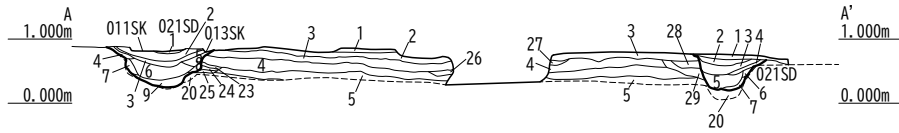


図 2-28 個別遺構図\_18\_010SZ · 020SZ · 007SD-1 (S=1:120)



021SD 土層注記

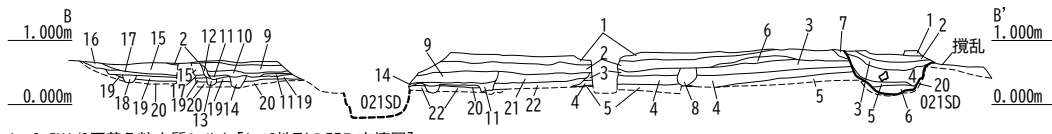
1. 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト [1~2地形の凹み充填層]
2. 5Y2/1黒色粘土質シルト
3. 5Y3/1オリブ黒色シルト (5Y5/2灰オリブ色細粒砂~中粒砂ブロック状に混じる)
4. 5Y3/1オリブ黒色シルト (地山混じる) [020SZ墳丘流れ落ち]
5. 5Y4/1灰色極細粒砂質シルト (φ5mm以下の炭混じる)
6. 5Y3/1オリブ黒色シルト (やや粘質 地山ブロック少し混じる φ1cm以下の炭やや多く混じる)
7. 5Y3/1オリブ黒色シルト (6よりも地山ブロックが多く混じる)
8. 5Y3/1オリブ黒色シルト (6よりもシルト質強い 土器混じる)
9. 7.5Y5/1灰色シルト (10Y6/1灰色細粒砂ブロック状に混じる φ5mm以下の炭やや多く混じる)

021SD 土層注記

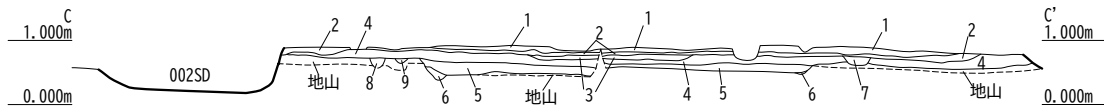
1. 2.5Y3/1黒褐色シルト [1~3地形の凹み充填層]
2. 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト
3. 5Y2/1黒色粘土質シルト
4. 5Y4/1灰色シルト (地山ブロック10%混じる)
5. 2.5G5/1オリブ灰色シルト (5Y4/1灰色シルト・φ5mm以下の炭少し混じる)
6. 5Y3/1オリブ黒色シルト (地山ブロック多く混じる)
7. 5Y3/1オリブ黒色シルト (地山ブロック少し混じる)

020SZ墳丘断割り断面土層注記

- 1 5Y5/3灰オリブ色シルト
- 2 5Y3/1オリブ黒色シルト
- 3 5Y4/2灰オリブ色シルト (φ5mm以下の炭・焼土塊・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂ブロックやや多く混じる)
- 4 5Y4/2灰オリブ色シルト (φ5mm以下の炭・焼土塊・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂ブロック 3よりも多く混じる)
- 5 5Y3/1オリブ黒色シルト (φ5mm以下の炭・焼土塊多く混じる)
- 6 2.5Y5/1黄灰色シルト (5Y6/2灰オリブ色極細粒砂多く混じる 層下位に炭集積)
- 7 5Y4/1灰色シルト [墳丘盛土の膿化か]
- 8 5Y4/1灰色シルト (3・4の土のブロック混じる φ1cm以下の炭・土器混じる)
- 9 2.5Y4/1黄灰色シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる) [9~13 326S1]
- 10 2.5Y4/1よりやや暗い黄灰色シルト (φ1cm以下の炭・土器混じる)
- 11 2.5Y3/1黒褐色シルト (層上位に炭集積 土器混じる)
- 12 2.5Y3/1黒褐色シルト (16の土のブロック・φ5mm以下の炭混じる)
- 13 2.5Y4/1黄灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 10Y5/1灰色シルト質極細砂 (地山) ブロック混じる)
- 14 5Y4/1灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 10Y5/1灰色シルト質極細砂 (地山) ブロック混じる) [274S1壁溝]
- 15 2.5Y4/2暗灰黄色シルト (φ5mm以下の炭混じる) [15~20 279S1]
- 16 5Y3/1オリブ黒色シルト
- 17 2.5Y2/1黒色シルト (φ1cm以下の炭多く混じる)
- 18 5Y3/1オリブ黒色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細砂 (地山)・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂混じる)
- 19 5Y4/1灰色シルト (φ5mm以下の炭やや多く混じる 5Y6/3オリブ黄色極細粒砂ブロック状に混じる)
- 20 10Y5/1灰色シルト質極細砂 [地山]
- 21 2.5Y4/1よりやや明るい黄灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる) [21・22 310S1]
- 22 2.5Y4/1よりやや暗い黄灰色シルト (φ1cm以下の炭混じる 層下位に1~2cm厚の焼土・炭の集積がみられる)
- 23 5Y2/1黒色シルト
- 24 5Y5/1灰色シルト質極細粒砂
- 25 5Y5/1灰色シルト質極細粒砂と10Y5/1灰色シルト質極細砂 (地山) の混土
- 26 5Y5/1灰色シルト
- 27 2・3の土の混土
- 28 5Y4/1灰色シルト (白色の極細砂少し混じる)
- 29 5Y5/1灰色シルト



- 1 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト [1~2地形の凹み充填層]
- 2 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 3 5Y3/1オリブ黒色シルト (2.5Y6/4にぶい黄色中粒砂ブロック状に混じる φ5mm以下の炭少し混じる)
- 4 5Y4/1灰色シルト (細かい地山・φ1cm以下の炭少し混じる)
- 5 7.5Y4/1灰色シルト質極細粒砂
- 6 5Y5/2灰オリブ色シルト質極細粒砂 (5Y3/1オリブ黒色シルトブロック・φ5mm以下の炭少し混じる)



010SZ墳丘断割り断面土層注記

- 1 5Y5/3灰オリブ色シルト
- 2 5Y3/1オリブ黒色シルト
- 3 5Y4/2灰オリブ色シルト (φ5mm以下の炭・焼土塊・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂ブロックやや多く混じる)
- 4 5Y4/2灰オリブ色シルト (φ5mm以下の炭・焼土塊・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂ブロック 3よりも多く混じる)
- 5 5Y3/1オリブ黒色シルト (φ5mm以下の炭・焼土塊多く混じる)
- 6 5Y4/1灰色シルト (炭多く混じる)
- 7 5Y4/2灰オリブ色シルト (5Y3/1オリブ黒色シルトのブロック多く混じる)
- 8 5Y4/2灰オリブ色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック状に多く混じる)
- 9 5Y4/2灰オリブ色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) 少し混じる)
- 10 5Y4/1灰色粘土質シルト
- 11 5Y4/2灰オリブ色シルト (1の土のブロック・φ5mm以下の炭混じる)
- 12 5Y3/1オリブ黒色シルト (1の土のブロック・φ5mm以下の炭多く混じる)
- 13 5Y4/1灰色粘土質シルト (φ1cm以下の炭化物・土器多量に混じる)
- 14 5Y5/2灰オリブ色シルト
- 15 2.5Y4/2暗灰黄色シルト (土器・φ1cm以下の炭やや多く混じる)
- 16 2.5Y2/1黒色シルト (炭化物集積層 15の土がブロック状に混じる)
- 17 2.5Y2/1黒色シルト (炭化物集積層 15の土がブロック状に混じる)
- 18 5Y2/1黒色シルト (炭化物非常に多く混じる 10Y5/1灰色シルト質極細砂 (地山) ブロック混じる)
- 19 5Y5/1灰色シルト
- 20 5Y5/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 21 5Y5/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細砂 (地山)・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂混じる)
- 22 10Y5/2オリブ灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 層下位に約5mm厚の10Y3/1オリブ黒色シルトがみられる)
- 23 10Y5/2オリブ灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 層下位に約5mm厚の10Y3/1オリブ黒色シルトがみられる 5Y6/3オリブ黄色極細粒砂がやや多く混じる)
- 24 5Y4/1灰色シルト
- 25 5Y3/1オリブ黒色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック・φ5mm以下の炭混じる)
- 26 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック多く混じる φ5mm以下の炭混じる)

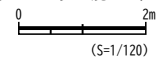
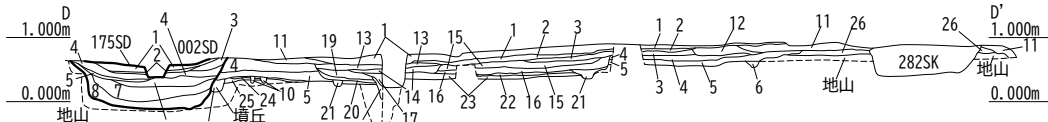
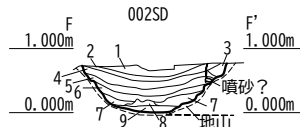
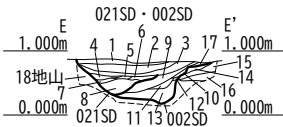


図 2-29 個別遺構図\_18\_010SZ・020SZ・007SD-2 (S=1:120)



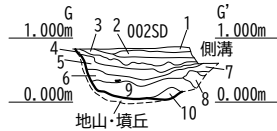
001SD土層注記

- 1 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト [1~2地形の凹み充填層]
- 2 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルトと5Y2/1黒色粘土質シルトの互層
- 3 5Y3/1オリーブ黒色シルト (地山少し混じる) [墳丘の流れ落ちか]
- 4 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 5 10Y5/1灰色シルト
- 6 5Y5/2灰オリーブ色細粒砂~極細粒砂
- 7 5Y4/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる)
- 8 5Y4/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる 4cm大までの地山ブロック多く混じる)

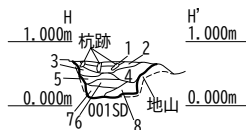


- 1 2.5Y3/1黒褐色シルト [1~3地形の凹み充填層]
- 2 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト
- 3 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 4 5Y5/2灰オリーブ色中粒砂 [4~8 021SD]
- 5 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト (地山ブロック40%混じる)
- 6 5Y4/1灰色シルト (地山ブロック10%混じる)
- 7 5Y4/1灰色シルトと8の土の混土
- 8 2.5GY5/1オリーブ灰色シルト (5Y4/1灰色シルト・φ5mm以下の炭少し混じる)
- 9 5Y4/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる) [9~13・17 002SD]
- 10 2.5Y4/1黄灰色シルト
- 11 5Y5/3灰オリーブ色シルト質極細粒砂 (φ5mm以下の炭少し混じる)
- 12 2.5Y4/1よりやや暗い黄灰色シルト (φ5mm以下の炭少し混じる)
- 13 5Y5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂 (5Y4/1灰色シルトブロック混じる φ5mm以下の炭やや多く混じる)
- 14 2.5Y4/1黄灰色シルト [14~16 010SZ墳丘盛土]
- 15 2.5Y4/1よりやや暗い黄灰色シルト (φ5mm以下の炭少し混じる)
- 16 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ2cm以下の地山ブロック・φ5mm以下の炭・土器小片混じる)
- 17 5Y4/1灰色シルト (φ5mm以下の炭やや多く混じる)
- 18 5Y5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂 [地山]

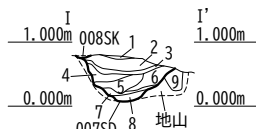
- 1 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト [1~2地形の凹み充填層]
- 2 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 3 2.5Y3/2黒褐色シルト (しまり良い φ5mm以下の炭少し混じる)
- 4 5Y4/1灰色シルト (地山ブロック少し混じる φ5mm以下の炭・土器混じる)
- 5 5Y4/1灰色シルト (4よりも地山ブロックが大きく 多く混じる)
- 6 5Y3/1オリーブ黒色シルト (やや粘質 φ3cm前後の地山ブロック・5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂~細粒砂混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 7 5Y3/1オリーブ黒色シルトと地山の混土 (7.5Y5/1灰色細粒砂がブロック状に混じる)
- 8 7.5Y6/1灰色シルト (7.5Y5/1灰色細粒砂がブロック状に少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 9 7.5Y6/1灰色シルト (7.5Y5/1灰色細粒砂がブロック状に多く混じる φ5mm以下の炭混じる)



- 1 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト [1~3地形の凹み充填層]
- 2 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト
- 3 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 4 5Y3/1オリーブ黒色シルト (地山ブロック混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 5 5Y4/1灰色シルト (細かい地山少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 6 5Y3/1オリーブ黒色シルト (やや粘質 地山ブロック少し混じる)
- 7 5Y5/3灰オリーブ色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 8 5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂~細粒砂 (5Y5/1灰色シルトブロック30%混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 9 5Y5/1灰色シルト (5Y3/1オリーブ灰色粘土質シルトが5~15cm大のブロック状に混じる φ5mm以下の炭・土器混じる)
- 10 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる)



- 1 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルトと5Y2/1黒色粘土質シルトの互層 [1~2地形の凹み充填層]
- 2 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 3 5Y3/1オリーブ黒色シルト (地山ブロック少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 4 5Y3/1オリーブ黒色シルト質極細粒砂 (地山ブロック少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 5 5Y4/1灰色シルト質極細粒砂 (5Y3/1 オリーブ黒色シルト質極細粒砂・φ5mm以下の炭少し混じる)
- 6 5Y2/1黒色シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる)
- 7 5Y4/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる)
- 8 5Y4/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭・土器混じる 4cm大までの地山ブロック多く混じる)



- 1 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト [1~2地形の凹み充填層]
- 2 5Y2/1黒色粘土質シルト
- 3 5Y3/1オリーブ黒色シルト (地山ブロック・φ5mm以下の炭混じる)
- 4 5Y4/1灰色シルト (細かい地山・φ2cm以下の炭混じる)
- 5 7.5Y4/1灰色シルト (細かい地山・φ3cm以下の炭やや多く混じる)
- 6 7.5Y4/1灰色シルト (φ4cm以下の地山ブロック20%混じる φ4cm以下の炭・5Y6/2灰オリーブ色中粒砂ブロック状に混じる)
- 7 5Y5/1灰色シルト質極細粒砂
- 8 7.5Y4/1灰色シルト質極細粒砂 (7.5Y5/1灰色細粒砂・φ5mm以下の炭混じる ラミナ明瞭)
- 9 7.5Y4/1灰色シルト (地山ブロック・φ3cm以下の炭混じる) [別遺構]

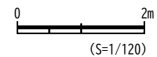


図 2-30 個別遺構図\_18\_010SZ・020SZ・007SD-3 (S=1:120)

020SZ (図 2-28 ~ 30)

020SZは南北方向の長辺10m、東西方向の短辺8.9m、021SD底からの高さ0.6mを測る方形周溝墓である。埋葬施設は滅失している。010SZの北側に隣接し、南東部分の周溝が重複している。重複部分の断面

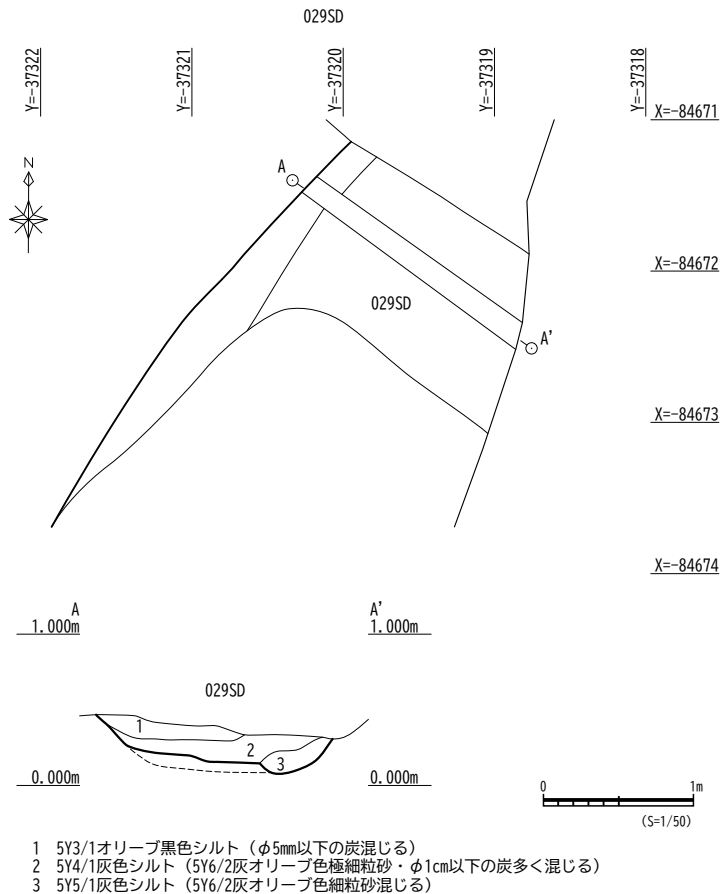


図 2-31 個別遺構図\_18\_029SD (S=1:50)

状況から 020SZ が 010SZ に後続すると考えられる。010SZ 同様に西辺南部を上層遺構の 175SD に削平され、020SZ の南西角部分は滅失している。墳丘盛土下には 326SI・310SI が検出された。021SD の出土遺物にもこれらの遺構に由来する遺物が含まれる可能性がある。

#### 021SD (図 2-28 ~ 30)

021SD は 020SZ の周溝である。検出面での最大幅は 1.77m を測る。001SD とは 020SZ 南東角付近で一部が重複する。切合い関係から 021SD が後続する。西辺部分は 175SD に削平され底部に近い部分のみが残存した状況であった。021SD は 020SZ 墳丘下で検出された 326SI・310SI を分断して掘削されているため、出土遺物にはこれらの遺構に由来する遺物を含む可能性がある。

#### 029SD (図 2-31)

93Aa 区 SZ08 の周溝に相当する。検出されたのは西辺の肩部分である。攪乱に北側と南側に削平を受け、底面に近い部分のみ検出された。残存幅 1.68m、深さ 0.26m を測る。

#### 274SI (図 2-32 ~ 34)

重複して検出された堅穴建物群 274・326・310・279・310SI の内の 1 棟で、切合い関係から最も新しい。長軸 2.97m、短軸 1.45m、深さ 0.24m を測る。北東-南西方向を長軸とする。遺構の東側は 175SD、021SD によって大きく削平される。

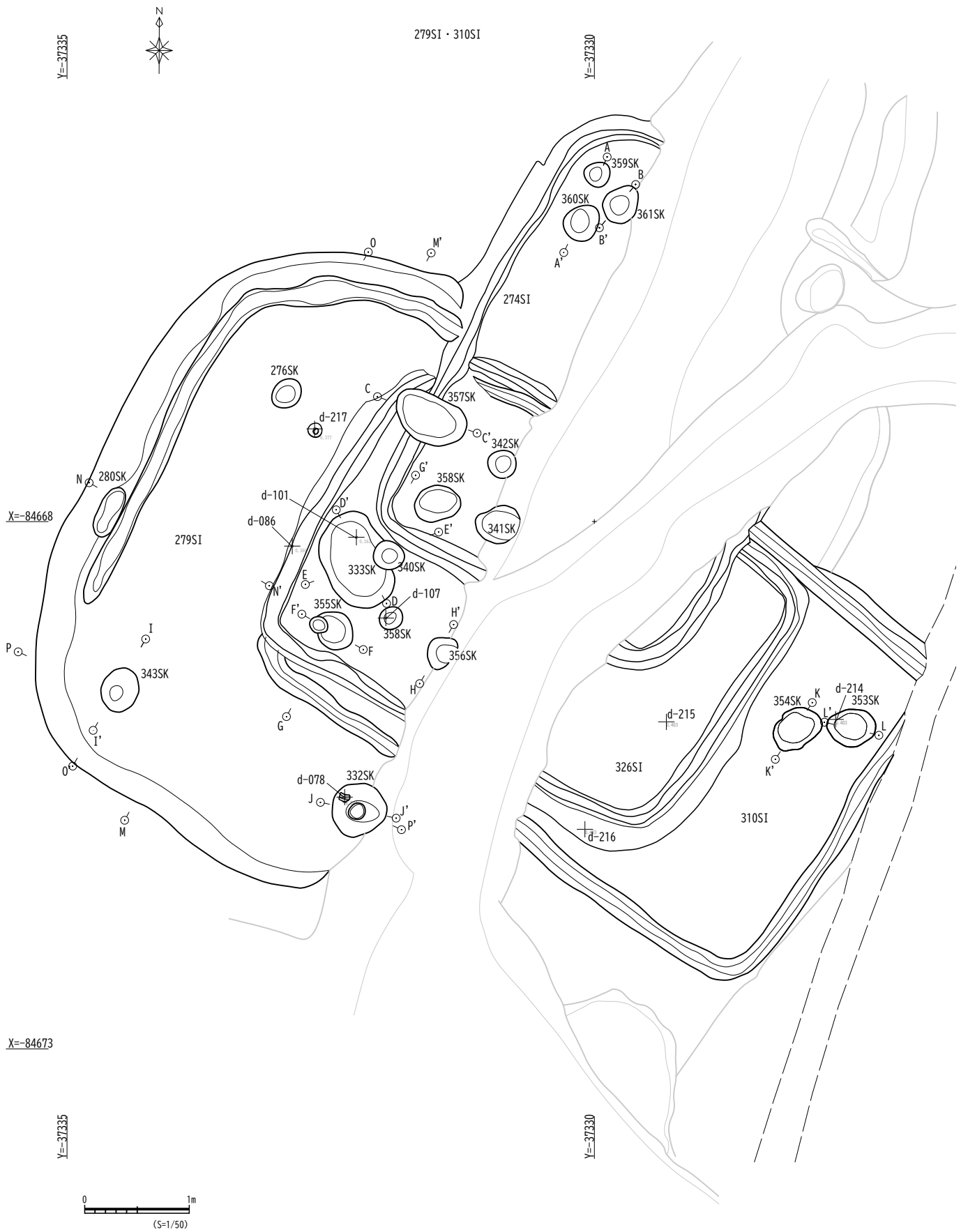


図 2-32 個別遺構図\_18\_274SI・279SI・310SI・326SI-1 (S=1:50)

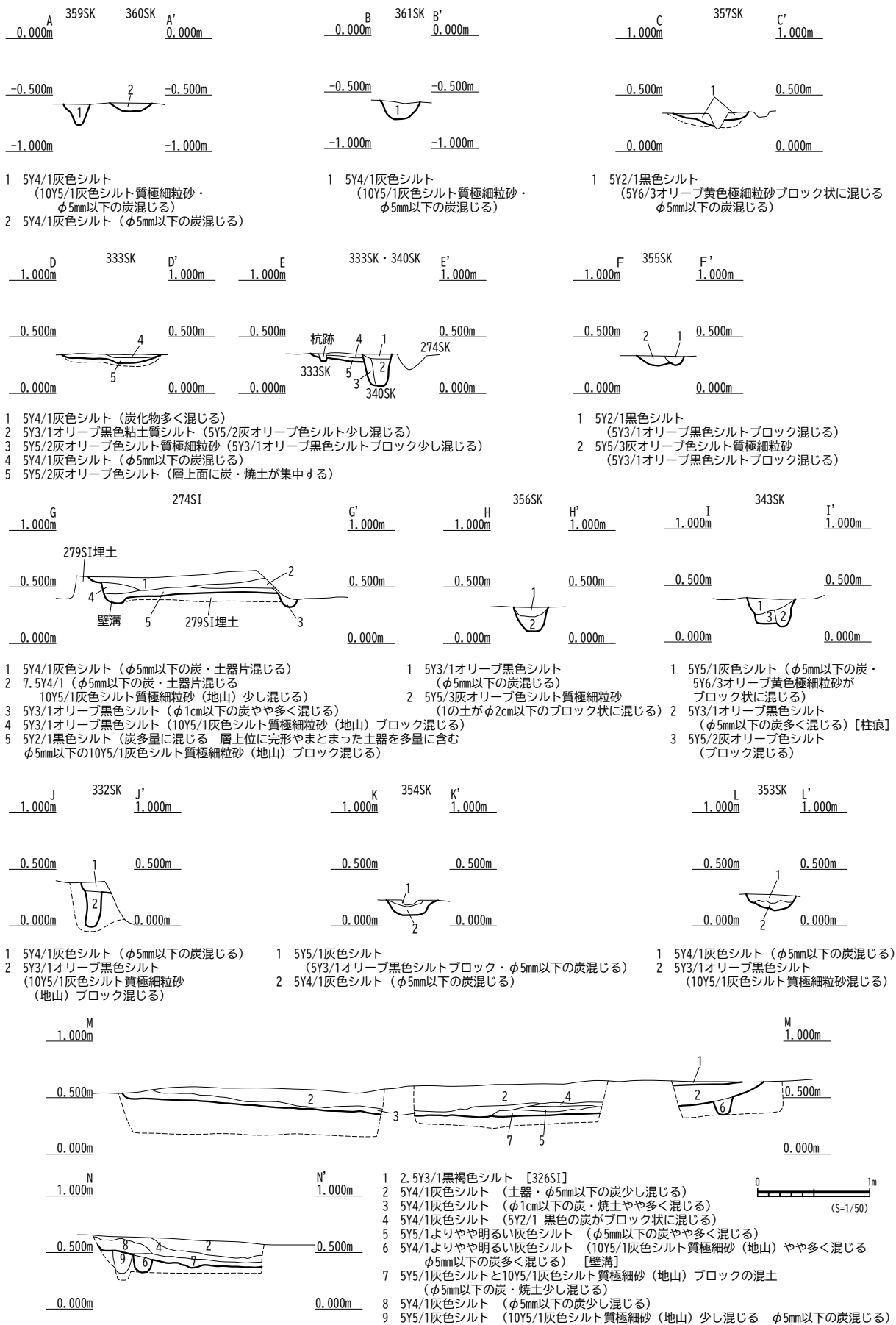


図 2-33 個別遺構図\_18\_274SI・279SI・310SI・326SI-2 (S=1:50)

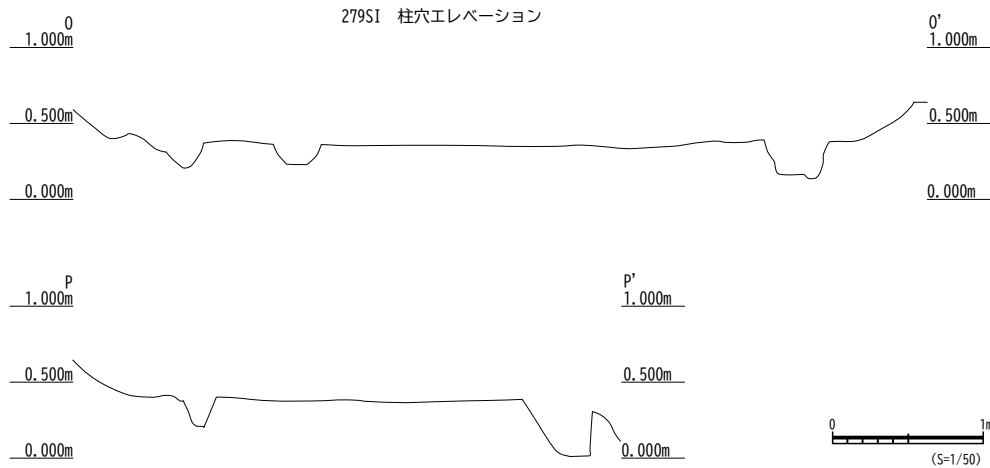


図 2-34 個別遺構図\_18\_279SI・310SI・326SI・274SI-3 (S=1:50)

### 326SI (図 2-32 ~ 34)

326SI は長軸 4.25m、短軸 1.45m、深さ 0.26m を測り、竪穴建物跡。重複して検出された竪穴建物群 279・310・326・274SI の内の 1 棟で、274SI に先行し、北西-南東を長軸とする。

### 310SI (図 2-32 ~ 34)

長軸 5.80m、短軸 3.82m、深さ 0.28m を測る竪穴建物跡。326SI 同様、重複して検出された建物の内の 1 棟で、直接の切り合いが確認できる部分は見られないが、279SI 内に壁溝が顕著に残存するため、279SI に後続すると考えられる。326SI に先行し、長軸の方向は北西-南東と 326SI とほぼ同一である。

### 279SI (図 2-32 ~ 34)

長軸 5.57m、短軸 3.72m、深さ 0.49m を測る。前述の重複する 4 棟の内では最も古い。東側縁辺部は 175SD により削平される。周辺の遺構では、西側の不定形の土坑 280SK が唯一 279SI よりも古い遺構である。

### 280SK (図 2-32)

長軸 3.59m、短軸 2.59m、深さ 0.17m を測る不定形の土坑である。周辺遺構中では唯一 279SI に切り合い関係で先行する。

### 306SX (図 2-35・36)

306SX は 330SI の上層で検出された不定形の土坑である。長軸 6.24m、短軸 3.24m、深さ 0.28m を測る。平面は 330SI の中にほぼ納まる規模のため、330SI 内の堆積の一部と考えられるが、断面中の南端付近には壁溝のように見える部分も検出されていることから、330SI に後続する竪穴建物跡の一部の可能性もある。

### 330SI (図 2-37 ~ 39)

330SI は、330・302・308SI の 3 棟が重複する竪穴建物群の中では最も新しい竪穴建物跡である。長

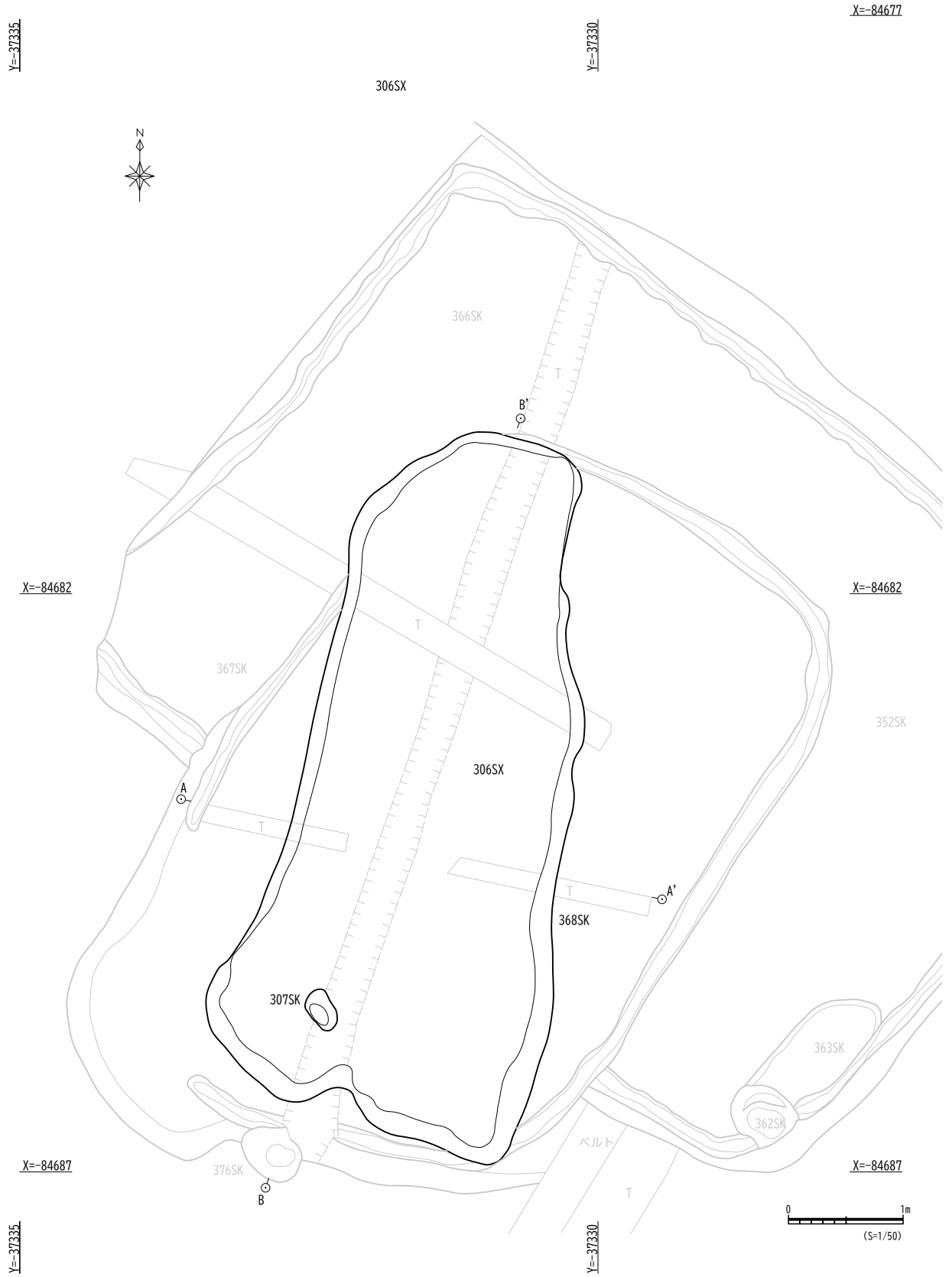
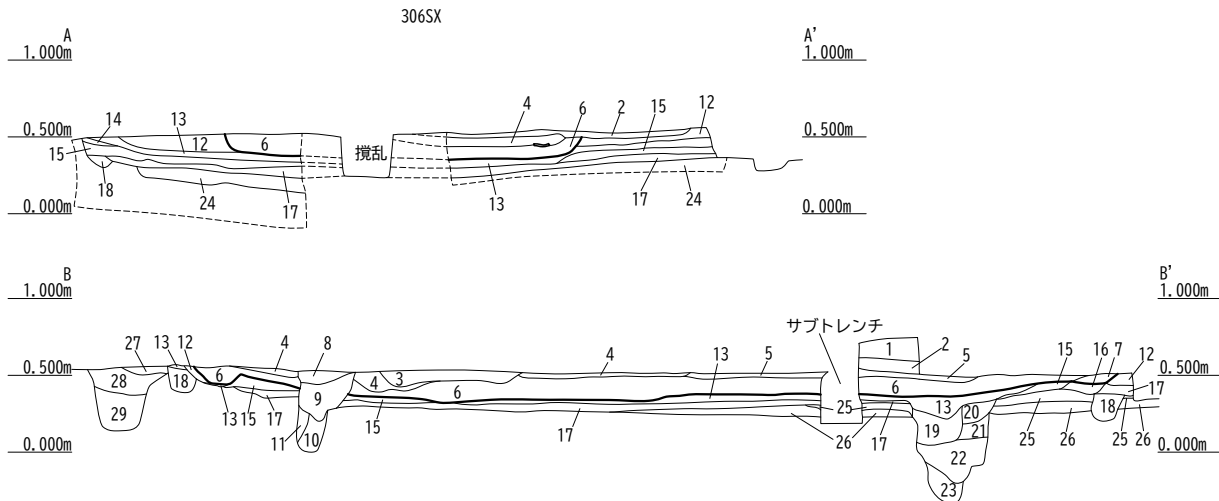


図 2-35 個別遺構図\_18\_306SX-1 (S=1:50)



- 1 5Y6/3オリブ黄色シルト質極細粒砂 (φ5mm以下の炭混じる) [1~3 010SZマウンド盛土]
- 2 5Y3/1オリブ黒色シルト (5Y6/4オリブ黄色シルト質極細粒砂がφ5mm前後のブロック状に混じる混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 3 5Y5/2灰オリブ色シルト
- 4 5Y2/1黒色シルト (炭化物非常に多く混じる) [4~7 306SI]
- 5 5Y5/1灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 6 5Y4/1灰色粘土質シルト (φ1cm以下の炭化物・土器多量に混じる)
- 7 5Y4/1灰色粘土質シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック多く混じる)
- 8 5Y5/2灰オリブ色シルト [8~11 307SK]
- 9 5Y5/2灰オリブ色シルトと5Y4/1灰色シルトの混土 (φ2cm以下の炭多く混じる)
- 10 5Y4/1灰色シルト (φ1cm以下の炭混じる)
- 11 10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (しまり良い 微細な炭少し混じる)
- 12 2.5Y4/2暗灰黄色シルト (土器・φ1cm以下の炭やや多く混じる) [12~23 330SI]
- 13 2.5Y2/1黒色シルト (炭化物集積層 14の土がブロック状に混じる)
- 14 5Y5/1灰色シルト
- 15 5Y5/1よりやや暗い灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 16 5Y5/1灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 17 5Y4/1灰色シルト (φ5mm以下の炭やや多く混じる 5Y6/3オリブ黄色極細粒砂がブロック状に混じる)
- 18 5Y5/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ・5Y6/3オリブ黄色極細粒砂混じる) [壁溝]
- 19 5Y2/1黒色シルト (炭化物非常に多く混じる 10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック混じる) [339SK]
- 20 5Y3/1オリブ黒色シルト (5Y5/2灰オリブ色シルトブロック混じる) [339SK]
- 21 5Y5/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック混じる) [339SK]
- 22 5Y4/1灰色シルト (5Y6/3オリブ黄色極細粒砂混じる) [339SK]
- 23 5Y3/1オリブ黒色シルト (5Y6/3オリブ黄色シルトブロック混じる) [339SK]
- 24 5Y4/1灰色シルト (やや粘質 φ5mm以下の炭混じる) [24~26 302SI]
- 25 10Y5/2オリブ灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 層下位に約5mm厚の10Y3/1オリブ黒色シルトがみられる)
- 26 10Y5/2オリブ灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 層下位に約5mm厚の10Y3/1オリブ黒色シルトがみられる 5Y6/3オリブ黄色極細粒砂がやや多く混じる)
- 27 5Y4/1灰色シルト [27~29 376SK]
- 28 5Y5/1灰色シルト (φ5mm以下の炭・φ1cm以下の5Y6/1灰色極細粒砂がブロック状に混じる)
- 29 5Y4/1よりやや暗い灰色シルト (φ1cm以下の炭混じる)

図 2-36 個別遺構図\_18\_306SX-2 (S=1:50)

軸が 7.17m、短軸が 4.24m、柱穴を除く深さは 0.35m を測る。長軸方向は北東 - 南西方向である。柱穴は 335・337・339・377SK の 4 基が検出された。南西隅部分は壁溝が途切れ、隅部が張り出した平面形状となっている。この部分の標高は 330SI 内の他の場所と比べても高く、他の遺構によって削平された結果とも考え難い。竪穴建物内の構造の一部と推定される。

### 302SI (図 2-40 ~ 43)

302SI は 330・302・308SI の 3 棟が重複する竪穴建物群の中で、330SI に先行し、305SI に後続する竪穴建物跡である。長軸は 8.55m、短軸は 7.92m、深さ 0.23m である。長軸方向は北西 - 南東方向である。遺構内では中心部分から放射状に広がる炭化材が検出された。後続する 330SI に削平された部分を除いたほぼ全面で検出されている。これらは屋根に用いられた垂木と考えられる。これらの炭化材の出土状況を記録し、樹種同定に用いるサンプルを採取した後に除去したところ、強く被熱した土器が多数検出された。特に 302SI 北西隅付近では被熱した土器がまとまって出土する状況であった。

土器の出土状況については、調査当時は土器が据えられた場所のままで建物の屋根が崩落したことに伴って破損したと推定した。しかし整理作業中には、同一個体と考えていた土器片のグループが複

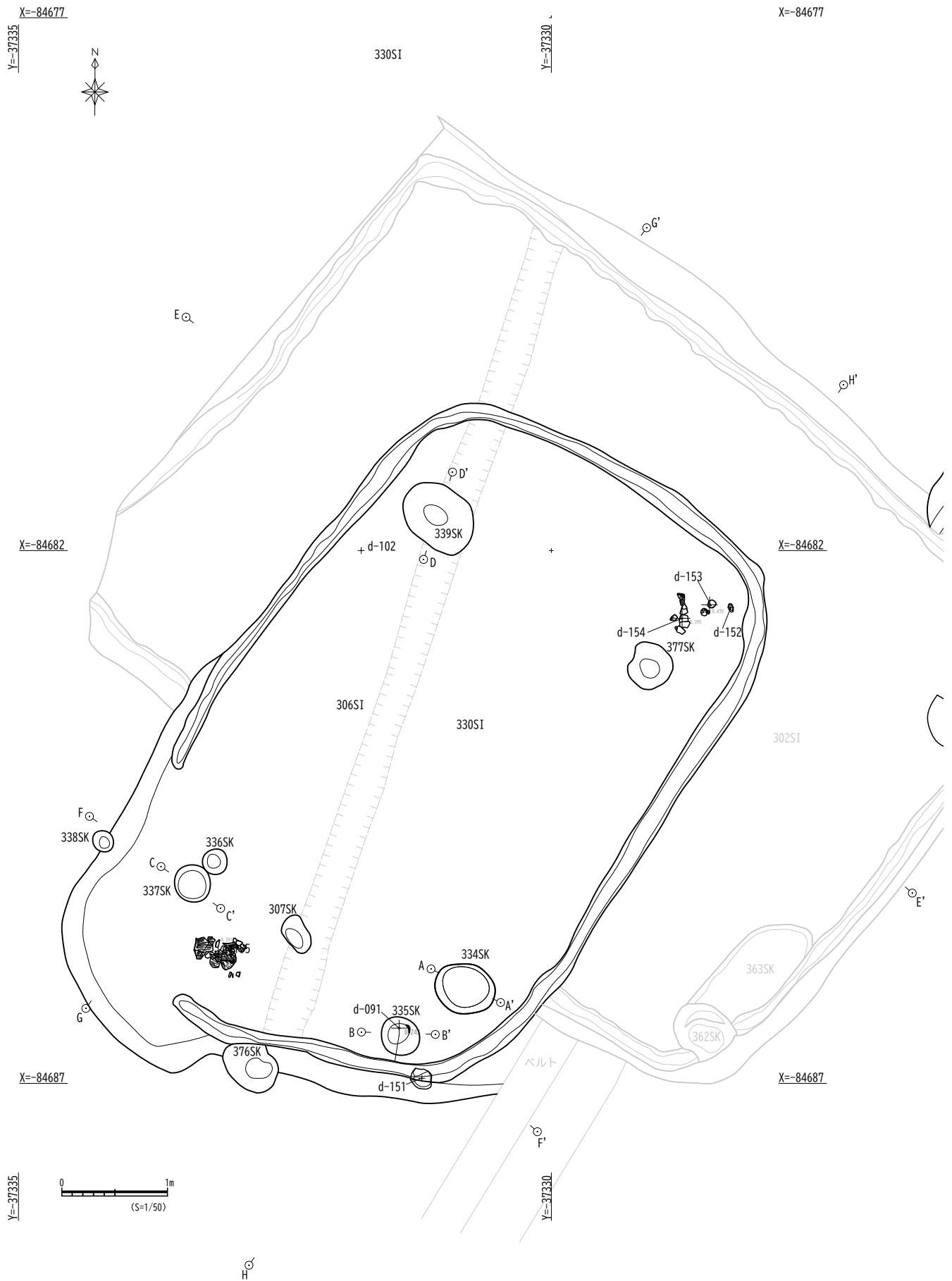
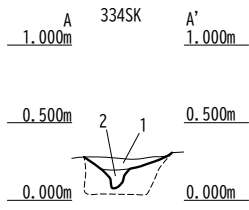
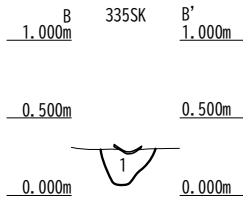


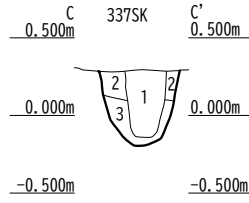
図 2-37 個別遺構図\_18\_330SI-1 (S=1:50)



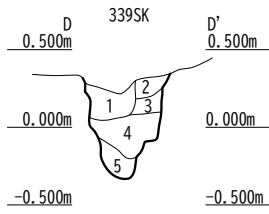
- 1 5Y4/1灰色シルトと10Y5/1灰色シルト (地山) の混土
- 2 5Y4/1灰色シルト



- 1 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ1cm前後の10Y5/1灰色シルト (地山) ブロック・炭混じる)



- 1 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 2 5Y4/1灰色シルト (φ3cm以下の10Y5/1 灰色シルトブロック多く混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 3 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂少し混じる)

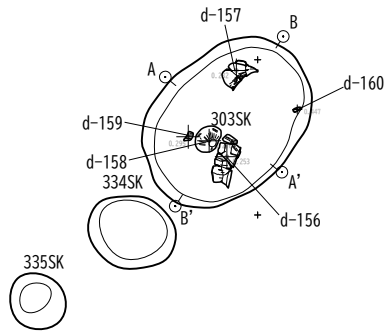


- 1 5Y2/1黒色シルト (炭化物非常に多く混じる 10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック混じる)
- 2 5Y3/1オリーブ黒色シルト (5Y5/2灰オリーブ色シルトブロック混じる)
- 3 5Y5/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂 (地山) ブロック混じる)
- 4 5Y4/1灰色シルト (5Y6/3オリーブ黄色細粒砂混じる)
- 5 5Y3/1オリーブ黒色シルト (5Y6/3オリーブ黄色シルトブロック混じる)

303SK・334SK・335SK・328SI

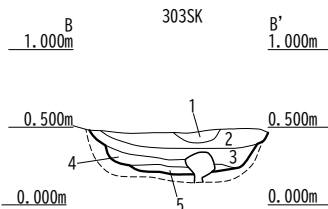
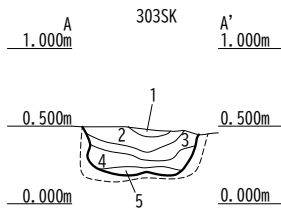
Y=-37332  
X=-84684

Y=-37329  
X=-84684



X=-84687

X=-84687



- 1 5Y3/1オリーブ黒色シルト (5Y6/3オリーブ黄色細粒砂混じる 炭多く混じる)
- 2 5Y6/1灰色シルト (10Y5/1灰色極細粒砂・φ5mm以下の炭混じる)
- 3 5Y2/1黒色シルト (炭化物非常に多く混じる)
- 4 5Y4/1灰色シルト (φ1cm前後の10Y5/1灰色シルト (地山) ブロック全体に混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 5 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト (地山) 多く混じる)

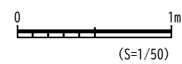


図 2-38 個別遺構図\_18\_330SI-2 (S=1:50)

330SI 柱穴エレベーション

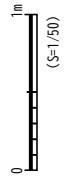


図 2-39 個別遺構図\_18\_330SI-3 (S=1:50)

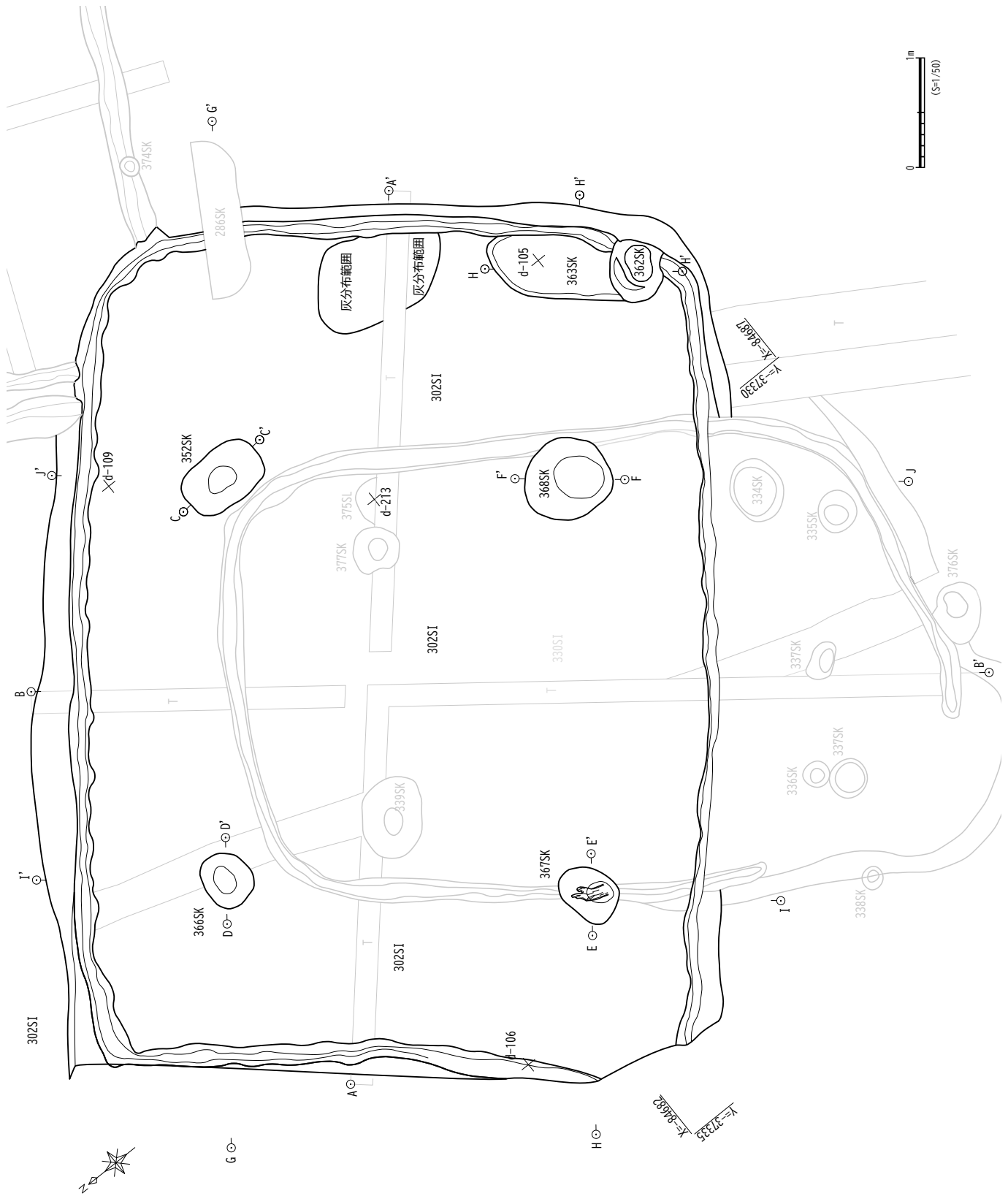
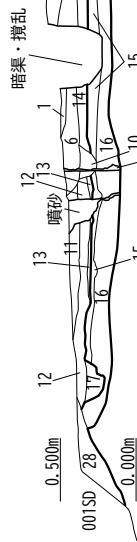


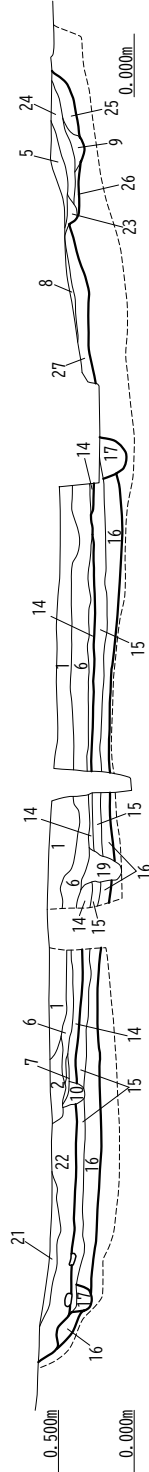
图 2-40 個別遺構圖\_18\_302SI-1 (S=1:50)

302SI

A  
1.000m



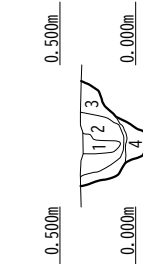
B  
1.000m



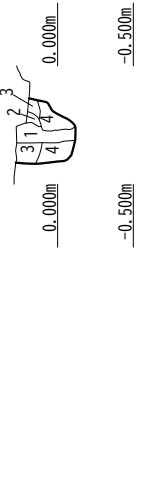
- 1 5Y4/1灰色粘土質シルト (φ1cm以下の炭化物・土器多量に混じる) [306SI]
- 2 5Y4/1灰色シルト (5Y5/3灰オリーブ色シルトがブロック状に混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 3 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる 炭化物の薄層のみみられる)
- 4 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 5 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 6 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 7 2.5Y2/1黒色シルト (炭化物集積層)
- 8 5Y4/1灰色シルト (5Y3/1オリーブ黒色シルトのラミがみられる)
- 9 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ1cm以下の炭・粘土塊多く混じる)
- 10 5Y5/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂・5Y6/3オリーブ黒色シルトが混じる)
- 11 5Y4/1灰色シルト (φ1cm以下の炭混じる φ1cm以下の炭混じる)
- 12 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ1cm以下の炭混じる φ1cm以下の炭混じる)
- 13 7.5Y4/3褐色シルト (粘土・炭化物の集積層 土器・石器多く含む)
- 14 10Y5/2オリーブ灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 層下位に約5mm厚の10Y3/1オリーブ黒色シルトがみられる) [粘床 330SIの床]
- 15 10Y5/2オリーブ灰色シルト (φ5mm以下の炭混じる 層下位に約5mm厚の10Y3/1オリーブ黒色シルトがみられる)
- 16 5Y6/3オリーブ黄色極細粒砂がやや多く混じる) [粘床 302SIの床]

- 16 10Y5/1よりやや暗い灰色シルトと5Y5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂の混土 φ5mm以下の炭少し混じる) [302SI掘り方]
- 17 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト・φ5mm以下の炭少し混じる)
- 18 10Y5/1灰色シルトと5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂の混土
- 19 10Y5/1灰色シルト (5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂・φ5mm以下の炭少し混じる) [19・20層 375SI]
- 20 10Y1.7/1黒色シルト (炭化物集積層)
- 21 5Y3/1オリーブ黒色シルトと22の混土
- 22 5Y4/1灰色シルト
- 23 5Y3/1オリーブ黒色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック・φ5mm以下の炭混じる)
- 24 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック多く混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 25 5Y3/1オリーブ黒色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック多く混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 26 5Y2/1黒色シルト (炭化物集積層)
- 27 10Y5/1灰色シルトと5Y5/2灰オリーブ色シルト質極細粒砂の混土 (φ5mm以下の炭混じる) [330SI掘り方]
- 28 5Y3/1オリーブ黒色シルト [10ISZマウンド盛土の礫土の礫土]
- 29 5Y2/1灰色シルト (炭化物非層に多く混じる ベース土ブロック混じる) [29~31 330SI柱穴]
- 30 5Y3/1オリーブ黒色シルト (5Y6/3オリーブ黄色シルトブロック混じる)
- 31 5Y3/1オリーブ黒色シルト (5Y5/2灰オリーブ色シルトブロック混じる)

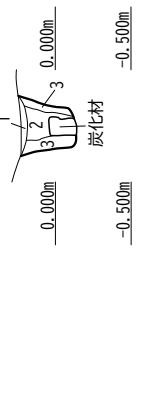
C 352SK C' 1.000m



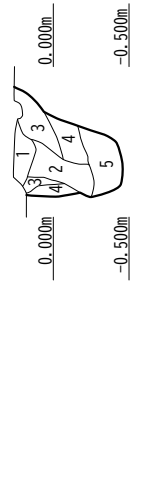
D 366SK D' 0.500m



E 367SK E' 0.500m



F 368SK F' 0.500m



- 1 5Y4/2灰オリーブ色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック やや多く混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 2 5Y3/1オリーブ黒色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック 少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 3 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 4 5Y4/1よりやや明るい灰色シルト (10Y5/1灰色シルトブロック・φ1cm以下の炭多く混じる)

- 1 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 2 5Y3/1オリーブ黒色シルト (φ5mm以下の炭混じる)
- 3 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂ブロック状に混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 4 5Y4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂ブロック状に少し混じる φ5mm以下の炭混じる)
- 5 M4/1灰色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細粒砂少し混じる)

図 2-41 個別遺構図\_18\_302SI-2 (S=1:50)



图 2-42 個別遺構圖\_18\_302SI-3 (S=1:50)

302SI 柱穴エレベーション

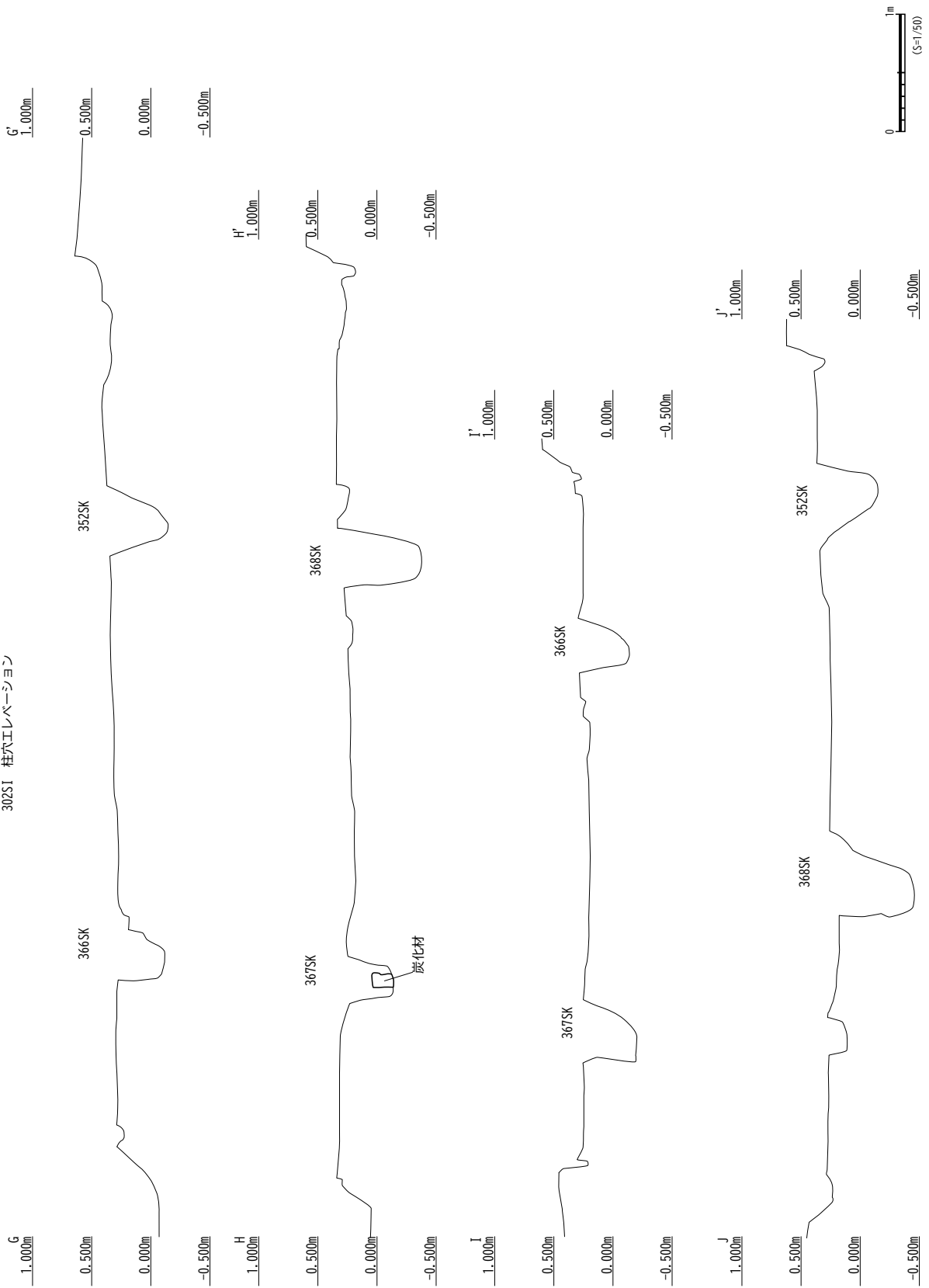


図 2-43 個別遺構図\_18\_302SI-4 (S=1:50)

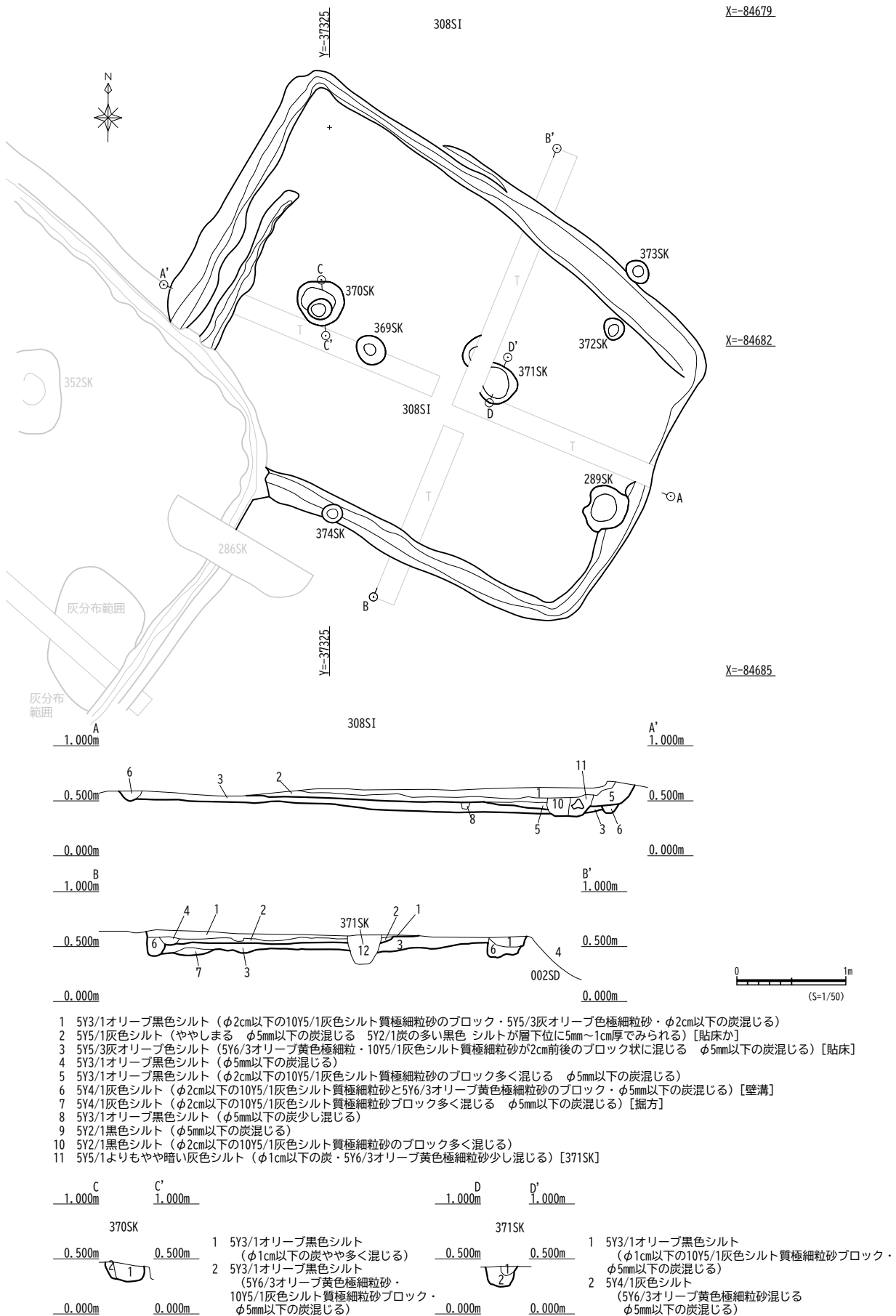


図 2-44 個別遺構図\_18\_308SI (S=1:50)

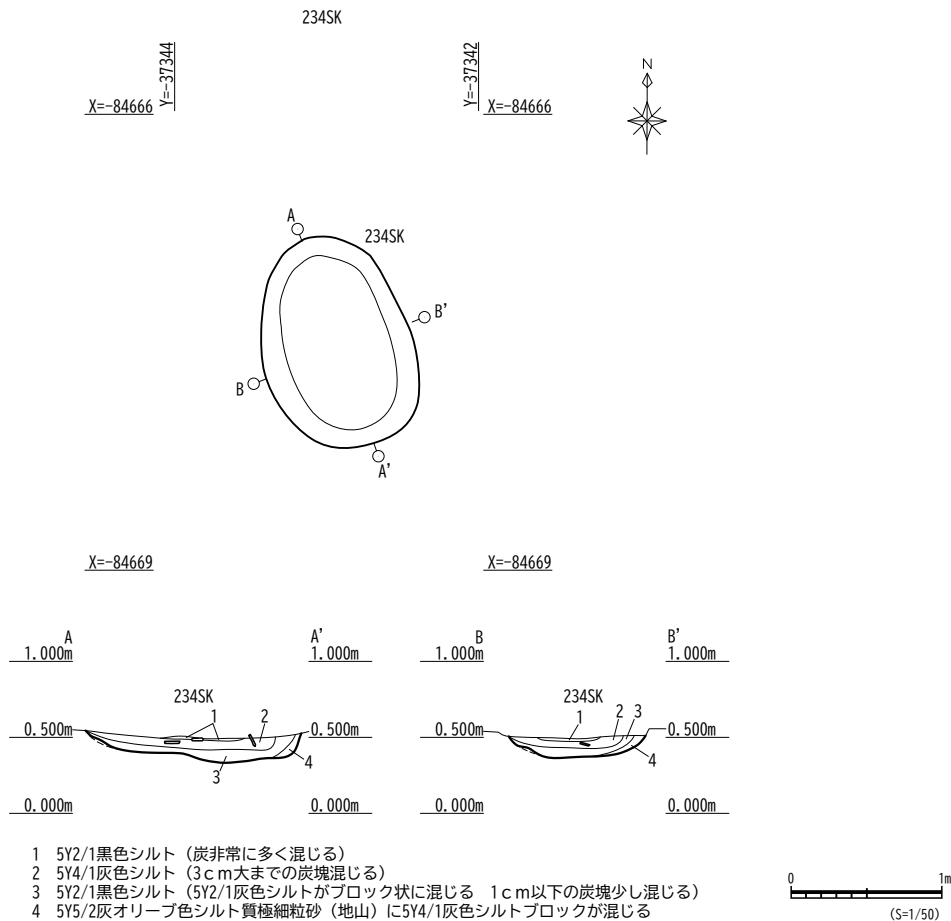


図 2-45 個別遺構図\_18\_234SK (S=1:50)

数個体が重なりあったものであり、離れたグループ同士での接合が確認されたことから、屋根の崩落や火を受ける以前に土器がまとめられていた（片付けられていた）可能性が高い。

また、土器 E-52 に見られるように、土器が転倒、傾斜し下部が土に埋まった状態で露出した部分が被熱した状態も複数確認できた。これは土器が傾斜していることから、埋める形で据え付けられたままの状況とは考え難く、土器がまとめられた状況下で土砂が数センチ堆積した可能性も考えられる。以上の状況は土器がまとめられた時から被熱するまでの時間が空いた可能性を示し、302SI が廃絶した段階では建物は火を受けず、内部に土砂が流入するまでの時間経過を経て、改めて火を受けた可能性がある。

302SI の柱穴は 352・366・367・368SK の 4 基が検出された。この内 366・367SK からは、炭化材が検出された。柱が燃えた可能性もあるが、特に 366SK については柱の抜き取り後に炭化材が入り込んだように見える。

### 308SI (図 2-44)

308SI は 330・302・308SI の 3 棟が重複する竪穴建物群の中では最も古い竪穴建物跡である。長軸が 4.78m、短軸が 2.85m、深さは 0.27m を測る。長軸方向は北西-南東で、302SI に近いが、302SI よりもわずかに北で西に振れている。建物北西隅部は 302SI によって欠損する。柱穴と考えられる土坑は 308SI 中央付近に位置する 370・371SK の 2 基がある。

### 200SD (図 2-15・16)

200SD は一色青海遺跡内の居住域北辺部に掘削された溝である。18 区内では長さ 12m が検出され、幅約 7.5m、深さ約 1m を検出した。底面近くには腐植物が堆積し、上層部分には炭化物の混入も多く見られる。出土遺物は他の遺構に比べて木製品・自然木等が多い。

18 区内で検出された 200SD には居住域との間を昇降するスロープが付属している。幅は約 1.8m で階段状の段差も検出された。

### 400NR (図 2-15)

400NR は一色青海遺跡の北辺部で蛇行していた旧河道である。居埋没後は後続して 600SD、200SD が掘削されたことが判明している。右岸部は 200SD によって削平されているが、18 区内では 400NR・200SD 共に右岸部が外周に当たることから、200SD 右岸と同様の位置にあったことが推察される。なお、19 区や 09 区で検出されている 600SD は 18 区内では検出されていない。後続して掘削された 200SD によって削平されたものと考えられる。

18 区内では左岸部約 10m 分を検出した。確認できる深さは約 1.0m 以上である。湧水のためこれ以下は掘削できなかったが、水没した部分からも腐植物や土器片が検出されているため、底面はさらに深くなると考えられる。

### 234SK (図 2-45)

234SK は 200SD の右岸側、スロープ状構造の南側で検出された。長軸 1.63m、短軸 0.99m、深さ 0.13m を測る。埋土には多量の炭化物が混じり、炭化物は複数の層を形成する。土器焼成土坑と考えられるが、出土した土器には在地産とは異なるものと見られる土器が含まれており、断定はできない。

### 285SK (図 2-46)

285SK は 020SZ の北西隅付近に位置する。長軸 2.9m、短軸 1.75m、深さ 0.57m を測る。020SZ の周溝 021SD の埋没後に掘削されており、出土土器は弥生土器に限られるものの、それ以降の時期に掘削を受けた可能性がある。

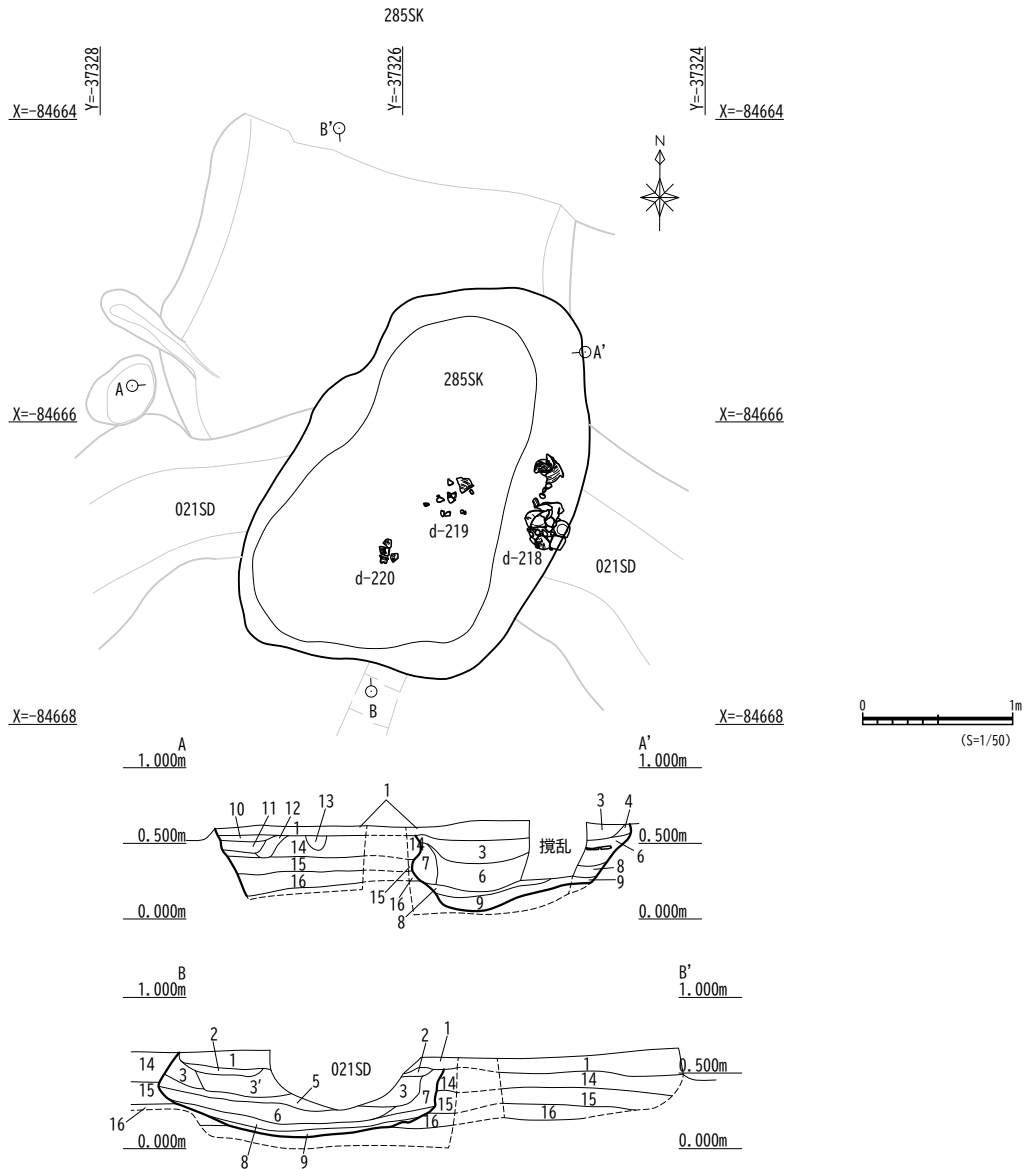
## 2. 19 区の遺構

### 030SK (図 2-47)

030SK は 19 区の中央北壁近くに位置する。長軸 2.03m、短軸 1.26m、深さ 0.3m を測る。18 区 234SK と同様に多量の炭化物が埋土中に含まれており、炭化物が複数の層を形成するのも同様の状況である。400NR 左岸より北の地域で、これは居住域から河道・溝を隔てた対岸にあたる。19 区内にはこの対岸部分が調査区内に含まれているが、030SK のような土坑や小規模な溝は検出されるものの、竪穴建物等は検出されておらず、遺構の分布状況は明確に居住域と異なる。

### 054SD (図 2-14)

054SD は 19 区南東隅近くに位置する溝状の遺構である。長軸は 12.05m、短軸は 2.80m、深さは 0.18m を測る。居住域の対岸に位置する。周囲には 055SD や 092SD 等さまざまな溝が重複する状態だが、切り合い関係から 054SD はこれらの内で最も古い。また他の溝がさまざまな方向や蛇行した検出状況を



- 1 5Y4/1灰色シルト（ $\phi$ 5mm以下の炭混じる）[地形の凹み充填層]
- 2 5Y4/1よりもやや明るい灰色シルト質極細粒砂[2~9 285SK]
- 3 5Y3/1オリーブ黒色シルト（ $\phi$ 1cm以下の炭・10Y5/1灰色シルト（地山）ブロック混じる）
- 3' 5Y2/1黒色シルトと5Y4/1灰色シルトの互層（炭多く混じる）
- 4 5Y6/4オリーブ黄色シルト質極細粒砂
- 5 5Y5/1灰色シルト（ $\phi$ 5mm以下の炭混じる）
- 6 5Y3/2オリーブ黒色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと5Y2/1黒色灰色シルトの互層（炭・焼土・土器多く混じる）
- 7 10Y5/1灰色シルトと5Y3/2オリーブ黒色シルトの混土（ $\phi$ 1cm以下の炭混じる）
- 8 5Y6/1灰色シルト
- 9 5Y2/1黒色シルトと5Y6/1灰色シルトの互層
- 10 5Y4/1灰色シルト（ $\phi$ 5mm以下焼土と炭化木材多量に混じる）[10~12 274SI]
- 11 5Y4/1灰色シルト（10Y5/1灰色シルト（地山）14・ $\phi$ 5mm以下の炭少し混じる）
- 12 5Y4/1よりもやや暗い灰色シルト（10Y5/1灰色シルト（地山）14・ $\phi$ 5mm以下の炭混じる）274SI[壁溝]
- 13 5Y4/1よりもやや暗い灰色シルト（12よりも炭多く混じる）
- 14 10Y5/1灰色シルト（5Y6/4オリーブ黄色細粒砂がまだらに混じる 竪穴住居検出面地山）[14~16 400NR以前の流路堆積か]
- 15 5Y5/1灰色シルト（5Y6/1灰色シルトがラミナ状に入る）
- 16 5Y5/1よりもやや暗い灰色シルトと、5Y7/2灰白色極細粒砂の互層（ラミナ明瞭）

図 2-46 個別遺構図\_18\_285SK (S=1:50)

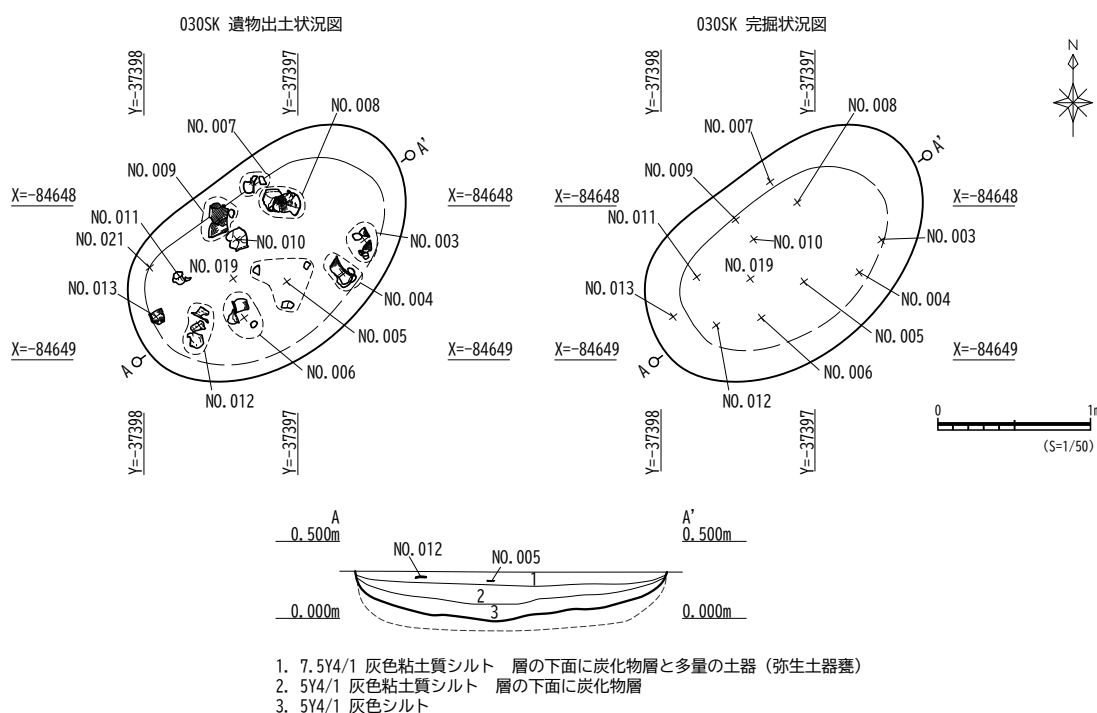


図 2-47 個別遺構図\_19\_030SK (S=1:50)

示すのに対し、054SD は 400NR の左岸のすぐ北側に並行する位置にあり、400NR や 200SD との関わりも推定される。

#### 070SD (図 2-14)

070SD は 19 区東半部中央付近に位置する溝状の遺構である。長軸は 13.49m、短軸 1.78m、深さ 0.21m を測る。030SK や 054SD と同様、400NR 左岸北側の居住域対岸に位置する。054SD とは異なり、直線的な形状を示す。西側の延長線上には 068・095SD が位置し本来は同一の遺構であった可能性もある。

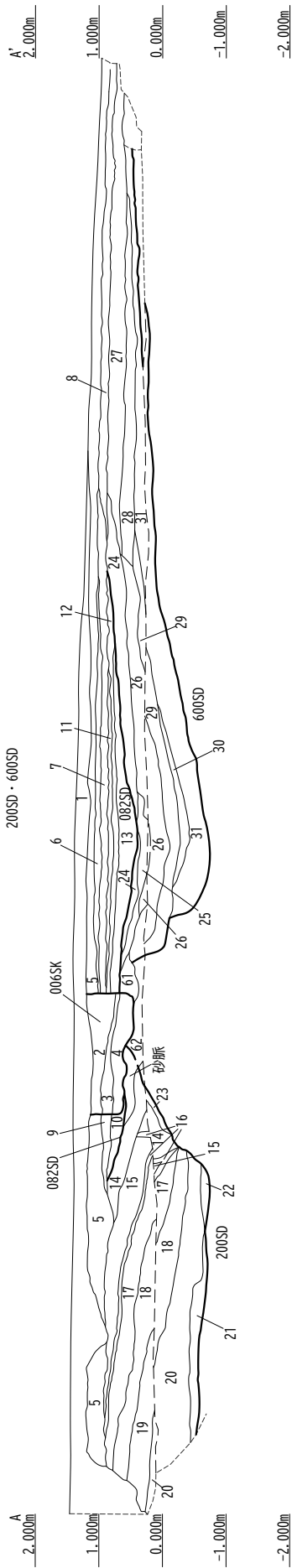
#### 094SK (図 2-13)

094SK は長軸 2.34m、短軸 1.27m、深さ 0.20m を測る土坑である。上層から掘り込まれた 093SX に削平を受け、底面のみ残る。前述の 030SK 等と同様に 400NR 左岸北側、居住域の対岸に位置する。埋土に炭化物を多量に含み、030SK と同様に土器焼成土坑の可能性もある。

#### 200・600SD (図 2-12・48・49)

200SD・600SD は 19 区内西端部で検出された。18 区内では 200SD のみ検出され、600SD は未検出である。200SD は長軸（流路方向）9.4m、短軸（幅）7.68m、深さ 1.68m を測る。19 区内では左岸肩部が検出され、右岸肩部は 09 区や 21 区内で検出されている。18 区同様、200SD 底面付近では多量の腐植土が検出されている。

600SD は長軸（流路方向）20.80m、短軸（幅）7.68m、深さ 1.68m を測る。19 区内の 600SD 南半は、右岸肩部がわずかに 200SD に切られているが、北半部では中洲状の地形で 200SD 間隔が空いている。北



- A-A'
1. 表土
  2. 5Y3/2 オリリーブ黒色粘土質シルト 2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土 5Y4/3 暗オリリーブ色シルト質粘土の斑土
  3. 5Y4/3 暗オリリーブ色シルト質粘土と5Y3/2 オリリーブ黒色粘土質シルトと2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土の斑土
  4. 2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土と5Y3/2 オリリーブ黒色粘土質シルトと5Y5/2 オリリーブ色粘土の斑土
  5. 5Y3/2 オリリーブ黒色粘土質シルト 5Y3/2 オリリーブ黒色粘土質シルトのブロック含む
  6. 5Y3/2 オリリーブ黒色粘土質シルト
  7. 5Y4/2 灰オリリーブ褐色シルト質粘土
  8. 2.5Y4/3 オリリーブ褐色シルト質粘土
  9. 5Y4/3 暗オリリーブ色シルト質粘土
  10. 2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土 5Y5/2 灰オリリーブ色粘土がラミナ状に混入 炭化物多く含む (082SD)
  11. 5Y5/2 灰オリリーブ色粘土
  12. 2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土 (082SD)
  13. 2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土 5Y5/2 灰 オリリーブ色粘土がラミナ状に混入 炭化物多く含む (082SD)
  14. 2.5Y5/3 黄褐色シルト質粘土 (200SD)
  15. 5Y4/2 灰オリリーブ褐色シルト (200SD)
  16. 5Y4/1 灰色粘土質シルト (200SD)
  17. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (200SD)
  18. 5Y4/2 灰オリリーブ色シルトと5Y7/2 灰白色極細粒砂の互層 (200SD)
  19. 5Y7/2 灰白色極細粒砂と5Y4/2 灰オリリーブ色シルトの互層 (200SD)
  20. 5Y7/2 灰白色細粒砂 5Y4/2 灰オリリーブ色シルトをラミナ状に含む (200SD)
  21. 5Y7/2 灰白色細粒砂 5Y4/2 灰オリリーブ色シルトをラミナ状に含む (200SD)
  22. 7.5YR3/2 灰白色中粒砂 7.5YR3/2 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) 含む (200SD)
  23. 7.5YR3/2 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) (200SD)
  24. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト 5Y7/2 灰白色中粒砂と2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土ブロック含む (600SD)
  25. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト 5Y7/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土ブロック少量含む (600SD)
  26. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 (600SD)
  27. 5Y5/3 灰オリリーブ色シルト質粘土 2.5Y3/2 暗オリリーブ褐色シルト質粘土ブロック少量含む (600SD)
  28. 5Y5/2 灰オリリーブ色シルト 5Y5/2 灰オリリーブ褐色シルト質粘土をラミナ状に含む (600SD)
  29. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト 層上部は2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂をラミナ状に含む (600SD)
  30. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂の互層 (600SD)
  31. 層南側は2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂 北側 (上部) は2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルトと2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂の互層 (600SD)
  62. 5Y6/2 灰オリリーブ中粒砂

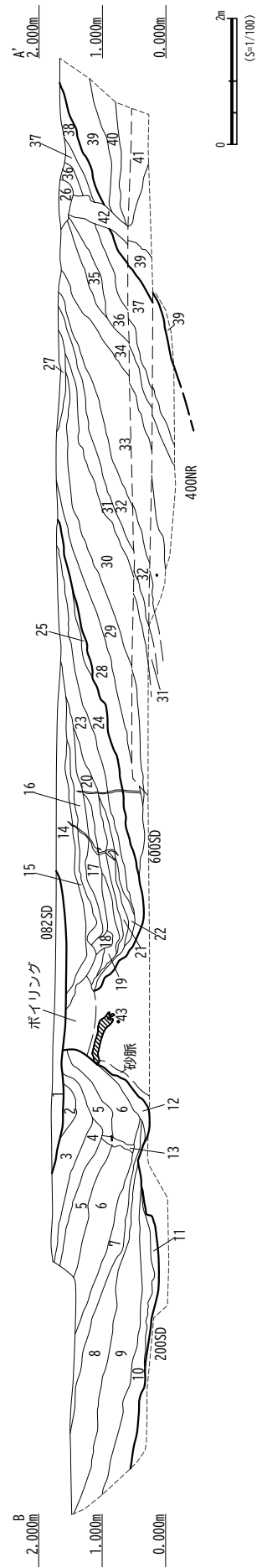


図 2-48 個別遺構図\_19\_200SD・600SD 土層断面図-1 (S=1:100)

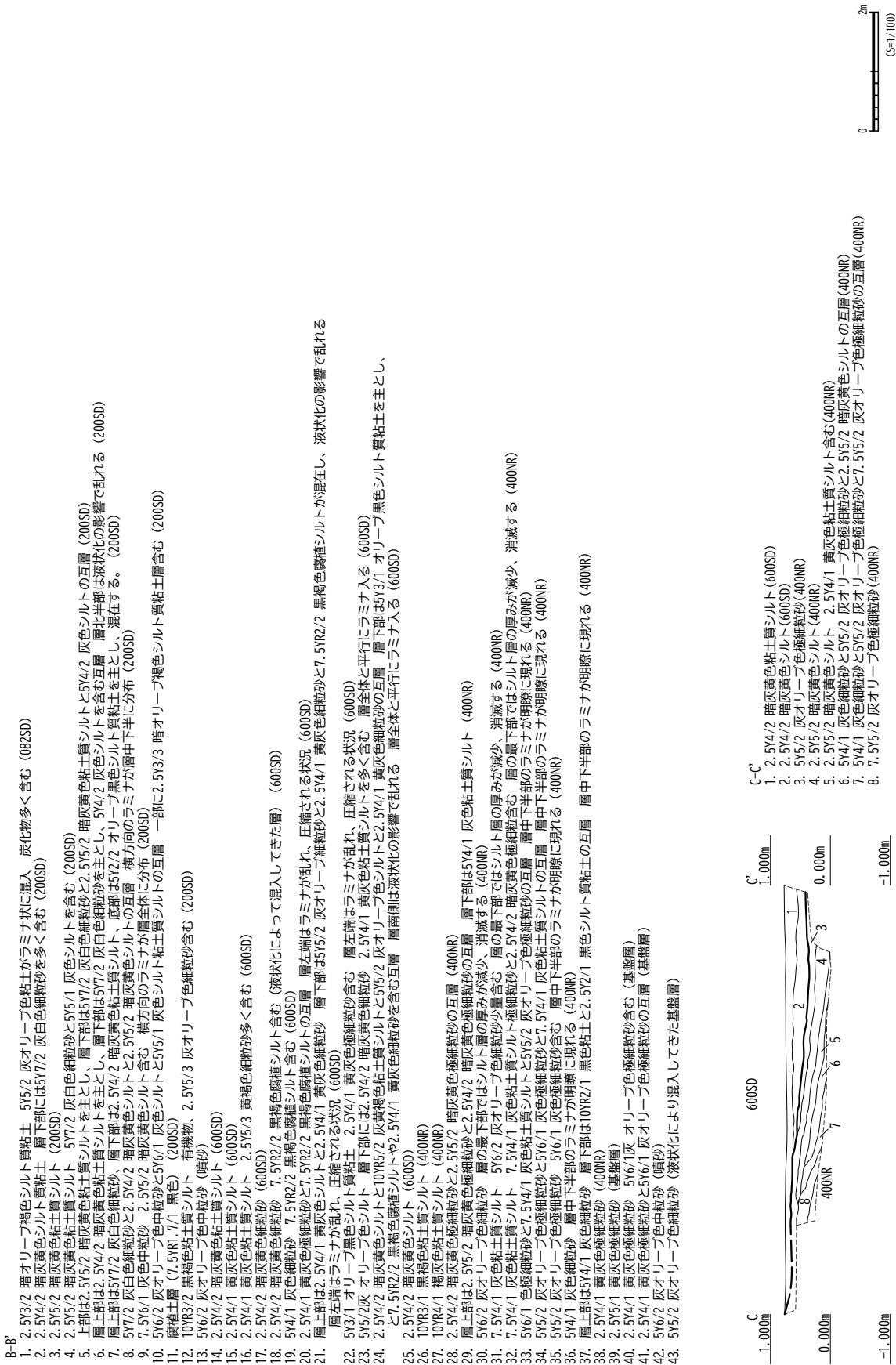


図 2-49 個別遺構図\_19\_200SD・600SD 土層断面図-2 (S=1:100)

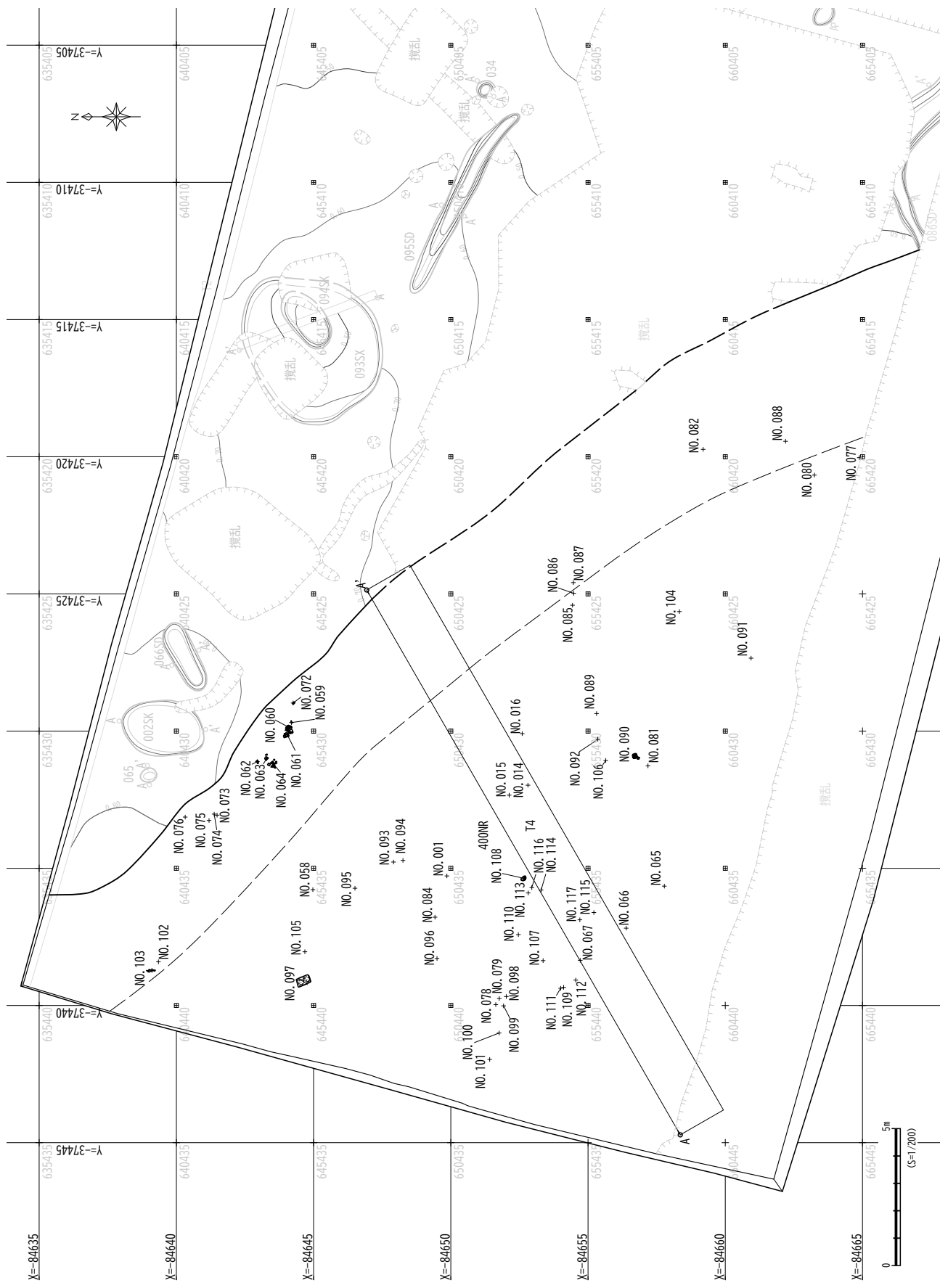
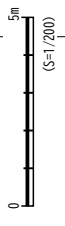


圖 2-50 個別遺構圖\_19\_400NR 西半檢出部 (S=1:200)



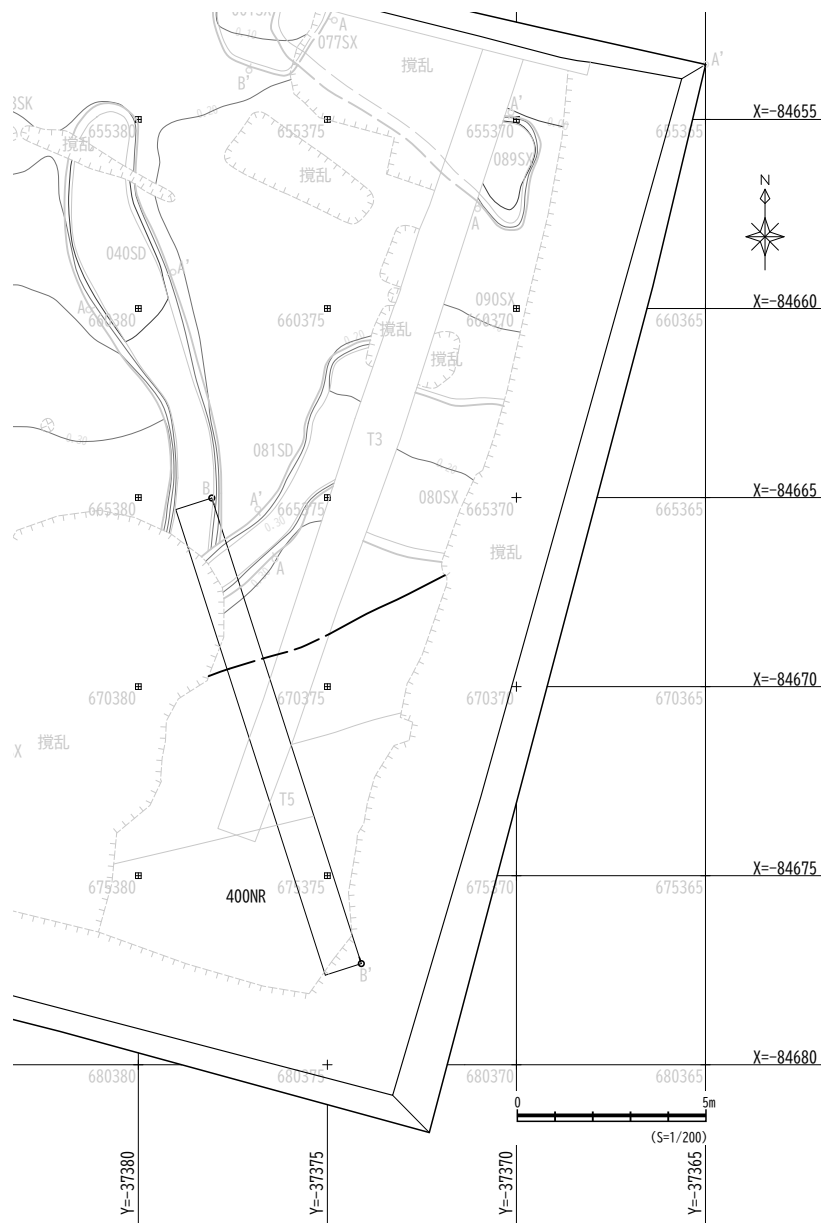
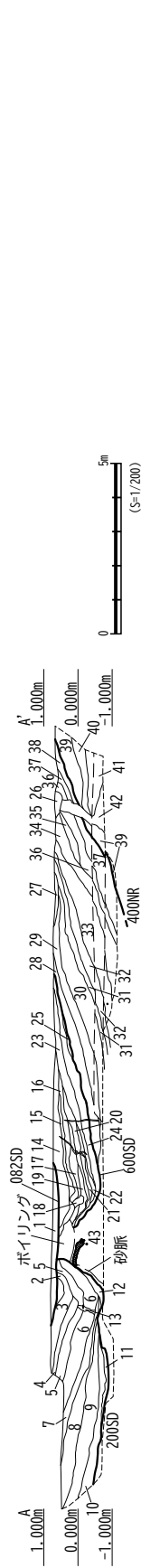


図 2-51 個別遺構図\_19\_400NR 東半検出部 (S=1:200)

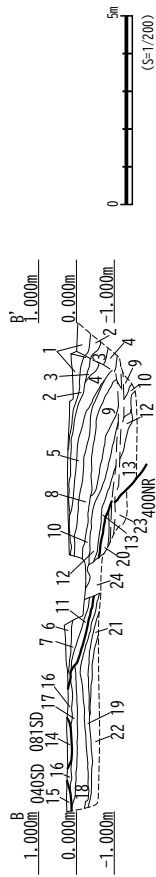
端付近では、18区 200SD 同様東に伸びる形で幅 1.6m 程度のスロープ状の構造が見られる。ただし 18区 200SD のスロープ上構造は居住域に近接していたが、この 600SD のスロープ状遺構は居住域の対岸部分への昇降口となりうるもので、居住域対岸部分の土地利用も積極的に行われていたことが推定される。

#### 400NR (図 2-23・24・50～52)

400NR は 19区内西半部と南東隅部で検出された。西半部では左岸肩部を検出し、長軸(流路方向)41.28m、短軸(幅)23.84m、深さ 2.6m を測る。南東隅部でも左岸肩部を検出し、長軸(流路方向)8.6m、短軸(幅)8.4m、深さ 1.14m 以上である。これらに対応する 400NR 右岸は 09区、21区で検出されている。



1. 2.5/3/2 暗オリーブ褐色粘土質粘土 5/5/2 灰オリーブ粘土がラミナ状に混入 炭化物多く含む (082SD)
2. 2.5/4/2 暗灰黄色シルト質粘土 層下部には5/7/2 灰白色細粒砂を多く含む (200SD)
3. 2.5/5/2 暗灰黄色粘土質シルト (200SD)
4. 2.5/5/2 暗灰黄色粘土質シルト 5/7/2 灰白色細粒砂と5/5/1 灰白色シルトを含む (200SD)
5. 上部は2.5/5/2 暗灰黄色粘土質シルトを主とし、層下部は5/7/2 灰白色細粒砂と2.5/5/2 暗灰黄色粘土質シルトと5/4/2 灰白色シルトの互層 (200SD)
6. 層上部は2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルトを主とし、層下部は5/7/2 灰白色細粒砂を主とし、5/4/2 灰白色シルトを含む互層  
層北半部は液状化の影響で乱れる (200SD)
8. 5/7/2 灰白色細粒砂と2.5/4/2 暗灰黄色シルトと2.5/5/2 暗灰黄色シルトの互層  
構方向のラミナが層中下部に分布 (200SD)
7. 5/6/1 灰白色中粒砂、層下部は2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト、  
隣接層 (7.5/7/1 7/1 黒色) (200SD)
9. 7.5/6/1 灰白色中粒砂 2.5/5/2 暗灰黄色シルトを主とし、混在する。 (200SD)
11. 隣接層 (7.5/7/1 7/1 黒色) (200SD)
10. 5/6/2 灰オリーブ色中粒砂と5/6/1 灰白色シルトと5/5/1 灰白色シルトと粘土質シルトの互層  
一部に2.5/3/3 暗オリーブ褐色シルト質粘土層を含む (200SD)
12. 10/7/3 2 黒褐色粘土質シルト 有機物、2.5/5/3 黄褐色細粒砂を含む (200SD)
13. 5/6/2 灰オリーブ色中粒砂 (噴砂)
14. 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト (600SD)
15. 2.5/4/1 黄灰色粘土質シルト (600SD)
16. 2.5/4/1 黄灰色粘土質シルト
17. 2.5/4/2 暗灰黄色細粒砂 (600SD)
18. 2.5/4/2 暗灰黄色細粒砂 7.5/7/2 黒褐色腐植シルトを含む (液状化によって混入してきた層) (600SD)
19. 5/4/1 灰白色シルト 黒褐色腐植シルトを含む (600SD)
20. 2.5/4/1 黄灰色極細粒砂と7.5/7/2 黒褐色腐植シルトの互層 層左端はラミナが乱れ、圧縮される状況 (600SD)
22. 5/3/1 オリーブ黒色シルト質粘土 2.5/4/1 黄灰色極細粒砂
21. 層上部は2.5/4/1 黄灰色シルトと2.5/4/1 黄灰色細粒砂  
層下部は5/5/2 灰オリーブ細粒砂と2.5/4/1 黄灰色細粒砂と7.5/7/2 黒褐色腐植シルトが混在し、  
液状化の影響で乱れる 層左端はラミナが乱れ、圧縮される状況 (600SD)
23. 5/5/2 灰 オリーブ色シルト 層下部には2.5/4/2 暗灰黄色細粒砂  
2.5/4/1 黄灰色粘土質シルトを多く含む 層全体と平行にラミナ入る (600SD)
25. 2.5/4/2 暗灰黄色シルト (600SD)
26. 10/7/3 1 黒褐色粘土質シルト (400NR)
24. 2.5/4/2 暗灰黄色シルトと10/7/3 2 黄褐色粘土質シルトと5/5/2 灰オリーブ色シルトと2.5/4/1 黄灰色細粒砂の互層  
層下部は5/3/1 オリーブ黒色シルトと10/7/3 2 黒褐色腐植シルトと2.5/4/1 黄灰色腐植シルトや2.5/4/1 黄灰色細粒砂を含む互層  
層南側は液状化の影響で乱れる 層全体と平行にラミナ入る (600SD)
27. 10/7/4 1 褐灰色粘土質シルト (400NR)
28. 2.5/4/2 暗灰黄色極細粒砂と2.5/5/2 暗灰黄色極細粒砂の互層 (400NR)
29. 層上部は2.5/5/2 暗灰黄色極細粒砂と2.5/4/2 暗灰黄色極細粒砂の互層 層下部は5/4/1 灰白色シルトと5/4/1 灰白色粘土質シルト (400NR)
30. 5/6/2 灰オリーブ色細粒砂 層の最下部ではシルト層の厚みが減少、消滅する (400NR)
31. 7.5/4/1 灰白色粘土質シルト 5/6/2 灰オリーブ色細粒砂を含む  
層の最下部ではシルト層の厚みが減少、消滅する (400NR)
32. 7.5/4/1 灰白色粘土質シルト 7.5/4/1 灰白色粘土質シルト極細粒砂と2.5/4/2 暗灰黄色極細粒砂を含む  
層の最下部ではシルト層の厚みが減少、消滅する (400NR)
33. 5/6/1 色極細粒砂と7.5/4/1 灰白色粘土質シルトと5/5/2 灰オリーブ色極細粒砂の互層  
層中下部のラミナが明瞭に現れる (400NR)
35. 5/5/2 灰オリーブ色極細粒砂 5/6/1 灰白色細粒砂を含む 層中下部のラミナが明瞭に現れる (400NR)
34. 5/5/2 灰オリーブ色極細粒砂 5/6/1 灰白色細粒砂と7.5/4/1 灰白色粘土質シルトの互層  
層中下部のラミナが明瞭に現れる (400NR)
36. 5/4/1 灰白色シルト (400NR)
38. 2.5/4/1 黄灰色極細粒砂 (400NR)
37. 層上部は5/4/1 灰白色シルト 層下部は10/7/2 1 黒色粘土と2.5/2/1 黒色シルト質粘土の互層  
層中下部のラミナが明瞭に現れる (400NR)
39. 2.5/5/1 黄灰色極細粒砂 (基盤層)
40. 2.5/4/1 黄灰色極細粒砂 5/6/1 灰 オリーブ色極細粒砂を含む (基盤層)
41. 2.5/4/1 黄灰色極細粒砂と5/6/1 灰オリーブ色極細粒砂の互層 (基盤層)
42. 5/6/2 灰オリーブ色中粒砂 (噴砂)
43. 5/5/2 灰オリーブ色細粒砂 (液状化により混入してきた基盤層)



1. 5/6/2 灰オリーブ色極細粒砂 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト 2.5/4/1 黄灰色シルトを含む (400NR)
2. 2.5/4/1 黄灰色シルト 5/6/2 灰オリーブ色極細粒砂 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルトを含む (400NR)
3. 5/6/2 灰オリーブ色極細粒砂 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト 2.5/4/1 黄灰色シルトを含む (400NR)
4. 2.5/6/2 灰黄色シルト 2.5/6/3 灰黄色シルトを含む (400NR)
5. 2.5/6/2 灰黄色シルト 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルトを含む (400NR)
6. 2.5/5/2 暗灰黄色シルト (400NR)
7. 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト 5/6/3 オリーブ黄色細粒砂を含む (400NR)
8. 2.5/6/2 暗灰黄色シルト 5/6/3 オリーブ黄色細粒砂を含む (400NR)
9. 2.5/4/1 黄灰色シルト 暗灰黄色粘土質シルトを含む (400NR)
10. 2.5/7/1 灰白色細粒砂 2.5/6/2 灰黄色シルト (400NR)
11. 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト 5/6/3 オリーブ黄色細粒砂を含む (400NR)
12. 2.5/5/1 黄灰色粘土質シルト 層下部に2.5/7/1 灰白色細粒砂多く含む (400NR)
13. 2.5/5/1 黄灰色シルト質粘土 2.5/7/1 灰白色細粒砂 2.5/3/1 黒褐色シルト質粘土 (腐植土) 含む (400NR)
14. 2.5/5/2 暗灰黄色シルト 2.5/4/1 黄灰色シルトを含む (081SD)
15. 5/6/2 灰オリーブ色細粒砂 5/5/2 灰オリーブ色極細粒砂と5/4/2 灰オリーブ色シルトを含む (040SD)
16. 2.5/5/2 暗灰黄色シルト 5/6/3 オリーブ黄色細粒砂を含む
17. 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルト 5/6/3 オリーブ黄色細粒砂を含む
18. 2.5/4/2 暗灰黄色粘土質シルトと5/6/3 オリーブ黄色細粒砂の互層
19. 2.5/4/1 黄灰色シルト 5/7/1 灰白色極細粒砂を含む
20. 2.5/5/1 黄灰色極細粒砂
21. 2.5/4/1 黄灰色シルト 5/7/1 灰白色極細粒砂多く含む
22. 2.5/4/1 黄灰色シルト 5/7/1 灰白色極細粒砂を含む
23. 5/7/2 灰白色中粒砂
24. 5/7/1 灰白色細粒砂 (噴砂)

図 2-52 個別遺構図\_19\_400NR 土層断面図 (S=1:200)

### 3. 21 区の遺構

#### 001SK (図 2-3)

001SK は 21 区南西隅で検出された。長軸 4.10m、短軸 2.71m、深さ 0.84m を測る。遺構の年代は層位から近世以降と考えられる。下位に竪穴建物跡 21-066SI が存在し、001SD の掘削に伴い検出された土器は、元来 21-066SI に包含されていたものと考えられる。

#### 007SK (図 2-53)

007SK は 21 区東半部南端近くで検出された。平面が方形の土坑である。長軸 2.49m、短軸 1.16m、深さ 0.30m を測る。過去の調査でも多数検出されている中世の方形土坑と考えられる。007SK の下位には 400NR が存在するため、検出された土器は 007SK の掘削に伴い混入していたと考えられる。

#### 012SK (図 2-53)

012SK は 21 区中央北壁近くに位置する。長軸 1.59m、短軸 1.18m、深さ 0.64m を測る。19 区 030SK と同様に、炭化物が層を形成し土器片が多数包含される。19 区 030SK 等と同様に土器焼成土坑の可能性はある。

#### 013SK (図 2-53)

013SK は 21 区中央付近南西寄りに検出された土坑。長軸 1.08m、短軸 0.85m、深さ 0.14m を測る。中世以降に上層から掘削を受け、底面のみ残存したと考えられる。下位には 400NR が存在するため、出土遺物は 400NR に属すると見られる。

#### 020SK (図 2-53)

020SK は 21 区中央西寄りに位置する。長軸 1.47m、短軸 0.57m、深さ 0.38m を測る。012SK 等と同様に炭化物が層を形成し土器破片も多く検出された。012SK 等と同様に土器焼成土坑の可能性はある。

#### 035SK (図 2-54)

035SK は 21 区北西隅に位置する。遺構肩部の一部が検出されているだけの状況であるが、土坑と判断した。時期は中世以降と考えられ、出土した土器は下位に存在する 400NR に属すると見られる。

#### 058SK (図 2-55)

058SK は 21 区中央北壁近くに位置する。長軸 1.15m、短軸 0.92m、深さ 0.72m を測る。012・020SK と同様に炭化物が多く含まれ、土器焼成土坑の可能性はある。

#### 066SI (図 2-56 ~ 58)

066SI は 21 区南西隅付近で検出された。09 区で南端付近が検出されており、遺構番号は同一の 066SI を用いている。21 区内での検出部分は長軸 9.02m、短軸 5.50m、深さ 0.21m を測る。09 区内での検出部分を含めると長軸約 9.8m となる。

遺構の重複関係は、検出範囲の南東で 1313SI を切っていることから 1313SI に後続する。09 区内ではさらに 2 棟を切っていることから 4 棟が重複する中では最も新しい竪穴建物跡と考えられる。

炭化材が多量に検出される、所謂焼失竪穴建物である。北半部分に垂木と思われる部材の形状がわ

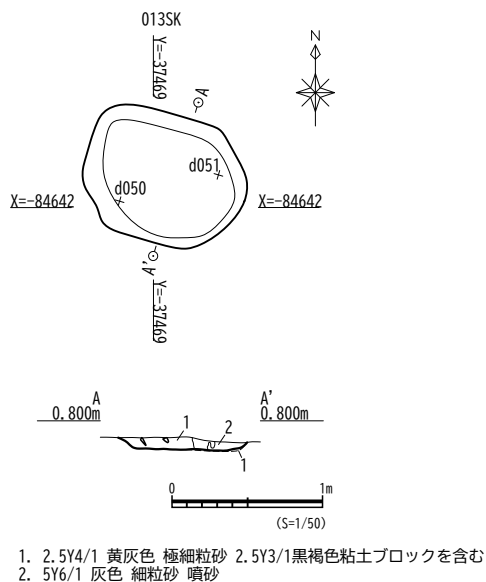
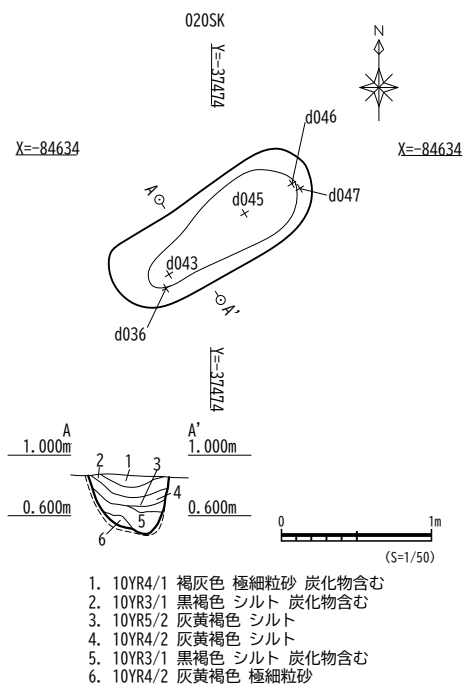
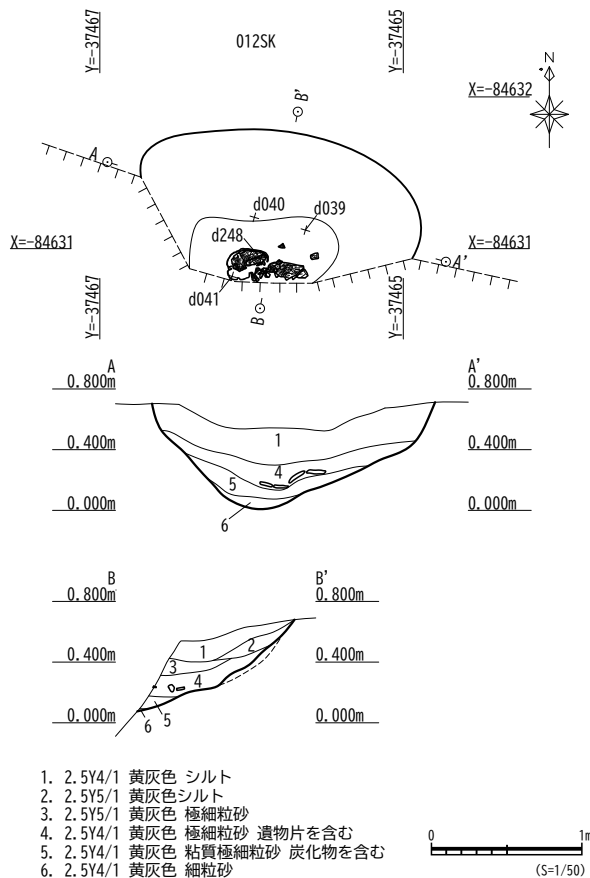
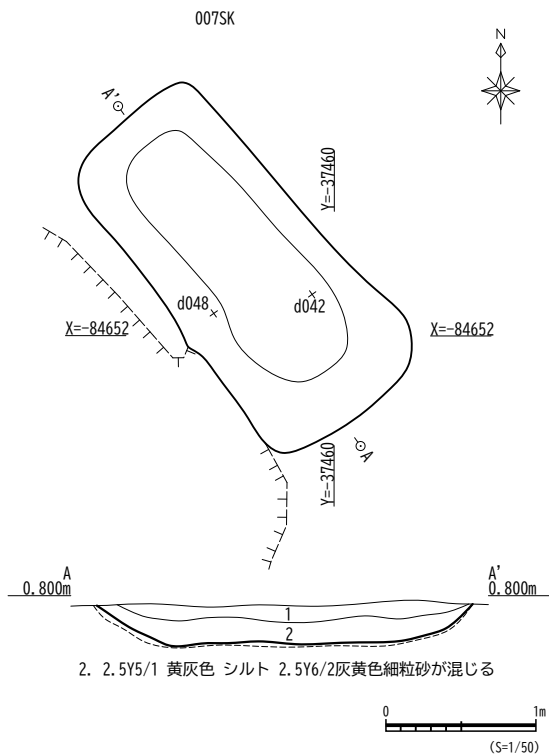


図 2-53 個別遺構図 21\_007SK・012SK・013SK・020SK (S=1/50)

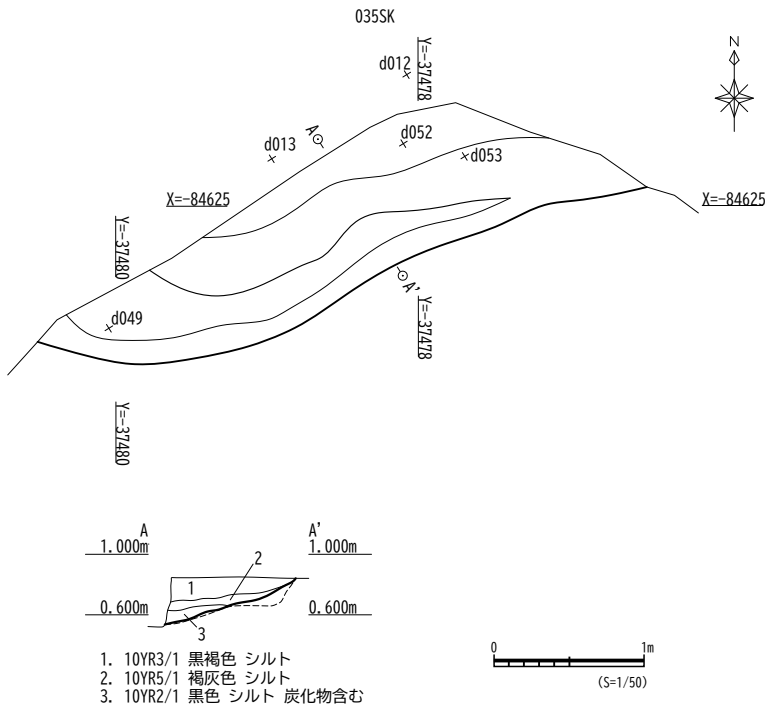


図 2-54 個別遺構図\_21\_035SK (S=1:50)

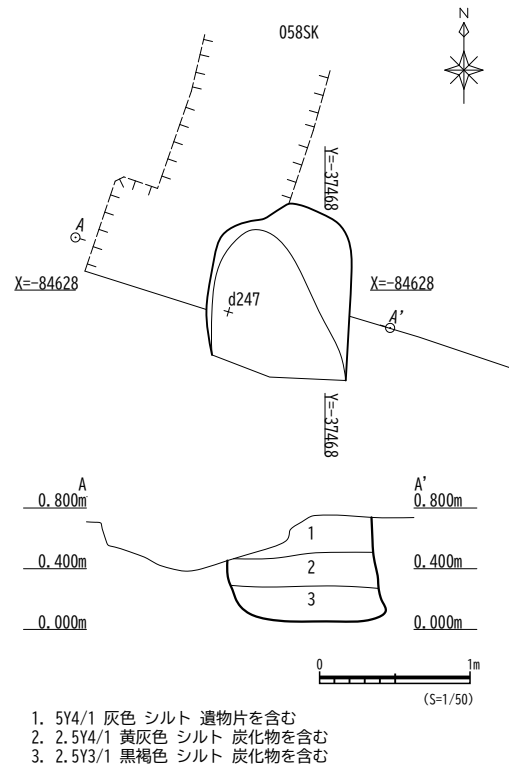


図 2-55 個別遺構図\_21\_058SK (S=1:50)

かる炭化材が集中している。

柱穴は 045・047SK が検出された。これらは 4 本柱の東側に当たると考えられる。南西の柱穴は調査区外に位置すると想定され、北西の柱穴は検出できなかった。

中央やや北寄りに 050SL が検出されている。地焼炉跡と考えられる。

### 1313SI (図 2-11)

1313SI は、21 区南西隅、21-066SI に切られる竪穴建物跡である。21 区内で検出された部分は長軸 3.30m、短軸 0.75m、深さ 0.2m を測る。09 区を含めた推定の長軸は 7.69m を測る。北側 2/3 を 066SI に削平されている状態である。21 区内では北東隅部分が検出されているが、柱穴等は検出範囲に含まれていない。

### 1280SI (図 2-59)

1280SI は 21 区南西隅、21-066SI、1313SI の東側に位置する。長軸 3.11m、短軸 2.95m、深さ 0.19m を測る。主要な部分は 09 区で検出されており、21 区内では北端付近が検出された。21 区内で検出されたのは壁溝のみで、柱穴等は検出されていない。

### 200SD (図 2-12・24)

200SD は 21 区内では長軸(流路方向)29.55m、短軸(幅)9.43m、深さ 1.72m を検出した。19 区内と同様に左岸部分が急な傾斜を持ち、右岸は緩やかな傾斜となっている。左岸部分は 600SD の右岸部分を削平している。東側の連続部分は 19 区内で検出されているが、右岸部分は 21 区内に入ってから検出されている。

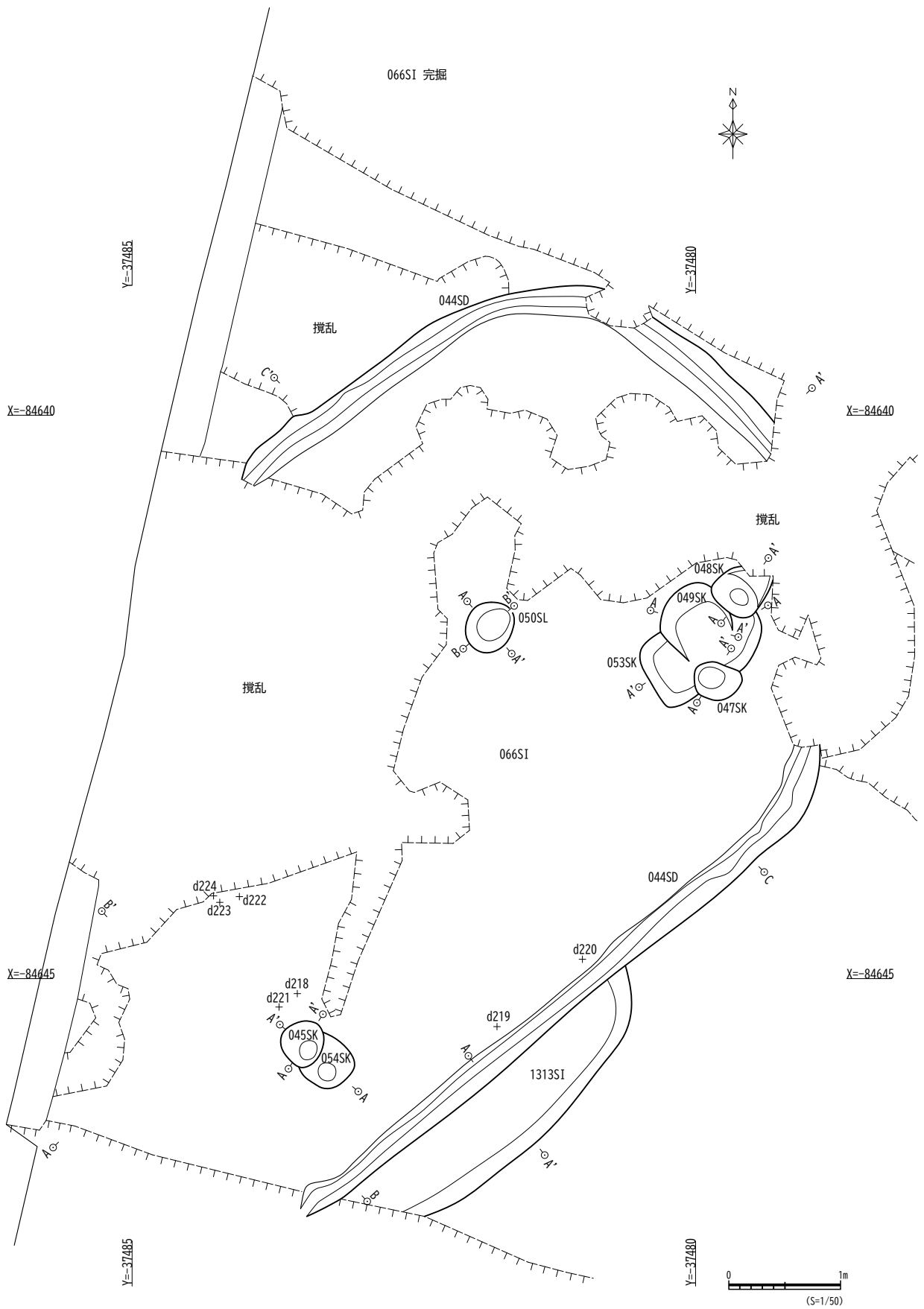
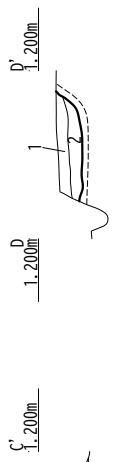
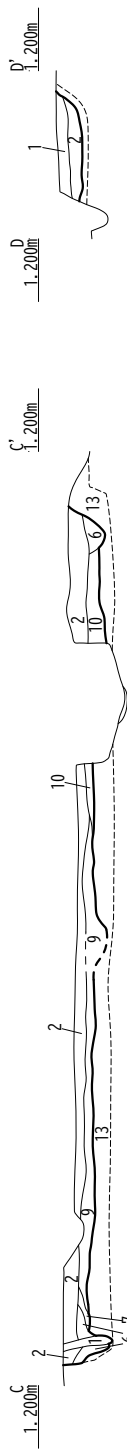
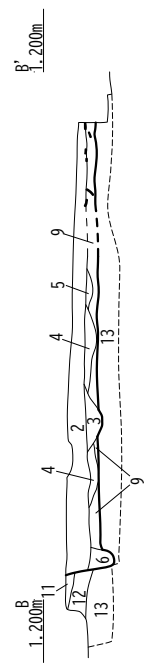
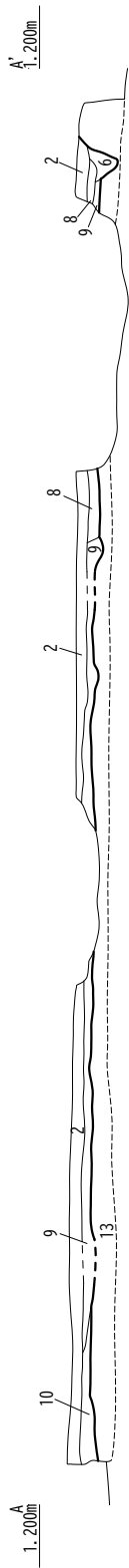


圖 2-56 個別遺構圖\_21\_066SI 完掘 (S=1:50)





131SI  
 1. 2.5Y4/1 黄灰色 シルト  
 2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細粒砂

1. 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
2. 2.5Y4/1 黄灰色 シルト
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 炭化物を含む
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細粒砂 炭化物を含む
6. 2.5Y3/1 黒褐色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
7. 2.5Y3/1 黒褐色 粘質極細粒砂
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
9. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘質極細粒砂 炭化物を含む
10. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘質極細粒砂
11. 2.5Y4/1 黄灰色 シルト (131SI)
12. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細粒砂 (131SI)
13. 10YR4/1 褐色 極細粒砂 (地山)

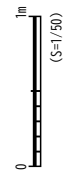


図 2-58 個別遺構図\_21\_066SI 土層断面図 (S=1:50)

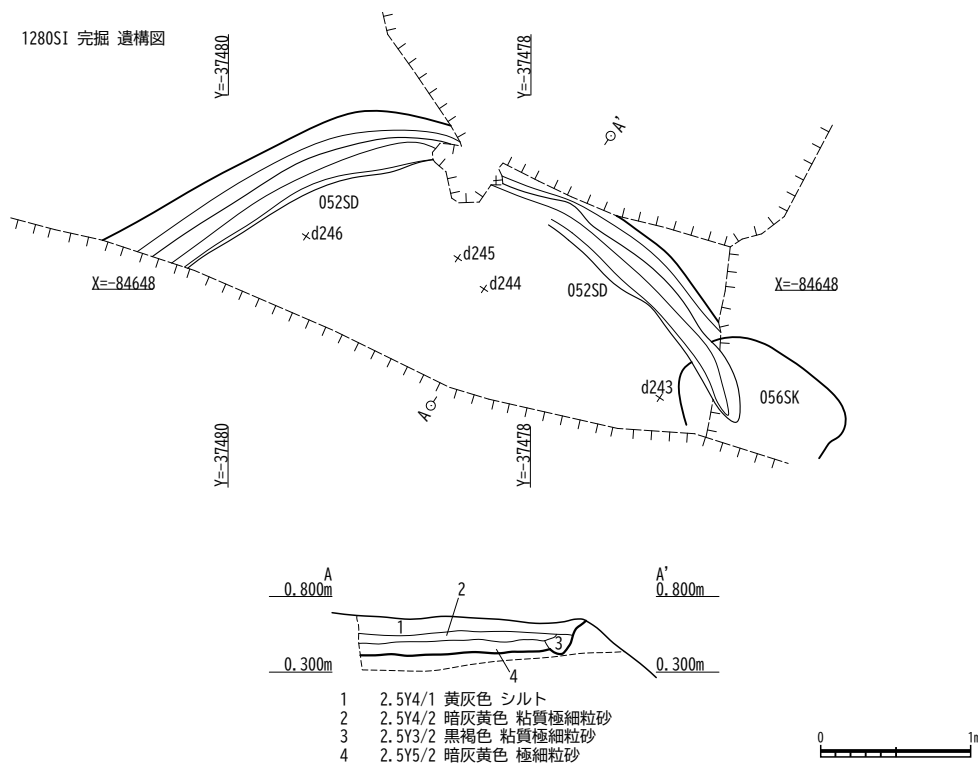


図 2-59 個別遺構図\_21\_1280SI (S=1:50)

#### 600SD (図 2-12・25)

600SD は 21 区内では長軸（流路方向）19.52m、推定短軸（幅）9.05m、深さ 0.67m を検出した。右岸部分は 200SD に削平を受け、左岸部分は 21 区北側に所在すると想定される。検出された下端は南よりで 200SD に並行する状況であるため、断面形状は 200SD の反対で右岸側肩部が傾斜が強く切り立った状況で、左岸肩部分はやや緩やかな傾斜となっている。

#### 400NR (図 2-25・60)

400NR は 21 区内では長軸（流路方向）44.43m、短軸（幅）約 25m、深さ 2.39m が検出されている。21 区内では右岸部分が検出され、左岸部分は 21 区の北側外部に想定されている。19 区で検出された左岸部分を参考とした推定幅は 34m 程度である。堆積状況はシルト層と砂層が互層となっており、断面観察を行った随所に噴砂の痕が見られる。底面以下では粒径の大きな粗砂の堆積が見られる。現状ではこの粗砂は 400NR 外と考えられる。

### 4. 23 区の遺構

#### 002SD (図 2-61)

002SD は 23 区北端沿いで検出された。18 区で検出された方形周溝墓 010SZ の周溝である。010SZ の墳丘部分は 18 区内に収まり、周溝 002SD の南岸部分、長軸 10.62m、短軸 1.42m、深さ 1.12m を測る。

#### 009SK (図 2-62)

009SK は 23 区北半部西寄りで検出された。長軸 1.72m、短軸 1.43m、深さ 0.32m を測る。21 区 020SK

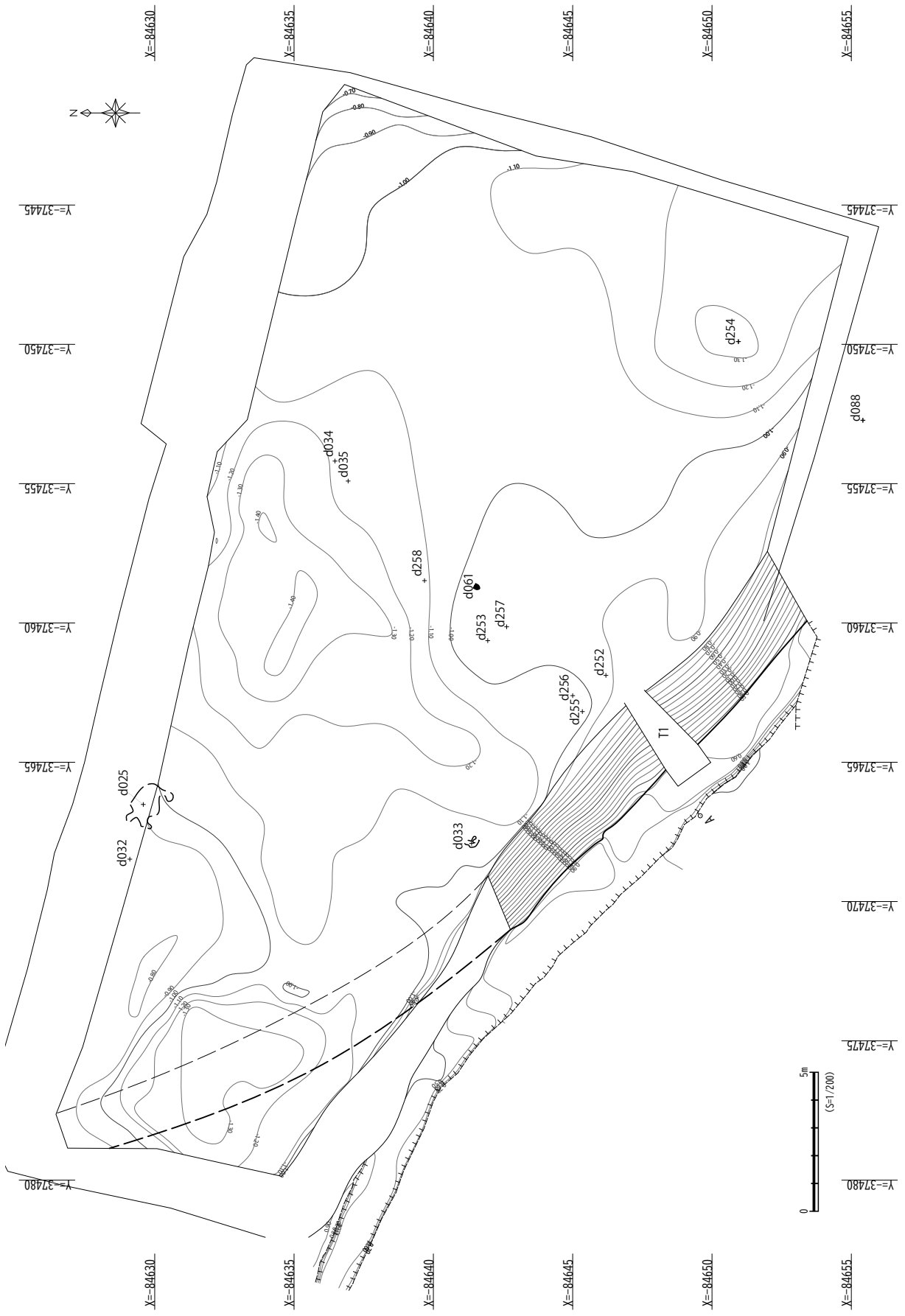


圖 2-60 個別遺構圖\_21\_400NR (S=1:200)

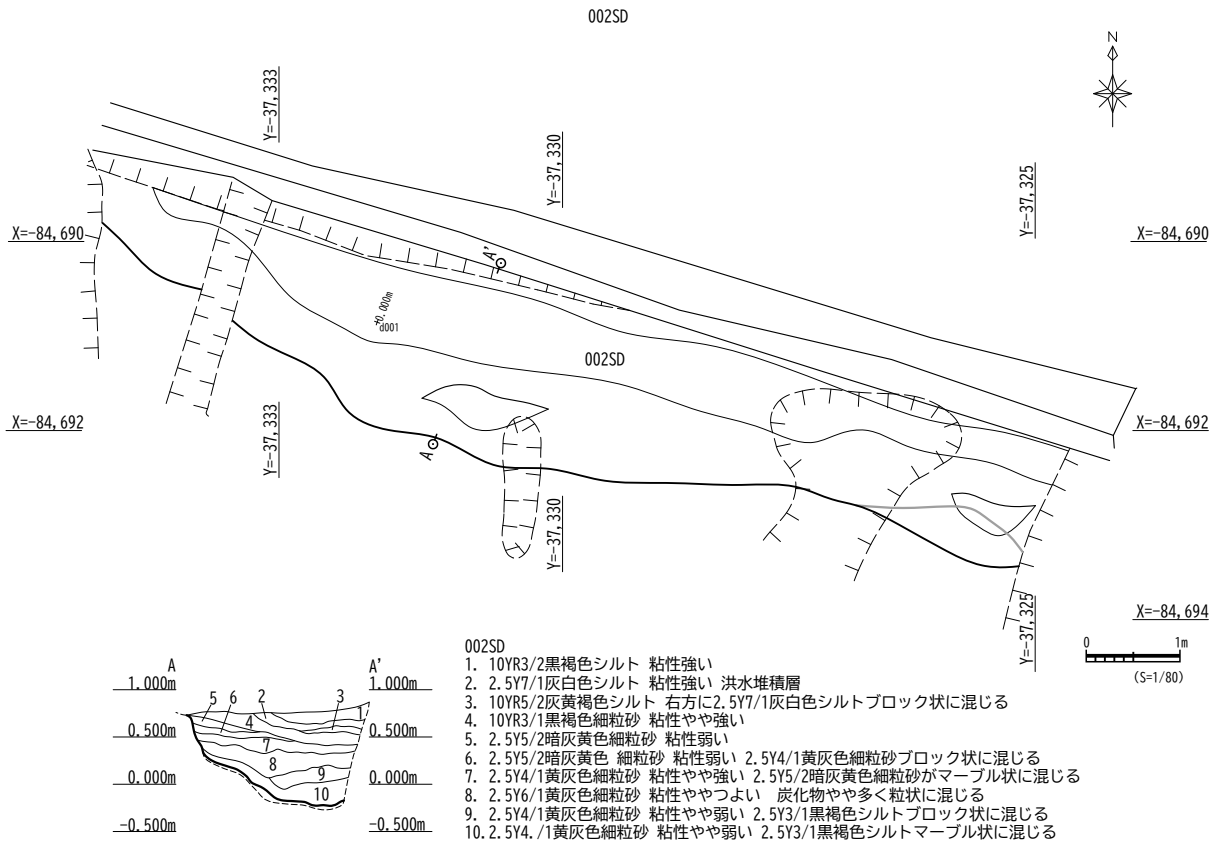


図 2-61 個別遺構図\_23\_002SD (S=1:80)

等と同様に炭化物が層を形成し、土器破片も多く検出される。土器焼成土坑の可能性がある。

#### 016SK (図 2-63)

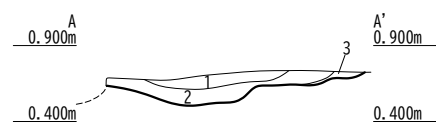
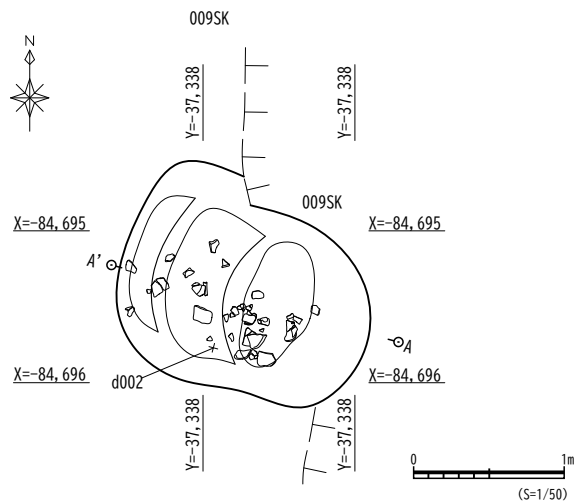
016SK は 23 区西寄り、217SI の東側で検出された。長軸 1.32m、短軸 0.85m、深さ 0.16m を測る。009SK 等と同様に炭化物が層を形成し、土器破片が多く検出される。土器焼成土坑の可能性がある。

#### 030SD (図 2-65)

030SD は 23 区の東側、93 区で既出の方形周溝墓 014SZ の周溝である。93 区で検出されている部分を含めると墳丘の規模は一辺約 10m である。030SD は 014SZ の西辺部分と東辺の一部が検出された。深さは最も深いところで 0.65m を測る。土器等も多く検出されているが、下層の竪穴建物跡である 005・044・066SI 等を削っており、これらの遺物が含まれている可能性が高い。

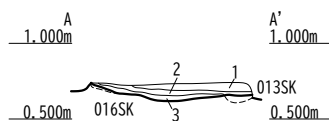
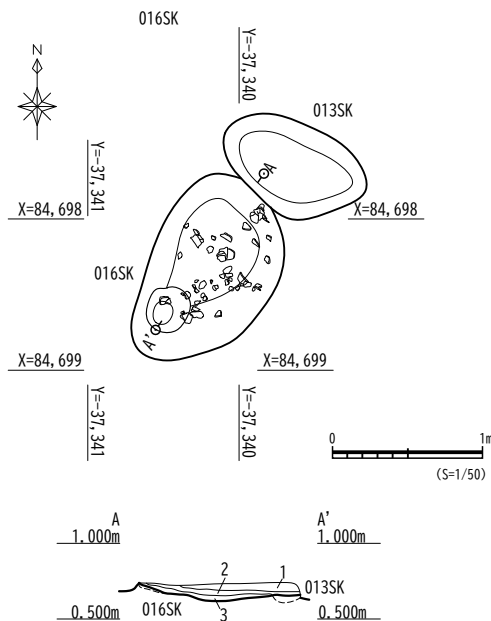
#### 040SD (図 2-64)

040SD は 23 区南端近くで検出された方形周溝墓の周溝である。同じ周溝は 03 区の SZ04、09 区の 348SZ の周溝として検出されている。23 区では周溝の長さ 1.78m、幅 1.46m のみが検出されている。040SD の西側は 09 区 348SZ(03 区 SZ04) の墳丘部分に当たるが、後世の削平を受けた部分が多く墳丘に伴う遺物や堆積は確認できていない。



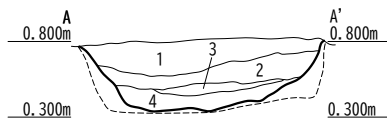
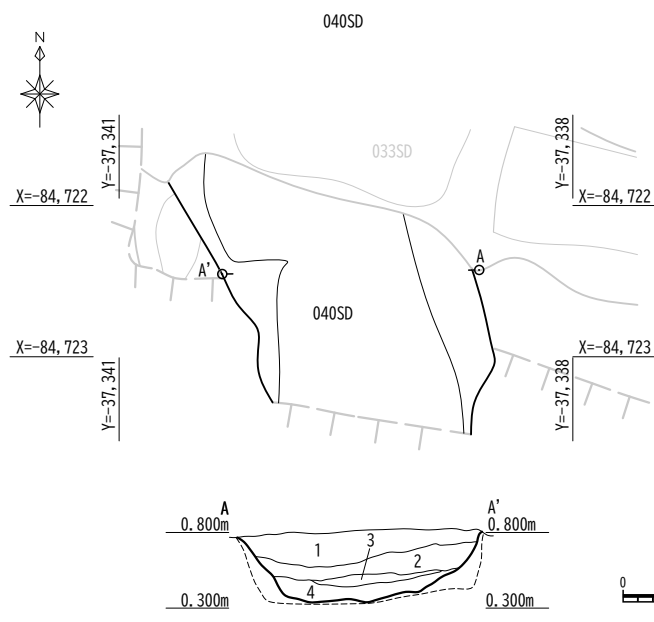
- 009SK
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強い 10YR4/1褐灰色シルトブロック状に混じる
  2. 10YR4/1褐灰色シルト 粘性やや強い 炭化物多い 10YR5/2灰黄褐色シルト 土器片多く含む 炭化物は少ない
  3. 10YR5/2灰褐色シルト 土器片・炭化物多く含む

図 2-62 個別遺構図\_23\_009SK (S=1:50)



- 016SK
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い。炭化物多く混じる
  2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い。炭化物非常に多い
  3. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 粘性弱い。炭化物多く混じる。

図 2-63 個別遺構図\_23\_016SK (S=1:50)



- 040SD
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い
  2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる
  3. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 粘性やや強い
  4. 10YR4/1 褐灰色中粒砂 粘性やや強い。炭化物少量混じる。

図 2-64 個別遺構図\_23\_040SD (S=1:50)

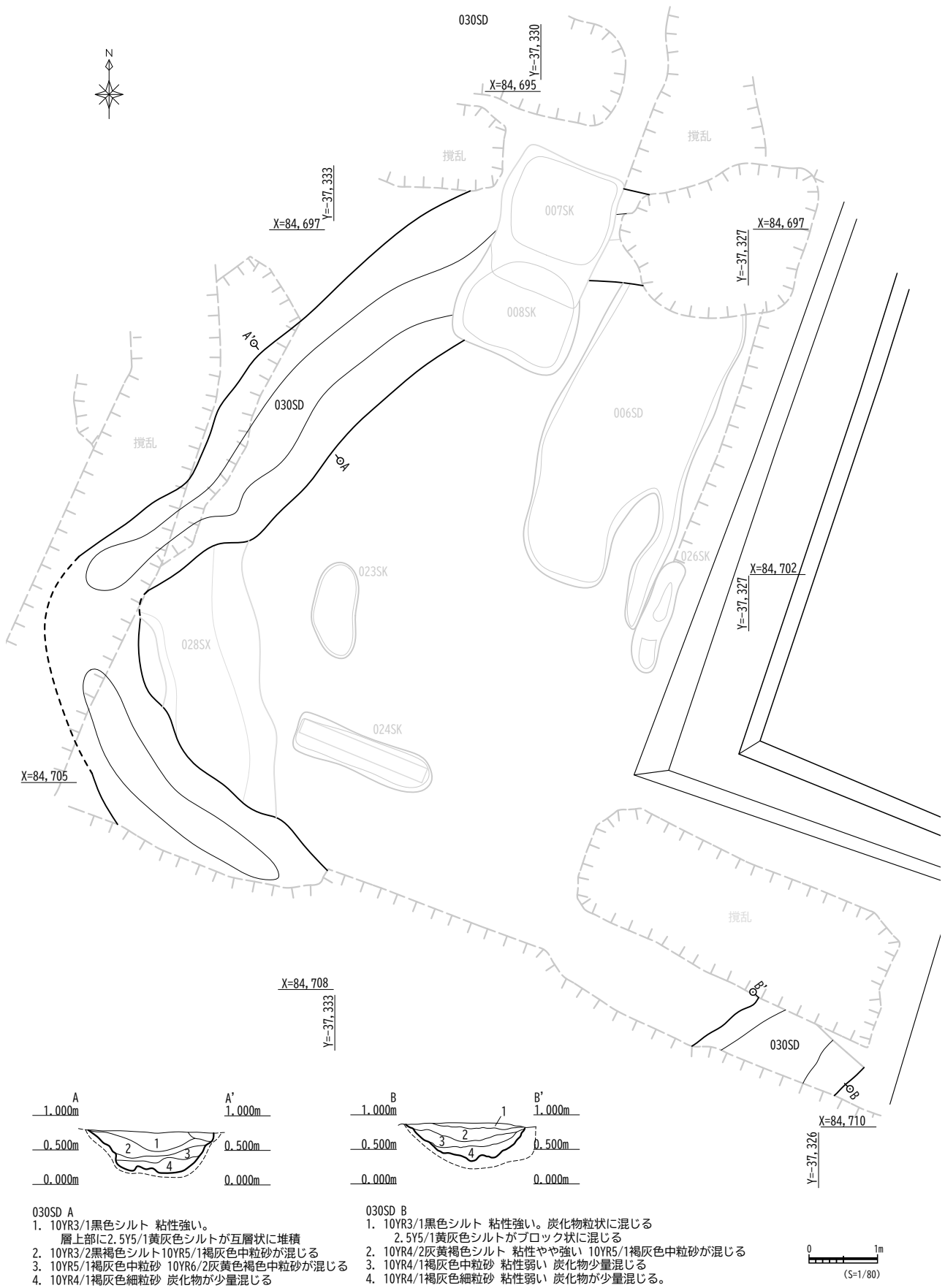


図 2-65 個別遺構図\_23\_030SD (S=1:80)

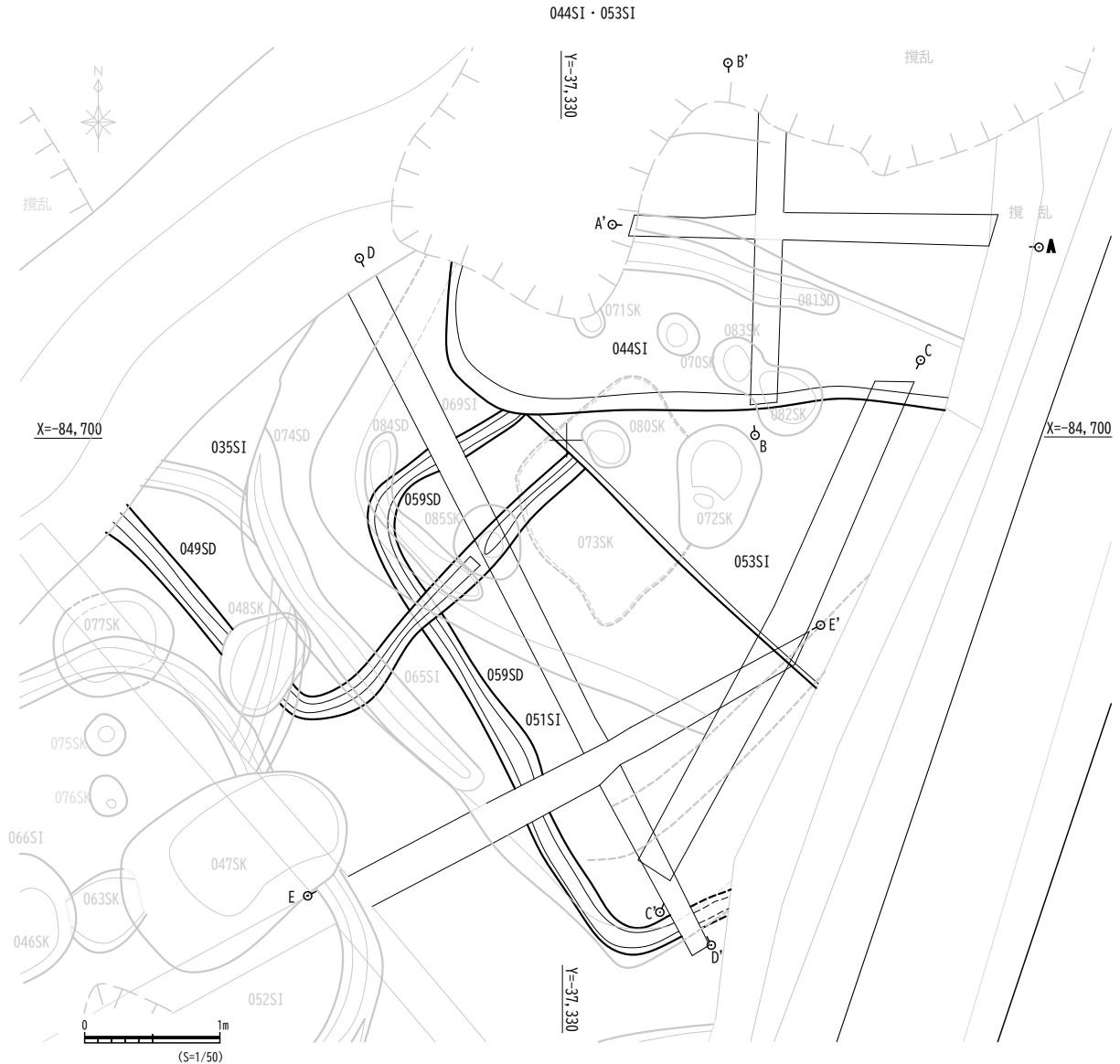


図 2-66 個別遺構図 23\_035SI・044SI・051SI・053SI (S=1:50)

#### 044SI (図 2-66・67)

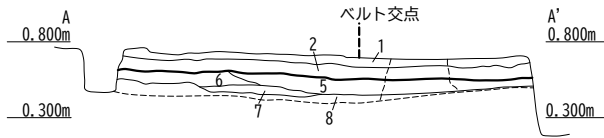
044SI は 23 区北半部に位置し、長軸 3.68m、短軸 2.23m、深さ 0.32m 分が検出された。直接切り合い関係にある 035・051・053SI の中では最も新しく、整地土層を挟んで下層には 069SI も存在する。030SD や攪乱によって北側を削平され、005・056SI との切り合いは不明。壁溝や床面が不明瞭で、出土遺物には下層の 069SI の遺物を含んでいる可能性がある。

#### 053SI (図 2-66・67)

053SI は 044SI 等と重複する 4 棟の 1 棟である。長軸 2.29m、短軸 2.90m、深さ 0.13m 分が検出された。切り合い関係は 044SI に先行し、051・035SI に後続する。壁溝や柱穴は検出できていない。

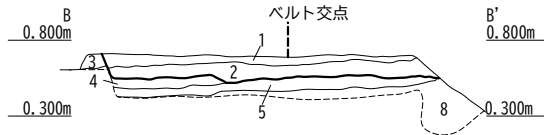
#### 035SI (図 2-66・68)

035SI は 044SI 等の 4 棟重複する竪穴建物跡の 1 棟である。壁溝の 049SD のみが検出され、長軸 3.52m、



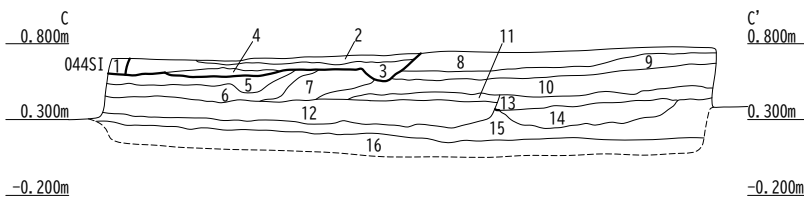
044SI 北面

1. 10YR5/2 にぶい黄褐色シルト 粘性弱い。層中下面に炭化物多量に混じる(044SI)
2. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱い。炭化物がブロック状に混じる(044SI)
5. 2.5Y5/1 黄灰色シルト 粘性強い。炭化物・焼土非常に多く混じる(065SI)
6. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト 中粒砂多く混じる 炭化物多く混じる(069SI)
7. 2.5Y7/2 灰黄色細粒砂 粘性弱い(噴砂か)
8. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性強い(地山)



044SI 東面

1. 10YR5/2 にぶい黄褐色シルト 粘性弱い。層中下面に炭化物多量に混じる(044SI)
2. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱い。炭化物がブロック状に混じる(044SI)
3. 2.5Y5/2 暗黄褐色シルト 粘性やや弱い。炭化物少量混じる(053SI)
4. 2.5Y4/2 暗黄褐色シルト 粘性やや弱い。炭化物粒状に混じる(065SI)
5. 2.5Y5/1 黄灰色シルト 粘性強い。炭化物・焼土非常に多く混じる(065SI)
8. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性強い(地山)



053SI

1. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱い。炭化物がブロック状に混じる(044SI)
2. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(053SI)
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト 下面に炭化物多く混じる(053SI)
4. 10YR6/1褐灰色シルト 砂が多く炭化物は少ない(053SI)
5. 10YR6/2灰黄褐色シルト 炭化物少ない(竪穴か)
6. 10YR5/2灰黄褐色シルト 炭化物多く混じる(整地か遺構)
7. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 炭化物少量混じる(整地か)
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物大きめブロック状に混じる(051SI)
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強い 下面に炭化物多く混じる(051SI)
10. 10YR6/4にぶい黄褐色シルト 下面にラミナ 整地か自然堆積?
11. 10YR5/1褐灰色シルト 粘性強い (069SI)
12. 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘性強い (069SI)
13. 10YR6/1褐灰色シルト 粘性強い (065SI)
14. 10YR6/2灰黄褐色シルト (074SD)
15. 10YR6/4にぶい黄褐色細粒砂~中粒砂(地山)
16. 10YR6/1褐灰色細粒砂 植物質は多いが遺物等は全く検出できず(地山)

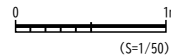
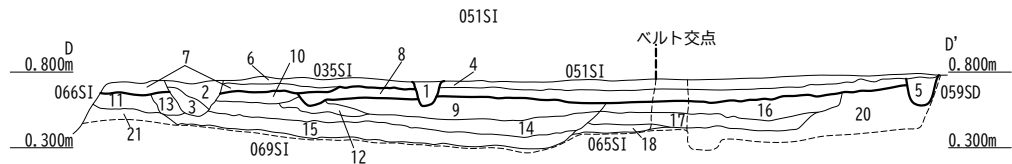


図 2-67 個別遺構図\_23\_044SI・053SI 土層断面図 (S=1:50)

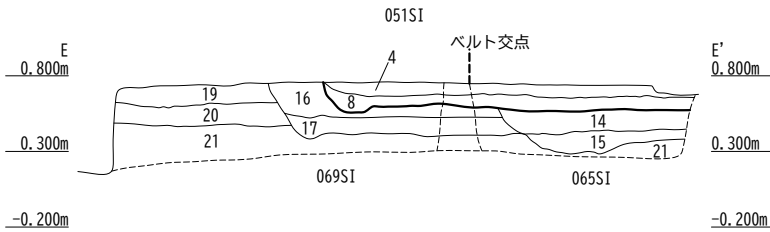
短軸 2.16m、深さ 0.07m を測る。竪穴建物跡の南東角部分が検出され、西半部は 030SD 等によって削平を受けている。切り合い関係は 053SI に先行し、051SI に後続する。柱穴等は検出されていない。

051SI (図 2-66・67・68)

051SI は 044SI 等の 4 棟重複する竪穴建物跡の 1 棟である。壁溝 059SD が検出され、長軸 4.03m、短



- 051SI
1. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物少ない(049SD)
  2. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性やや弱い 炭化物少ない(上層からの掘り込み)
  3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱い 炭化物少ない(上層からの掘り込み)
  4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少ない(051SI)
  5. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 粘性弱い 炭化物多い(059SD)
  6. 10YR6/1 褐灰色細粒砂 粘性やや弱い 炭化物粒状に混じる(035SI)
  7. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 粘性やや弱い 炭化物少量混じる(035SI)
  8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強い 層中下面に炭化物多く混じる(051SI)
  9. 10YR5/2 灰黄褐色シルト～細粒砂 粘性弱い 炭化物・焼土少量混じる(069SI)
  10. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性弱い 炭化物粒状に混じる(竪穴埋土か整地土)
  11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(065SIか)
  12. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物細粒で多く混じる(069SI)
  13. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少量混じる(069SI)
  14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 層中下面右側に炭化物・焼土が集中(069SI)
  15. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物粒状に多く混じる(069SI)
  16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(065SI)
  17. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物・焼土粒状に多く混じる(065SI)
  18. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少ない(065SI)
  21. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山)



- 051SI
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少ない(051SI)
  8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強い 層中下面に炭化物多く混じる(051SI)
  14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 層中下面右側に炭化物・焼土が集中(069SI)
  15. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物粒状に多く混じる(069SI)
  16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(065SI)
  17. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物・焼土粒状に多く混じる(065SI)
  19. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山)
  20. 2.5Y5/1 黄灰色シルト～細粒砂 炭化物混入無し(地山)
  21. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山)

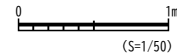


図 2-68 個別遺構図\_23\_035SI・051SI 土層断面図 (S=1:50)

軸 2.34m、深さ 0.05m を測る。竪穴建物跡の南半部が検出された。北半は 044・053SI に削平される。切り合い関係は 035SI にも先行し、4 棟中では最も古い。

#### 065SI (図 2-69・70)

065SI は前述の 044SI 等の重複する 4 棟の下層に位置する。上層の 4 棟との間には整地土もしくは堆積土を挟み、051SI 等との直接の切り合いは確認できない。長軸 5.39m、短軸 4.77m、深さ 0.12m を測る。上層 4 棟に比べると土器の検出される量は多い。切り合い関係は、南側に隣接する 066SI に後続し、北側の 069SI に先行する。

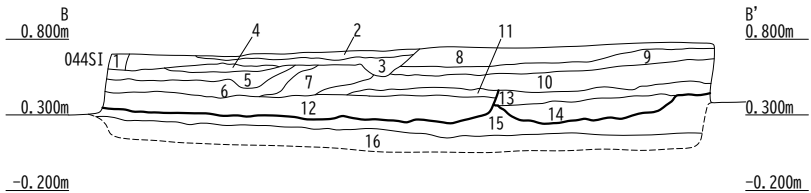
#### 069SI (図 2-69・70)

069SI は 065SI 北半部を削平する竪穴建物跡であり、044SI 等重複する竪穴建物跡の直下に位置する。23 区内では 069SI の西側が検出され、長軸 3.58m、短軸 3.41m、深さ 0.31m を測る。土器の出土量は上層の 4 棟より多く床面付近には炭化物も多く検出された。特に 080SK 付近では炭化物が明確な厚みを

069SI・065SI



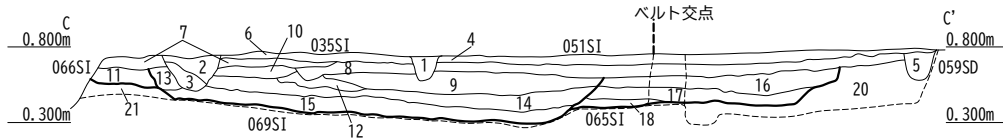
065SI-1  
 10. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性弱い 炭化物・焼土多量に混じる(=B-B'断面中の12層 ただし12層側は焼土等が少ない 065SI)  
 11. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物少量混じる(=B-B'断面中には無し 074SD)  
 12. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少量混じる(=B-B'断面中の13層 074SD)



053SI  
 1. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱い。炭化物がブロック状に混じる(044SI) 9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強い  
 2. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(053SI) 下面に炭化物多く混じる(051SI)  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 下面に炭化物多く混じる(053SI) 10. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト 下面にラミナ 整地か自然堆積?  
 4. 10YR6/1 褐灰色シルト 砂が多く炭化物は少ない(053SI) 11. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い (069SI)  
 5. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 炭化物少ない(竪穴か) 12. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性強い (069SI)  
 6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 炭化物多く混じる(整地か遺構) 13. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性強い (065SI)  
 7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 炭化物少量混じる(整地か) 14. 10YR6/2 灰黄褐色シルト (074SD)  
 8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物大きめブロック状に混じる(051SI) 15. 10YR6/4 にぶい黄褐色細粒砂~中粒砂(地山)  
 16. 10YR6/1 褐灰色細粒砂 植物質は多いが遺物等は全く検出できず(地山)

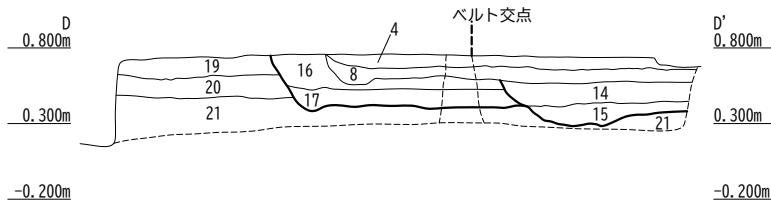
図 2-69 個別遺構図\_23\_065SI・069SI-1 (S=1:50)

069SI・065SI



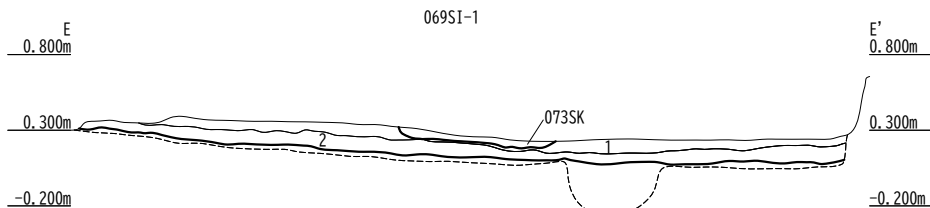
051SI

1. 10YR4/1 褐灰色シルト粘性強い 炭化物少ない(049SD)
2. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性やや弱い 炭化物少ない(上層からの掘り込み)
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱い 炭化物少ない(上層からの掘り込み)
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少ない(051SI)
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 粘性弱い 炭化物多い(059SD)
6. 10YR6/1 褐灰色細粒砂 粘性やや弱い 炭化物粒状に混じる(035SI)
7. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 粘性やや弱い 炭化物少量混じる(035SI)
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強い 層中下面に炭化物多く混じる(051SI)
9. 10YR5/2 灰黄褐色シルト～細粒砂 粘性弱い 炭化物・焼土少量混じる(069SI)
10. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性弱い 炭化物粒状に混じる(竪穴埋土か整地土)
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(065SIか)
12. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物細粒で多く混じる(069SI)
13. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少量混じる(069SI)
14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 層中下面右側に炭化物・焼土が集中(069SI)
15. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物粒状に多く混じる(069SI)
16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(065SI)
17. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物・焼土粒状に多く混じる(065SI)
18. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少ない(065SI)
21. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山)



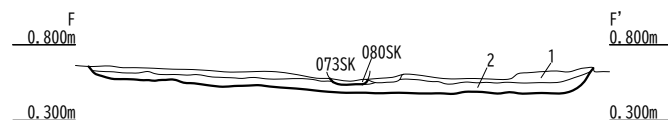
051SI

4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い 炭化物少ない(051SI)
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強い 層中下面に炭化物多く混じる(051SI)
14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 層中下面右側に炭化物・焼土が集中(069SI)
15. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物粒状に多く混じる(069SI)
16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(065SI)
17. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物・焼土粒状に多く混じる(065SI)
19. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山)
20. 2.5Y5/1 黄灰色シルト～細粒砂 炭化物混入無し(地山)
21. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山)



069-1

1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 焼土・炭化物多く混じる。上層の065SIの影響を受け、混入物が多い(069SI)
2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 焼土・炭化物少量混じる(069SI)



069-2

1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 焼土・炭化物多く混じる。上層の065SIの影響を受け、混入物が多い(069SI)
2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 焼土・炭化物少量混じる(069SI)

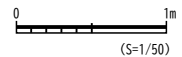
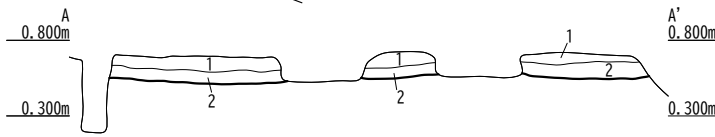
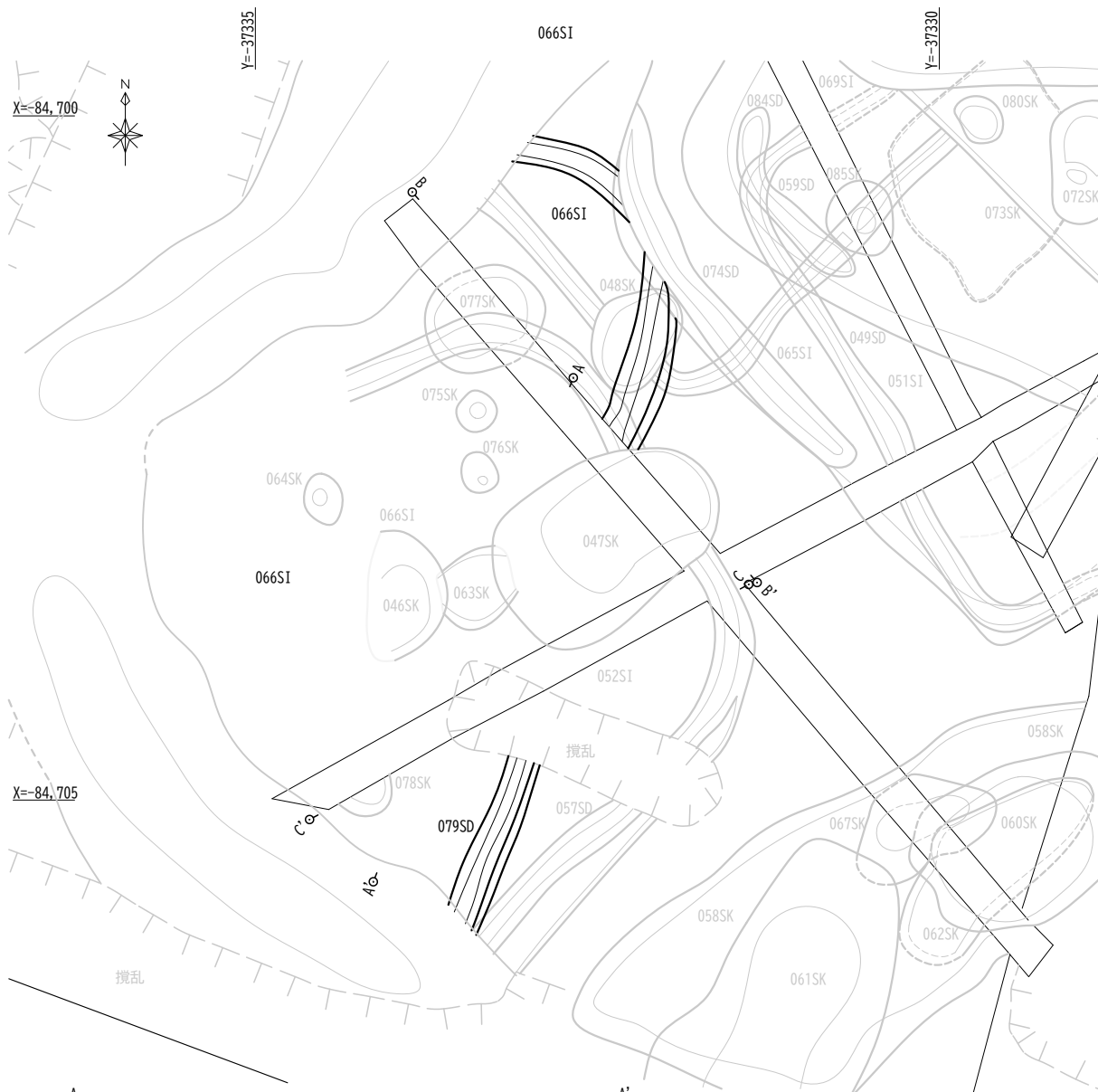
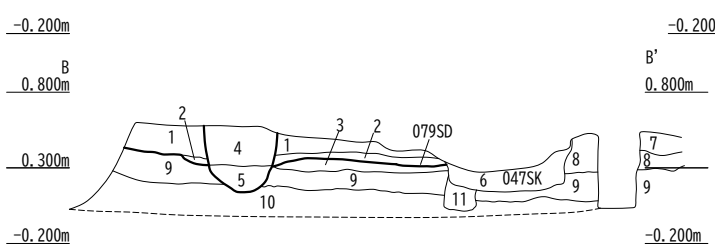


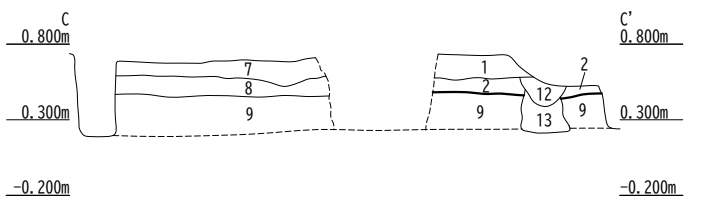
図 2-70 個別遺構図\_23\_065SI・069SI-2 (S=1:50)



- 066SI
1. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる。(066SI)
  2. 10YR5/1 褐灰色細粒砂 焼土・炭化物少量混じる(066SI)

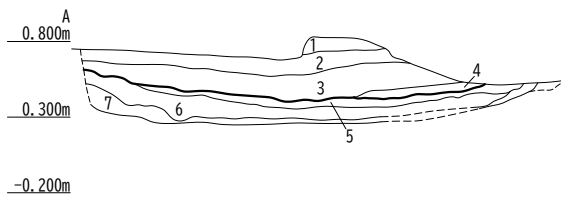
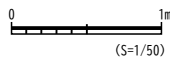
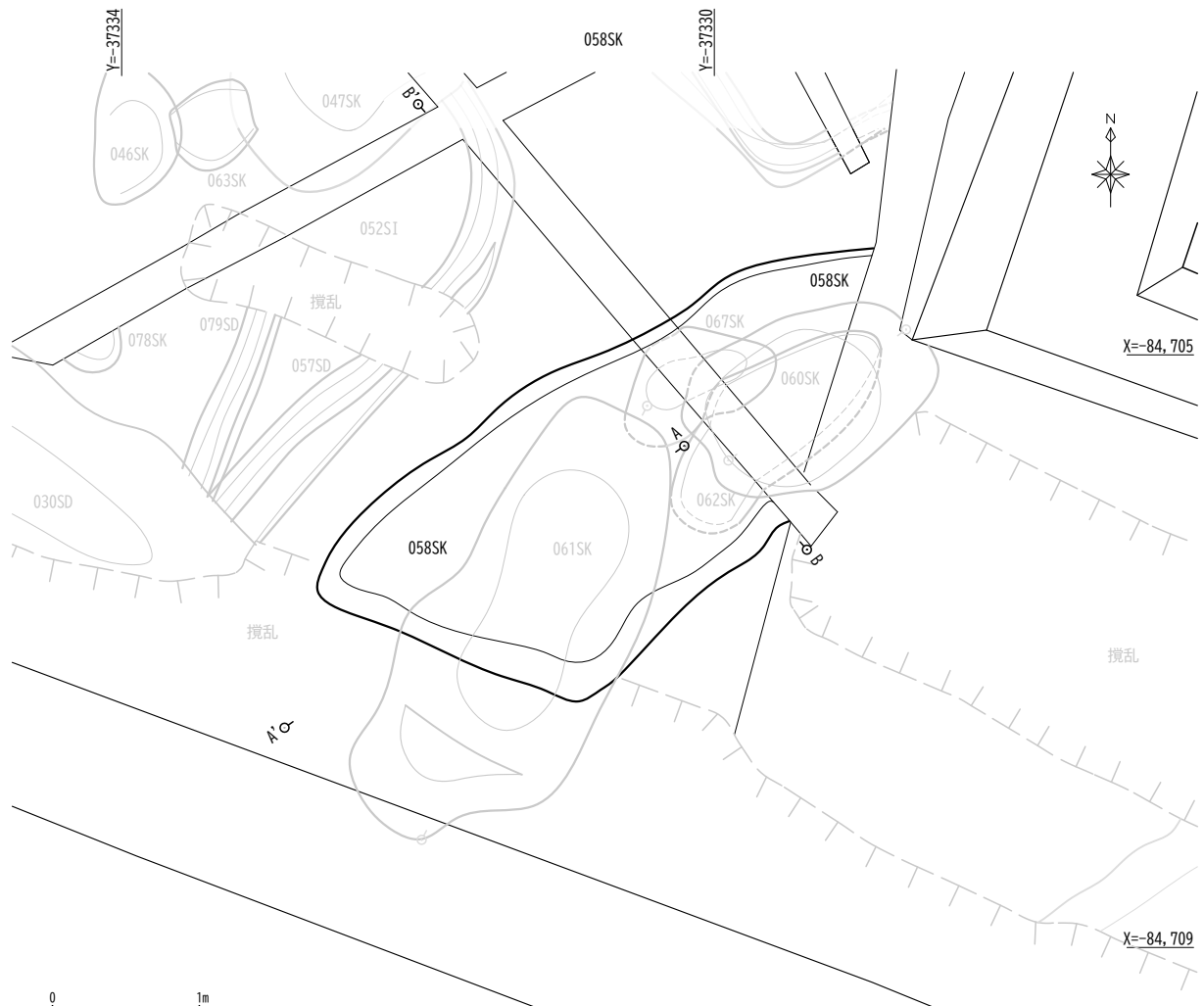


- 南面
1. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(066SI)
  2. 10YR5/1 褐灰色細粒砂 炭化物多く混じる(066SI)
  3. 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(噴砂か)
  4. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 炭化物多く混じる(077SK)
  5. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い(077SK)
  6. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強い(047SK)
  7. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山)
  8. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山)
  9. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山)
  10. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い
  11. 10YR2/1 黒色シルト 粘性強い。焼土・炭化物多く混じる(047SK)

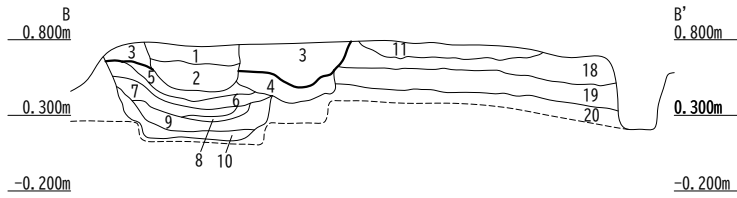


- 西面
1. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物粒状に多く混じる(066SI)
  2. 10YR5/1 褐灰色細粒砂 粘性やや強い 炭化物多く混じる(066SI)
  7. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山)
  8. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山)
  9. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 炭化物混入無し(地山)
  12. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い 炭化物多く混じる(078SK)
  13. 10YR5/1 褐灰色シルト 炭化物粒状に多く混じる(078SK)

図 2-71 個別遺構図\_23\_066SI (S=1:50)

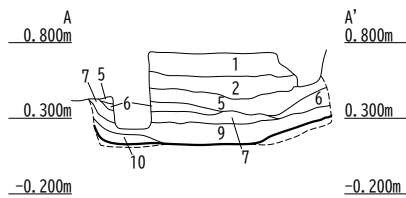
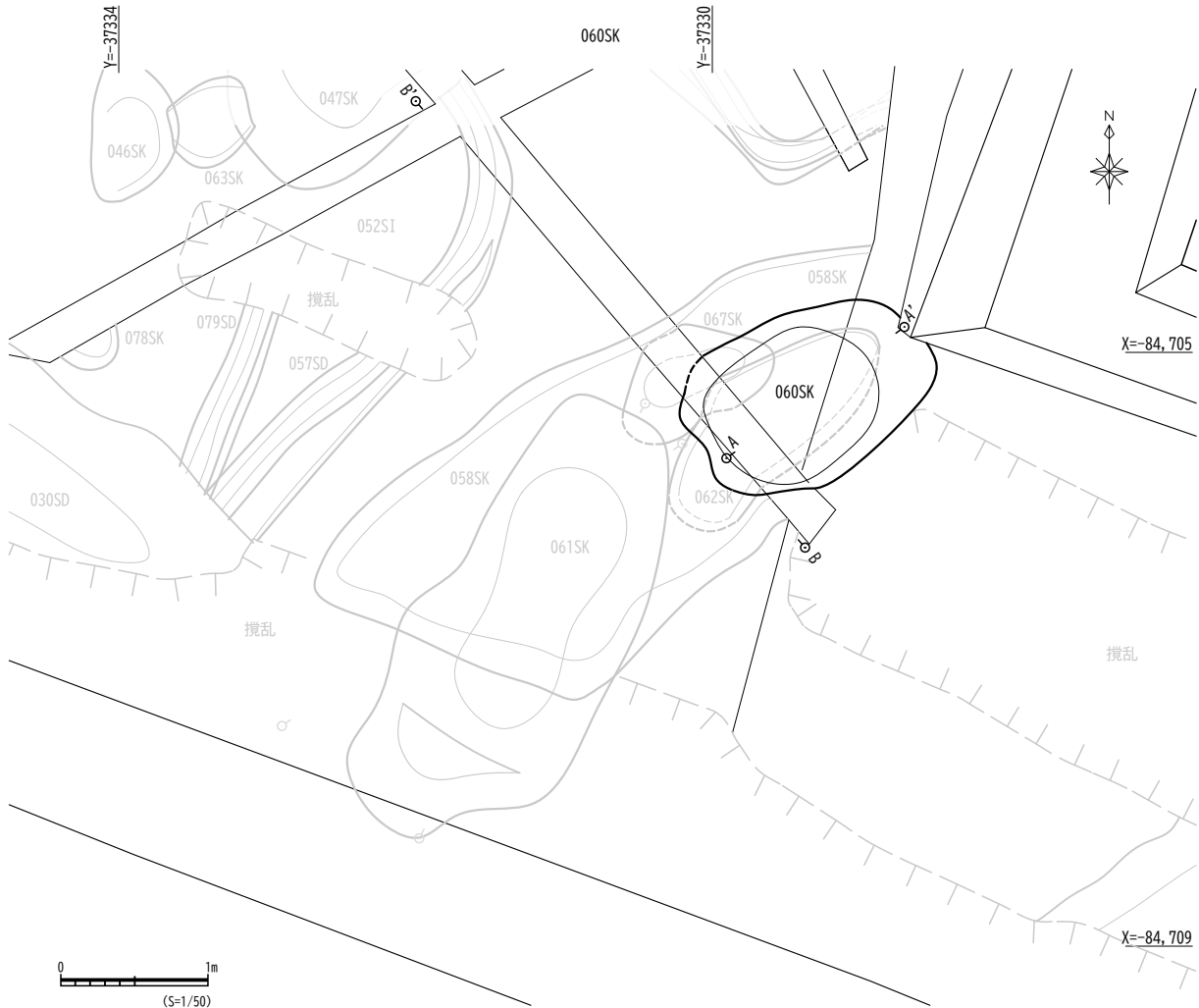


- A' 0.800m  
0.300m  
-0.200m
- 058SK・061SK 西面(合成後)
1. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性やや強い 炭化物多く混じる(058SK)
  2. 10YR7/1 灰白色シルト 粘性強い 炭化物少ない(062SK)
  3. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(058SK)
  4. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(058SK)
  5. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物大量に混じる(061SK)
  6. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(061SK)
  7. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物5・6層より少ない(061SK)

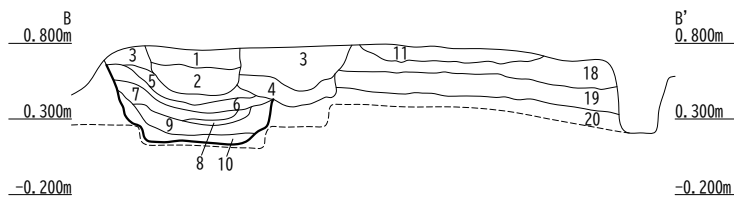


- B 0.800m  
0.300m  
-0.200m
- B' 0.800m  
0.300m  
-0.200m
- サブトレンチ2 北面
1. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性やや強い 炭化物多く混じる(062SK)
  2. 10YR7/1 灰白色シルト 粘性強い 炭化物少ない(062SK)
  3. 10YR7/1 灰白色シルト 炭化物少量混じる(058SK)
  4. 10YR6/1 褐灰色シルト 炭化物多く混じる(067SK)
  5. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  6. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  7. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物大量に混じる(060SK)
  8. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  9. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物5・6層より少ない(060SK)
  10. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(060SK)
  11. 10YR6/1 褐灰色シルト 炭化物少量混じる(整地土状の堆積)
  18. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山 サブトレンチ2 051SI 東面と同じ)
  19. 2.5Y5/1 黄灰色シルト~細粒砂 炭化物混入無し(地山 サブトレンチ2 051SI 東面と同じ)
  20. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山 サブトレンチ2 051SI 東面と同じ)

図 2-72 個別遺構図\_23\_058SK (S=1:50)



- 060SK・062SK 東面
1. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性やや強い 炭化物少量混じる(062SK)
  2. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性やや強い 炭化物多く混じる(062SK)
  5. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  6. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  7. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物大量に混じる(060SK)
  9. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物5・6層より少ない(060SK)
  10. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(060SK)



- サブトレンチ2 北面
1. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性やや強い 炭化物多く混じる(062SK)
  2. 10YR7/1 灰白色シルト 粘性強い 炭化物少ない(062SK)
  3. 10YR7/1 灰白色シルト 炭化物少量混じる(058SK)
  4. 10YR6/1 褐灰色シルト 炭化物多く混じる(067SK)
  5. 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  6. 10YR5/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  7. 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性強い 炭化物大量に混じる(060SK)
  8. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物多く混じる(060SK)
  9. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物5・6層より少ない(060SK)
  10. 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる(060SK)
  11. 10YR6/1 褐灰色シルト 炭化物少量混じる(整地土状の堆積)
  18. 2.5Y6/2 灰黄褐色シルト 粘性強い 炭化物混入無し(地山 サブトレンチ2 051SI 東面と同じ)
  19. 2.5Y5/1 黄灰色シルト~細粒砂 炭化物混入無し(地山 サブトレンチ2 051SI 東面と同じ)
  20. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性弱い 植物質混入多い(地山 サブトレンチ2 051SI 東面と同じ)

図 2-73 個別遺構図\_23\_060SK (S=1:50)

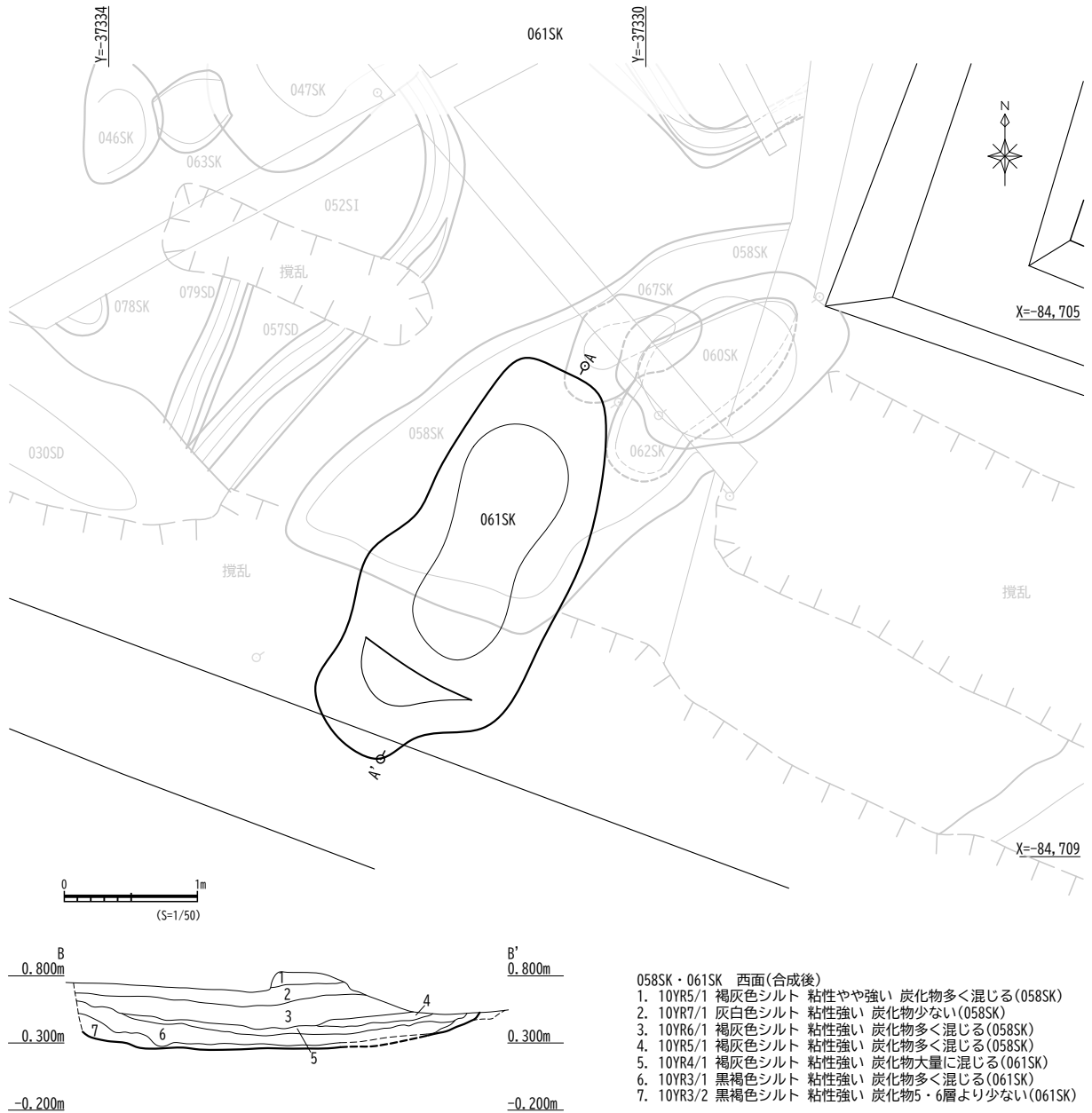


図 2-74 個別遺構図\_23\_061SK (S=1:50)

もって堆積する状況となっている。

### 066SI (図 2-71)

066SI は 23 区中央付近 052SI の直下に位置する。長軸 5.47m、短軸 2.60m、深さ 0.12m を測る。切り合い関係では 065SI に先行し、周辺の竪穴建物跡の中では最も古い。出土遺物には打製石鏃 (S-63・64) がある。

### 058・060・061・062・067SK (図 2-18・72～74)

058・060・061・062・067SK は 23 区中央付近、065SI 等の東側で検出された土坑である。計 5 回に渡っ

てほぼ同じ位置で掘削、埋没を繰り返している。前後関係は、060SK・061SK → 067SK → 058SK → 062SK となっており、060SK・061SK・067SK には炭化物が多量に含まれ、061SK は炭化物と共に土器破片も多く検出された。067SK は炭化物は多いものの土器片は少量で、058SK は炭化物を含むものの層を形成するほどのまとまりは見られないが、土器片はまとまって検出された。067SK は炭化物、土器片ともに少量にとどまる。以上の状況から一連の土坑で最も古い 060・061SK の時期には土器焼成土坑として用いられたものの、後の 058・062SSK の時期には土器焼成ではなく廃棄土坑とされたものと見られる。

# 第3章 遺物

## 第1節 土器

今回の報告は日光川上流浄化センター関連調査の最終報告となる。今回報告する土器 186 点はすべて弥生土器で、既報告分の弥生土器を合わせると 2442 点である。ここでは今回特徴的な資料を抽出して記述を進める。なお、記述中の（数字）は土器の図番号（登録番号）を示す。

今回報告する調査区は、集落全体の位置関係としては、居住域の北側に東西方向へ蛇行しながら流れる河道の大部分とこれに接する居住域と一部墓域が相当する。

一色青海遺跡の弥生土器は、ごく一部前後の時期を含めてほぼ弥生時代中期後葉に限られる。一色青海遺跡の位置する尾張平野南西部の中期後葉の土器は、凹線文系土器、貝田町式系土器を中心に、櫛条痕文系土器、古井式系土器など、特徴的な土器製作のまとまりを示す土器系統（～系土器）に区分できる。これまでの一色青海遺跡の報告書においてもこれら系統区分された土器によって提示してきた。系統区分に基づき相対的数量を順に示すと、凹線文系土器、貝田町式系土器、古井式系土器、櫛条痕文系土器となる。中期後葉から出現する凹線文系土器は起源地が中部瀬戸内にある。この凹線文系土器が一色青海遺跡では相対的に多く出土している。その中には伊勢湾西岸域（E-177 ほか）からの土器もある。貝田町式系土器は中期中葉から引き続く系統で、櫛条痕文系土器を指し、その主体を占める尾張平野の土器以外に伊勢湾西岸域（E-110 ほか）の土器もある。古井式系土器は西三河からの搬入品で、大型壺（E-28・55 など）と台付甕（E-137・143 など）がある。櫛条痕文系土器は尾張平野北東部から美濃地域からの搬入品で、深鉢（E-122・176 など）のみであるが、以前の報告では無頸壺の出土もある。

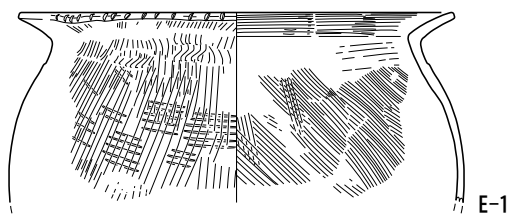
朝日遺跡および阿弥陀寺遺跡など周辺遺跡に中期中葉から中期後葉にかけて出土する貝田町式系土器に伴う台盤状土製品は、一色青海遺跡では今までに出土例がない。一色青海遺跡は平底甕、特に凹線文系タタキ甕が圧倒的多く、伊勢湾北岸域の甕の様相に近く、貝田町式系のハケ甕および台付甕が少ないことから裏付けられる。その中で、既報告でも知られている甕底部を再利用したと思われる土器（E-35）がある。この土器（E-35）は底部付近を丁寧に打ち欠き、台付甕の脚部と類似した、つまり煮炊きする際の甕の位置を高くする使用法が想定できる。

また他にも打ち欠きが丁寧に施され再利用した土器（E-16・28）がある。これらの土器は、壺の口縁部から体部上位を壺や鉢などの脚台として使用した可能性がある。

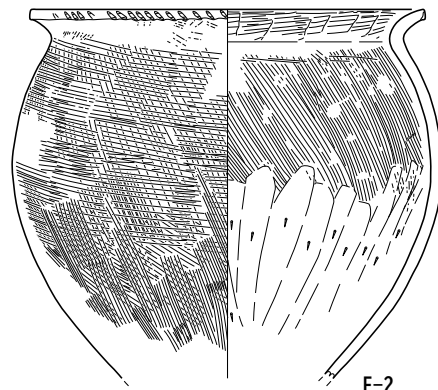
円窓付土器は 3 点（E-52・127・166）出土している。いずれも完形品ではない。既報告では完形品の出土が 5 点あり、2 点は竪穴建物、3 点は流路から出土している。

2018 年度 302SI 出土資料の出土状態について触れておく。既報告の中でもいくつか焼失住居とされた遺構があり、被熱した土器が報告されている。E-52・68 は土器内面がリング状に黒く煤けており、被熱した時の痕跡である。つまり廃棄された状態が一定期間あり、その後被熱したと考えられる。いわばゴミ穴のように焼却された資料群であることが出土状態からも想定できる。

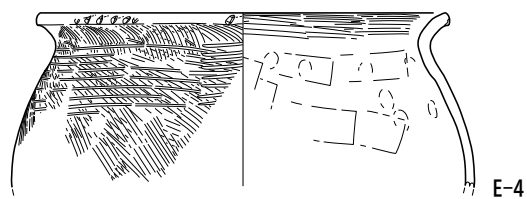
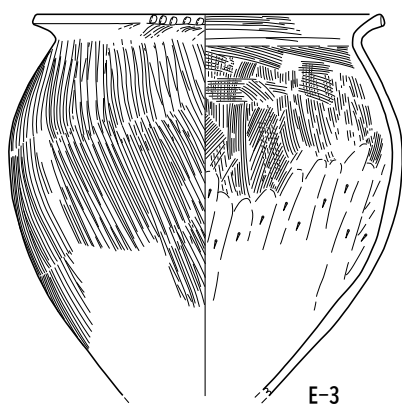
100SK



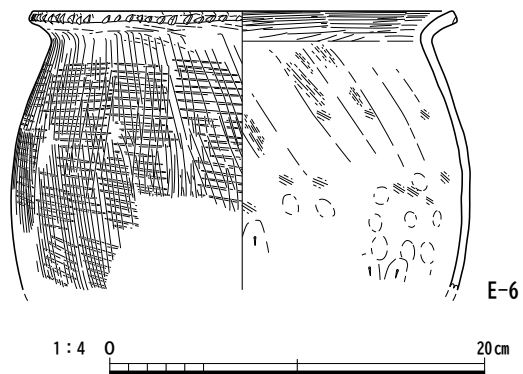
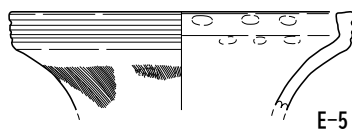
175SD



274SK



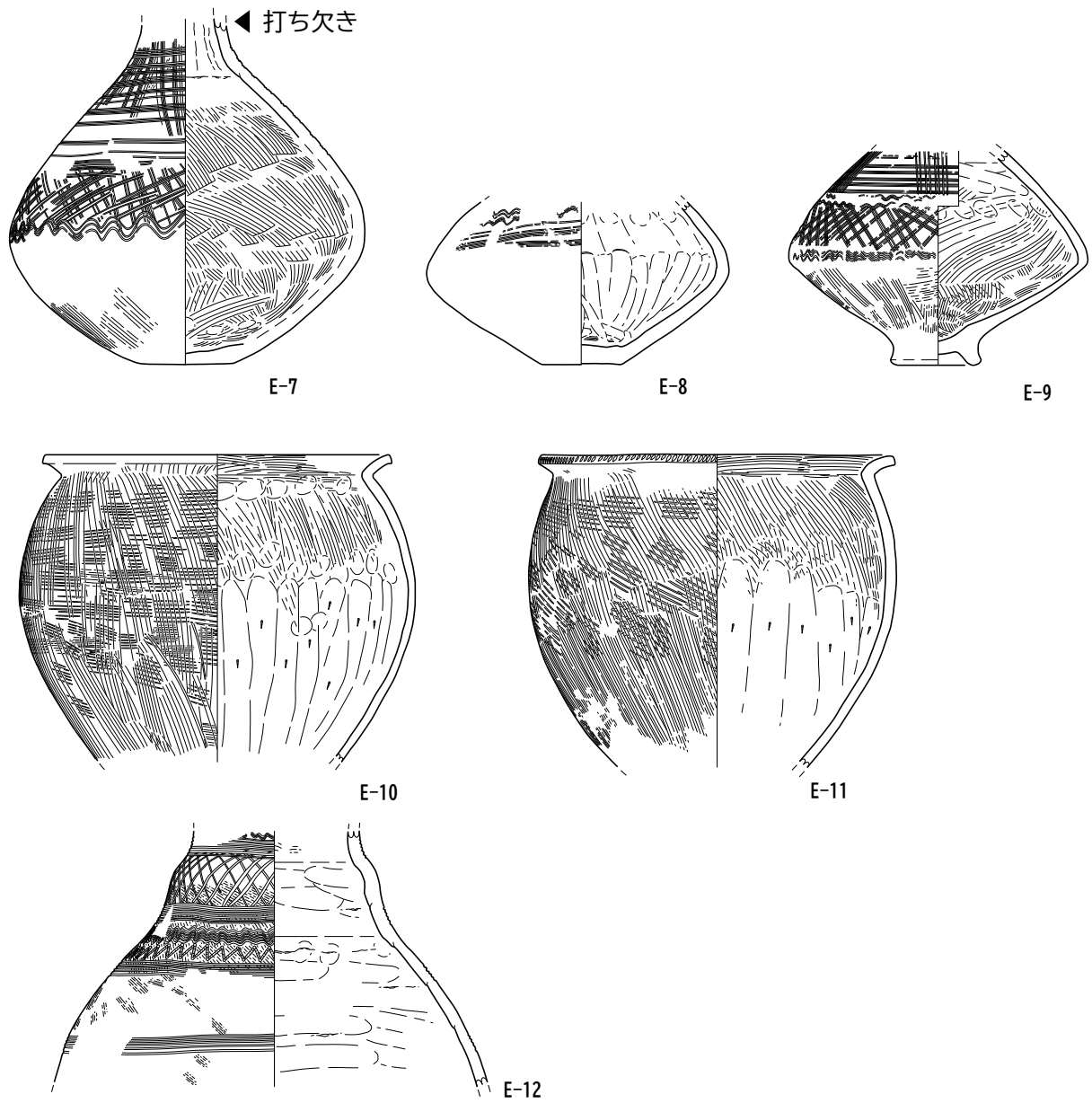
010SZ



1:4 0 20cm

図 3-1 2018 年度調査出土土器 -1 (S-1:4)

001SD



020SZ

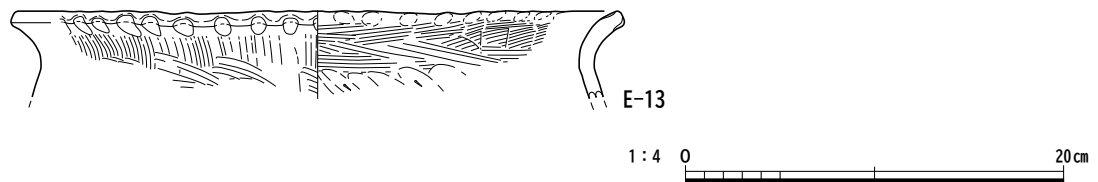


図 3-2 2018 年度調査出土土器 -2 (S-1:4)

021SD

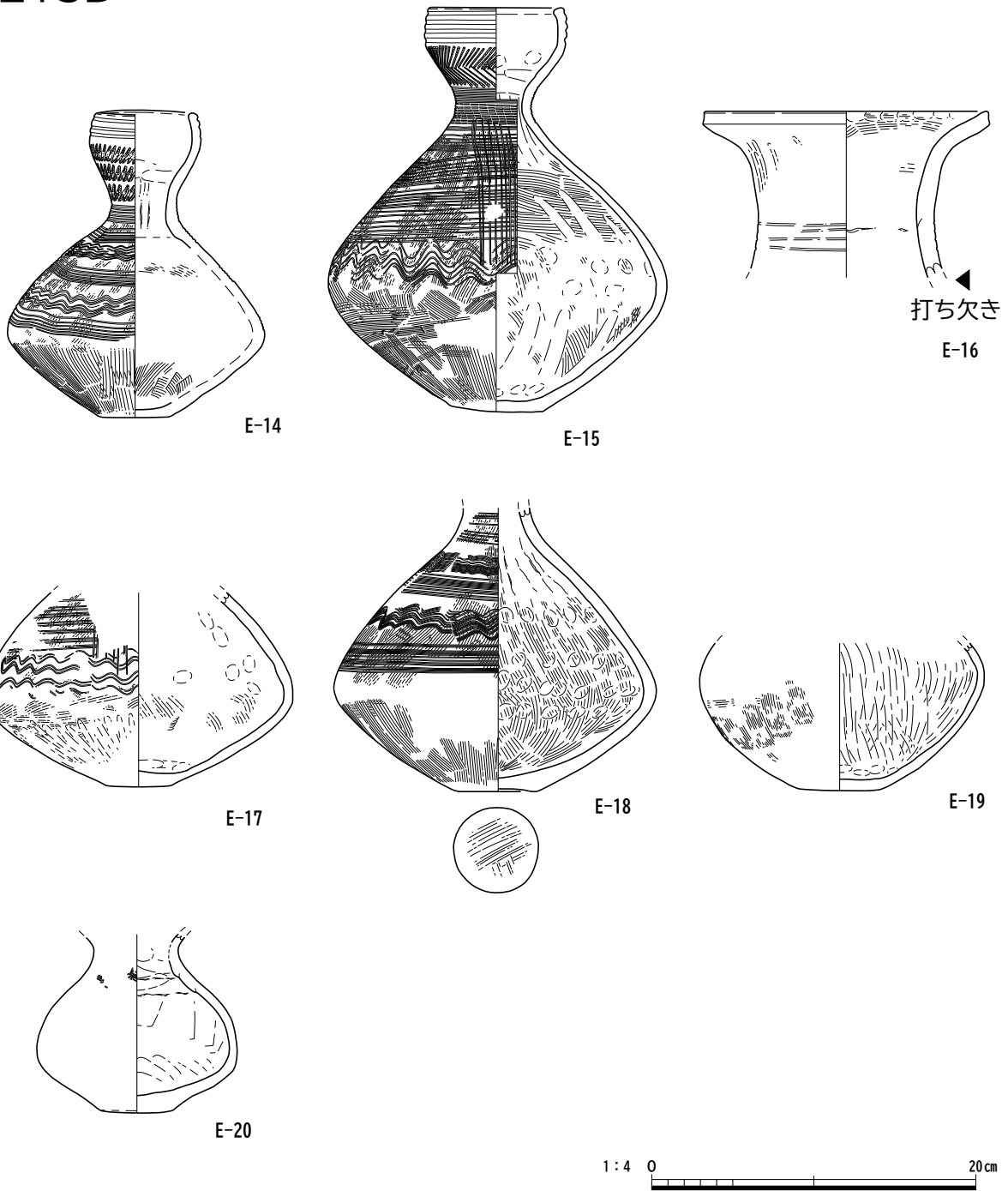
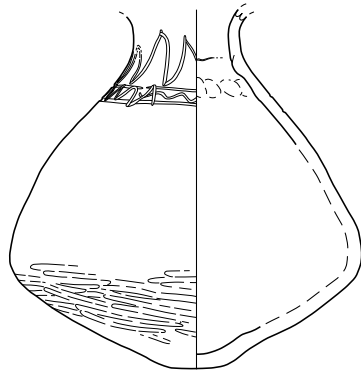


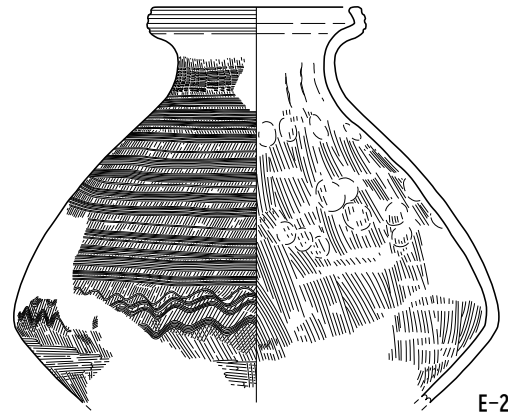
図 3-3 2018 年度調査出土土器 -3 (S-1:4)

007SD



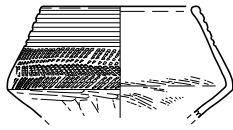
E-21

029SD

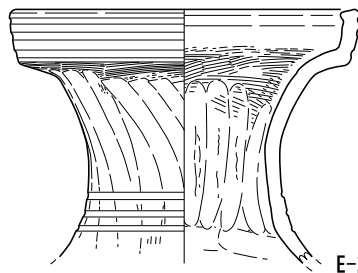


E-22

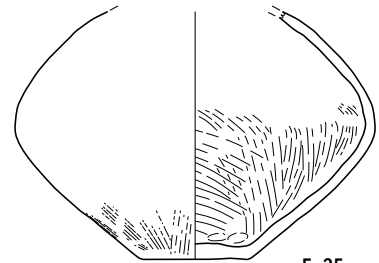
326SI



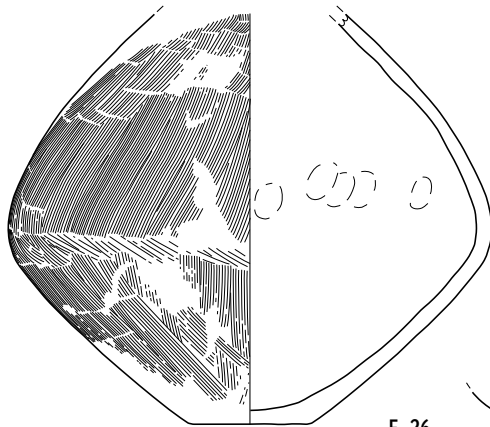
E-23



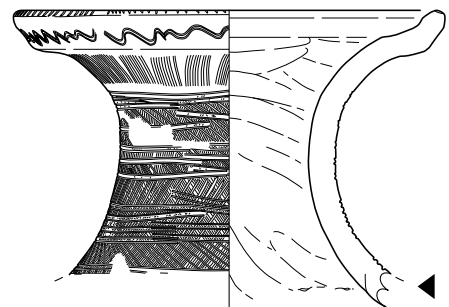
E-24



E-25

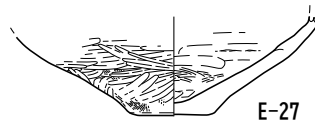


E-26

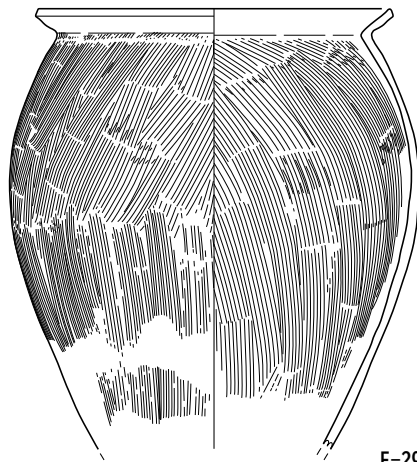


打ち欠き

E-28



E-27

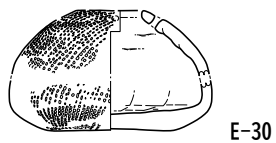


E-29

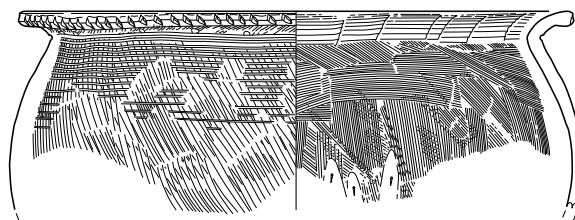


図 3-4 2018 年度調査出土土器 -4 (S-1:4)

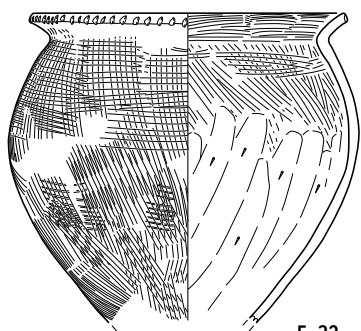
279SI



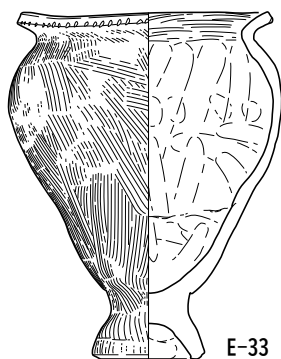
E-30



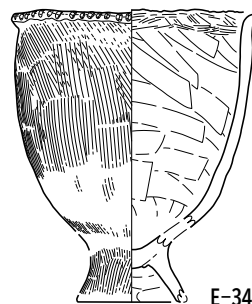
E-31



E-32

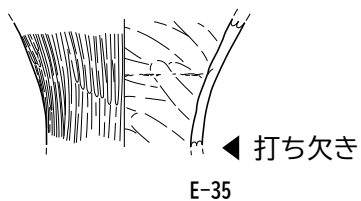


E-33



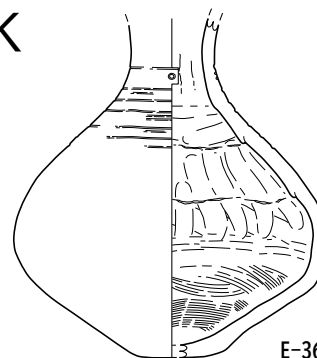
E-34

333SK



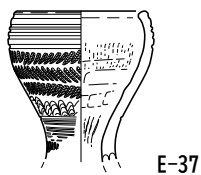
E-35

280SK

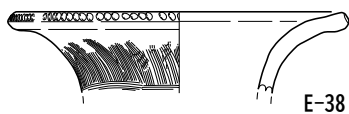


E-36

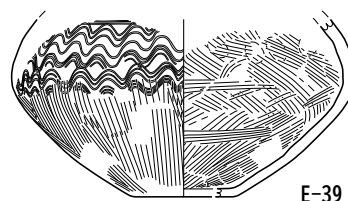
306SK



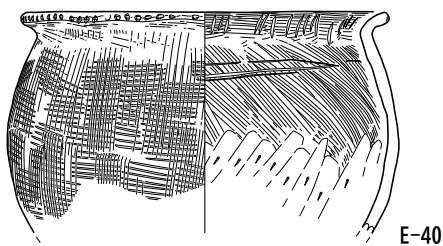
E-37



E-38



E-39

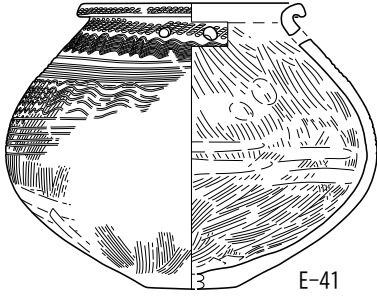


E-40

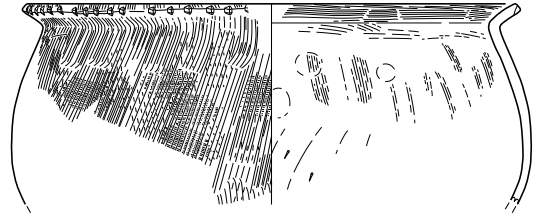


図 3-5 2018 年度調査出土土器 -5 (S-1:4)

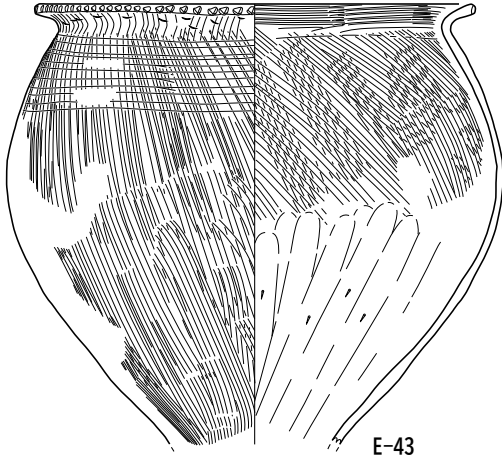
# 330SI



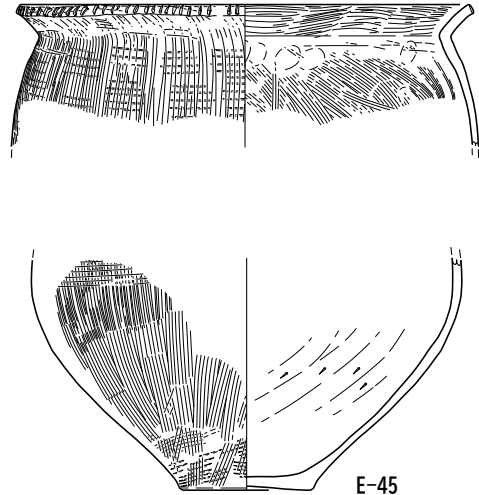
E-41



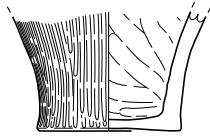
E-42



E-43



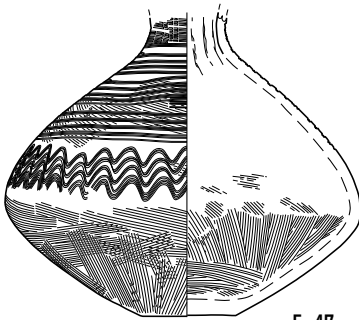
E-44



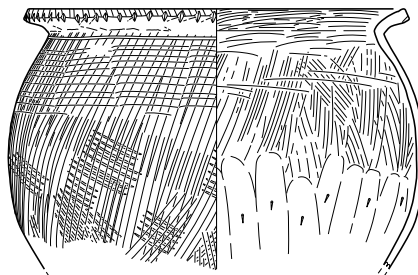
E-46

# 303SK

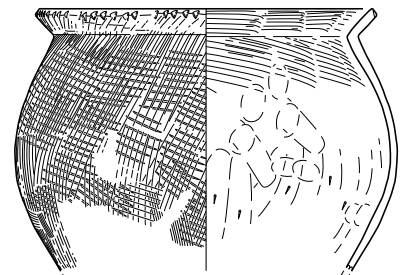
底面：布目痕



E-47

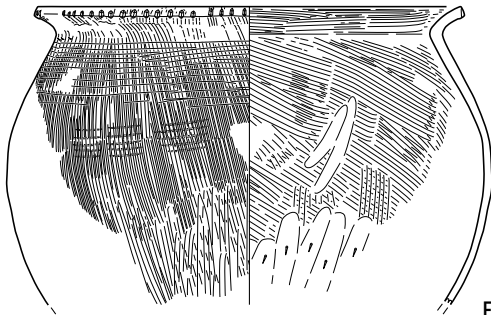


E-48



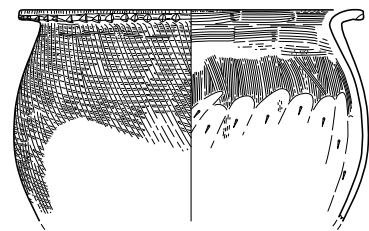
E-49

# 305SK



E-50

# 335SK



E-51



図 3-6 2018 年度調査出土土器 -6 (S-1:4)

302SI

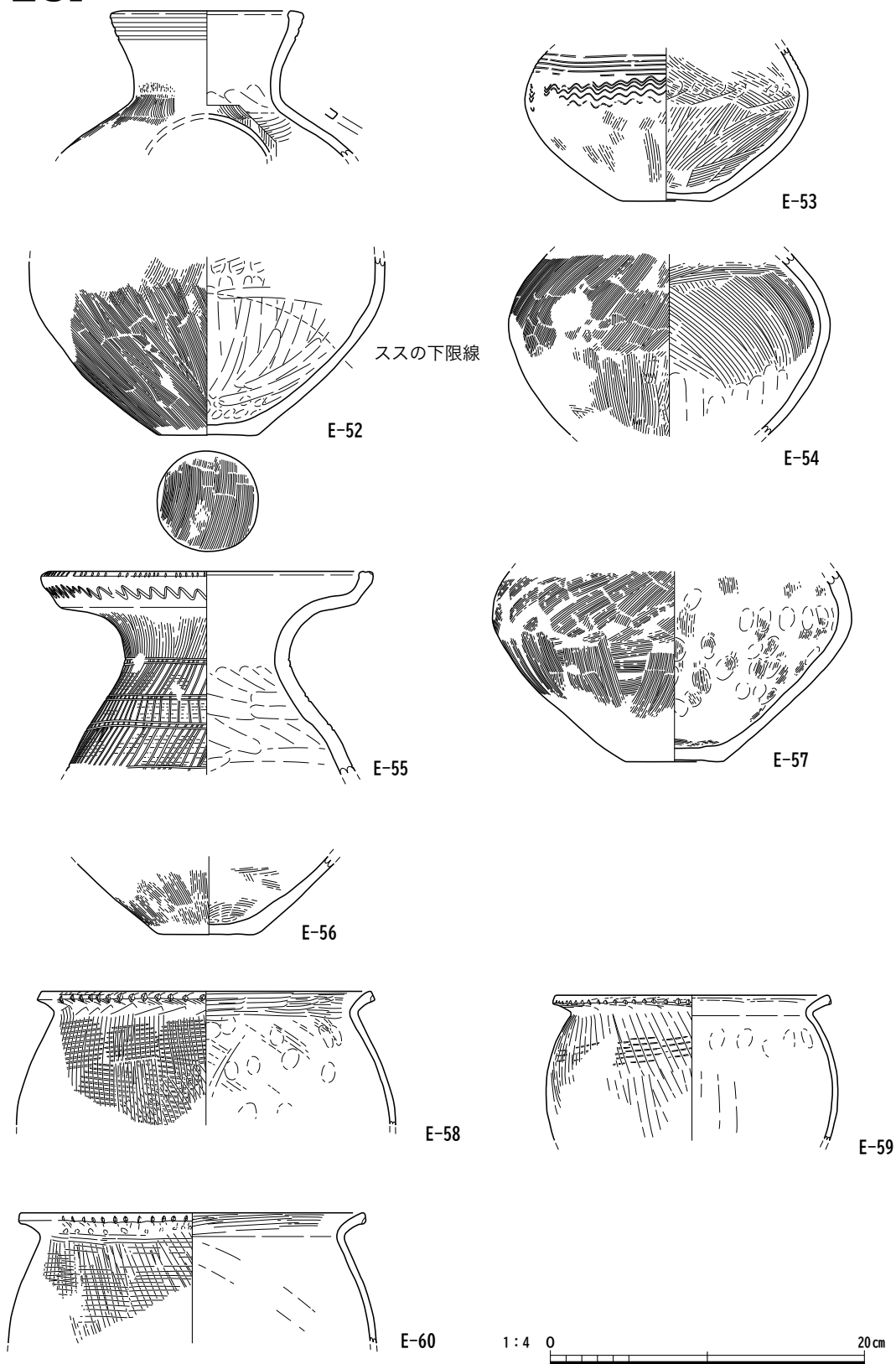


図 3-7 2018 年度調査出土土器 -7 (S-1:4)

302SI

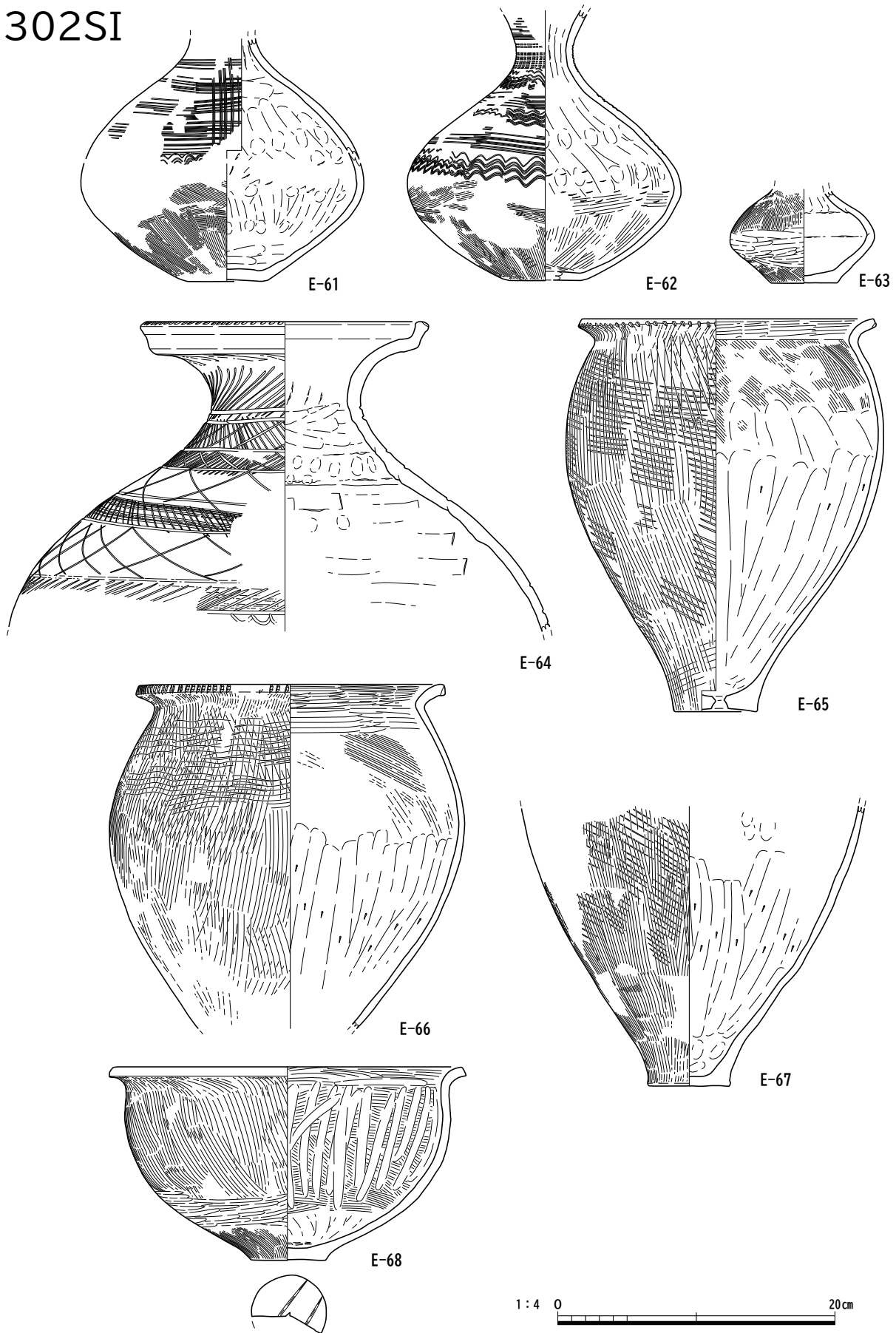
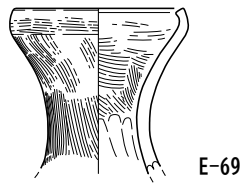
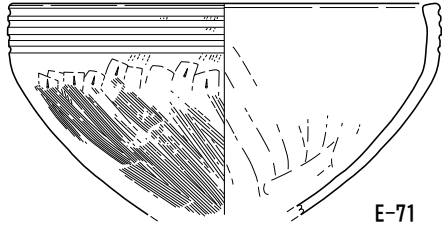


图 3-8 2018 年度調査出土土器 -8 (S-1:4)

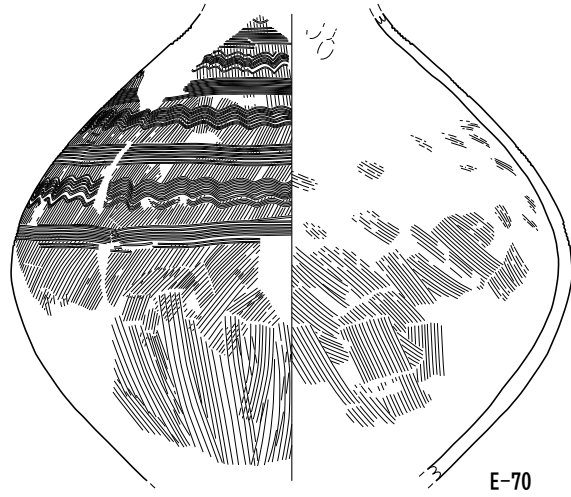
308SI



E-69

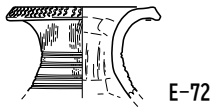


E-71

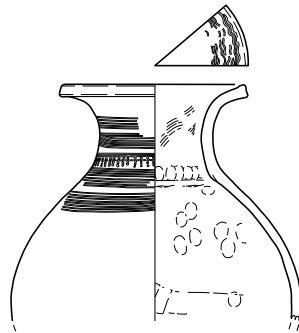


E-70

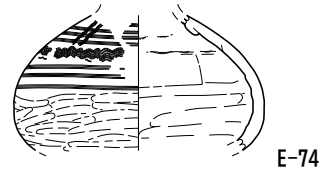
200SD



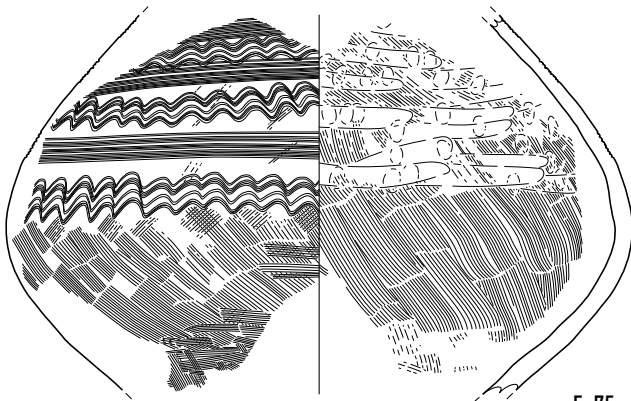
E-72



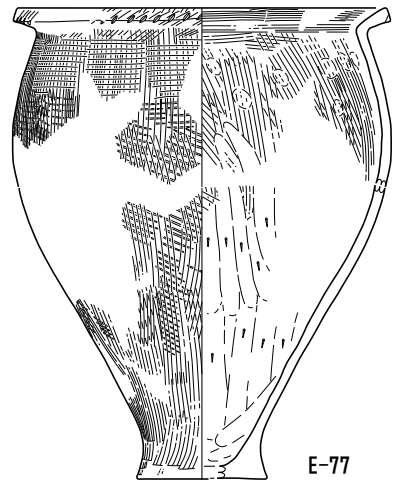
E-73



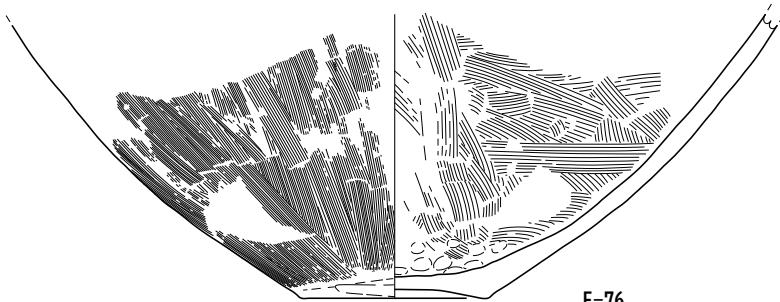
E-74



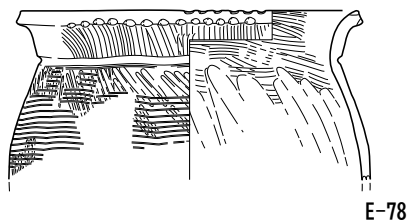
E-75



E-77



E-76

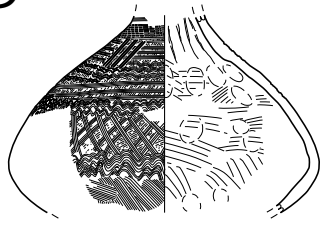


E-78

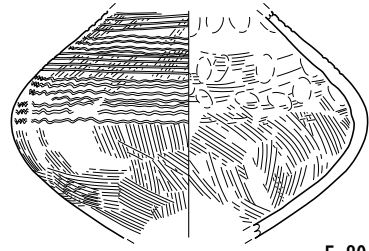


図 3-9 2018 年度調査出土土器 -9 (S-1:4)

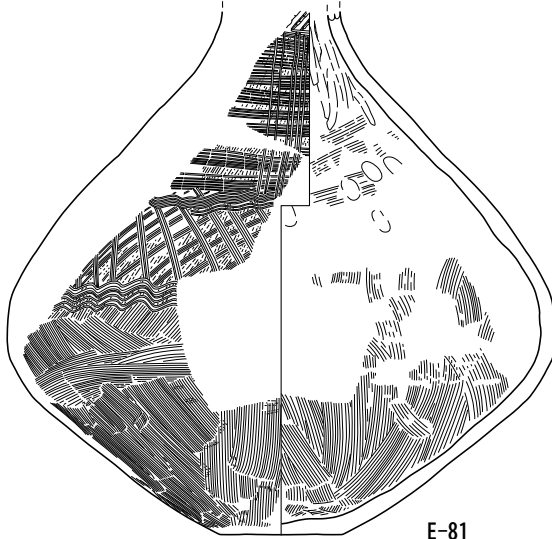
# 200SD



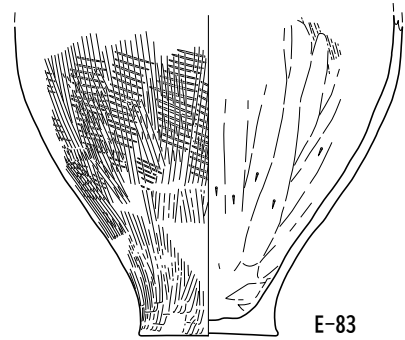
E-79



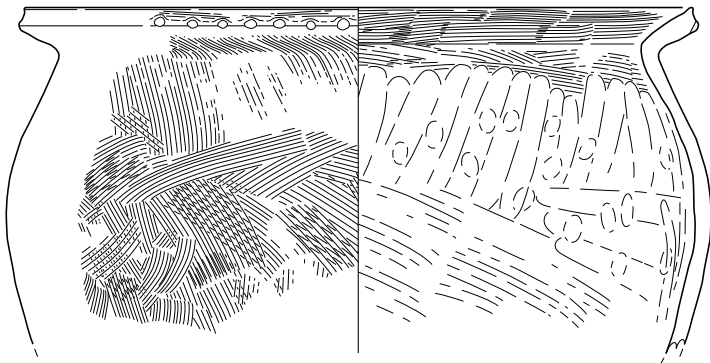
E-80



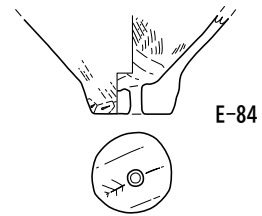
E-81



E-83

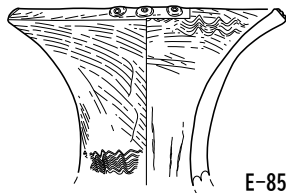


E-82

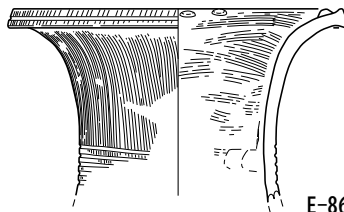


E-84

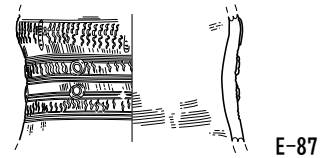
# 234SK



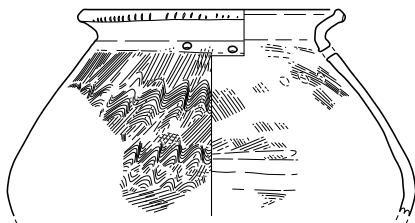
E-85



E-86



E-87

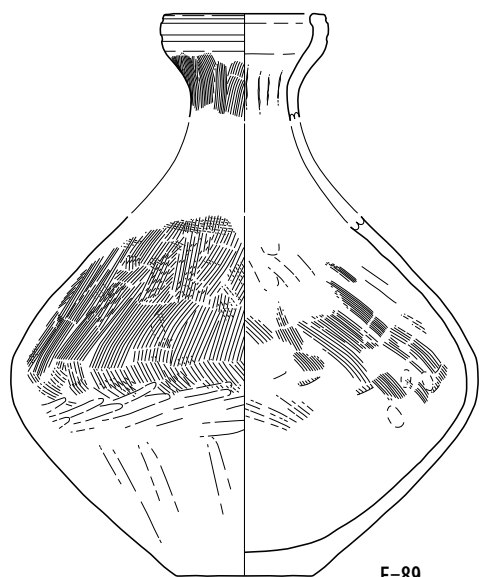


E-88

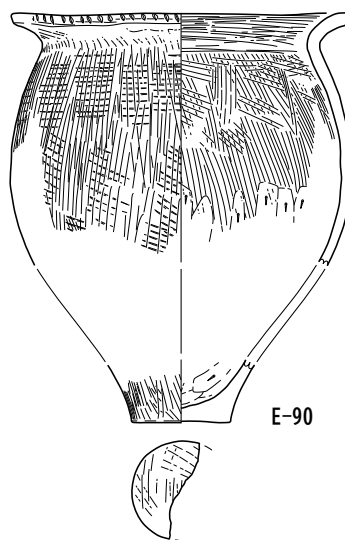


図 3-10 2018 年度調査出土土器 -10 (S-1:4)

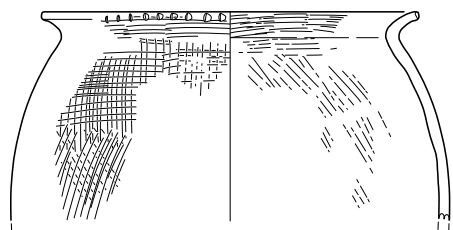
285SK



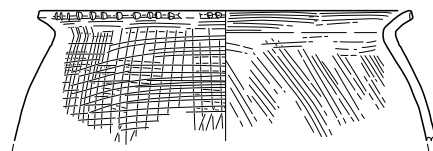
E-89



E-90



E-91

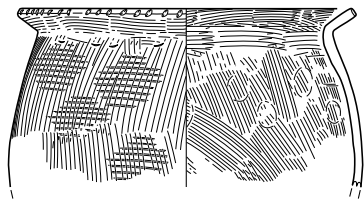


E-92

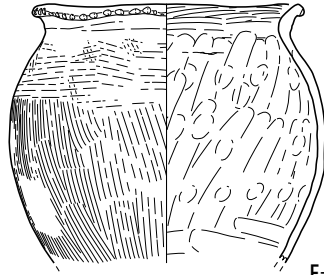


図 3-11 2018 年度調査出土土器 -11 (S-1:4)

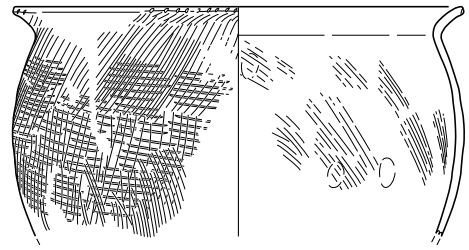
# 030SK



E-93

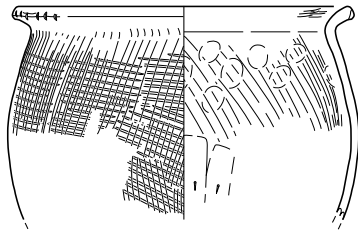


E-94



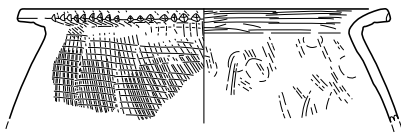
E-95

# 054SD

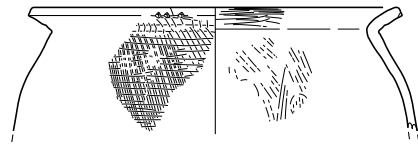


E-96

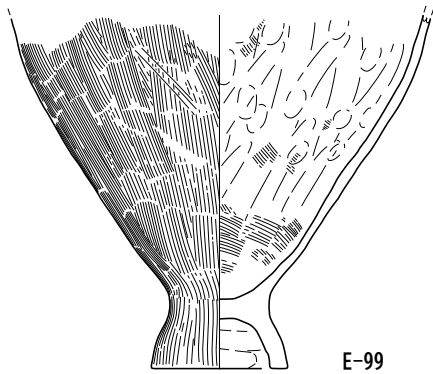
# 070SD



E-97



E-98

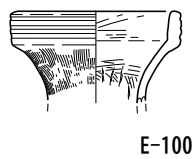


E-99

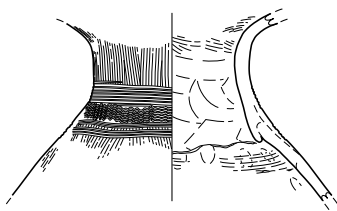


図 3-12 2019 年度調査出土土器 -1 (S-1:4)

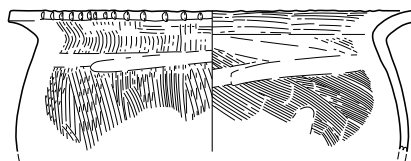
# 200SD



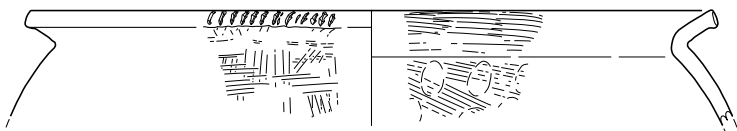
E-100



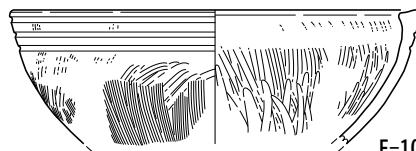
E-101



E-102

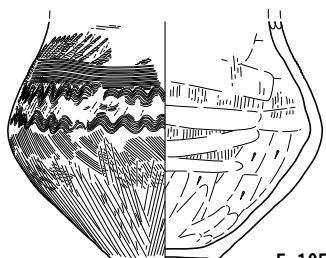


E-103

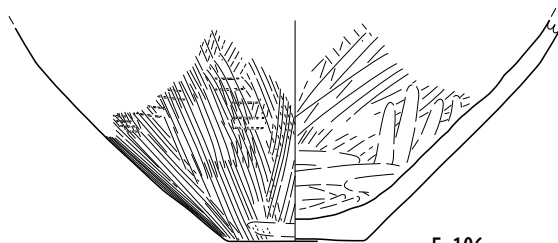


E-104

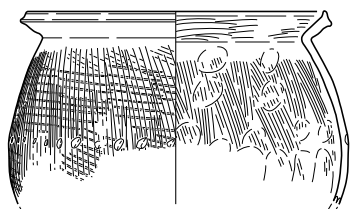
# 600SD



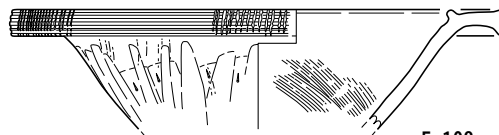
E-105



E-106



E-107

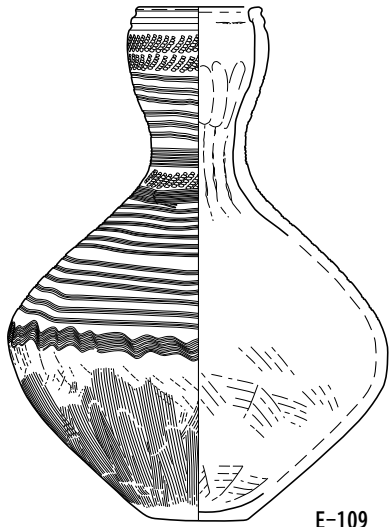


E-108

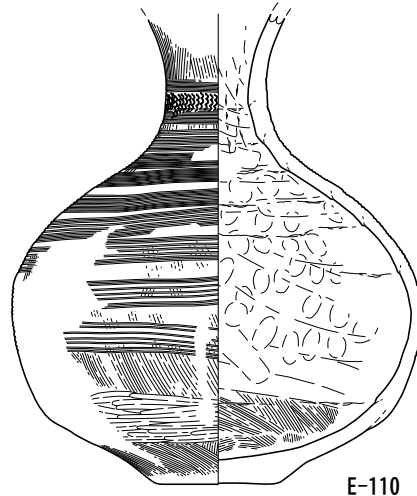


図 3-13 2019 年度調査出土土器 -2 (S-1:4)

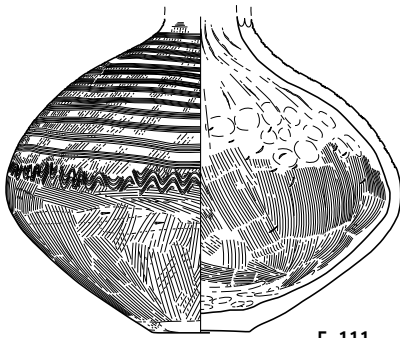
# 400SD



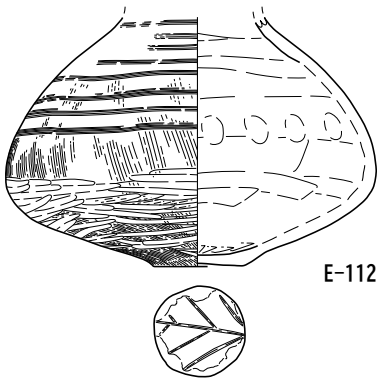
E-109



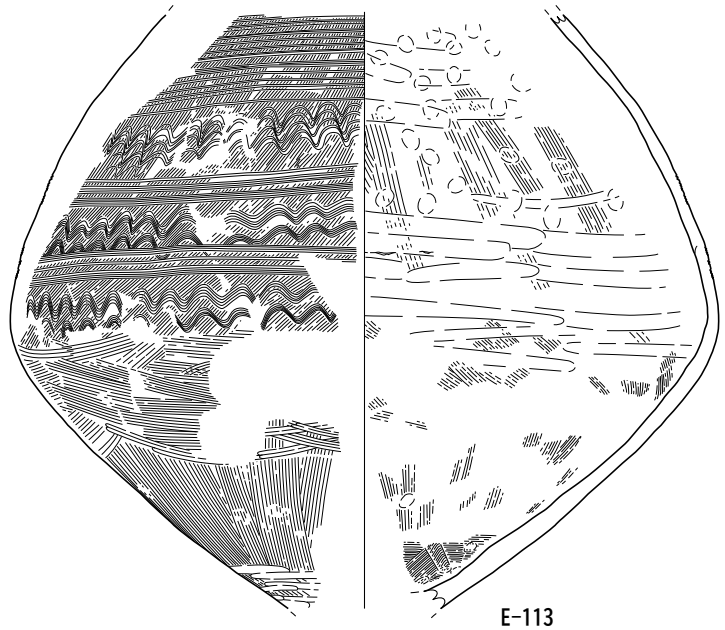
E-110



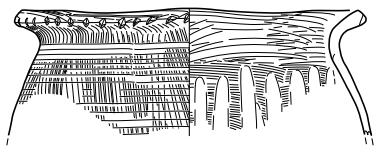
E-111



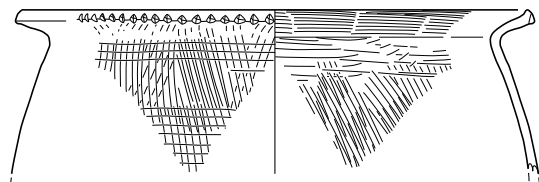
E-112



E-113



E-114



E-115

1:4 0 20cm

図 3-14 2019 年度調査出土土器 -3 (S-1:4)

# 400SD

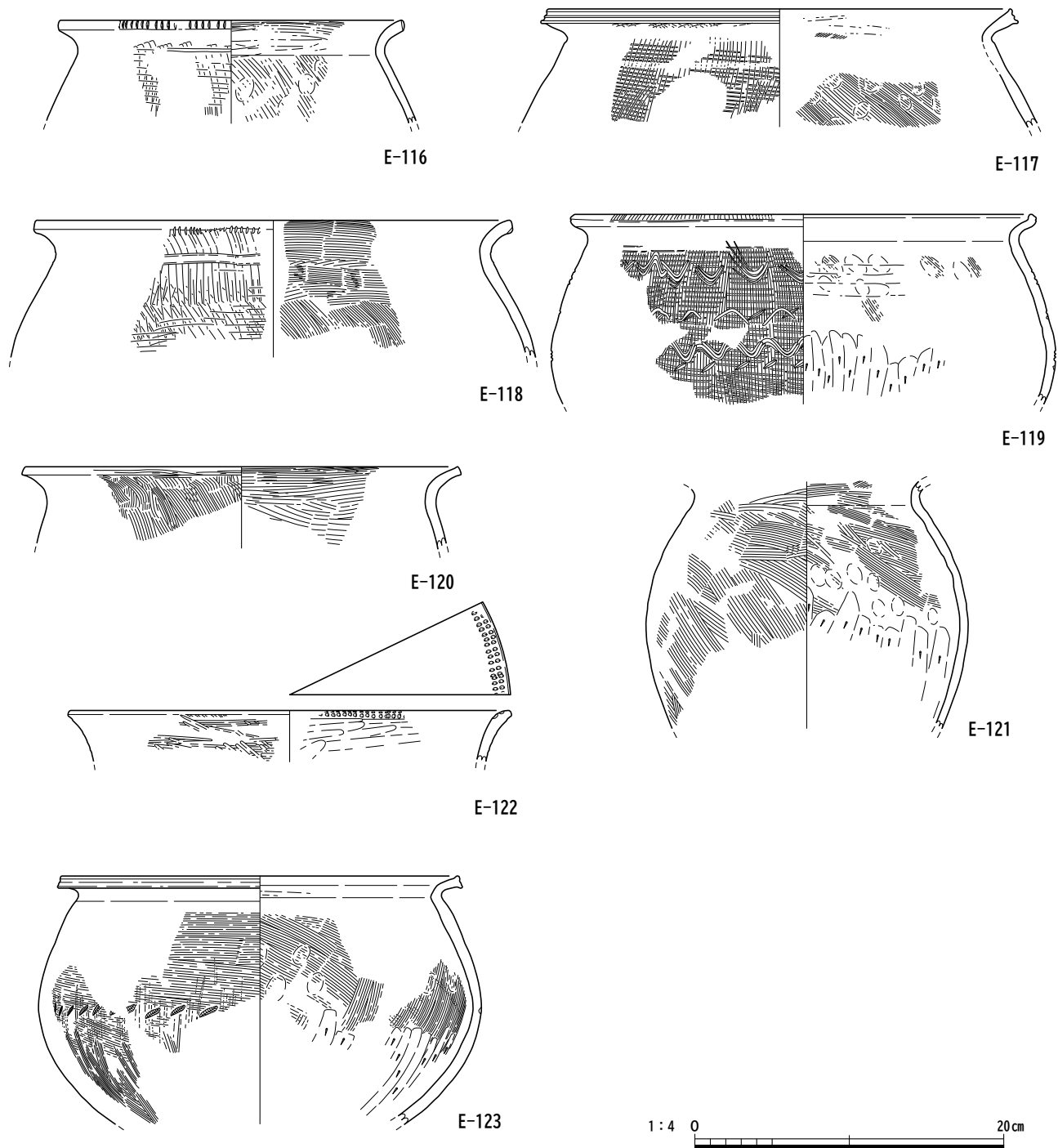
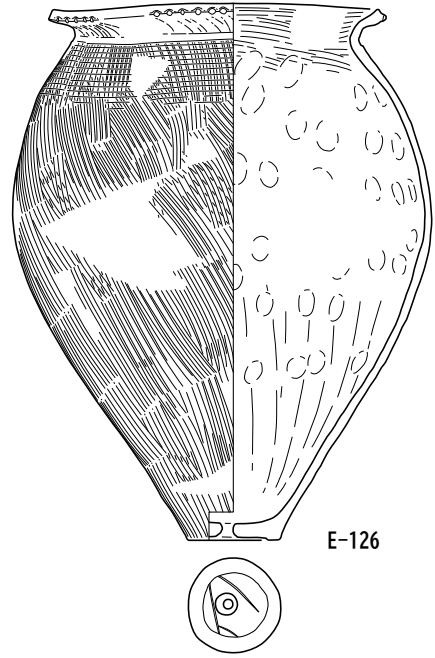
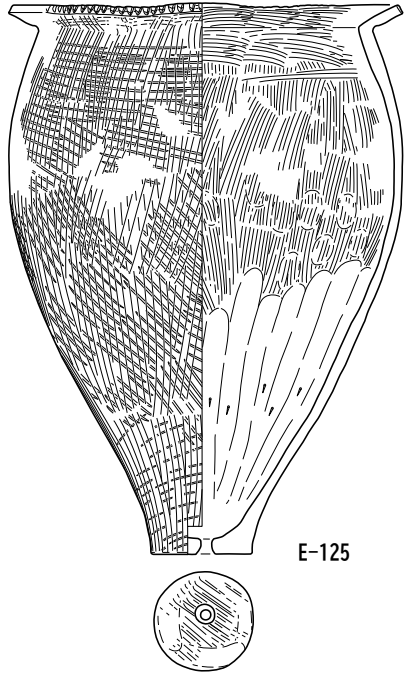
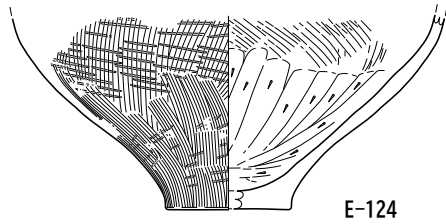
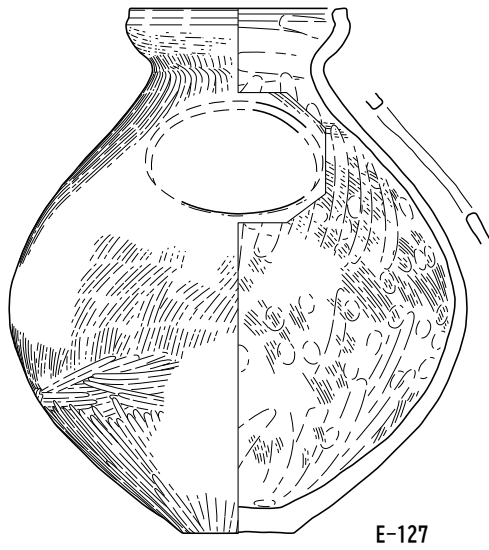


図 3-15 2019 年度調査出土土器 -4 (S-1:4)

012SK



013SK



400NR

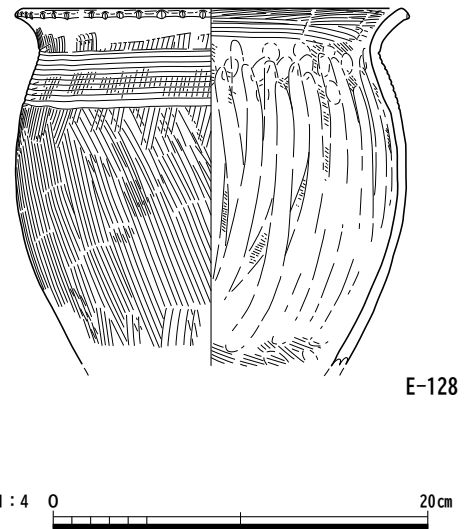
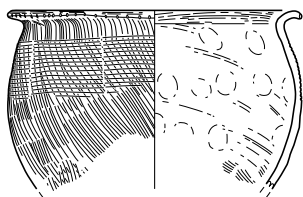


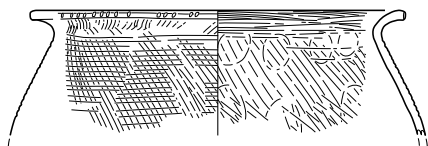
図 3-16 2021 年度調査出土土器 -1 (S-1:4)

020SK



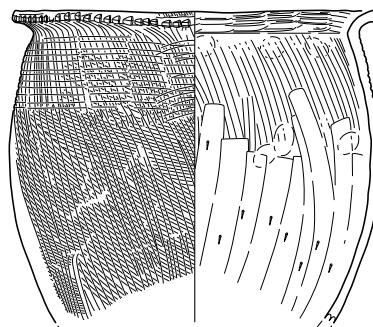
E-129

035SK



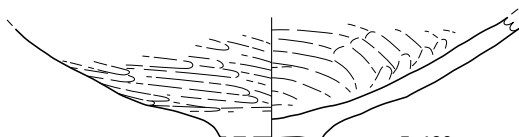
E-130

058SK

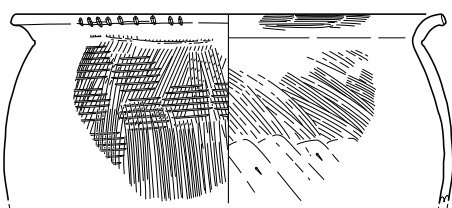


E-131

066SI



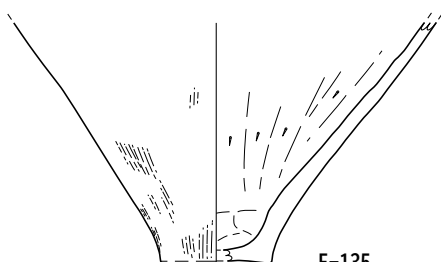
E-132



E-134



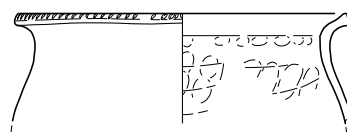
E-133



E-135

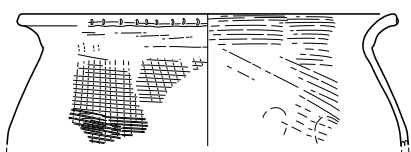


E-136



E-137

1280SI



E-138



図 3-17 2021 年度調査出土土器 -2 (S-1:4)

200SD

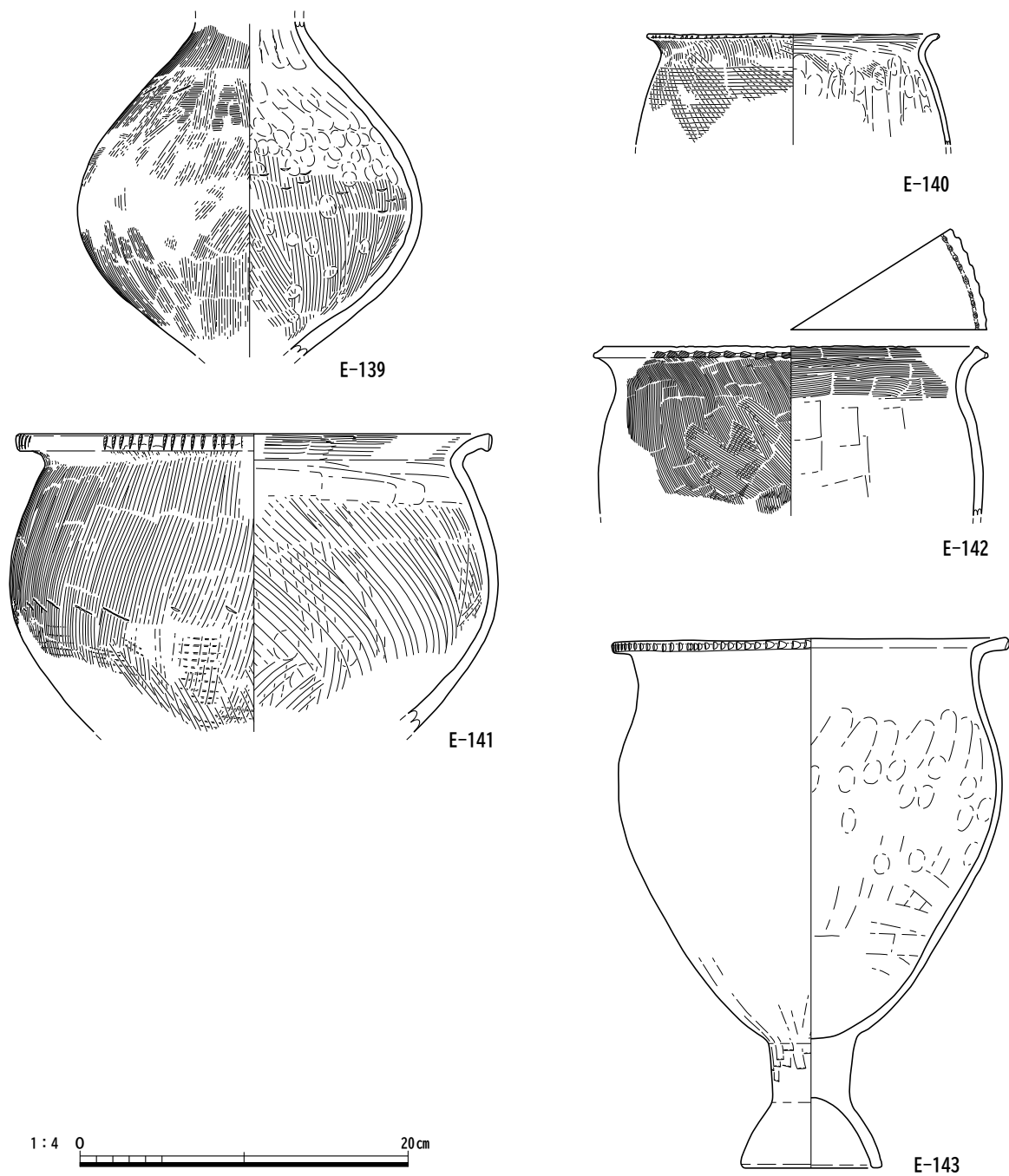


図 3-18 2021 年度調査出土土器 -3 (S-1:4)

600SD

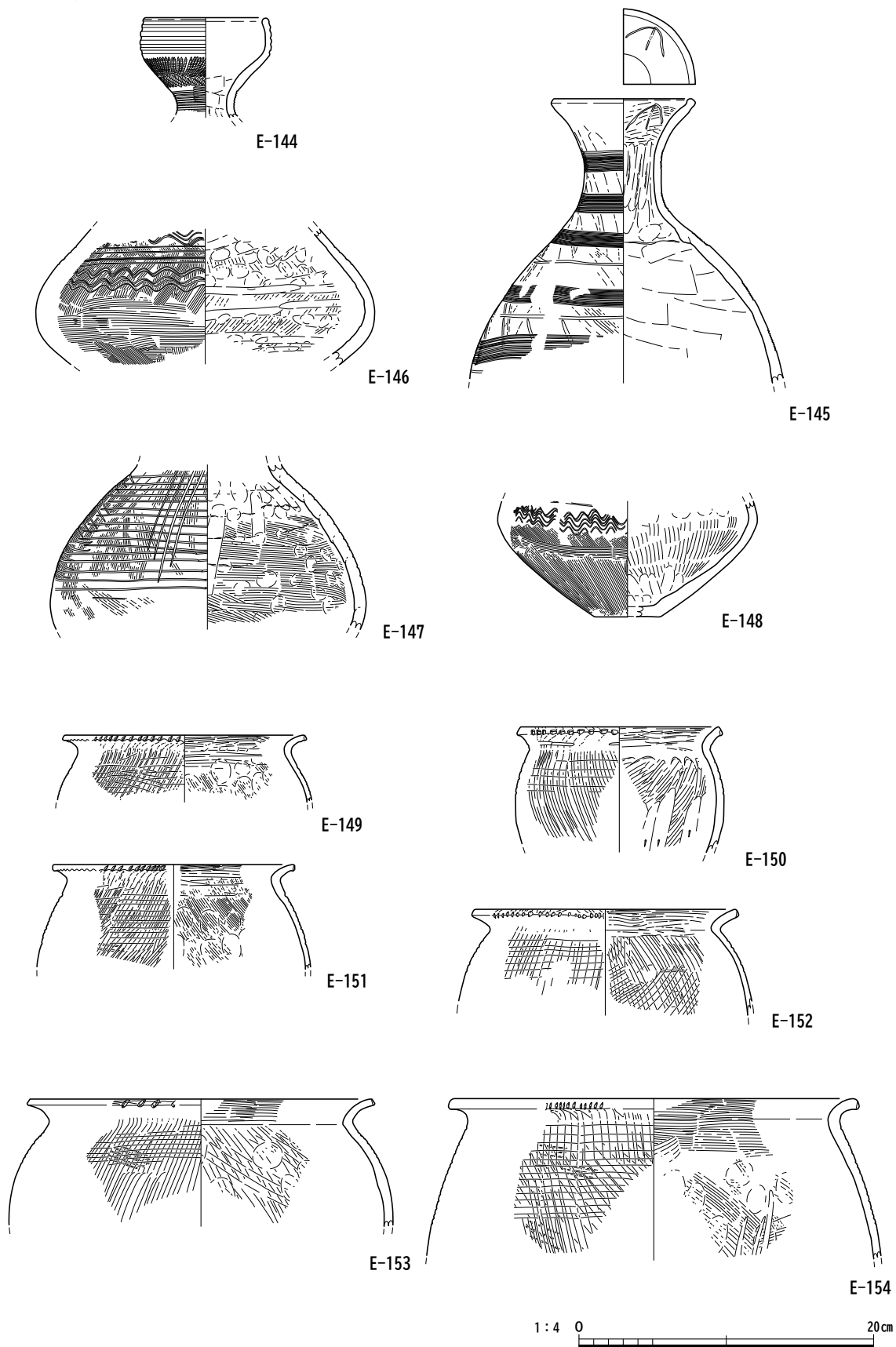
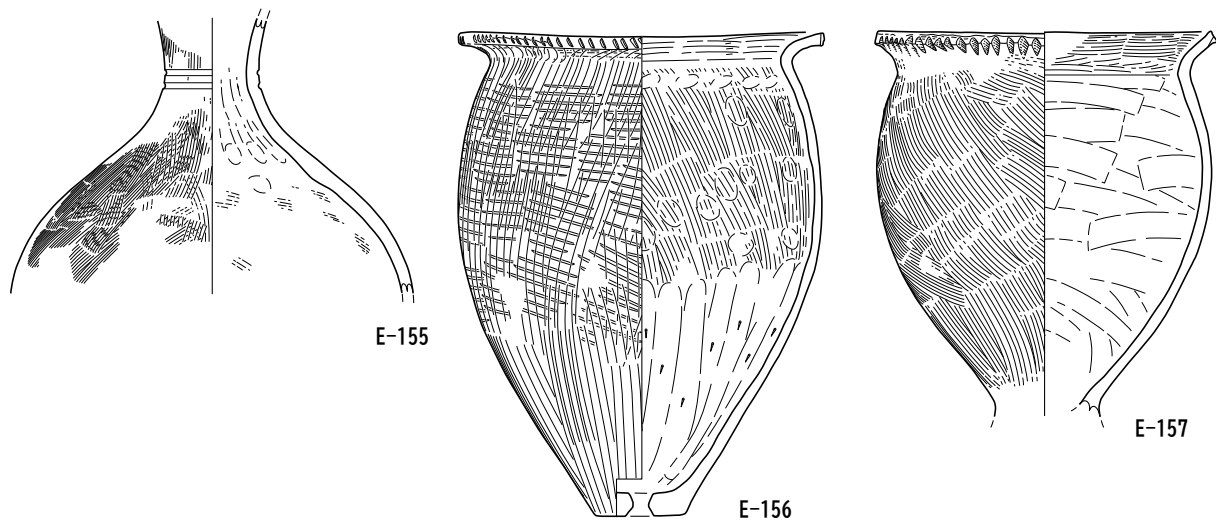


図 3-19 2021 年度調査出土土器 -4 (S-1:4)

# 400NR



## 検1(400NR 上面)

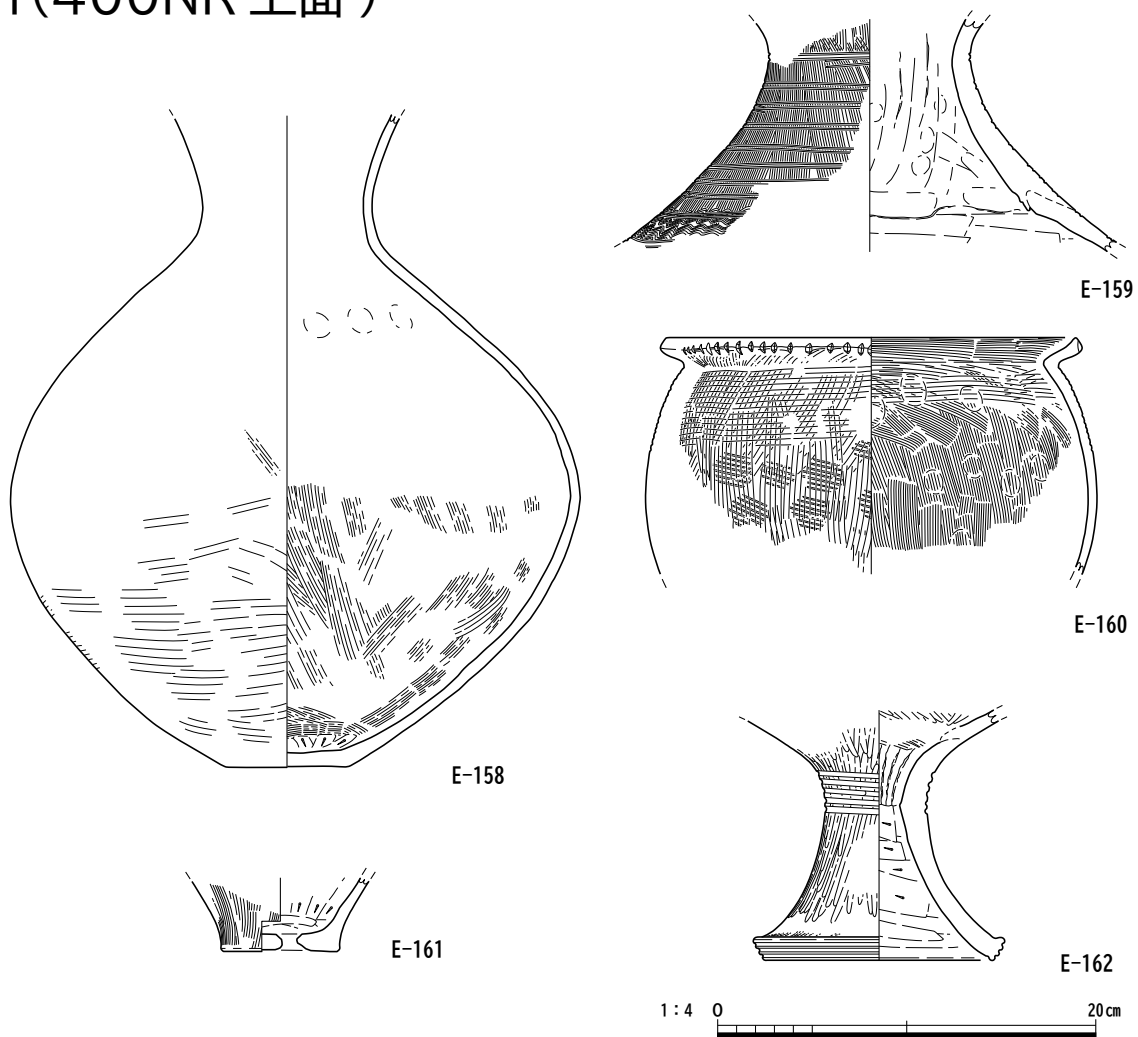
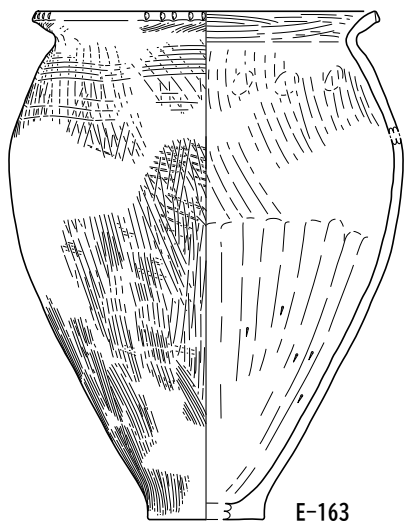
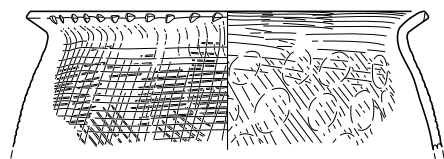


図 3-20 2021 年度調査出土土器 -5 (S-1:4)

# トレンチ2 400NR 上層

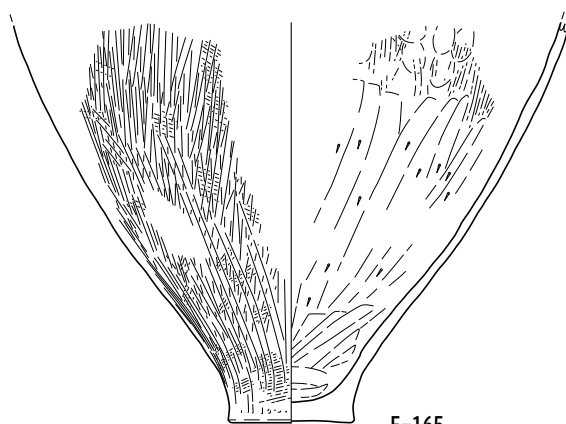


E-163



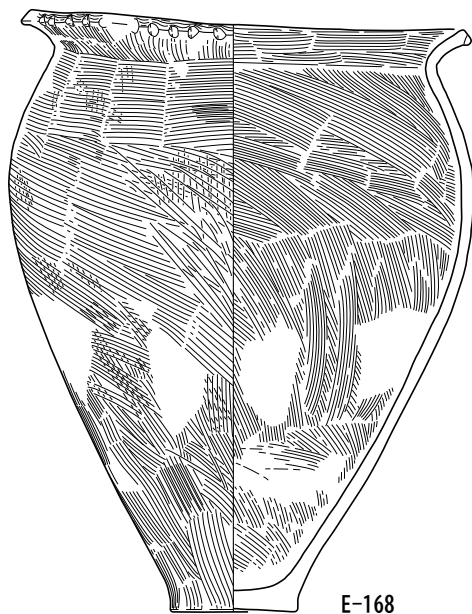
E-164

# 調査区北壁トレンチ

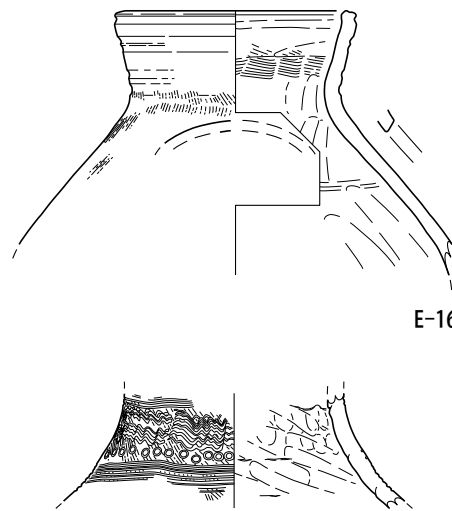


E-165

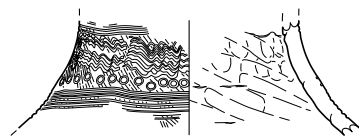
# トレンチ 1



E-168



E-166

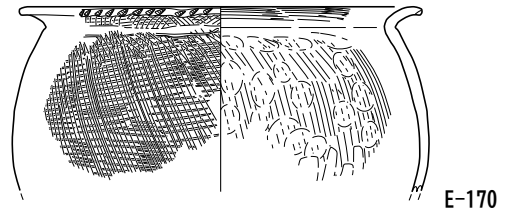
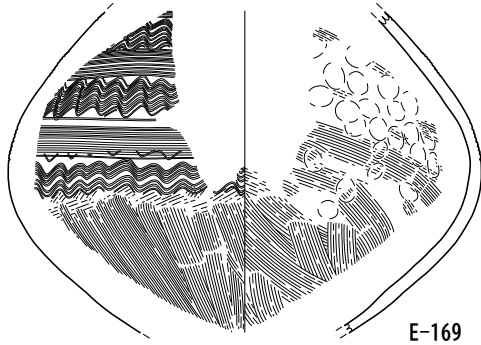


E-167

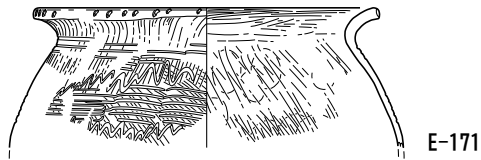


図 3-21 2021 年度調査出土土器 -6 (S-1:4)

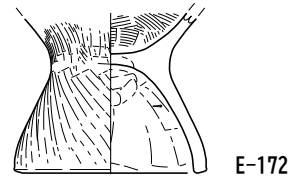
009SK



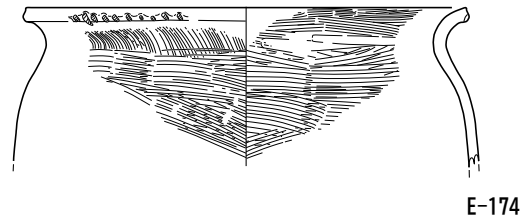
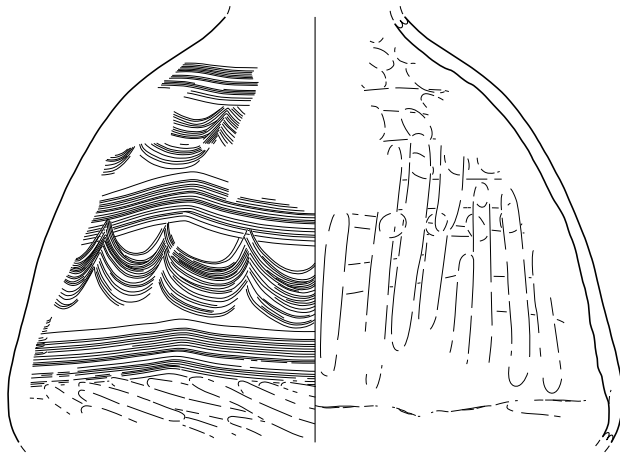
016SK



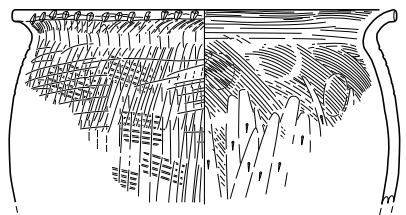
050SD



044SI



053SI



東側アゼ (053SI) 051SI・053SI

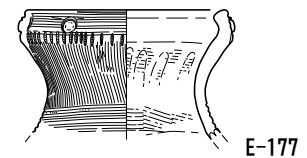
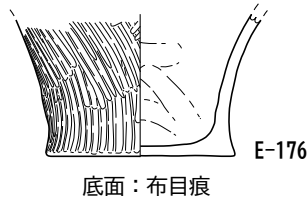
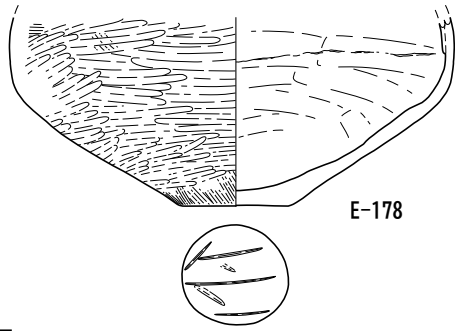


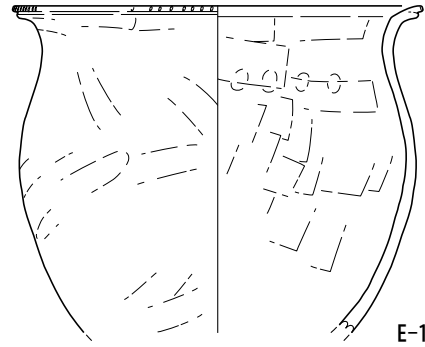
図 3-22 2023 年度調査出土土器 -1 (S-1:4)

065SI



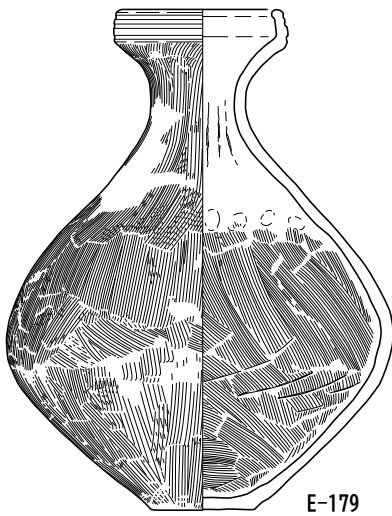
E-178

058SK

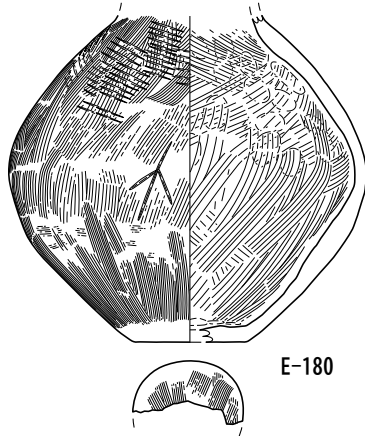


E-182

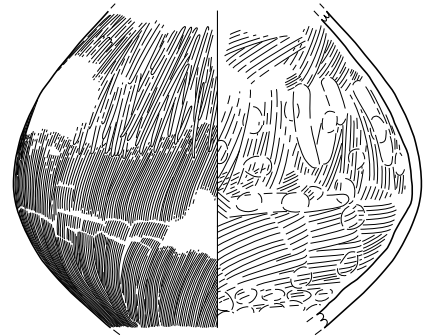
069SI



E-179

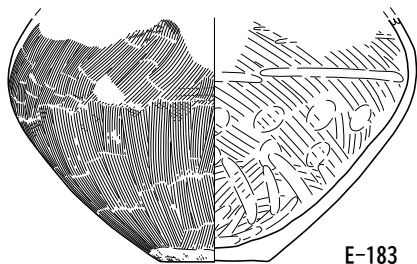


E-180

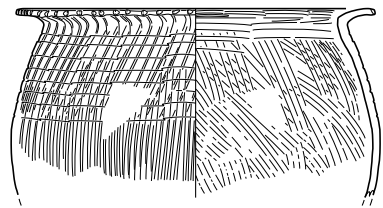


E-181

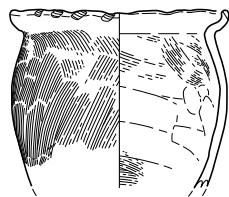
060SK



E-183

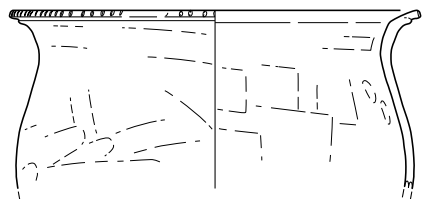


E-184



E-185

061SK



E-186



図 3-23 2023 年度調査出土土器 -2 (S-1:4)



E-1



E-2



E-3



E-4



E-5



E-6



E-7



E-8



E-9



E-10

图 3-24 一色青海遺跡 出土土器 写真図版-1



E-11



E-12



E-13



E-14



E-15



E-16



E-17



E-18



E-19



E-20

图 3-25 一色青海遺跡 出土土器 写真図版 -2



E-21



E-22



E-23



E-24



E-25



E-26



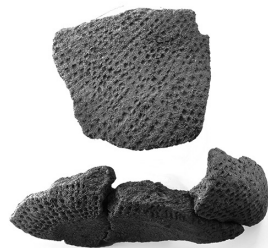
E-27



E-28



E-29



E-30

图 3-26 一色青海遺跡 出土土器 写真図版 -3



E-31



E-32



E-33



E-34



E-35



E-36



E-37



E-38



E-39



E-40

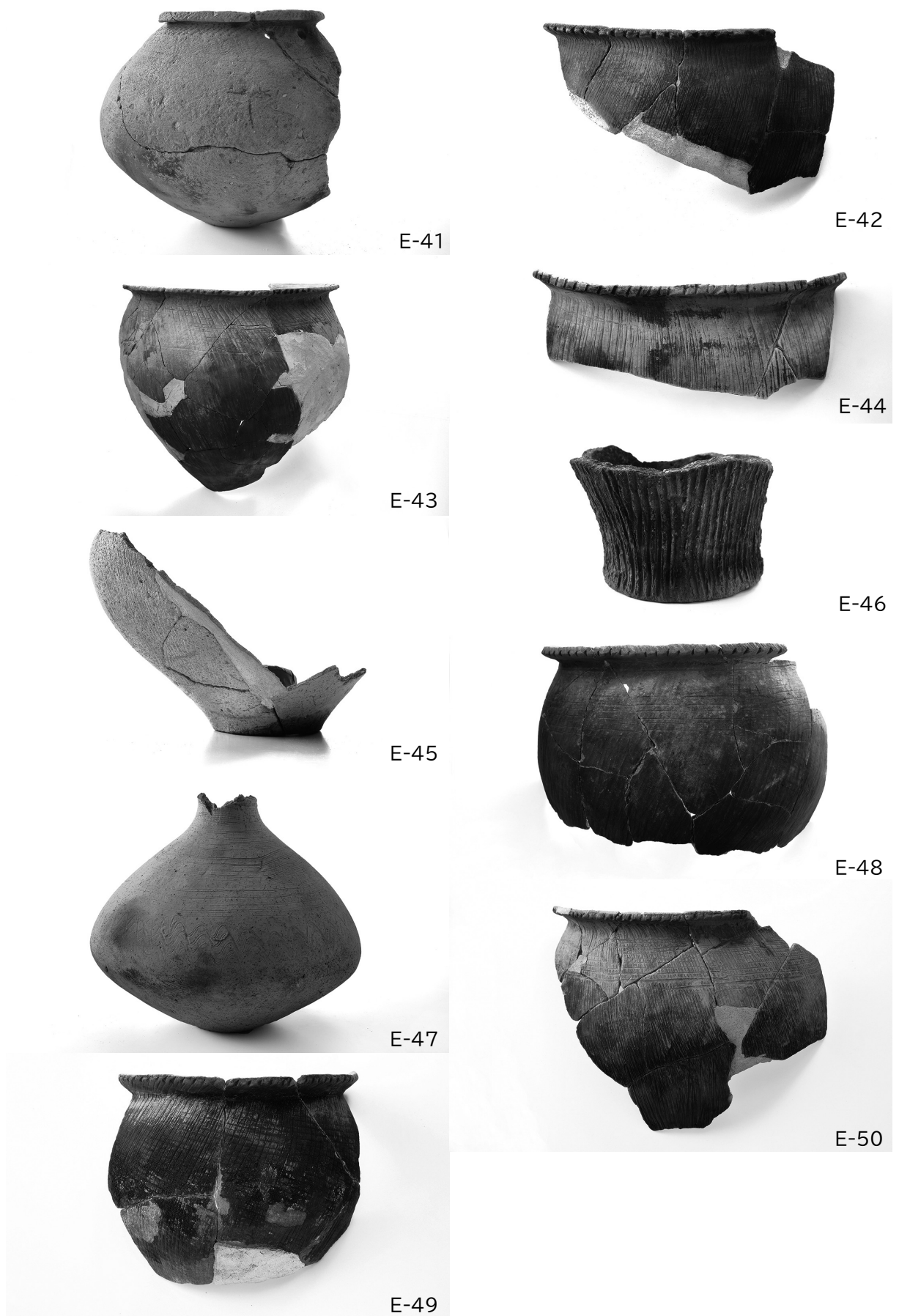


图 3-28 一色青海遗迹 出土土器 写真图版 -5



E-51



E-52-1



E-53



E-52-2



E-55



E-54



E-57



E-56



E-58



E-59



E-60

图3-29 一色青海遺跡 出土土器 写真図版-6



E-61-1



E-61-2



E-63



E-65



E-67



E-69



E-62



E-64



E-66

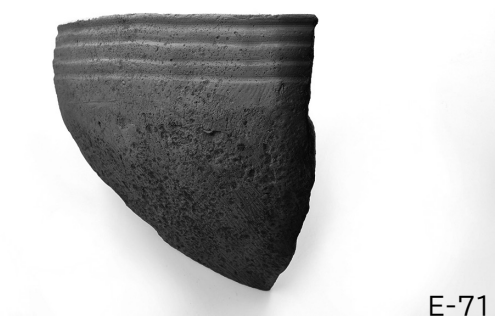


E-68



E-70

图 3-30 一色青海遺跡 出土土器 写真図版-7



E-71



E-72



E-73



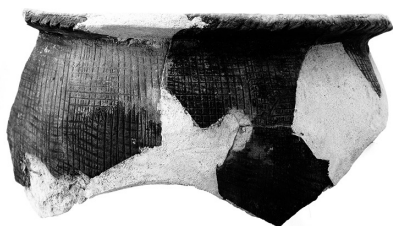
E-74



E-75



E-76



E-77



E-78



E-79



E-80

图 3-31 一色青海遺跡 出土土器 写真図版-8

## 第2節 石器

### 1. 18区出土石器

#### 175SD 出土石器

S-1は磨製石鏃。石材は泥岩である。S-2とともに175SDより出土したが、175SDは山茶碗破片などが検出される中世以降の溝であり、本来は020SZや021SD等に埋没していたものと考えられる。S-2は磨石敲石類。上下両端には敲打痕、側方には磨滅痕が認められる。石材は濃飛流紋岩であり、河原石を用いている。

#### 185SD 出土石器

S-3は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。185SDは175SDに繋がる溝状の遺構であり、遺構の本来の時期は175SD同様中世以降と考えられる。S-3も元は北側の279SI、280SKに由来するものが185SDの埋没に伴い混入したと考えられる。

#### 018SK 出土石器

S-4は石錐。石材は安山岩（下呂石）。出土した018SKはいわゆる中世方形土坑であり、018SKより下層の020SZに由来するものと考えられる。

#### 010SZ 出土石器

S-5は砥石。石材は凝灰質砂岩。表裏両面に磨滅痕が認められる。S-6は砥石。石材は凝灰質砂岩。表裏両面に溝状に磨滅痕が認められる。S-5・7は010SZのマウンド盛土で検出された。これらの出土位置の下層の308SIに由来する可能性もある。S-7は磨石敲石類。石材はホルンフェルスである。下端と上方表裏に敲打痕、側方には磨滅痕が認められる。

#### 001SD 出土石器

S-8は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。S-9は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。ほぼ全面に磨滅痕が認められる。

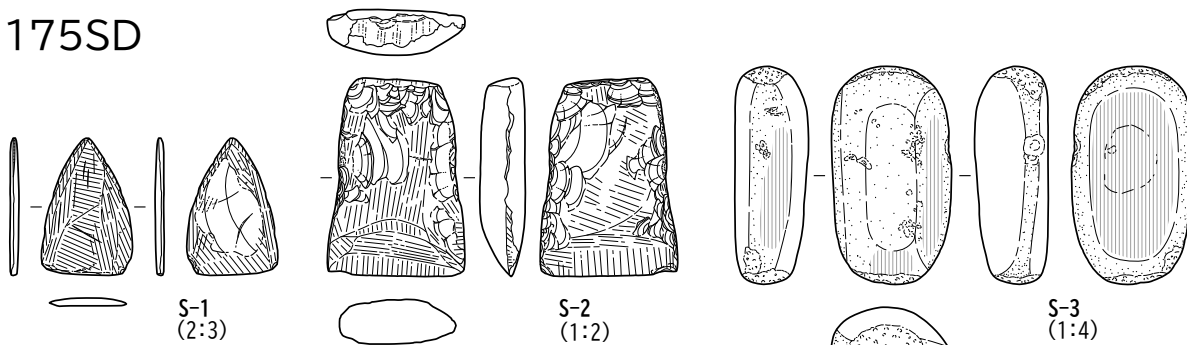
#### 002SD 出土石器

S10は磨製石鏃の製作途上品である。石材はチャートである。S-8～10はいずれも010SZの周溝001SD・002SDより出土した。これらは010SZの墳丘盛土や、その下層の302SI等に由来する可能性もある。

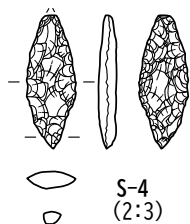
#### 021SD 出土石器

S-11は打製石鏃である。石材はチャートである。茎部端のみ欠損する。S11～14は方形周溝墓020SZの周溝021SDから出土した。020SZの墳丘盛土や074SI・079SI等に由来する可能性がある。S-12は柱状片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。基部と刃部端を欠損する。S-13は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩。目立つ敲打痕は無く、全面に磨滅痕が認められる。S-14は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。目立つ敲打痕は無く、全面に磨滅痕が認められる。

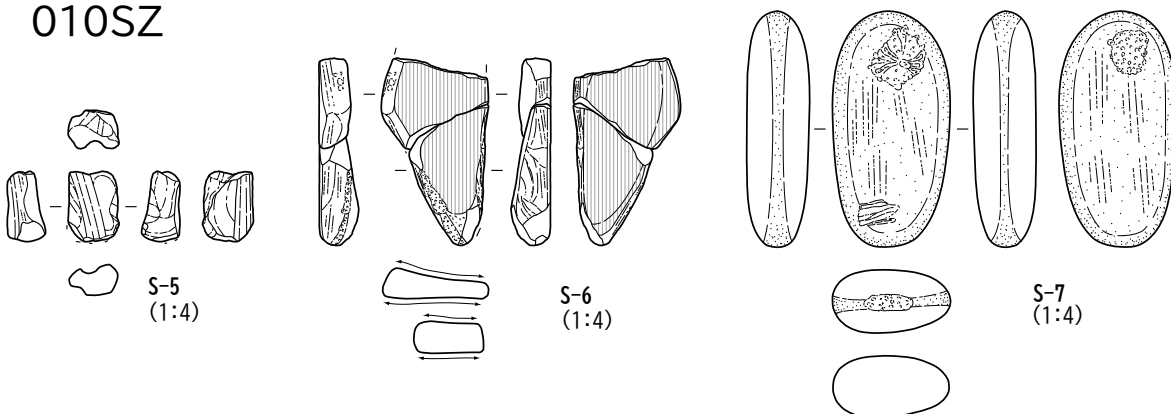
175SD



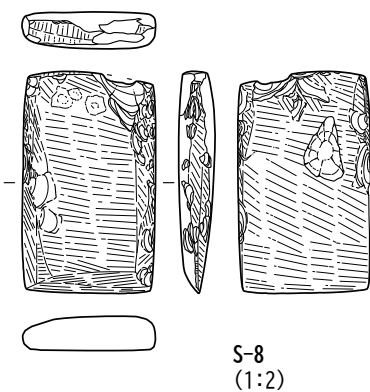
018SK



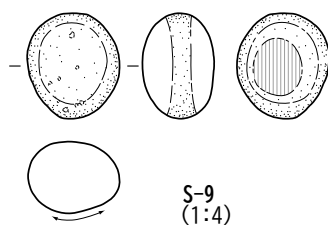
010SZ



001SD(c 区)



001SD(d 区)



002SD

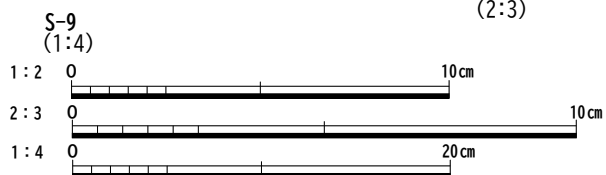
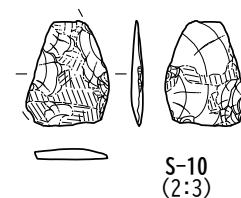
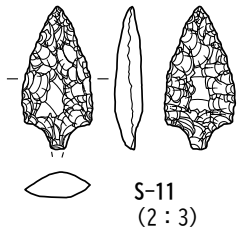


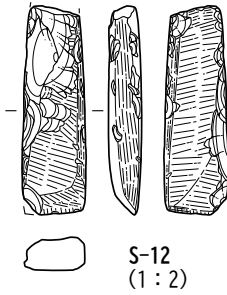
图 3-32 一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -1

021SD(c 区)



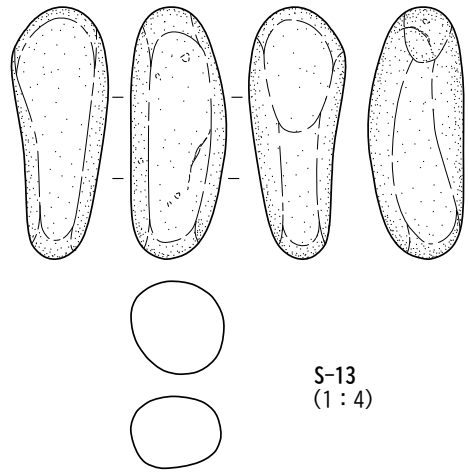
S-11  
(2:3)

021SD

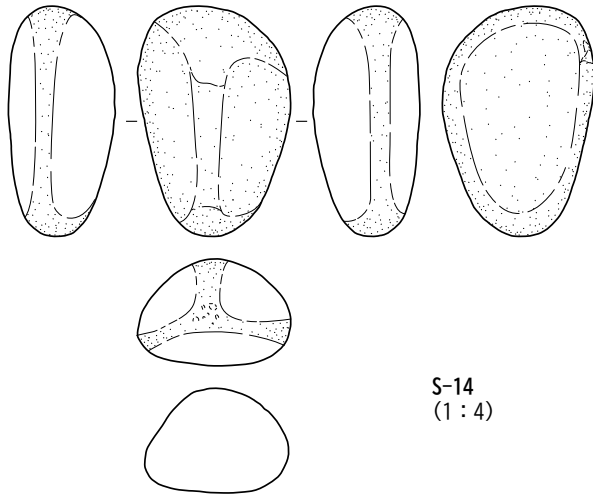


S-12  
(1:2)

021SD(b 区)

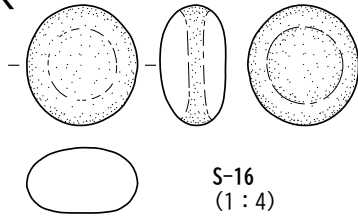


S-13  
(1:4)

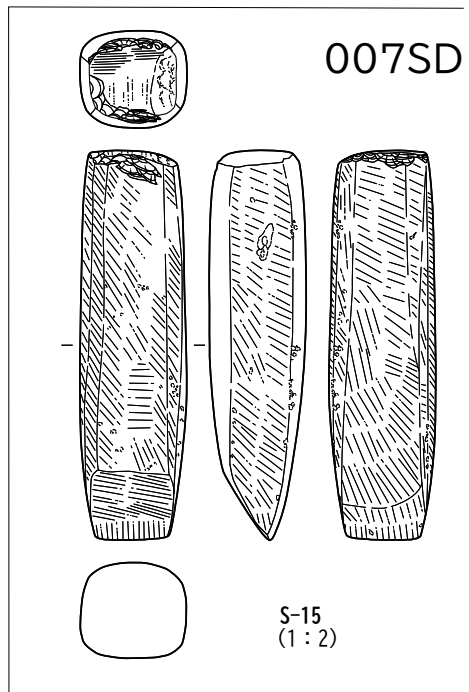


S-14  
(1:4)

240SK



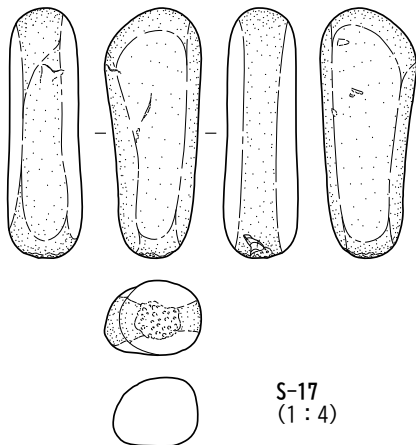
S-16  
(1:4)



007SD

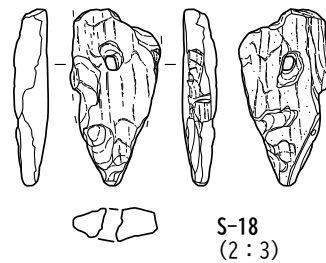
S-15  
(1:2)

279SI



S-17  
(1:4)

306SX(c 区)

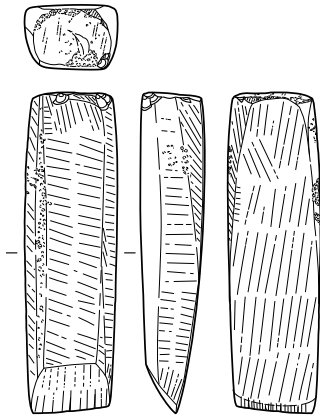


S-18  
(2:3)

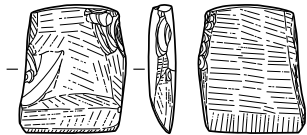


图 3-33 一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -2

302SI(d区)

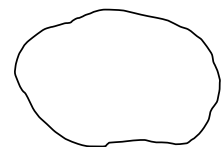
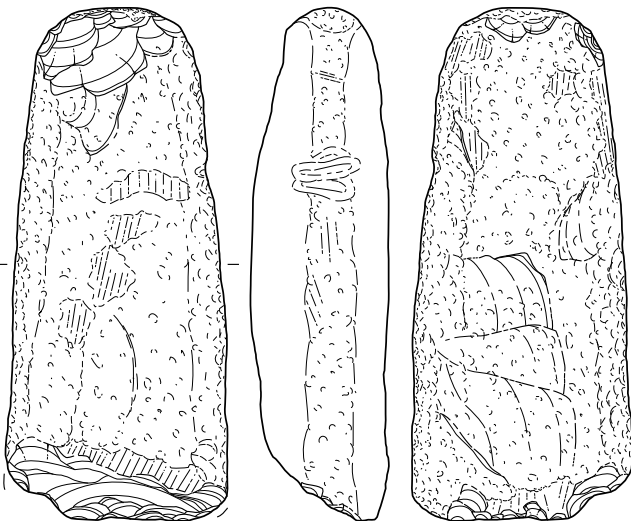
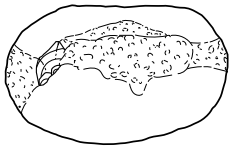


S-19  
(1:2)



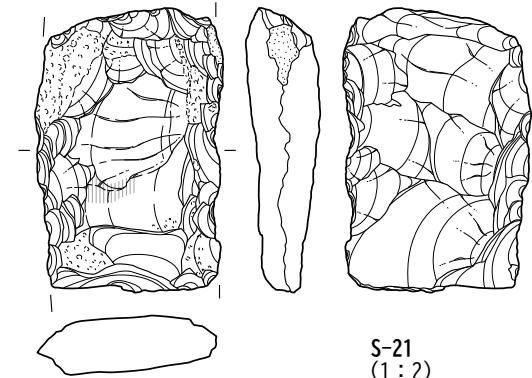
S-20  
(1:2)

362SK



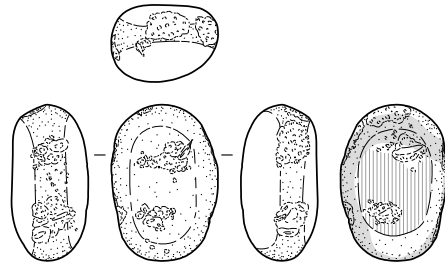
S-24  
(1:2)

302SI(b区)

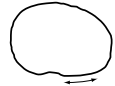
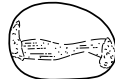


S-21  
(1:2)

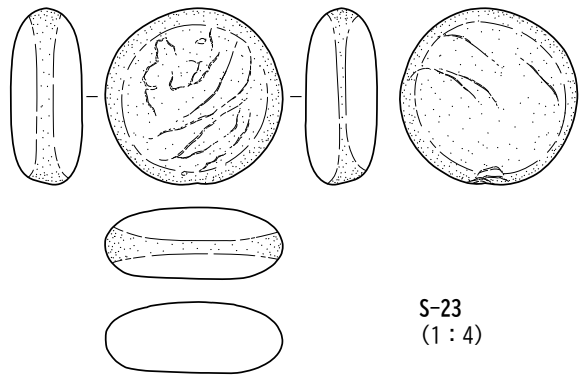
302SI



S-22  
(1:4)



302SI(a·b区)間畔



S-23  
(1:4)



图 3-34 一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -3

#### 007SD 出土石器

S-15 は柱状片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。出土した 007SD は 18 区の北東端に位置し、93A 区で検出された SZ07 の周溝に連続する遺構である。

#### 240SK 出土石器

S-16 は磨石敲石類。石材は安山岩である。円形の扁平な形状であり、全面に磨滅痕が認められる。

#### 279SI 出土石器

S-17 は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。下端に敲打痕、全面に磨滅痕が認められる。

#### 306SX 出土石器

S-18 は不明石器で石材は結晶片岩。穿孔は自然によるものだが、一色青海遺跡では木曾川の下流域にあたることからほぼ石材は存在せず、何らかの形で選択され搬入されたものと考えられる。

#### 302SI 出土石器

S-19 は柱状片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。出土位置は 302SI 中央南寄り。S-20 は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。302SI 南東部より出土。S-21 は製作途上品。石材はハイアロクラスタイトである。302SI 北東部、302SI の北側縁辺部より出土。S-22 は磨石敲石類。石材は安山岩である。表裏面、上下両端、側方に敲打痕、表面、側方に磨滅痕が認められる。側面は被熱し煤が付着する。302SI 南西部より出土。S-23 は磨石敲石類。石材はホルンフェルスである。表裏面、側方に磨滅痕が認められる。302SI 北側縁辺部、土器 E-64・65 と重なった下で検出された。

#### 362SK 出土石器

S-24 は太型蛤刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。先端は使用により欠損する。出土位置は 362SK の直上であるが、302SI の埋土中に含まれていた。

#### 330SI 出土石器

S-25 は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。303SI 北西角より出土。S-26 は台石・砥石類。石材は砂岩である。表面に磨滅痕が認められる。303SI 南東角部の縁辺より出土。S-27 は磨石敲石類。石材は砂質凝灰岩である。表裏面は破断し、側面に磨滅痕が認められる。被熱する。

#### 305SK 出土土器

S-28 は不明石器。石材は結晶片岩である。S-1822 と同様に穿孔は自然のものだが、中央の孔は貫通していない。

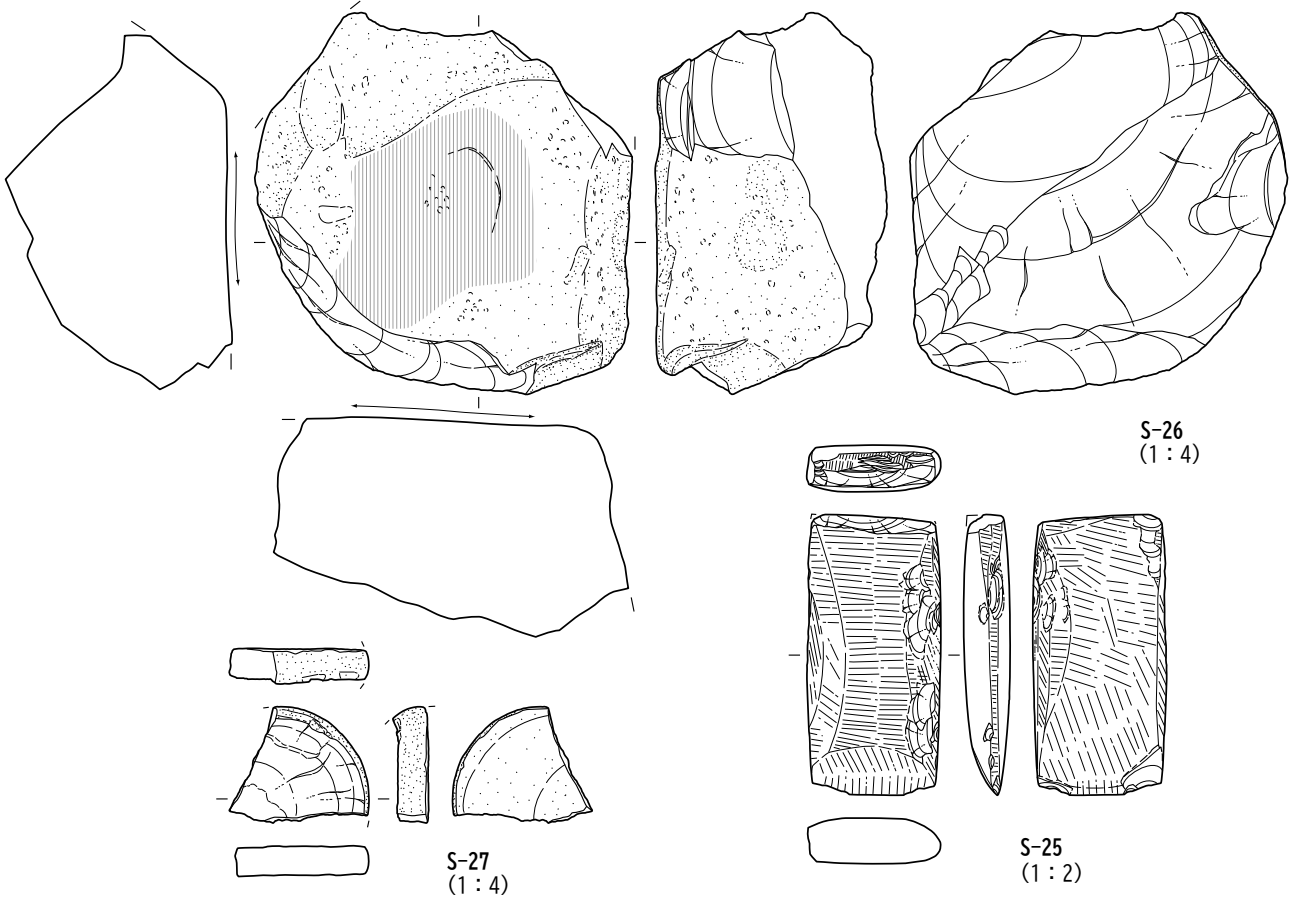
#### 308SI 出土石器

S-29 は石錐。石材は泥岩である。上部を欠損する。

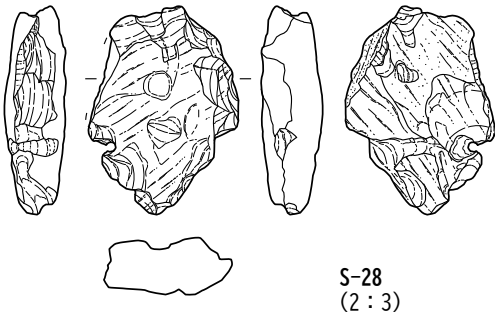
#### 200SD(18 区) 出土石器

S-30 は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。刃部の一部のみ残存する。S-31 は太

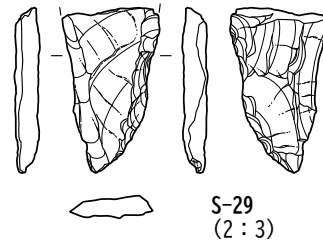
330SI



305SK(d 区)



308SI(a 区)



200SD

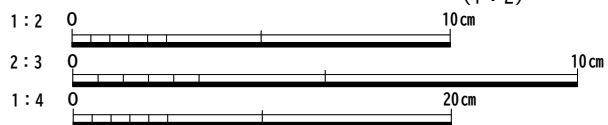
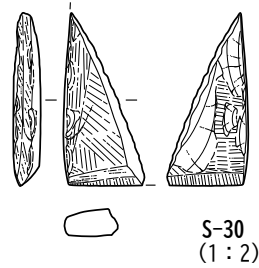
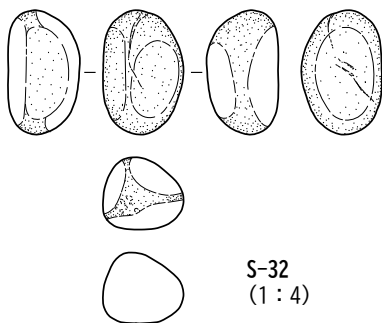
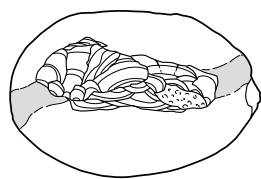
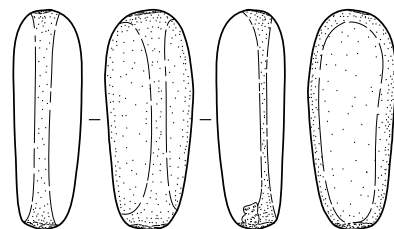
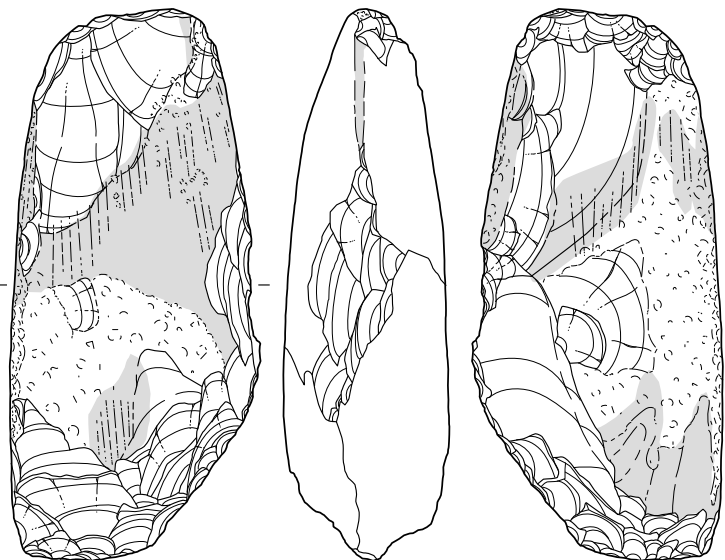


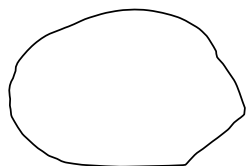
图 3-35 一色青海遺跡 2018 年度出土石器-4



200SD

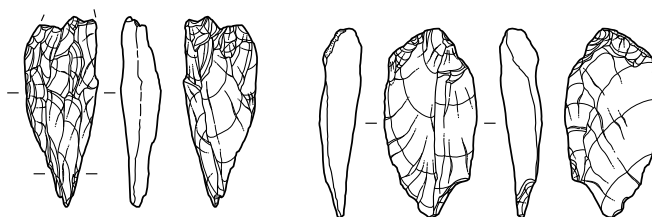


S-33  
(1:4)



S-31  
(1:2)

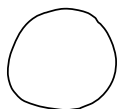
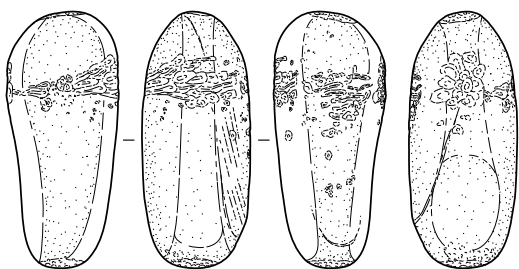
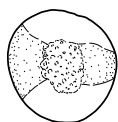
234SK



S-34  
(2:3)

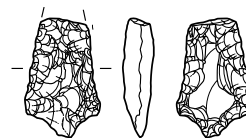


S-35  
(2:3)



S-37  
(1:4)

検出 2



S-36  
(2:3)

1:2 0 10cm

2:3 0 10cm

1:4 0 20cm

図 3-36 一色青海遺跡 2018 年度出土石器 -5

型蛤刃石斧の製作途上品である。石材は塩基性岩である。製作工程上の摩耗が表裏面に認められる。S-32は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。下端に敲打痕が認められ、敲打痕周辺に煤が付着する。全面に磨滅痕が認められる。S-33は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。上下端に敲打痕、全面に磨滅痕が認められる。

#### 234SK 出土石器

S-34は剥片。石材はホルンフェルスである。234SKは土器焼成土坑の可能性があり、S-34・35は埋土へ混入したとみられる。S-35は剥片。石材は安山岩（下呂石）である。製作途上品である。

#### 18区検出(400NR上)出土石器

S-36は打製石鏃。石材はチャートである。上半部を欠損する。出土位置は400NR上に位置する。

#### 18区検出(330SI上)出土石器

S-37は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。上下端に敲打痕、中央上の全周に細かな敲打痕、全面に磨滅痕が認められる。出土位置は330SI南東角にあたるが、010SZの盛土内に含まれていた。

### 2. 19区出土石器

#### 094SK 出土石器

S-38は砥石。石材は砂岩である。表面に磨滅痕が認められる。

#### 200SD(19区)出土石器

S-39は磨石敲石類。石材は閃緑岩である。剥落が激しいが全面に磨滅痕が認められる。S-40は台石。石材は濃飛流紋岩である。大きく欠損する。残存する全ての面に磨滅痕が認められる。表面には全面、側面と裏面にはわずかに煤の付着が認められる。

#### 600SD(19区)出土石器

S-41は剥片。石材は安山岩である。製作途上品の可能性もある。S-42は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。各所に剥離が認められる。加工途中の可能性もある。S-43は磨製石斧。石材はハイアロクラスタイトである。二次加工途中とみられる。

#### 400NR(19区)出土石器

S-44は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。剥離面に顕著な磨滅痕がみられ、二次加工途中とみられる。S-45は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。上下両端に敲打痕、胴部各所に小さな敲打痕。全面に磨滅痕が認められる。S-46は磨石敲石類。石材は濃飛流紋岩である。裏面に擦痕、全面に磨滅痕が認められる。S-47は柱状片刃石斧である。石材はハイアロクラスタイトである。上端付近には剥離面が多く残る。400NR上面で検出された。

### 3. 21区出土石器

#### 001SK 出土石器

S-48は磨製石鏃。石材は泥岩である。表裏面に剥離が残り、製作途上とみられる。001SKは中世か

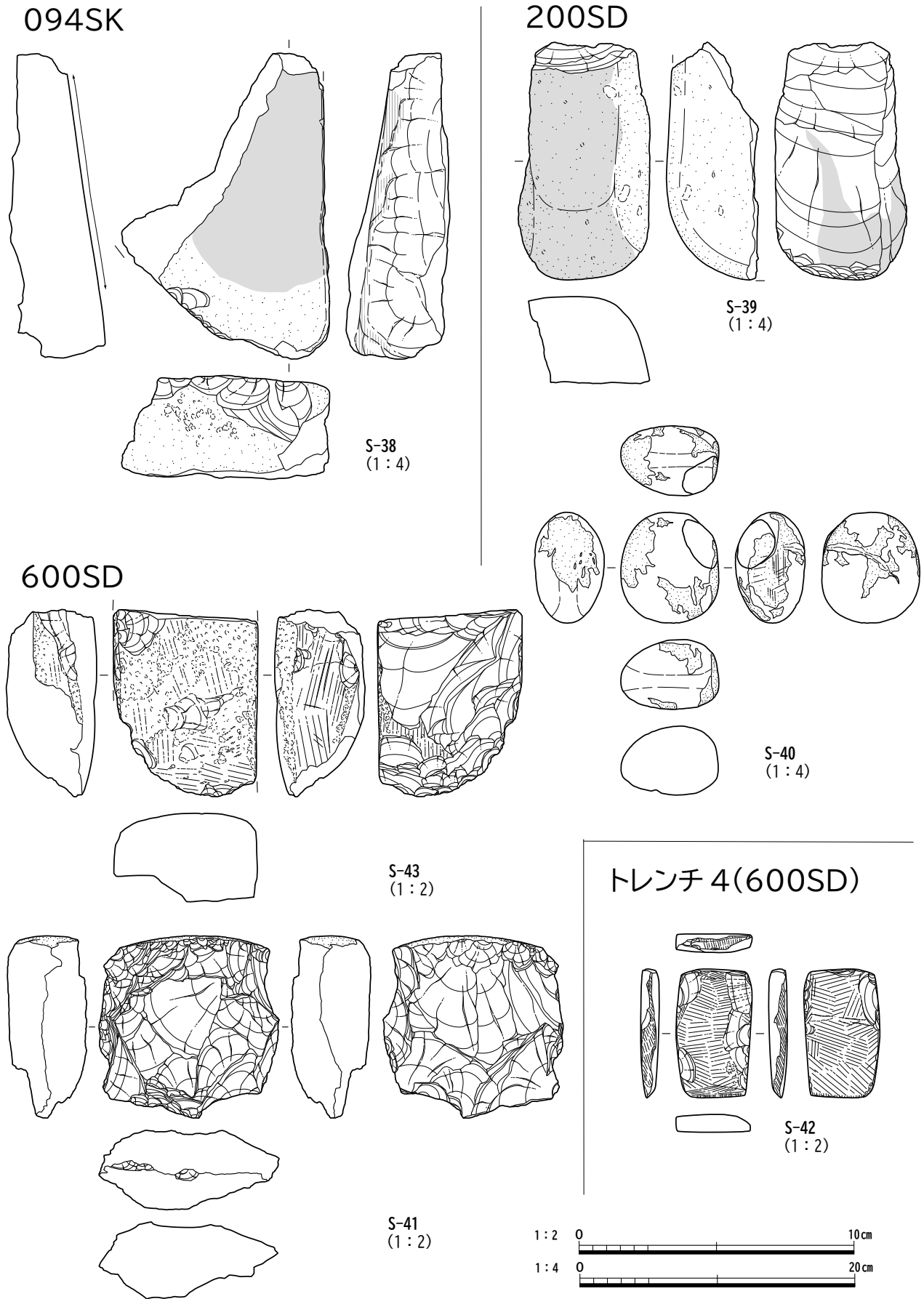


図 3-37 一色青海遺跡 2019 年度出土石器 -1

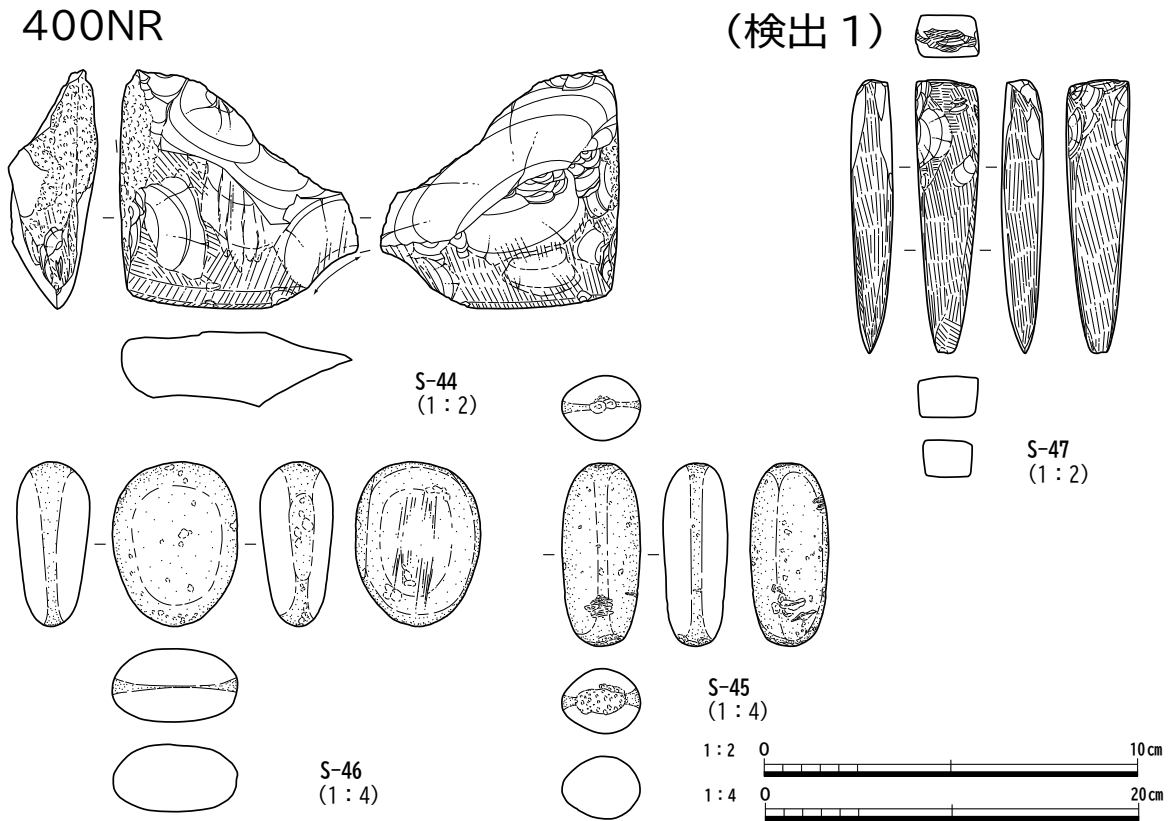


図3-38 一色青海遺跡 2019年度出土石器-2

ら近世の土坑で、S-48・49は下層の066SIに関連した遺物の可能性がある。

### 007SK 出土石器

S-50は磨石敲石類。石材は砂岩である。下半部を欠損し、側面に敲打痕、全面に磨滅痕が認められる。007SKは中世の方形土坑であるが、400NRの流路内に位置し、S-50は下層の400NRに由来する可能性がある。

### 21\_066SI 出土石器

S-51は剥片。石材はチャートである。下半部を欠損し、表面には明瞭な稜が認められる。製作途上品とみられる。S-52は台石。石材は砂岩である。上下端の一部、左側面を欠損する。表裏面に磨滅痕が認められる。

### 1280SI 出土石器

S-53は石錐。石材は安山岩（下呂石）である。

### 200SD(21区) 出土石器

S-54は両刃を持つ磨製石斧。石材はハイアロクラスタイトである。上部を大きく欠損する。二次加工途中とみられる。S-55は磨石敲石類。石材は安山岩（下呂石）である。下端および側面に敲打痕、全面に磨滅痕が認められる。S-56は磨石敲石類。石材は砂岩である。下端に敲打痕、全面に磨滅痕が認められる。

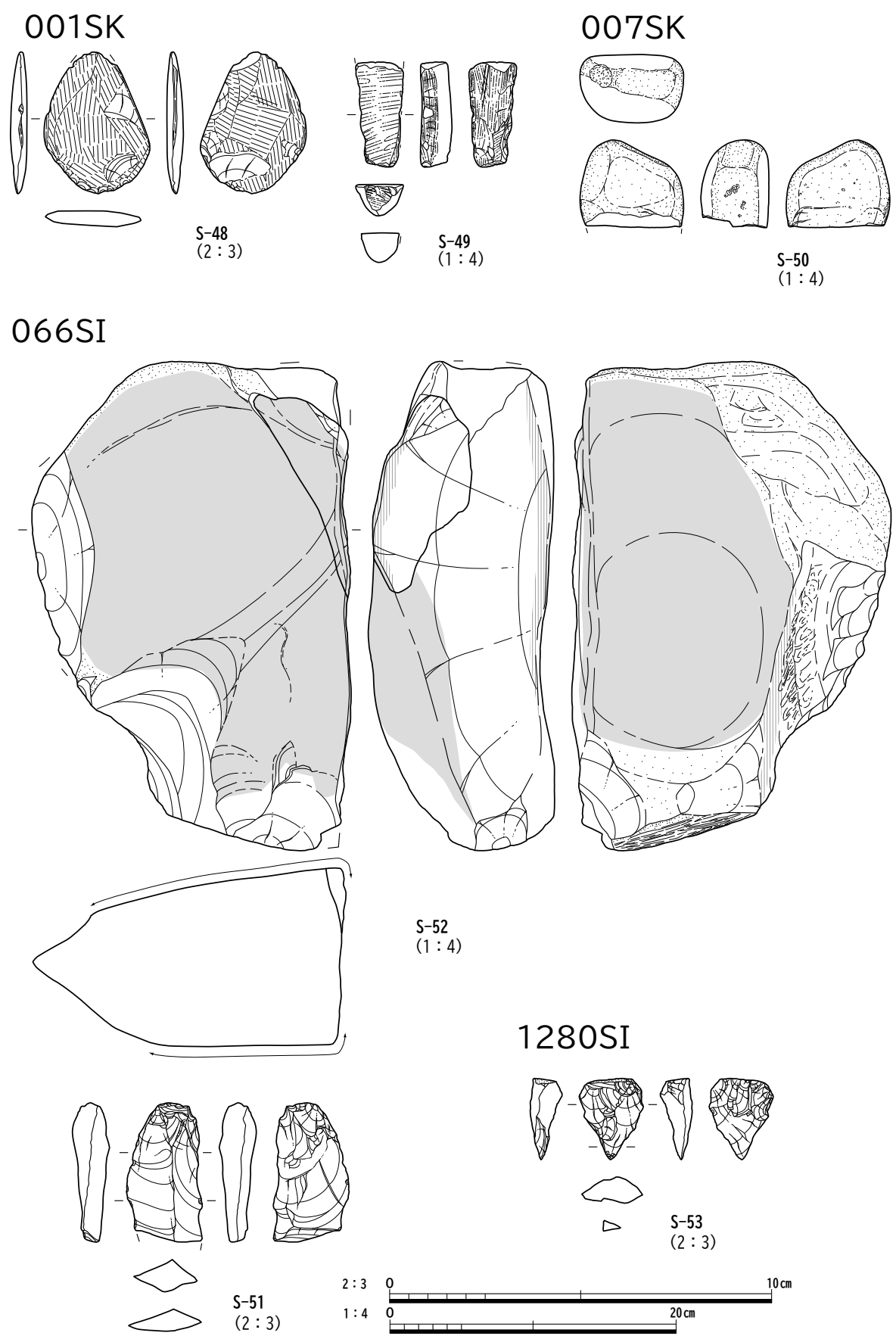


图 3-39 一色青海遺跡 2021 年度出土石器 -1

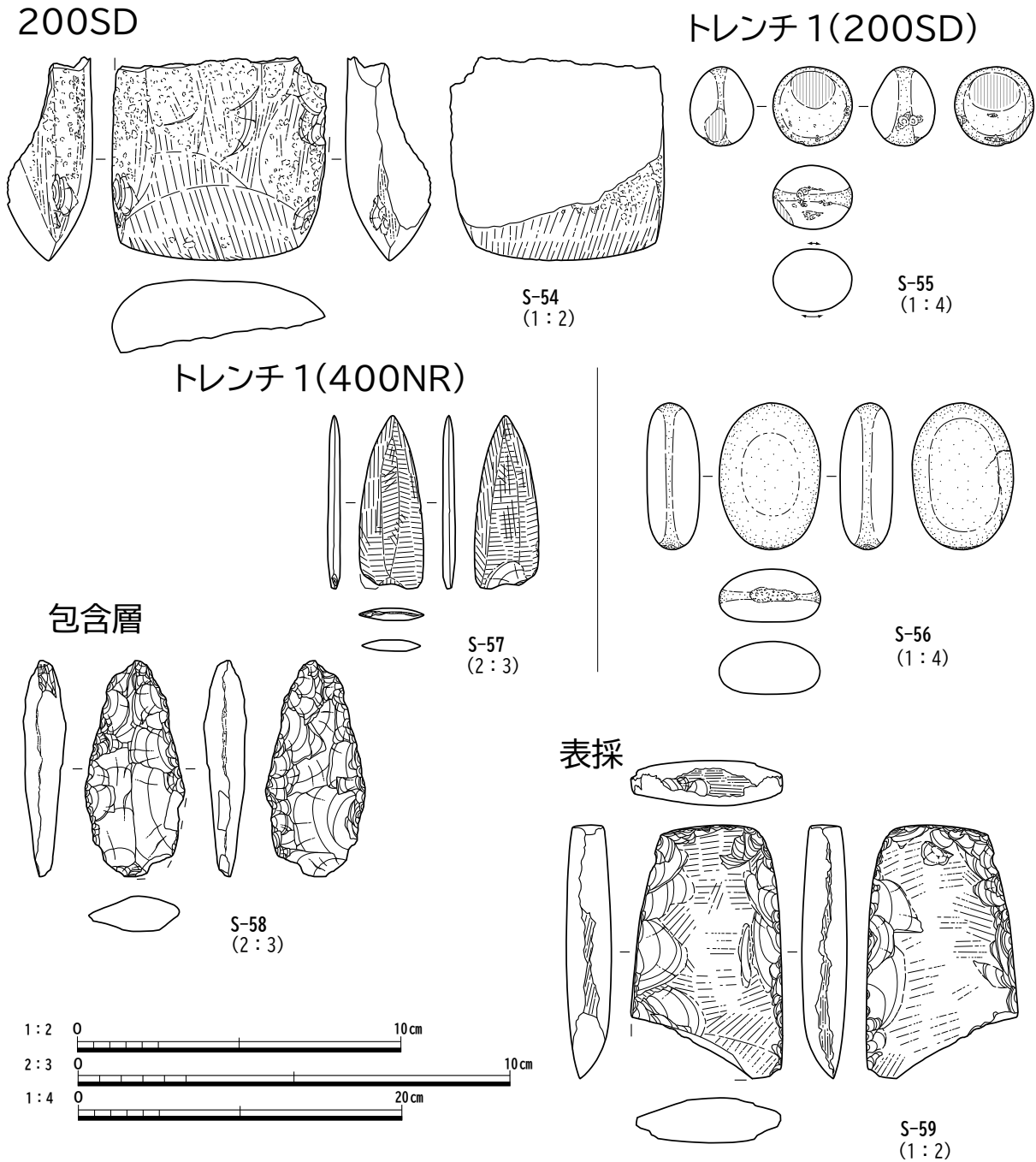


図 3-40 一色青海遺跡 2021 年度出土石器 -2

#### 400NR(21 区)

S-57 は磨製石鏃。石材は泥岩である。基部の一部をわずかに欠損する。S-58 は製作途上の打製石鏃である。石材は安山岩（下呂石）である。包含層掘削中に出土した。平面の位置は 400NR 内に該当する。

#### 表採 (21 区)

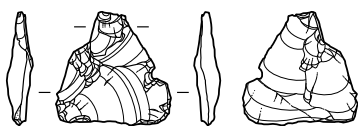
S-59 は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。下端の刃部を欠損、側面に剥離面が多く認められる。表土の重機掘削後に排土中から採取した。

009SK



S-60  
(2:3)

043SX



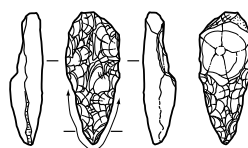
S-61  
(2:3)

053SI



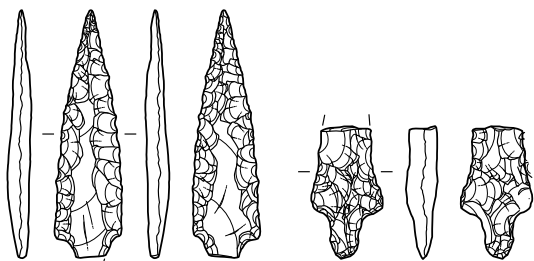
S-62  
(1:2)

065SI



S-65  
(2:3)

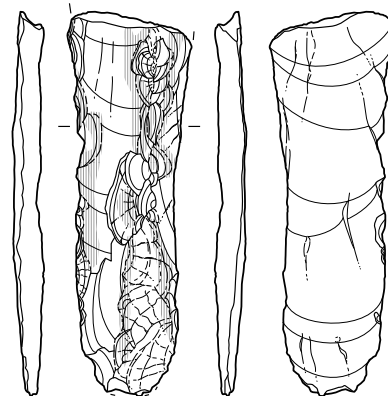
066SI



S-63  
(2:3)

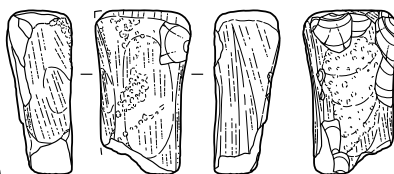
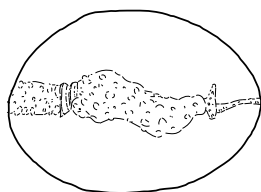
S-64  
(2:3)

061SK

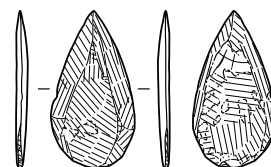
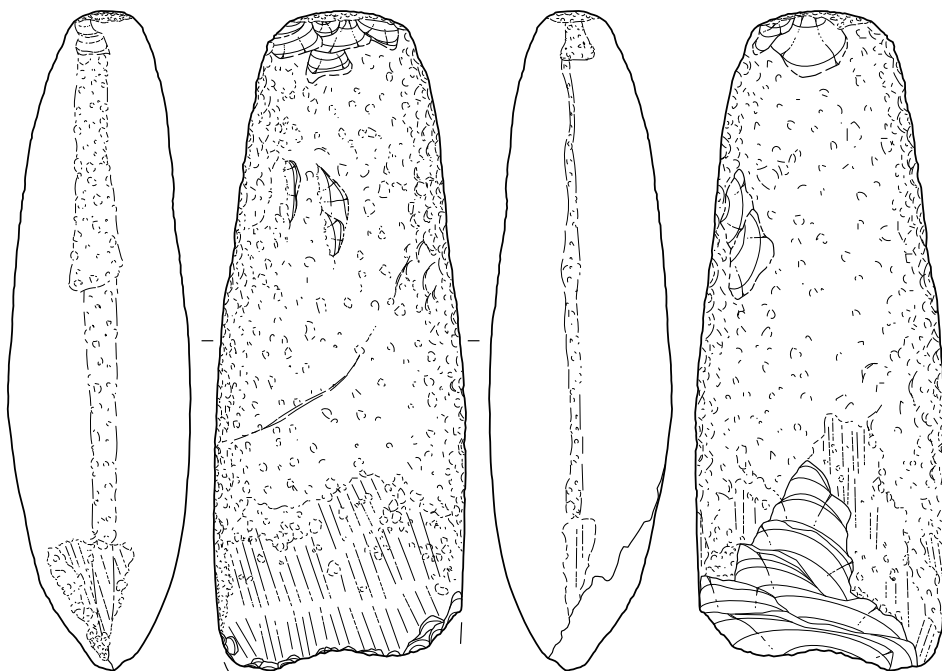


S-69  
(2:3)

069SI



S-68  
(1:4)



S-66  
(2:3)

S-67  
(1:2)

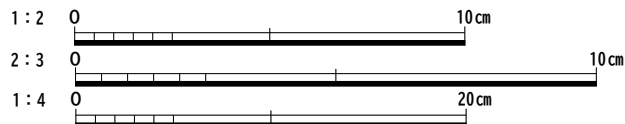
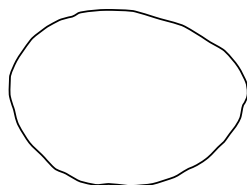


图 3-41 一色青海遺跡 2023 年度出土石器

#### 4. 23 区出土石器

##### 009SK 出土石器

S-60 は剥片。石材はチャートである。

##### 043SK 出土石器

S-61 は剥片。石材はチャートである。製作途上品とみられる。

##### 053SI 出土石器

S-62 は扁平片刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。

##### 23\_066SI 出土石器

S-63 は打製石鏃。石材は安山岩（下呂石）である。下端の茎部を欠損する。S-64 は石鏃。石材は安山岩（下呂石）? である。上部を欠損する。

##### 065SI 出土石器

S-65 は石錐。石材はチャートである。先端付近には顕著な回転痕が認められる。

##### 069SI 出土石器

S-66 は磨製石鏃。石材は泥岩である。表裏面にわずかに剥離が認められる。S-67 は太型蛤刃石斧。石材はハイアロクラスタイトである。刃部を欠損する。上部側面と表裏面にわずかに剥離が認められる。S-68 は砥石。石材は凝灰質砂岩である。下部を欠損する。破断面の他は、全面に磨滅痕が認められる。

##### 061SK 出土石器

S-69 は剥片。石材は塩基性岩である。製作途上品とみられる。061SK は土器焼成土坑と見られ、埋土へ混入したものと考えられる。

### 第3節 木器

木器は2018・21年度調査区の200SD、2019・21年度の600SD、2018・19・21年度の400NR、2018年度の002SD・274SK・302SK・305SK、2021年度の082SDから出土している。このうち200SD・600SD・400NRについては2009年度調査区の延長部分に相当するため、遺構番号も共通している。遺構の重複関係としては、自然流路400NRの埋没後に600SDを掘削し、600SDの埋没後に200SDを掘削している。

所属時期は、およそ石黒立人氏の編年による弥生時代中期後葉1期（凹線紋系1期 / 貝田町式3期）に属するが、最も新しい200SDに関しては弥生時代中期後葉2期（凹線紋系2期）の遺物も含む。2009年度出土資料のうち年輪酸素同位体比による伐採・枯死年代が判明した木質資料では、400NRから156B.C.の年代値が得られたコナラ節の自然木（樹皮直下・根付き）が、200SDから55B.C.の年代値が得られたヒノキ科の丸太（樹皮直下）が出土している（愛知県埋蔵文化財センター2014）。

この弥生時代中期後葉は、木材加工工具が石斧から鉄斧へ移行する時期にあたる。一色青海遺跡においても石斧・鉄斧両者の加工痕が認められる。個々の木器の器種名・法量・樹種については挿図と一覧表を参照することとし、ここでは特に主要木器に残る加工痕からわかる工具と加工手順について詳述していく。なお、石斧か鉄斧かの判断については樋上と鶴来航介氏による検討の結果であり、他の事実記載は樋上の観察結果による。

まず、石斧による加工痕をもつ木製品から述べる。W-1～3は200SD出土の直柄平鍬未成品で、W-1・3は逆滴状、W-2は舟形の隆起部を有する（図3-44）。この隆起部の作り出しと面の調整には、3点ともに扁平片刃石斧を用いる。うち、W-1・2の隆起部付近には刃部幅が約5cmの大型扁平片刃石斧を用い（図3-42-1・3）、W-1・3では約3cm幅の扁平片刃石斧を併用する。この扁平片刃石斧による加工痕の特徴は、刃先が木材に食い込んだりきれいに抜けることがなく、ハツリの単位ごとに鈍い段が残る（図3-42-3・4）。W-2・3では扁平片刃石斧の調整痕が右から左に流れる特徴があり、この工程の

作業者は右利きであったことがわかる（図3-44）。またW-1・3の下端部には、分割材の段階において鍬に必要な長さを探る際、幅約2cmの鉄製の横斧で不要箇所を切断した痕跡が残る（図3-43-1・2）。W-2は鍬の整形段階においても頭部に切断途中の不要箇所が残るが、その切断に際しては幅約2cmの小型扁平片刃石斧を用いている（図3-42-2）。このほか、W-4太型蛤刃石斧の頭部調整とW-5容器未成品の粗整形には幅3cm以上の湾曲する刃先をもつ扁平片刃石斧を使用している（図3-42-4）。うち、W-5は扁平片刃による粗加工の後の面取りに際し、幅

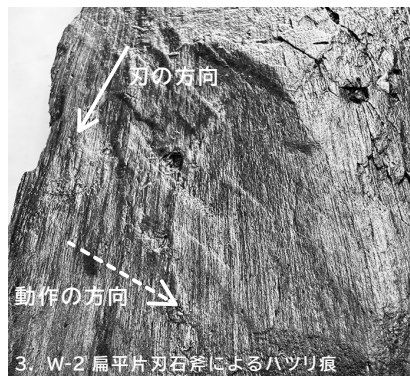
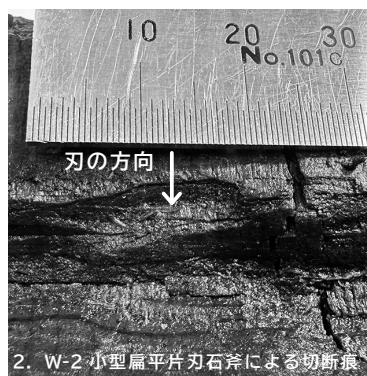


図3-42 石製工具による加工痕と加工動作

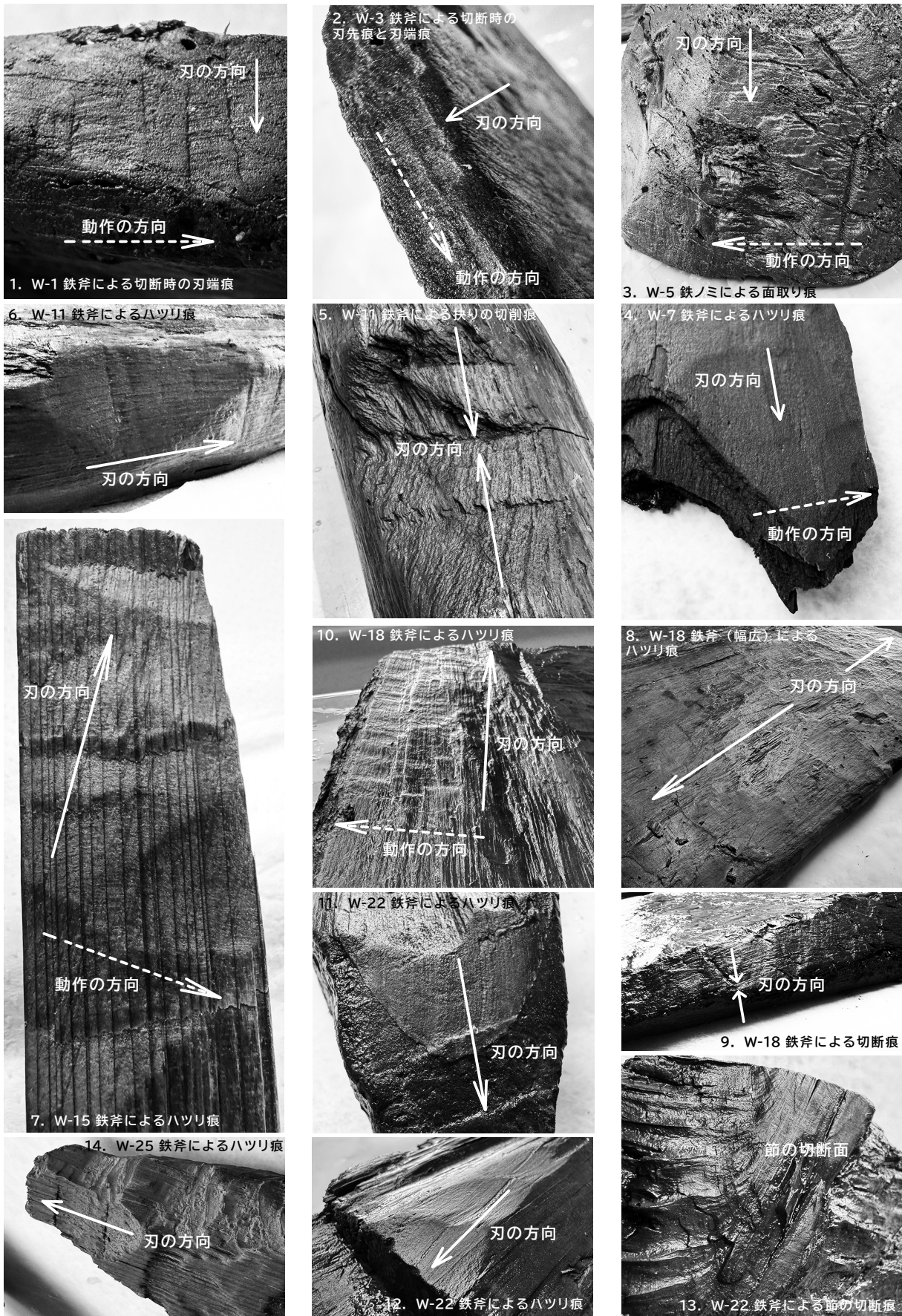
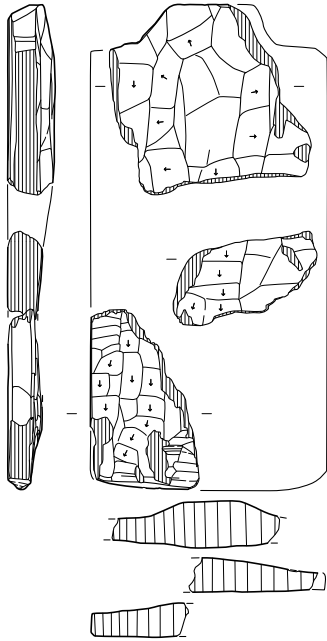


図 3-43 鉄製工具による加工痕と加工動作

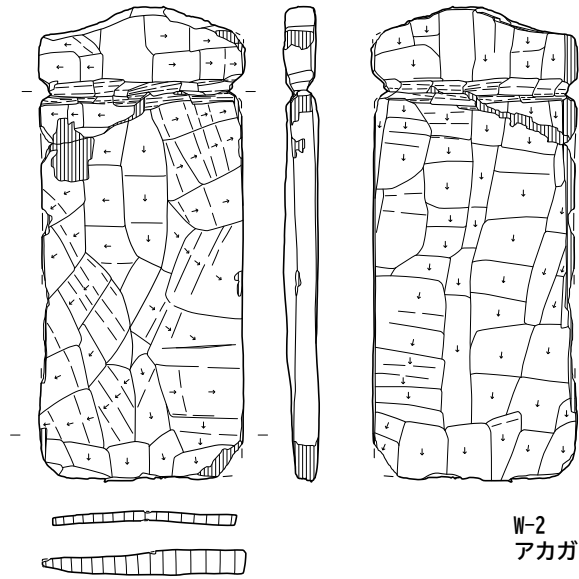
# 200SD-1

直柄平鍬未成品



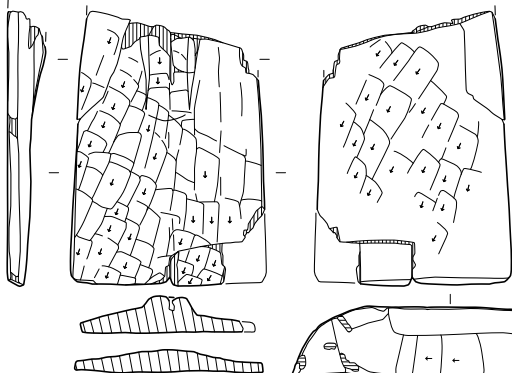
W-1  
アカガシ亜属

直柄平鍬未成品



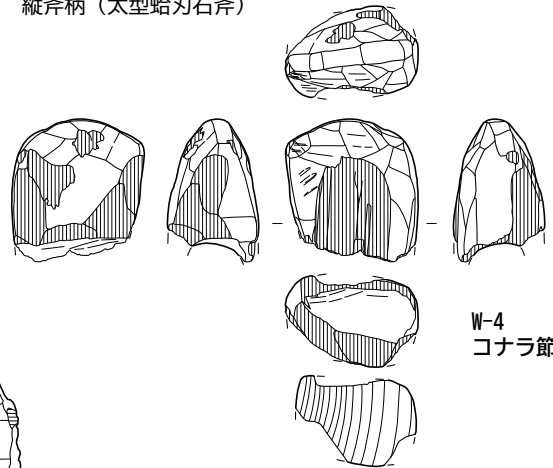
W-2  
アカガシ亜属

直柄平鍬未成品



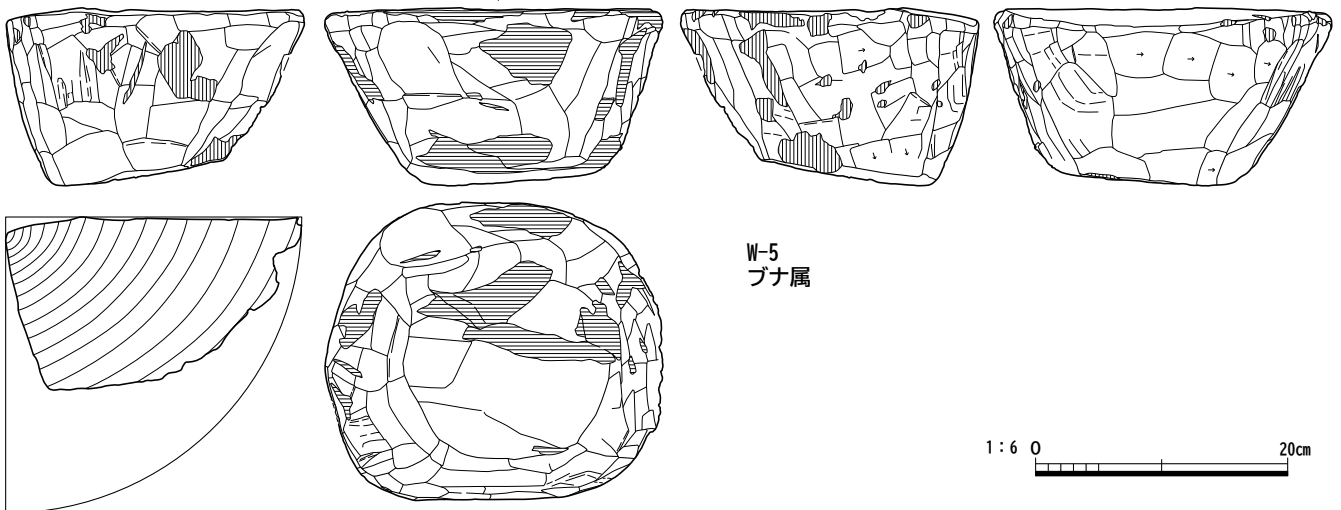
W-3  
アカガシ亜属

縦斧柄 (大型蛤刃石斧)



W-4  
コナラ節

容器未成品

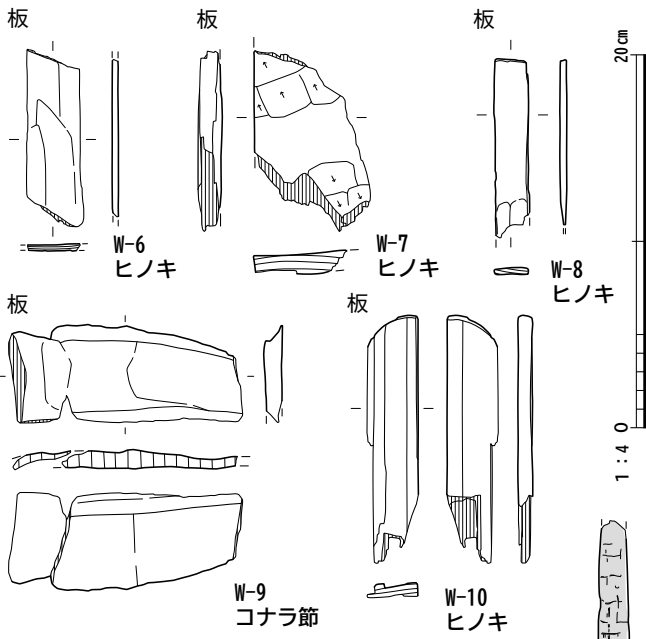


W-5  
ブナ属

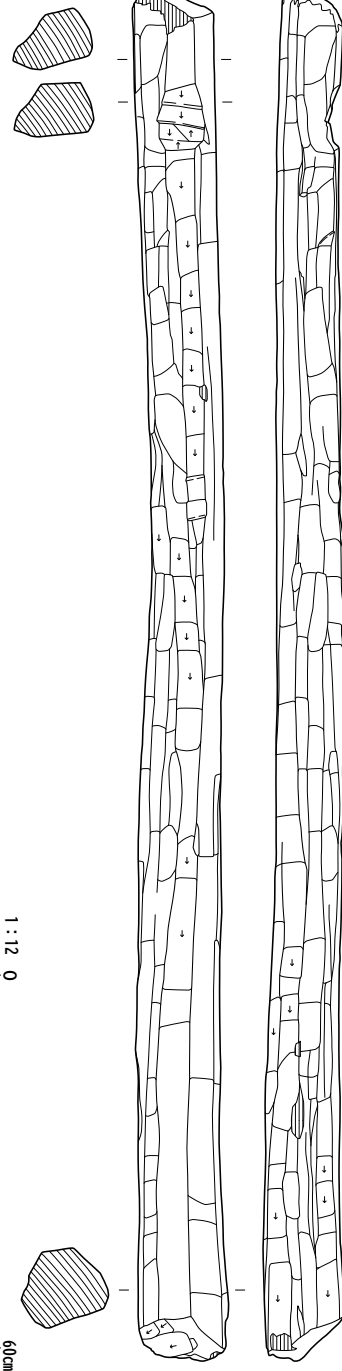
1:6 0 20cm

図 3-44 一色青海遺跡 200SD 出土木器 -1 (S=1:6)

# 200SD-2



建築材 or 土木材



# 600SD-1

丸棒 (弓?)

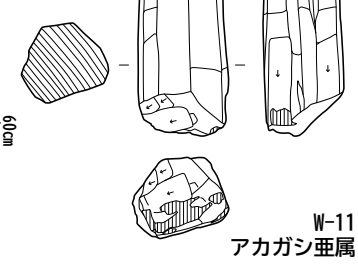
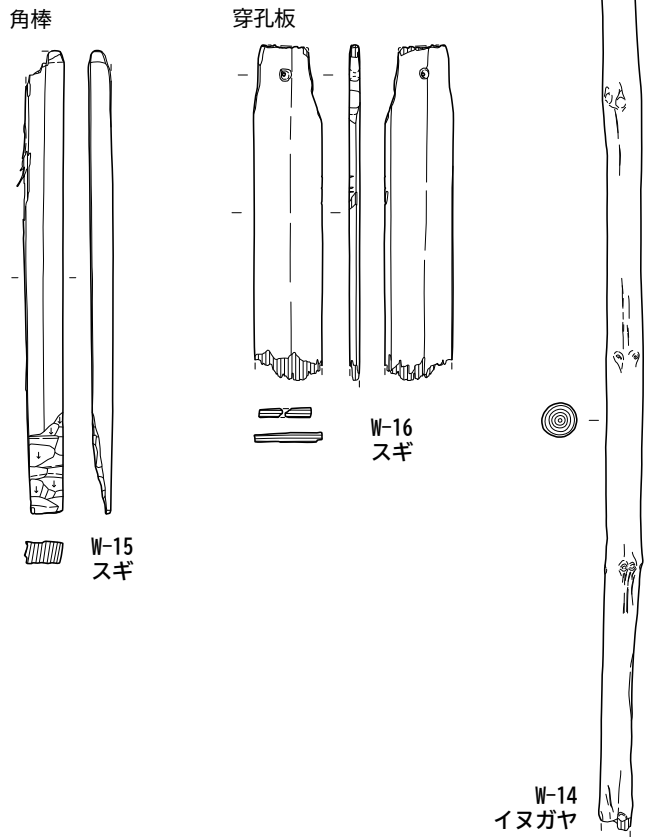
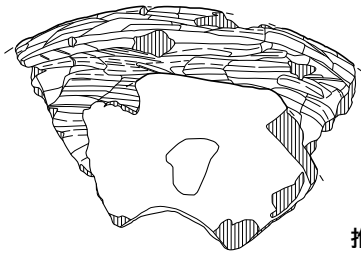
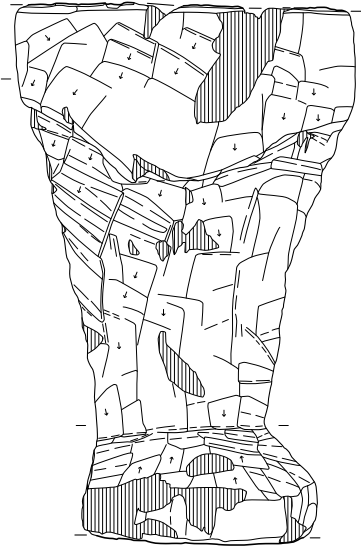
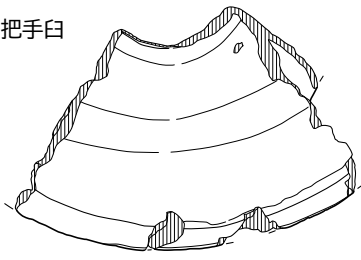


図 3-45 一色青海遺跡 200SD 出土木器 -2/600SD 出土木器 -1 (S=1:4・1:6・1:12)

# 600SD-2

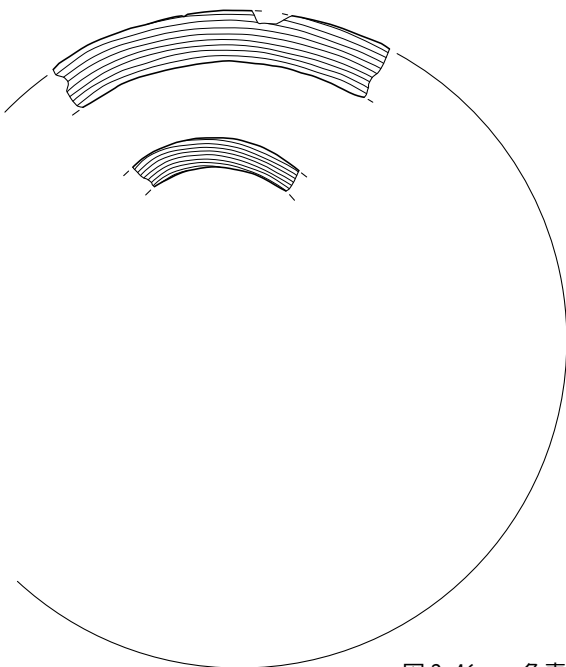
把手臼



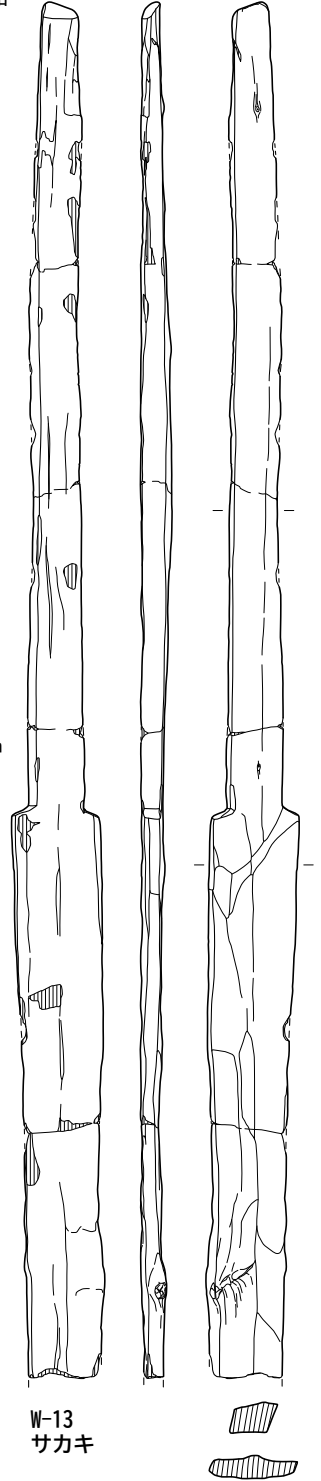
W-12  
クスノキ

1:6 0 20cm

推定口径：断面位置外径で直径 52cm 程度



櫛未成品



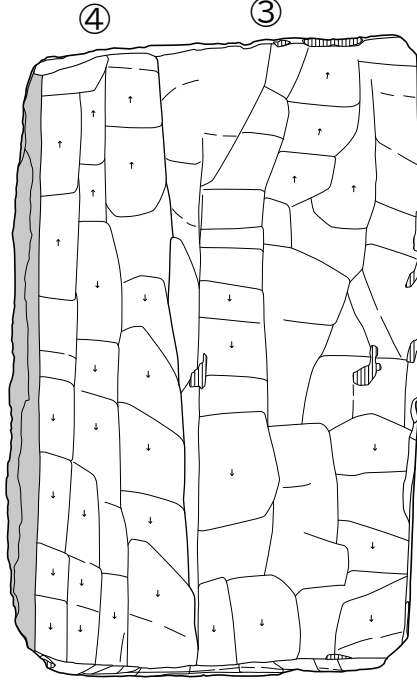
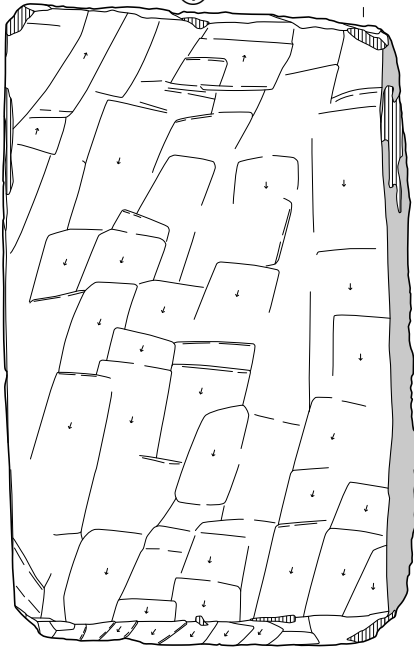
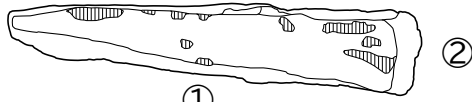
W-13  
サカキ

0 1:8 20cm

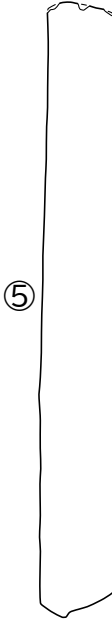
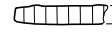
図 3-46 一色青海遺跡 600SD 出土木器 -2 (S=1:6・1:8)

# 400NR-1

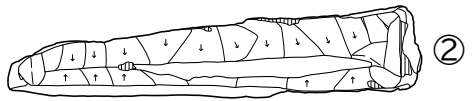
直柄平鋤未成品



直柄平鋤

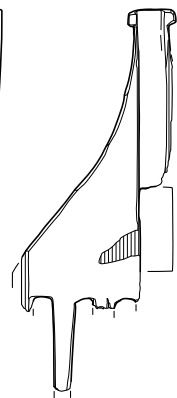
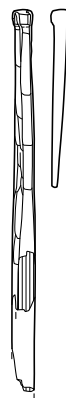
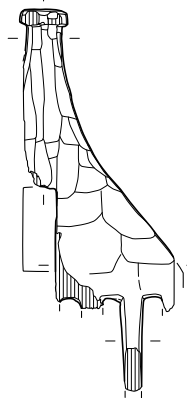
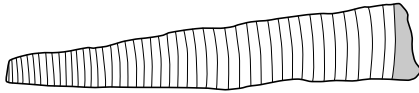


W-17  
アカガシ亜属



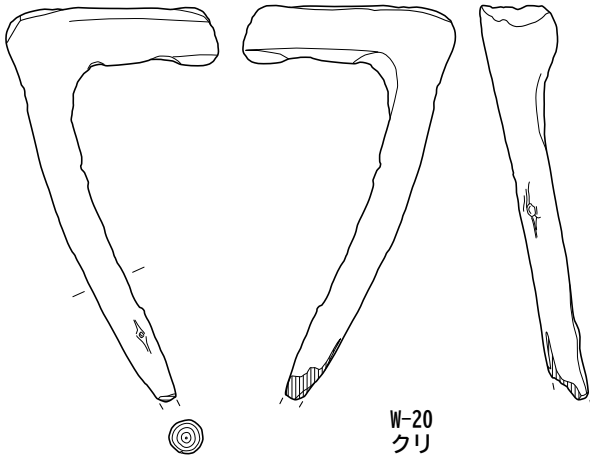
W-18  
アカガシ亜属

組合せ直柄多又鋤



W-19  
アカガシ亜属

横斧柄 (柱状片刃石斧)



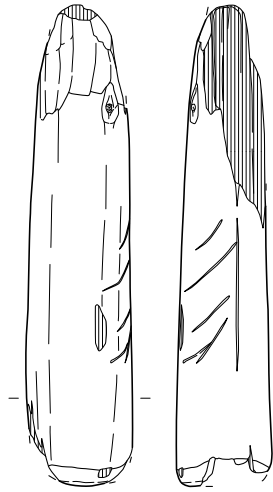
W-20  
クリ

1:6 0 20cm

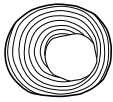
図3-47 一色青海遺跡 400NR 出土木器-1 (S=1:6)

# 400NR-2

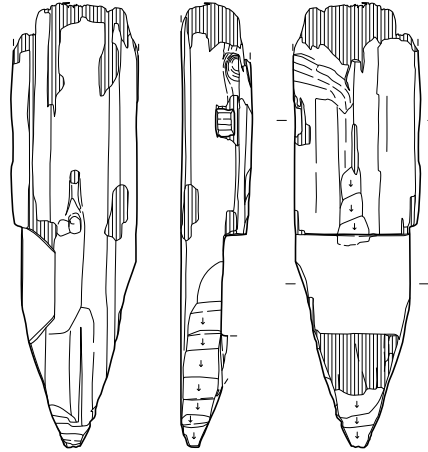
豎杵



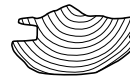
W-21  
ヒノキ



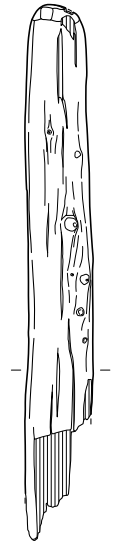
矢板



W-22  
スギ



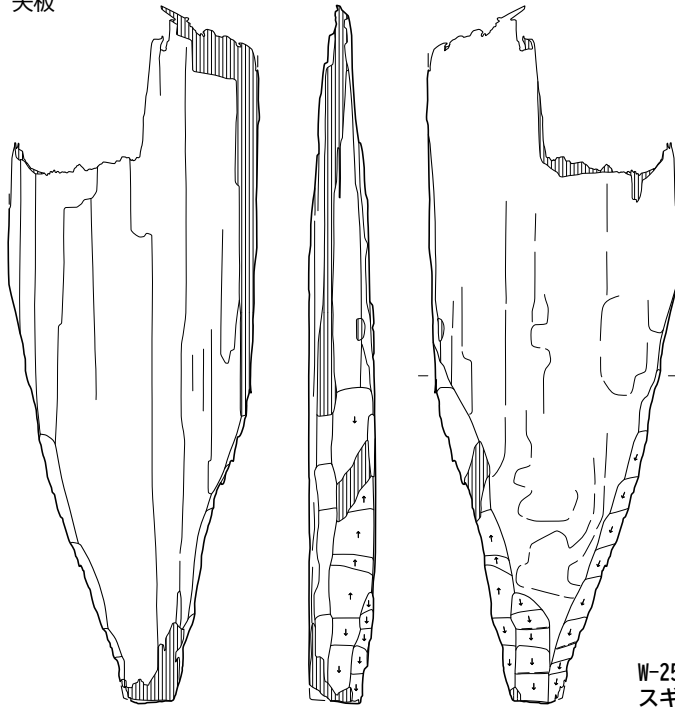
杭



W-23  
ヒノキ

# 082SD

矢板

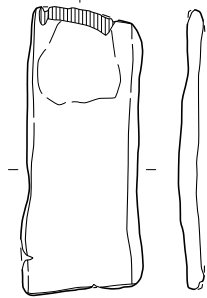


W-25  
スギ



# 002SD

板



W-24  
ヒノキ

# 遺構不明

角棒

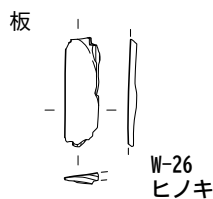


W-29  
ヒノキ

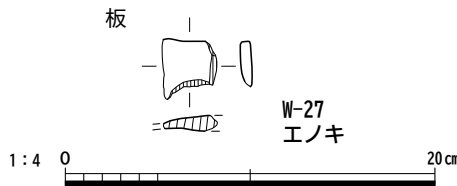
1:6 0 20cm

図 3-48 一色青海遺跡 400NR 出土木器 -2/002SD・082SD 出土木器 / 遺構不明木器 (S=1:6)

274SK



305SK



302SK

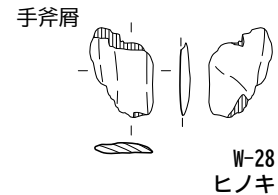


図 3-49 一色青海遺跡 274SK・305SK・302SK 出土木器 (S=1:4)

約 2cm の鉄製突きノミを使用する。この加工については工具を右から左へ移動しており、右側にのみ新たなノミの刃端痕（刃部の側縁の痕跡、宮原 1988）が残る（図 3-43-3）。

以下、鉄斧の痕跡が残るものを中心に述べる。200SD の W-7 ヒノキの板には上下に手斧痕があり、段を有することなくきれいに刃先が抜けている（図 3-43-4）。W-11 建築材 or 土木材では切断・面取り・抉りの切削に鉄製の横斧を用いる。特に図 3-43-5 の抉り加工には、刃部幅が 8cm 以上の大型板状鉄斧を使用している。600SD では、W-15 角棒の下端部を斜めに切り落とすために小型の鉄製横斧を用いる。この際、横斧は使用者側から見て右から左へ移動する（図 3-43-7）。W-12 把手臼は外面を幅約 5cm の大型板状鉄斧で整形する。ただしこの臼は搗き部の底が抜けており、外面の把手部分の削除とともに二次的な加工がなされた可能性が高い。この搗き部を抜くために、刃部幅 2cm 程度の鉄ノミを用いる。400NR の W-18 直柄平鋏未成品は樹皮が残る 1/16 分割材段階のものである。図 3-47 の①左面と、③右面の右半分は刃部幅 6cm 以上の大型板状鉄斧で粗ハツリを行う（図 3-43-8）。また、②上下端部を鋏 1 枚の長さに揃えるために鉄斧で切断している（図 3-43-9）。材の直径が 1m 近いアカガシ亜属大径木を集落へ運搬しやすくするために、伐採地点で丸太から鋏のサイズに揃えるまでの作業を一気に行っていた可能性がある。集落に持ち込まれたのち、④右面の樹皮寄りのハツリ（図 3-43-10）と⑤樹芯近くの側面調整を比較的小型の鉄斧で行う。復元される加工手順は①→②→③→④→⑤で、うち①～③は伐採地、④・⑤を加工地（一色青海遺跡）で行った。W-19 直柄多又鋏はこれまで朝日遺跡でしか認められなかった器種である（図 3-47、愛知県埋蔵文化財センター 1992）。W-22 と 082SD の W-25 は矢板で、先端部の加工、面の調整に刃部幅が 4cm 以上の鉄斧を用いている。図 3-43-11・14 では刃先痕の木材への食い込み、図 3-43-12 の刃先の抜け、図 3-43-13 の節のシャープな切断痕が鉄斧を用いたことの証となる。302SK の W-28 は手斧屑で、その形状は鉄斧によって生じたものである（浦 2020）。

W-4（太型蛤刃石斧柄）・W-20（柱状片刃石斧柄）のように一色青海遺跡ではこれまで石斧柄しか出土しておらず、直柄平鋏未成品（W1～3）・縦斧柄（W-4）・容器未成品（W-5）には石斧の加工痕も認められる。一方で同じ W-1・2・5 には鉄斧や鉄ノミが併用されるほか、W-7・11・12・15・18・19・22・25 には明確な鉄斧の加工痕が残っている。また、W-11 のように刃部幅が 8cm を超える大型板状鉄斧も使用され、鉄斧による木屑（W-28）も出土していることから、一色青海遺跡では既に紀元前 2～1 世紀の弥生時代中期後葉段階において、石製工具よりも鉄製工具のほうが優勢であったことがわかる。今後、加工具の編成と作業手順の解明には、2009 年度出土木製品も併せての再検討を要する。

#### 引用文献

愛知県埋蔵文化財センター 1992 『朝日遺跡Ⅲ』

愛知県埋蔵文化財センター 2014 『一色青海遺跡Ⅲ』

浦 蓉子 2020 『木屑を考える—古代の木工活動を検討するため一試論—』奈良文化財研究所

宮原晋一 1988 「石斧、鉄斧のどちらで加工したか」金関恕・佐原真編『弥生文化の研究』10、雄山閣

# 第4章 自然科学分析

## 第1節 放射性炭素年代測定

### 1. はじめに

愛知県稲沢市の一色青海遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は10点で、021SDから出土した炭化材1点（試料No.1:PLD-41207）、279SKから出土した炭化材1点（試料No.2:PLD-41208）、302SKから出土した炭化材2点（試料No.3:PLD-41209、試料No.4:PLD-41210）、302SI内375SLから採取された土壌1点（試料No.5:PLD-41211）、310SKから出土した炭化材1点（試料No.6:PLD-41212）、030SKから出土した炭化材1点（試料No.7:PLD-41213）、400NRから出土した生の種実1点（試料No.8:PLD-41214）と生材2点（試料No.9:PLD-41215、試料No.10:PLD-41216）である。

試料No.1～4、6、7は炭化材で、いずれも最終形成年輪は確認できなかった。一方、試料No.9の生材は最終形成年輪が、試料No.10の生材は辺材部が残っていた。また、302SI内375SLから採取された試料No.9は、袋内に植物遺体が確認できなかったため、土壌中のヒューミンを対象として測定を行なった。測定試料の情報、調製データは表4-1のとおりである。

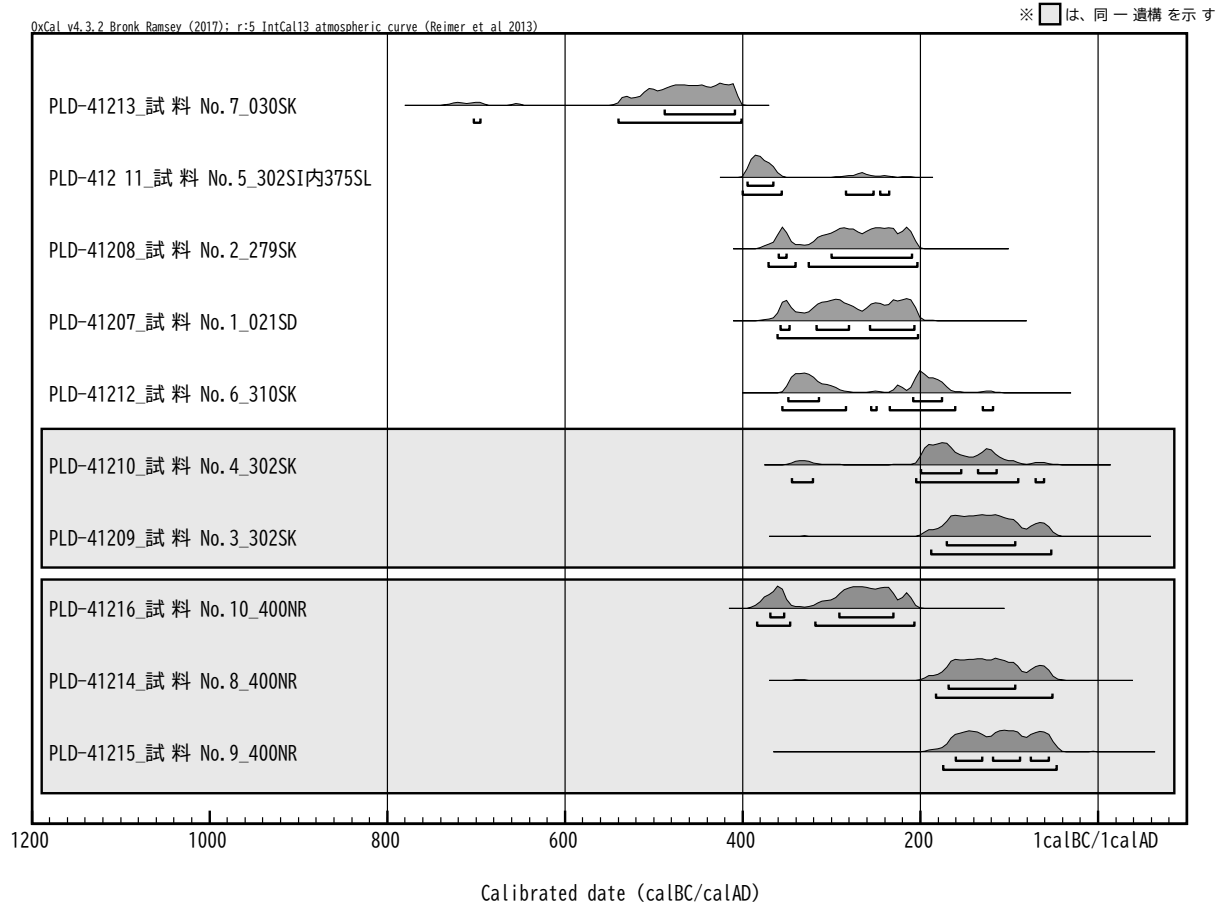


図4-1 マルチプロット図

表 4-1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41207	試料No. 1 遺構：021SD 遺物No. 33	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41208	試料No. 2 遺構：279SK 遺物No. 80	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41209	試料No. 3 遺構：302SK 遺物No. 183	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41210	試料No. 4 遺構：302SK 遺物No. 203	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41211	試料No. 5 遺構：302SI内 375SL 遺物No. 213	種類：土壌（ヒューミン） 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41212	試料No. 6 遺構：310SK 遺物No. 214	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41213	試料No. 7 グリッド：645390 遺構：030SK 遺物No. 19	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41214	試料No. 8 グリッド：650435 遺構：400NR 遺物No. 116	種類：生の種実 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41215	試料No. 9 グリッド：650435 遺構：400NR 遺物No. 79 その他：24	種類：生材 試料の性状：最終形成年輪 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41216	試料No. 10 グリッド：650440 遺構：400NR 遺物No. 100 その他：43	種類：生材 試料の性状：辺材部 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

### 3. 結果

表 4-2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、暦年較正結果を、図 4-1 にマルチプロット図を、図 4-2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代（yrBP）の算出には、 $^{14}\text{C}$  の

表 4-2 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-41207 021SD 試料No.1	-23.20 $\pm$ 0.25	2210 $\pm$ 20	2210 $\pm$ 20	358-348 cal BC (6.9%) 317-281 cal BC (26.9%)	361-203 cal BC (95.4%)
PLD-41208 279SK 試料No.2	-21.83 $\pm$ 0.21	2221 $\pm$ 20	2220 $\pm$ 20	360-351 cal BC (6.5%) 301-210 cal BC (61.7%)	372-341 cal BC (14.0%) 326-204 cal BC (81.4%)
PLD-41209 302SK 試料No.3	-25.50 $\pm$ 0.21	2104 $\pm$ 22	2105 $\pm$ 20	171- 94 cal BC (68.2%)	189-54 cal BC (95.4%)
PLD-41210 302SK 試料No.4	-23.09 $\pm$ 0.21	2131 $\pm$ 20	2130 $\pm$ 20	200-155 cal BC (50.7%) 136-115 cal BC (17.5%)	345-322 cal BC (5.0%) 206- 91 cal BC (89.1%)
PLD-41211 302SI内375SL 試料 No.5	-12.25 $\pm$ 0.23	2284 $\pm$ 20	2285 $\pm$ 20	395-366 cal BC (68.2%)	401-357 cal BC (82.4%) 284-253 cal BC (11.1%)
PLD-41212 310SK 試料No.6	-27.12 $\pm$ 0.23	2165 $\pm$ 21	2165 $\pm$ 20	349-315 cal BC (36.2%) 209-176 cal BC (32.0%)	356-284 cal BC (49.5%) 256-250 cal BC (0.5%)
PLD-41213 030SK 試料No.7	-23.16 $\pm$ 0.21	2406 $\pm$ 20	2405 $\pm$ 20	488-409 cal BC (68.2%)	703-696 cal BC (1.0%) 541-402 cal BC (94.4%)
PLD-41214 400NR 試料No.8	-26.06 $\pm$ 0.22	2101 $\pm$ 20	2100 $\pm$ 20	169- 94 cal BC (68.2%)	183-52 cal BC (95.4%)
PLD-41215 400NR 試料No.9	-27.43 $\pm$ 0.44	2089 $\pm$ 22	2090 $\pm$ 20	161-131 cal BC (24.8%) 119- 88 cal BC (26.8%)	175-47 cal BC (95.4%)
PLD-41216 400NR 試料No.10	-27.23 $\pm$ 0.26	2237 $\pm$ 22	2235 $\pm$ 20	370-354 cal BC (13.2%) 292-231 cal BC (55.0%)	384-347 cal BC (21.7%) 319-207 cal BC (73.7%)

半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年校正の詳細は以下のとおりである。

暦年校正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年校正には OxCal4.3 (校正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、1  $\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2  $\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は

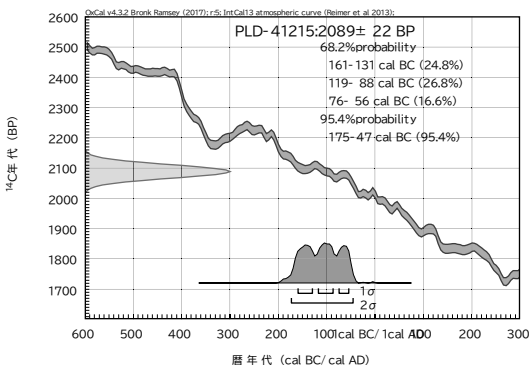
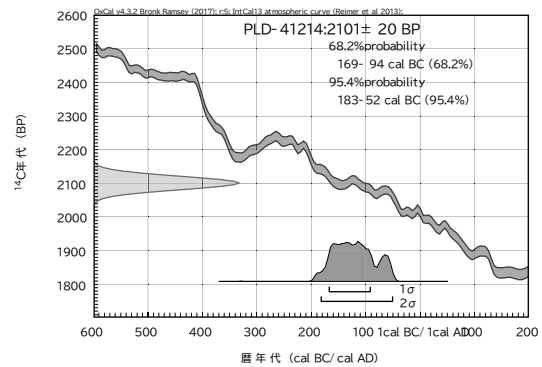
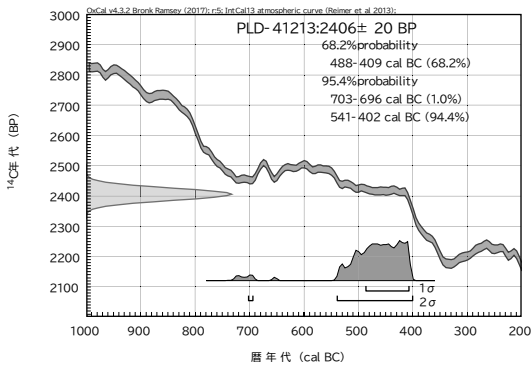
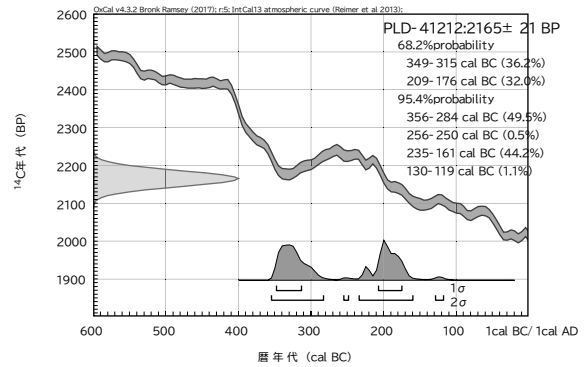
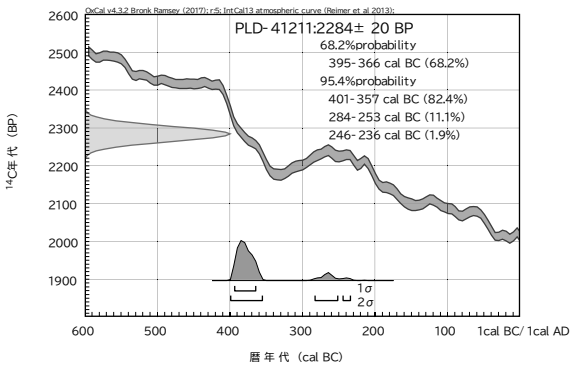
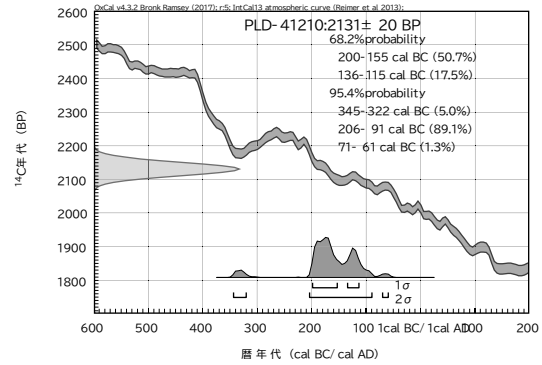
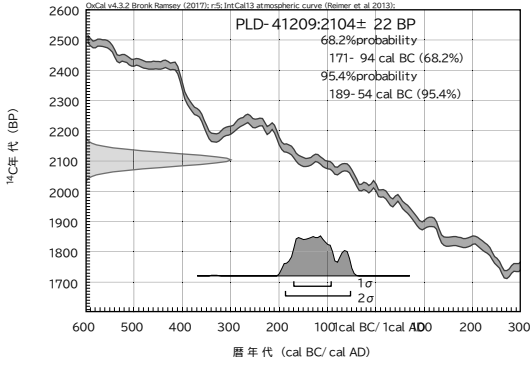
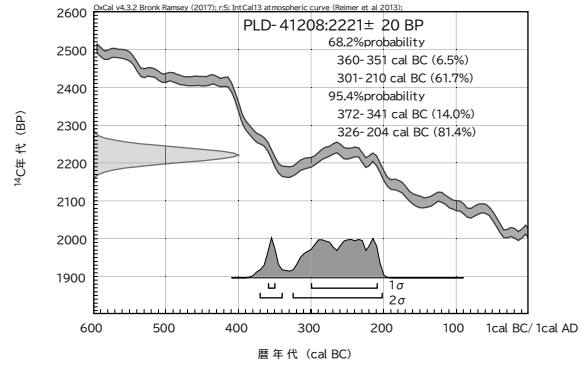
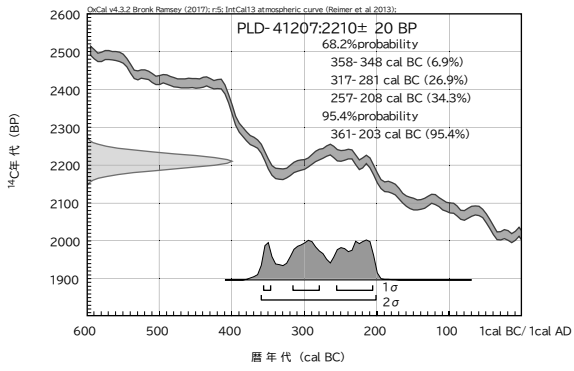


圖 4-2 曆年較正結果

暦年較正曲線を示す。

#### 4. 考察

以下、2 $\sigma$  暦年代範囲(確率 95.4%)に着目し、暦年代の古い順に、遺構ごとに結果を整理する。なお、縄文時代および弥生時代の土器編年と暦年代との対応関係については、(藤尾 2013)、(小林 2017)、(山本 2007) を参照した。

030SK の試料 No.7 (PLD-41213) は 703-696 cal BC (1.0%) および 541-402 cal BC (94.4%) で、紀元前 8 世紀末～7 世紀初頭および紀元前 6 世紀中頃～5 世紀末の暦年代を示した。これは、縄文時代晩期後葉～弥生時代前期に相当する。

302SI 内 375SL の試料 No.5 (PLD-41211) は 401-357 cal BC (82.4%)、284-253 cal BC (11.1%)、246-236 cal BC (1.9%) で、紀元前 5 世紀末～4 世紀中頃および紀元前 3 世紀代の暦年代を示した。これは、弥生時代中期前半に相当する。

279SK の試料 No.2 (PLD-41208) は 372-341 cal BC (14.0%) および 326-204 cal BC (81.4%) で、紀元前 4 世紀前半～3 世紀末の暦年代を示した。これは、弥生時代中期前半に相当する。

021SD の試料 No.1 (PLD-41207) は 361-203 cal BC (95.4%) で、紀元前 4 世紀前半～3 世紀末の暦年代を示した。これは、弥生時代中期前半に相当する。

310SK の試料 No.6 (PLD-41212) は 356-284 cal BC (49.5%)、256-250 cal BC (0.5%)、235-161 cal BC (44.2%)、130-119 cal BC (1.1%) で、紀元前 4 世紀中頃～2 世紀後半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期前葉～中葉に相当する。

302SK の試料 No.4 (PLD-41210) は 345-322 cal BC (5.0%)、206-91 cal BC (89.1%)、71-61 cal BC (1.3%) で、紀元前 4 世紀中頃～後半および紀元前 3 世紀末～1 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期に相当する。試料 No.3 (PLD-41209) は 189-54 cal BC (95.4%) で、紀元前 2 世紀前半～1 世紀中頃の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後半に相当する。

400NR の試料 No.10 (PLD-41216) は 384-347 cal BC (21.7%) および 319-207 cal BC (73.7%) で、紀元前 4 世紀前半～3 世紀末の暦年代を示した。これは、弥生時代中期前半に相当する。一方、400NR の試料 No.8 (PLD-41214) は 183-52 cal BC (95.4%)、試料 No.9 (PLD-41215) は 175-47 cal BC (95.4%) で、ともに紀元前 2 世紀前半～1 世紀中頃の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後半に相当する。

なお、試料 No.1～4、6、7 はいずれも最終形成年輪が確認できない部位不明の木材であった。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。試料 No.1～4、6、7 の測定結果はいずれも古木効果の影響を受けていると考えられ、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりもやや新しい時期であると考えられる。試料 No.9 については、最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。また、試料 No.10 は辺材部が残っていたため、測定結果は樹木が枯死もしくは伐採された年代に近い年代を示すと考えられる。

#### 引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates]. Radiocarbon, 51(1), 337-360.  
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B.,

Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

小林謙一 2017『縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—』263p, 同成社

中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編『日本先史時代の<sup>14</sup>C年代』: 3-20, 日本第四紀学会

藤尾慎一郎 2013『弥生文化像の新構築』275p, 吉川弘文館

山本直人 2007「東海・北陸における弥生時代の開始年代」. 西本豊弘編『新弥生時代のはじまり第2巻 縄文時代から弥生時代へ』: 35-44, 雄山閣

## 第2節 大型植物遺体

### 1. 経緯

一色青海遺跡の令和元年度の発掘調査で出土した大型植物遺体を対象として種実同定を行った。

一色青海遺跡の位置する稲沢市は濃尾平野の氾濫原地帯とされる位置にあり、市は西を日光川、東を五条川に画される。遺跡は三宅川と日光川の自然堤防に挟まれた沖積地の微高地の中に立地しており、発掘調査地点では有機質遺物が良好な状態で残存していた。今回は弥生時代中期後半の遺構より出土した大型植物遺体を対象として、集落の環境や植物利用を分析する。

### 2. 試料と方法

271SK、306SK、200SD、330SK、400NRはそれぞれ弥生時代中期後半の遺構であり、大型植物遺体が良好な状態で残存していた。対象試料は、発掘調査現場で任意で取り上げた。試料はそれぞれがタッパーに水漬けの状態か、チャック袋に乾燥した状態で保管されている。同定は現生標本または種子図鑑(鈴木ほか2018、中山ほか2004)を比較して行った。

### 3. 結果

試料は木本植物がマツ属、ヒノキ、オニグルミ、アスナロ、ミズキ、エゴノキ、モモ、コナラ亜属、コナラ亜属アカガシ亜属、トチノキ、イヌザンショウの11種、草本植物がヒヨウタンの1種を確認した。以下で記載を行う。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* 毬果 マツ科

長さ50.20 mm、最大幅32.00 mm、厚さ21.5 mmを測る。茶褐色。欠損が激しいが木質であり、円錐状広卵体をなす。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. 種子 ヒノキ科

(3) アスナロ *Thujaopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. var. *dolabrata* 小枝 ヒノキ科

黒褐色で扁平であり、長さ約3 mmの舟形の葉が茎の中央に左右につく。葉の先端は丸い。直径7.91~11.56 mmを測る。黒褐色~茶褐色で球体を呈し、果鱗が開いた状態のものとは開いていない状態のものがある。種鱗は長さ約4 mmの楕形で、外面は不整な4・5角形を呈する。

(4) オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr 核 クルミ科

長さ26.82 mm、幅22.95 mmを測る。半裁状態である。茶褐色。堅果は側面観が円形であり、先端が尖る。表面には長軸方向に数条の隆条があり、それらの間は浅い凹凸がある。

(5) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Lepidobalanus* 殻斗 ブナ科

表 4-3 一色青海遺跡出土大型植物遺体同定結果

分類群	部位	遺構 (点数)							備考
		271SK	306SK	330SK	200SD	200SD (下層)	200SD (下層)	400NR	
学名	和名	(b区)							かく乱北断面
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属 毬果	1							
Chamaecyparis obtusa Endl.	ヒノキ 種子								14
Thujaopsis dolabrata (L.f.) Siebold et Zucc. var. dolabrata	アスナロ 小枝 破片								2
Juglans ailanthifolia Carr	オニグルミ 内果皮								1
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属アカガシ亜属 殻斗								1
	幼果								1
Quercus	コナラ属コナラ亜属 殻斗								2
Styrax japonicus Siebold et Zucc.	エゴノキ 種子								1
Prunus persica Batsch	モモ 核								1
	完形	1	1	1					
	半形							2	
	破片	1							
Cornus controversa Hemsl. var. controversa	ミズキ 種子								1
Aesculus turbinata Blume	トチノキ 種皮 破片								3
	幼果								1
Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc.	イヌザンショウ 種子								1
Lagenaria siceraria Standl.	ヒョウタン類 果実 破片							1	
計		1	2	1	1	2	2		28

黒褐色である。歪んでいるが椀状を呈し、表面には輪状紋を持つ。

(6) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Lepidobalanus* 幼果 ブナ科

黒褐色である。長さ 5.29 mm、幅 3.84 mm と長さ 4.33 mm、幅 3.16 mm を測る。殻斗には堅果が入っており、堅果の頂部と花柱がわずかに覗いている。

(7) コナラ属コナラ亜属 *Quercus* 殻斗 ブナ科

黒褐色である。椀状を呈し、摩滅するが鱗片が覆瓦状に並ぶ。

(8) エゴノキ *Styrax japonicus* Siebold et Zucc. 種子 エゴノキ科

長さ 12.6 mm、幅 7.13 mm を測る。黒褐色で表面はやや粗い。狭楕円体であり、基部には腹面方向に斜切形があり、覆面と両方の側面にそれぞれ浅い溝がある。

(9) モモ *Prunus persica* Batsch 核 バラ科

側面観は円形または楕円形であり、上面観はレンズ状である。長さは 12.70 ~ 30.00 mm、幅は 11.35 ~ 21.50 mm、厚さは 14.90 ~ 15.53 mm を測る。浅淡黄色~茶褐色である。おそらく形態は 3 種類にわかれる。一つは長く先端部が鋭く尖るもの、長く先端やや尖るもの、全体が球形で丸く先端が尖らないものである。また、306 SK (b区) 出土試料にはげっ歯類の食害痕と思われる試料も認められた。

(10) ミズキ *Cornus controversa* Hemsl. var. *controversa* 種子 ミズキ科

長さ 4.13 mm、幅 4.63 mm、厚さ 2.52 mm を測る。茶褐色。扁平球であり、先端には穴がある。核面は

やや粗く、縦方向に浅い溝がある。

(11) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 種皮 ムクロジ科  
茶褐色である。表面は平滑であり、破片であるが丸みを帯びる。

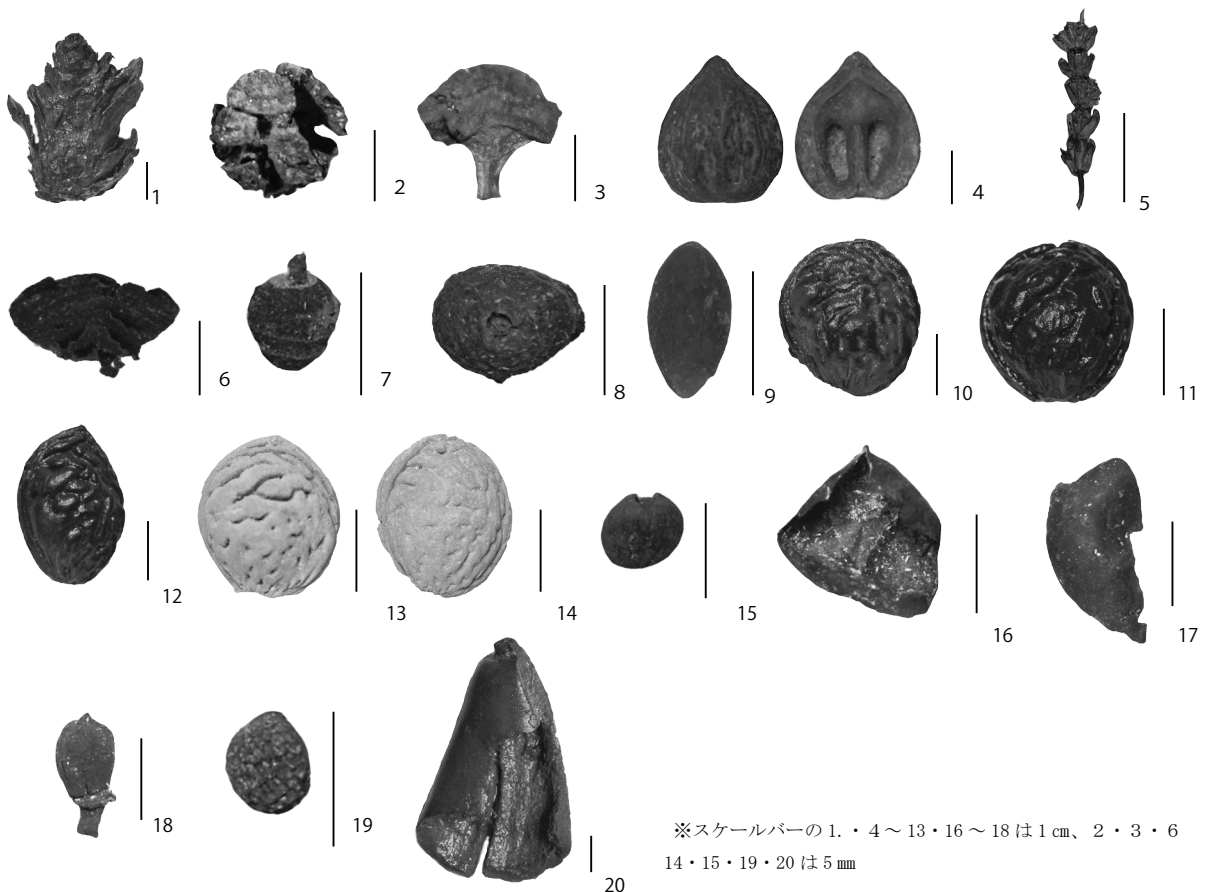
(12) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 幼果 ムクロジ科  
黒褐色である。倒卵形であり、先端がやや尖る。表面はややざらつきがある。長さ 6.92 mm、幅 3.86 mm を測る。

(13) イヌザンショウ *Zanthoxylum schinifolium* Siebold et Zucc. 種子 ミカン科  
黒褐色である。長さ 3.67 mm、幅 3.19 mm を測る。横広卵形を呈し、腹面には着点である広線形の大形の溝が認められる。表面は荒い網目模様。

(14) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Standl. 果実 ウリ科  
茶褐色である。下半部は破損か。残存長さ 70.30 mm、幅 39.15 mm、厚さ 16.90 mm を測る。上面間は楕円形、側面観もまた楕円形である。種皮はスポンジ状。

#### 4. 考察

今回大型植物遺体が出土した遺構の中でも、植物の種類が多かったのは流路 (NR400) である。トチノキは山地の沢沿いに、オニグルミやイヌザンショウも日当たりの良い川沿いや林縁に生育する傾向



1. マツ属複維管束亜属 (球果) 2・3. ヒノキ (毬果) 4. オニグルミ (核)、5. アスナロ (小枝)、6. コナラ属アカガシ亜属 (殻斗)、7. コナラ属アカガシ亜属 (幼果)、8. コナラ属 (殻斗)、9. エゴノキ (核)、8~12. モモ (核)、ミズキ (種子)、13. 14. 、15. 16. ヒョウタン仲間 (果実)、17・18. トチノキ (種皮)、19 トチノキ (幼果)、20. イヌザンショウ (種子)

図 4-3 一色青海遺跡出土大型植物遺体

にあり、これらは流路の周りに河畔林が形成されていたことを示すものである。さらに周辺にはヒノキやアスナロ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、エゴノキ、モモ、ミズキなどの多様な木本植物も分布していた。アカガシ亜属は幼果も検出しており、出土地点の付近にこれらの木本植物が存在していたことを示す。これらの中で食用植物は、オニグルミ、トチノキ、コナラ亜属、アカガシ亜属、モモである。また、イヌザンショウは古代まで種子が燈油に使われたという記載もある（深津 1983）。一方、400NR には草本植物なかった。土坑である 271SK、306SK、200SD、330SK は栽培植物であるモモやヒョウタン仲間が出土する傾向にあった。

1993～1996 年度の発掘調査では、弥生時代の遺構出土の種実同定の結果、イネ、マメ、コムギが出土しており、ほかにも食用植物としてはブドウ類（エビヅル、ブドウ）、クルミ、トチノキ、モモ、ウリ類などが出土している。また、裸地などに生育する先駆植物であるアカメガシワが多く検出される傾向にあった（愛知県埋蔵文化財センター 2008）。2003 年度の発掘調査で出土した炭化種実にはモモ、ブドウ属、イネ、キビ、ヒエ、アワ、エノコログサ、サデクサ、タデ科、アズキ亜属、ダイズ仲間、エゴマ近似種、シソ属、メロン仲間など、食用植物を中心として草本植物が多い傾向にある。対して、今回の対象試料は全体として木本植物が多く、草本植物は少ない傾向にあった。今回取り上げた試料は現場で任意に取り上げたものであるため、大きなサイズの種実が多い木本植物が取り上げられやすい傾向にあったことも考慮すべきであるが、ひとつの傾向として注意したい。

また、2009～2010 年度の発掘調査で出土した弥生時代中期後葉の自然木と木製品の樹種同定の結果、自然木ではヒノキが最も多く、次にエノキ属が多く、そのほかにスギやモミ属、マツ属復維管束亜属、ヤナギ属、クワ属などが多い傾向が出ている。木製品としては、工具ではアカガシ亜属が最も多く、次にイチイガシ、コナラ属クヌギ節が多い。農耕具としてはイチイガシを含むアカガシ亜属が全体の約半数を占め、さらに運搬具・武器・容器・楽器の中ではスギが最も多い傾向にあるとされる（愛知県埋蔵文化財センター 2014）。過去に出土した木製品や自然木の樹種には、今回分析した木本植物であるマツ属復維管束亜属、ヒノキ、アスナロ、オニグルミ、コナラ属、トチノキが含まれており、今回の分析結果と大きな差異がないことが見受けられる。特に木製品ではアカガシ亜属が顕著に利用される傾向にあるが、これは集落の周辺にあった樹木を選択して利用している可能性がある。

## 5. おわりに

一色青海遺跡は弥生時代中期後葉の約 100 年間のうちに竪穴建物と掘立柱建物計 300 棟以上を有した大規模集落である。今回の成果と過去の成果より、一色青海遺跡では弥生時代に広く利用されるようになった穀類を含む多様な栽培植物を利用しつつも、集落周辺に分布する樹木を木材に利用していた様相が明らかとなった。また、集落周辺の樹木にはオニグルミやトチノキなどの堅果類も含まれる。時には集落を支える救荒食として利用していたことも想定される。

### 引用・参考文献

- 愛知県埋蔵文化財センター 1998 『一色青海遺跡』
- 愛知県埋蔵文化財センター 2008 『一色青海遺跡Ⅱ』
- 愛知県埋蔵文化財センター 2014 『一色青海遺跡Ⅲ』
- 鈴木庸夫・高橋冬・安延尚文編 2018 『草木の種子と果実（増補改訂版）』
- 中山至大・井之口希秀・南山忠志 2004 『日本植物種子図鑑（改訂版）』
- 深津正 1983 『ものと人間の文化史 50 燈用植物』

### 第3節 出土木材の樹種同定

#### 1. はじめに

愛知県稲沢市の一色青海遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。

#### 2. 試料と方法

試料は、流路や溝跡、竪穴建物跡などから出土した生材 189 点と、炭化材 39 点の、計 228 点である。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

生材の樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

炭化材の樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その

表 4-4 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（樹種・器種別）：樋上改変

樹種/器種	縦斧柄 (石斧)	横斧柄 (柱状片刃石斧)	直柄平鋏 未成品	組合せ直柄 多又鋏	把手 臼杵	榿 未成品	容器 未成品	竪穴建物 炭化材	建築材 or 土木材	穿孔 板	丸棒 (弓?)	丸棒	手斧 屑	低加工 木	丸太	分割 材	自然 木	枝	合計				
モミ属														6					6				
マツ属複雑管束亜属														6					6				
イヌガヤ											1								1				
スギ								2	1	2	1			5					11				
アスナロ														4					4				
ヒノキ					1		1			9	3	1	1	54		1	1		72				
サワラ										1				6			1		8				
ヒノキ科								24											24				
モクレン属														1					1				
クスノキ				1										1					2				
ヤマグルマ										1				1					2				
サクラ属														1					1				
エノキ属										1	1			6	1	1	2	1	13				
ムクノキ														3			1		4				
クワ属														15					15				
クリ		1												2					3				
ブナ属							1							1					2				
スタジイ								9						1					10				
ツブラジイ								1											1				
コナラ属クヌギ節																1			1				
コナラ属コナラ節		1								1		1		4					7				
コナラ属アカガシ亜属			1	2	1				1	1				8		1			15				
ハンノキ属ハンノキ亜属														2					2				
カバノキ属														1					1				
ニシキギ属														1					1				
カエデ属														3					3				
ムクロジ														1					1				
サカキ							1												1				
モチノキ属														2					2				
広葉樹								3						1			1		5				
イネ科								2											2				
不明														1					1				
総計	1	1	1	2	1	1	1	1	39	2	1	1	16	5	1	2	1	137	1	4	6	1	228

後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-IT200）にて検鏡および写真撮影を行なった。

### 3. 結果

同定の結果、針葉樹のモミ属とマツ属複維管束亜属、イヌガヤ、スギ、アスナロ、ヒノキ、サワラ、ヒノキ科の8分類群と、広葉樹のモクレン属、クスノキ、ヤマグルマ、サクラ属、エノキ属、ムクノキ、クワ属、クリ、ブナ属、スダジイ、ツブラジイ、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属）、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、カバノキ属、ニシキギ属、カエデ属、ムクロジ、サカキ、モチノキ属の21分類群、単子葉のイネ科1分類群の、計30分類群がみられた。

ヒノキが最も多く72点で、ヒノキ科が24点、クワ属とアカガシ亜属が各15点、エノキ属が13点、スギが11点、スダジイが10点、サワラが8点、コナラ節が7点、モミ属とマツ属複維管束亜属が各6点、アスナロとムクノキが4点、クリとカエデ属が3点、クスノキとヤマグルマ、ブナ属、ハンノキ亜属、モチノキ属、イネ科が各2点、イヌガヤとモクレン属、サクラ属、ツブラジイ、クヌギ節、カバノキ属、ニシキギ、ムクロジ、サカキが各1点みられた。また、材の劣化が著しく広葉樹までの同定となった試料が5点、同定が行えなかった試料が1点みられた。同定結果を表4-4に、一覧を表4-5～7に記す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図4-4～9に光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真を示す。

#### (1) モミ属 *Abies* マツ科 図4-4 1a-1c(No.75)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ1～8列となる。分野壁孔は小型のスギ型で、1分野に2～4個みられる。また放射組織の末端壁は、数珠状に肥厚する。

モミ属には高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミと、低標高域に分布するモミがあり、いずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易、割裂性も大きい。

#### (2) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 図4-4 2a-2c(No.139)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分野壁孔は窓状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

#### (3) イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イチイ科 図4-4 3a-3c(No.161)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、1～3細胞高となる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、2～4個みられる。また仮道管の内壁には、らせん肥厚が確認できる。

イヌガヤは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する常緑小高木の針葉樹である。樹木自体が小さいため、現在では顕著な木材利用は行われていない。

#### (4) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科 図版4-4 4a-4c(No.60)

道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ2～15列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1分野に普通2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(5) アスナロ *Thuopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版 4-4 5a-5c(No.57)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ2～13列となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、1分野に2～4個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また精油分が多く、耐朽性に優れている。

(6) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版 4-4・5 6a-6c(No.3)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(7) サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図 4-5 7a-7c(No.118)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部はやや薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は同性で、1～6細胞高となる。分野壁孔はやや開いて斜めを向いたヒノキ型となり、1分野に2個みられる。

サワラは岩手県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は軽軟で加工しやすく、水湿によく耐える。

(8) ヒノキ科 Cupressaceae 図 4-5 8a-8c(No.191)

仮道管および樹脂細胞、放射組織細胞によって構成される針葉樹材である。晩材は量が少ない。放射組織は1列で、1～15細胞高になるが、炭化しているため分野壁孔の形状が確認できず、ヒノキ科以下の同定が不可能であった。

(9) モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図 4-5 9a-9c(No.187)

小型の道管が単独ないし2～3個複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管交互壁孔は階段状となる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、幅1～2列となる。

モクレン属にはホオノキ、コブシなどがある。代表的なホオノキは、山間の肥沃なところに散生する落葉高木の広葉樹で、材は軽軟で堅くなく、切削その他の加工は極めて容易である。

(10) クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl クスノキ科 図 4-5 10a-10c(No.170)

年輪のはじめに中型の道管が単独ないし2～3個複合してやや疎らに散在し、晩材部にかけて径を減少する半環孔材である。軸方向放射組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～2列となる。また、放射組織や木部繊維には油細胞がみられる。

クスノキは暖帯から亜熱帯へかけての本州中南部、四国、九州に分布する常緑高木の広葉樹である。材はやや軽軟なものから中庸なものまであり、切削加工は容易である。また、耐朽性および耐虫性がきわめて高い。

(11) ヤマグルマ *Trochodendron aralioides* Siebold et Zucc. ヤマグルマ科 図 4-5・6 11a-11c(No.115)

横断面で道管がみられず、仮道管で構成される無道管被子植物である。放射組織は上下端2～4列が直立する異性で、大きなものは幅4列以上となり、高さが1mm以上となる。

ヤマグルマは山形、福島県以南の本州、伊豆諸島、四国、九州、沖縄に分布する常緑高木の広葉樹

である。材はやや堅硬で、強靱であるが狂いが大きい。

(12) サクラ属 (広義) *Prunus* s. l. バラ科 図 4-6 12a-12c(No.56)

小型の道管が単独ないし数個、放射方向または斜め方向に複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 列が直立する異性で、1 ~ 5 列幅となる。

広義のサクラ属には、モモ属とスモモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属がある。樹種同定ではモモ属とバクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できないため、広義のサクラ属とはモモ属とバクチノキ属を除くサクラ属を指す。

(13) エノキ属 *Celtis* アサ科 図 4-6 13a-13c(No.44)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 ~ 3 列が方形となる異性で、幅 1 ~ 5 列となる。放射組織には鞘細胞がみられる。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬い。まとめて生育することはなく、現在では薪炭材などに利用される程度である。

(14) ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. アサ科 図 4-6 14a-14c(No.27)

中型の道管がほぼ単独でやや疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状、翼状、4 列以上の帯状となる。放射組織は上下端 1 ~ 3 列が直立する異性で、幅 1 ~ 4 列となる。

ムクノキは温帯の日当たりのよい適潤地を好み、海に近い所に比較的多い落葉高木の広葉樹である。材の強さは中庸であるが、靱性があり割裂しにくい。

(15) クワ属 *Morus* クワ科 図版 4-6 15a-15c(No.51)

年輪のはじめに大型の道管が並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合し、斜め方向に断続的に複合する半環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 ~ 3 列が方形となる異性で、幅 1 ~ 6 列となる。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し、日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

(16) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図 4-7 16a-16c(No.141)

年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 3 列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(17) ブナ属 *Fagus* ブナ科 図 4-7 17a-17c(No.116)

小型の道管が単独ないし 2 ~ 3 個複合して密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅 1 ~ 10 列である。

ブナ属にはブナとイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は、重硬で強度があるが、切削加工は困難ではない。

(18) スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba ブナ科 図 4-7 18a-18c(No.157)

年輪のはじめに大型の道管が断続的に並び、晩材部では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列となる。

スタジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難ではない。

(19) ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky ブナ科 図 4-7 19a-19c(No.197)

年輪のはじめに大型の道管が不連続に1~3列並び、晩材部では急に径を減じた薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと集合放射組織がみられる。

ツブラジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難ではない。

(20) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図 4-7 20a-20c(No.63)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

(21) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図 4-7 21a-21c(No.98)

年輪のはじめに大型の道管が1~2列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靱で、切削加工はやや難しい。

(22) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図 4-7・8 22a-22c(No.34)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靱で、耐水性があり、切削加工は困難である。

(23) ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 図 4-8 23a-23c(No.101)

小型の道管が単独ないし2~3個複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと集合放射組織がみられる。

ハンノキ属ハンノキ亜属にはヤマハンノキやハンノキなどがあり、温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。ヤマハンノキは山林部に、ハンノキは平地の湿地や河川などの湿潤地に多い。材の重さは中庸で、切削加工なども中庸から容易である。

(24) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図 4-8 24a-24c(No.91)

中型の道管が単独または2~4個放射方向に複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は10~20段程度の階段穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1~4列である。

カバノキ属にはマカンバやダケカンバ、ウダイカンバなどがあり、代表的なマカンバは北海道から本州北中部の温帯の、日当たりの良い場所に生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で強靱

だが、切削加工は容易である。

(25) ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 図 4-8 25a-25c(No.182)

小型の道管がほぼ単独で散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 列が直立する異性で、単列となる。

ニシキギ属にはニシキギやマユミなどがあり、代表的なマユミは、北海道から九州までの山地にみられる落葉高木または小高木の広葉樹である。材は強靱で韌性がある。

(26) カエデ属 *Acer* ムクロジ科 図 4-8 26a-26c(No.77)

小型の道管が単独ないし 2 ~ 3 個複合してやや疎らに散在する散孔材である。木部繊維の壁の厚さの違いで、木口面に雲紋状の文様がみられる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅 1 ~ 6 列となる。

カエデ属は 10 列以上の放射組織を持つチドリノキ以外は種までの同定が出来ない。そのため本試料はチドリノキ以外のカエデ属と考えられる。カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(27) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図 4-8・9 27a-27c(No.156)

年輪の始めにやや大型の道管が 1 ~ 2 列並び、晩材部では急に径を減じた道管が数個複合して配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状、連合翼状~帯状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で幅 1 ~ 4 列となる。

ムクロジは関東、新潟、富山県境以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木の広葉樹である。材は中庸ないしやや重硬である。

(28) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. モッコク科 図 4-9 28a-28c(No.172)

小型の道管が、ほぼ単独で、やや密に散在する散孔材である。道管の穿孔は 20 ~ 40 段程度の階段穿孔となる。放射組織は上下端 1 ~ 4 列が直立する異性で、単列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靱、堅硬で、切削加工は困難である。

(29) モチノキ属 *Ilex* モチノキ科 図 4-9 29a-29c(No.153)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は 20 ~ 40 段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端 1 ~ 3 列が直立する異性で、幅 1 ~ 5 列となる。

モチノキ属にはモチノキやクロガネモチなどがあり、一般的なモチノキは宮城県、山形県以南の本州、四国、九州などの暖帯の沿海地に多く分布する常緑高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工は中庸である。

(30) 広葉樹 Broadleaf wood 図 4-9 30a-30c(No.192)

横断面で道管は確認されるが、材の劣化が著しく、道管の配列は不明瞭であった。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。以上の特徴より、広葉樹までの同定に留めた。

(31) イネ科 Gramineae 図 4-9 31a(No.202)

向軸側の原生木部、その左右の 2 個の後生木部、背軸側の節部の三つで構成される維管束が散在する单子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など 7 亜科がみられる单子葉植物であるが、対照標本が少なく、同定までには至っていない。

表 4-5 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（試料番号順）

試料 No.	調査区	遺構その他	dot番号	器種	樹種	木取り	報告書番号
1	18	200SD下層	d-1008	板	ヒノキ	板目	W-8
2	18	200SD上層	d-1016	低加工木	ヒノキ	追紐目	
3	18	200SD下層	d-1017	角棒	ヒノキ	分割材	
4	18	200SD下層	d-1017	角材	エノキ属	紐目	
5	18	200SD下層	d-1017	板	サワラ	板目	
6	18	200SD下層	d-1017	低加工木	エノキ属	板目	
7	18	200SD下層	d-1017	自然木	ヒノキ	割れ	
8	18	200SD下層	d-1019	板	コナラ属コナラ節	紐目	W-9
9	18	200SD下層	d-1020	分割材	エノキ属	芯持丸木	
10	18	200SD下層	d-1021	直柄平鋸未成品	コナラ属アカガシ亜属	紐目	W-1
11	18	200SD下層	d-1021	分割材	ヒノキ	紐目	
12	18	200SD下層	d-1024	板	ヒノキ	板目	W-6
13	18	200SD下層	d-1024	板	ヒノキ	紐目	
14	18	326SK	d-1025	低加工木	ヒノキ	分割材	
15	18	305SK (d区)	d-1026	板	エノキ属	紐目	W-27
16	18	274SK	d-1027	板	ヒノキ	板目	W-26
17	18	400NR	d-1028	直柄平鋸	コナラ属アカガシ亜属	紐目	W-17
18	18	400NR	d-1028	角棒	ヒノキ	分割材	
19	18	400NR	d-1028	木製品	ヒノキ	芯持丸木	
20	18	200SD	d-1029	板	ヒノキ	紐目	W-10
21	18	攪乱 200SD下層	d-1032	板	ヒノキ	板目	W-7
22	18	南北アゼ 302SK	d-1035	手斧屑	ヒノキ	追紐目	W-28
23	18	攪乱北壁 200SD下層	d-1037	自然木	エノキ属	芯持丸木	
24	18	攪乱北壁 200SD下層	d-1037	枝	エノキ属	芯持丸木	
25	18	攪乱北壁 200SD下層	d-1037	自然木	広葉樹	みかん割り	
26	18	302SK 柱穴367SK	d-1038	柱?	ヒノキ	割れ	
27	18	400NR?	d-1049	自然木	ムクノキ	芯持丸木	
28	18	点アゲ	d-039	低加工木	クワ属	芯持丸木	
29	18	点アゲ	d-040	低加工木	ヒノキ	分割材	
30	18	200SD 点アゲ	d-041	低加工木	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	
31	18	点アゲ	d-042	低加工木	ヒノキ	みかん割り	
32	18	点アゲ	d-043	低加工木	ヒノキ	板目	
33	18	002SD下層	d-055	板	ヒノキ	板目	W-24
34	18	点アゲ	d-056	直柄平鋸未成品	コナラ属アカガシ亜属	紐目	W-3
35	18	200SD上層	d-058	縦斧柄 (石斧)	コナラ属コナラ節	みかん割り	W-4
36	18	200SD上層	d-058	低加工木	スギ	板目	
37	18	300SD 点アゲ	d-060	低加工木	ヒノキ	板目	
38	18	200SD	d-064	容器未成品	ブナ属	横木取り	W-5
39	18	200SD	d-064	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
40	18	300SD 点アゲ	d-066	低加工木	ヒノキ	板目	
41	18	306SK (b区)	d-070	低加工木	マツ属複雑管束亜属	紐目	
42	18	001SD	d-073	低加工木	ヒノキ	板目	
43	18	001SD	d-074	低加工木	スギ	追紐目	
44	18	200SD上層	d-077	低加工木	エノキ属	芯持丸木	
45	18	200SD上層	d-077	板	ヤマガルマ	紐目	
46	18	200SD上層	d-077	自然木	エノキ属	芯持丸木	
47	18	200SD下層	d-090	直柄平鋸未成品	コナラ属アカガシ亜属	紐目	W-2
48	18	021SD (b区) アゼ	d-095	低加工木	ヒノキ	みかん割り	
49	19	200SD	d-017	低加工木	クワ属	芯持丸木	
50	19	200SD	d-029	低加工木	クワ属	芯持丸木	
51	19	200SD	d-031	低加工木	クワ属	芯持丸木	
52	19	200SD	d-033	板	ヒノキ	板目	
53	19	200SD	d-034	低加工木	クワ属	芯持丸木	
54	19	200SD	d-035	低加工木	ヒノキ	みかん割り	
55	19	200SD	d-036	低加工木	ヒノキ	板目	
56	19	200SD	d-037	低加工木	サクラ属	芯持丸木	
57	19	200SD	d-038	低加工木	アスナロ	紐目	
58	19	200SD	d-041	低加工木	サワラ	板目	
59	19	200SD	d-043	丸太	エノキ属	芯持丸木	
60	19	200SD	d-044	角棒	スギ	紐目	W-15
61	19	200SD	d-045	低加工木	クワ属	半割	
62	19	200SD	d-047	低加工木	アスナロ	芯持丸木	
63	19	200SD	d-049	分割材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
64	19	200SD	d-051	低加工木	ヒノキ	分割材	
65	19	200SD	d-053	低加工木	エノキ属	芯持丸木	
66	19	200SD	d-054	低加工木	エノキ属	みかん割り	
67	19	200SD	d-056	穿孔板	スギ	板目	W-16
68	19	200SD	d-065	低加工木	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
69	19	200SD	d-067	低加工木	ヒノキ	板目	
70	19	200SD	d-072	矢板	スギ	半割	W-22
71	19	200SD	d-078	低加工木	クワ属	芯持丸木	
72	19	200SD	d-079	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	
73	19	200SD	d-080	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
74	19	200SD	d-081	低加工木	サワラ	芯持丸木	
75	19	200SD	d-082	低加工木	モミ属	みかん割り	
76	19	200SD	d-083	低加工木	ヒノキ	板目	
77	19	200SD	d-084	低加工木	カエデ属	芯持丸木	
78	19	200SD	d-085	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
79	19	200SD	d-086	低加工木	クリ	芯持丸木	
80	19	200SD	d-087	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
81	19	200SD	d-088	低加工木	ヒノキ	みかん割り	
82	19	200SD	d-089	低加工木	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
83	19	200SD	d-091	低加工木	アスナロ	みかん割り	
84	19	200SD	d-092	低加工木	スギ	芯持丸木	

(32) 不明 Unknown

木材組織が確認できず、同定が行えなかった。肉眼観察より、サルノコシカケ科などの菌類であると考えられる。

4. まとめ

一色青海遺跡で使用された木材の樹種の傾向と、そこから推定される木材資源利用パターンおよび周辺植生について、清須市朝日遺跡と比較しつつ簡単にまとめる。

直柄平鋸・直柄多又鋸などの掘削具にアカガシ亜属が多用されるのは、南関東以西の地域では一般的な傾向である。ただ、朝日遺跡など濃尾平野低地部ではアカガシ亜属大径木（材の直径60cm以上）の入手に苦勞しており、その代用としてコナラ節・クヌギ節・クリなどの落葉広葉樹を利用することが多い（樋上2010）。しかし本遺跡においては、低加工木にアカガシ亜属が多いこと（表4-4）、前回報告の2009年度調査時にアカガシ亜属を用いた連続製作の直柄平鋸未成品が出土していること（愛知県埋蔵文化財センター2014）、そして本報告における柳原の大型植物遺体同定においてアカガシ亜属の幼果が報告されていること（第4章第2節）から、朝日遺跡などに比べて一色青海遺跡はアカガシ亜属がより入手しやすい、つまり集落の付近に自生していた可能性が高

表 4-6 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（試料番号順）

試料 No.	調査区	遺構その他	dot番号	器種	樹種	木取り	報告書番号
85	19	400NR	d093	板	スギ	追紐目	
86	19	400NR	d094	分割材	コナラ属アカガシ亜属	みかん割り	
87	19	400NR	d095	木製品	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	
88	19	400NR	d097	直柄平鋸未成品	コナラ属アカガシ亜属	紐目	W-18
89	19	400NR	d098	低加工木	エノキ属	芯持丸木	
90	19	400NR	d099	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	
91	19	400NR	d100	低加工木	カバノキ属	芯持丸木	
92	19	400NR	d101	低加工木	広葉樹	芯持丸木	
93	19	400NR	d103	組合せ直柄多又鋸	コナラ属アカガシ亜属	紐目	W-19
94	19	400NR	d104	低加工木	ヒノキ	削りだし	
95	19	400NR	d105	低加工木	カエデ属	削りだし	
96	19	400NR	d106	板	スギ	板目	
97	19	400NR	d107	横斧柄(柱状片刃石斧)	クリ	二叉材	W-20
98	19	400NR	d111	低加工木	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
99	19	400NR	d112	低加工木	クワ属	芯持丸木	
100	19	400NR	d113	低加工木	ハンノキ属ハンノキ亜属	芯持丸木	
101	19	400NR	d115	低加工木	ハンノキ属ハンノキ亜属	芯持丸木	
102	19	400NR	d116	低加工木	ムクノキ	芯持丸木	
103	19	400NR	-	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	みかん割り	
104	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
105	19	400NR	-	低加工木	スギ	板目	
106	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
107	19	400NR	-	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	紐目	
108	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
109	19	400NR	-	低加工木	モミ属	板目	
110	19	400NR	-	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	紐目	
111	19	600SD	-	低加工木	ヒノキ	追紐目	
112	19	600SD	-	低加工木	ヒノキ	追紐目	
113	19	600SD	-	丸棒	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
114	19	600SD	-	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	みかん割り	
115	19	600SD	-	低加工木	ヤマグルマ	みかん割り	
116	19	400NR	-	低加工木	ブナ属	芯持丸木	
117	19	400NR	-	低加工木	ムクノキ	芯持丸木	
118	19	400NR	-	低加工木	サワラ	板目	
119	19	400NR	-	低加工木	ムクノキ	芯持丸木	
120	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	削りだし	
121	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
122	19	400NR	-	低加工木	アスナロ	板目	
123	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
124	19	400NR	-	低加工木	サワラ	半割	
125	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
126	19	400NR	-	低加工木	コナラ属コナラ節	紐目	
127	19	400NR	-	低加工木	クワ属	紐目	
128	19	400NR	-	角棒	ヒノキ	板目	W-29
129	19	400NR	-	低加工木	スギ	板目	
130	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
131	19	400NR	-	竪杆	ヒノキ	芯持丸木	W-21
132	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	板目	
133	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
134	19	400NR	-	低加工木	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	
135	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	削りだし	
136	19	400NR	-	低加工木	クワ属	芯持丸木	
137	19	400NR	-	低加工木	モミ属	芯持丸木	
138	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
139	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
140	19	400NR	-	低加工木	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	
141	19	400NR	-	低加工木	クリ	芯持丸木	
142	19	400NR	-	低加工木	モミ属	芯持丸木	
143	19	400NR	-	低加工木	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	
144	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
145	19	400NR	-	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
146	21	082SD	d-062	矢板	スギ	追紐目	W-25
147	21	200SD	d-066	建築材or土木材	コナラ属アカガシ亜属	削りだし	W-11
148	21	200SD	d-067	低加工木	クスノキ	芯持丸木	
149	21	600SD上層	d201	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
150	21	600SD上層	d202	低加工木	ヒノキ	板目	
151	21	600SD上層	d203	低加工木	クワ属	芯持丸木	
152	21	600SD上層	d205	低加工木	クワ属	芯持丸木	
153	21	600SD上層	d206	低加工木	モチノキ属	芯持丸木	
154	21	600SD上層	d207	低加工木	エノキ属	割れ	
155	21	600SD上層	d208	低加工木	サワラ	板目	
156	21	600SD上層	d209	低加工木	ムクロジ	芯持丸木	
157	21	600SD上層	d210	低加工木	スダジイ	芯持丸木	
158	21	600SD上層	d211	板	ヒノキ	板目	
159	21	600SD上層	d212	低加工木	ヒノキ	割れ	
160	21	600SD上層	d213	低加工木	ヒノキ	削りだし	
161	21	600SD上層	d214	丸棒(弓?)	イヌガヤ	芯持丸木	W-14
162	21	600SD上層	d215	低加工木	ヒノキ	割れ	
163	21	600SD上層	d216	低加工木	ヒノキ	割れ	
164	21	600SD上層	d225	低加工木	不明	不明	
165	21	600SD上層	d227	低加工木	モチノキ属	二叉材	
166	21	600SD上層	d228	低加工木	ヒノキ	紐目	
167	21	600SD上層	d230	低加工木	モミ属	芯持丸木	
168	21	600SD上層	d231	低加工木	ヒノキ	割れ	

くなった。

そのほか広葉樹では、竪穴建物の炭化材にスダジイが多用されていること、低加工木や自然木にエノキ属・ムクノキ・クワ属・コナラ節がめだつことから、アカガシ亜属を含めたこれらの樹種が主体となる植生が集落の近傍にあったことが想定できる。

針葉樹で注目すべきはヒノキ・サワラ・アスナロ・スギなどヒノキ科の樹種が、広葉樹をはるかに凌駕していることである。このことは朝日遺跡においても同様である。朝日遺跡では当初はスギが多く、弥生時代中期後葉を境にヒノキが増加する傾向が確認できる。一色青海遺跡はまさにこの弥生時代中期後葉に属する集落であり、かつ同じヒノキ科のなかでもスギよりヒノキが多いことは注目に値する。スギは自然植生において、ヒノキよりも沖積低地に近い場所に自生していたと推定されるため、濃尾平野低地部でも河川を利用することで比較的入手が容易であったと考えている。この低地寄りのスギ林が伐採により枯渇したため、より山地に生えるヒノキ・サワラ・アスナロの利用へと移行したと考えられる。モミ属もまたヒノキに近い植生であることから、山地からの搬入が想定できる。

また今回の樹種同定結果では、マツ属複雑管束亜属の低加工木が比較的多いことも重要である。一般的にマツ属の利用は、集落周辺の微高地・丘陵・山地の人為的な伐採が進み、有用木が枯渇し始める古墳時代中期以降に急激に増加する。しかし濃尾平野低地部では、特に朝日遺跡において弥生時代中期前葉からマツ属を多用する傾向がある。このことから、朝日遺跡ではマツ属やヤナギ属のような裸地あるいは湿地に自生するような環境に集落の形成が始まったと推定している(愛知県埋蔵文化財センター2007)。同様に、この一色青海遺跡においても本来はマツ属を利用せざるを得な

表 4-7 一色青海遺跡出土木材の樹種同定結果一覧（試料番号順）

試料 No.	調査区	遺構その他	dot 番号	器種	樹種	木取り	報告書番号他
169	21	600SD上層	d239	低加工木	クワ属	芯持丸木	
170	21	600SD上層	d217	把手白	クスノキ	芯持丸木	W-12
171	21	600SD上層	d226	木製品	モミ属	楳目	
172	21	600SD上層	d250	權未成品	サカキ	板目	W-13
173	21	600SD上層	-	低加工木	ヒノキ	楳目	
174	21	400NR下層	d252	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
175	21	400NR下層	d253	低加工木	クワ属	芯持丸木	
176	21	400NR下層	d254	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
177	21	400NR下層	d255	低加工木	ヒノキ	芯持丸木	
178	21	400NR下層	d256	低加工木	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	
179	21	400NR下層	d257	低加工木	クワ属	芯持丸木	
180	21	400NR下層	d258	低加工木	カエデ属	芯持丸木	
181	21	400NR下層	-	丸棒	ヒノキ	芯持丸木	W-23
182	23	002SD	d-001	低加工木	ニシキギ	割れ	
183	23	060SK	d-041	低加工木	ヒノキ	割れ	
184	23	069SI	d-043	低加工木	ヒノキ	割れ	
185	23	069SI	d-061	低加工木	ヒノキ	割れ	
186	23	002SD	-	低加工木	サワラ	割れ	
187	23	002SD	-	低加工木	モクレン属	割れ	
188	23	073SK	-	低加工木	ヒノキ	追楳目	
189	18	302SI	174	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル1
190	18	302SI	175	竪穴建物炭化材	広葉樹	割れ	サンプル2
191	18	302SI	176	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル3
192	18	302SI	177	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル4
193	18	302SI	178	竪穴建物炭化材	イネ科	割れ	サンプル5
194	18	302SI	179	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル6
195	18	302SI	180	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル7
196	18	302SI	181	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル8
197	18	302SI	182	竪穴建物炭化材	ツブラジイ	割れ	サンプル9
198	18	302SI	184	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル11
199	18	302SI	185	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル12
200	18	302SI	186	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル13
201	18	302SI	187	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル14
202	18	302SI	188	竪穴建物炭化材	イネ科	割れ	サンプル15
203	18	302SI	189	竪穴建物炭化材	広葉樹	割れ	サンプル16
204	18	302SI	190	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル17
205	18	302SI	191	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル18
206	18	302SI	192	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル19
207	18	302SI	193	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル20
208	18	302SI	194	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル21
209	18	302SI	195	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル22
210	18	302SI	196	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル23
211	18	302SI	197	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル24
212	18	302SI	198	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル25
213	18	302SI	199	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル26
214	18	302SI	200	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル27
215	18	302SI	201	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル28
216	18	302SI	202	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル29
217	18	302SI	204	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル31
218	18	302SI	205	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル32
219	18	302SI	206	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル33
220	18	302SI	207	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル34
221	18	302SI	208	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル35
222	18	302SI	209	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル36
223	18	302SI	210	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル37
224	18	302SI	211	竪穴建物炭化材	スダジイ	割れ	サンプル38
225	18	302SI	212	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル39
226	18	310SI	215	竪穴建物炭化材	広葉樹	割れ	サンプル2
227	18	310SI	216	竪穴建物炭化材	ヒノキ科	割れ	サンプル3
228	19	600SD	-	自然木	サワラ	割れ	

いような当初の周辺植生から、徐々にアカガシ亜属・クワ属・スダジイ・コナラ節など有用な樹種が生える二次林的植生を創り出していった可能性が想定できる。

引用・参考文献

愛知県埋蔵文化財センター 2007 『朝日遺跡Ⅶ』

愛知県埋蔵文化財センター 2014 『一色青海遺跡Ⅲ』

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 2011 『日本有用樹木誌』 238p, 海青社

伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学—出土木製品用材データベース—』 449p, 海青社

黒沼保子 2014 「一色青海遺跡出土木材の樹種同定」『一色青海遺跡Ⅲ』152-179, 愛知県埋蔵文化財センター

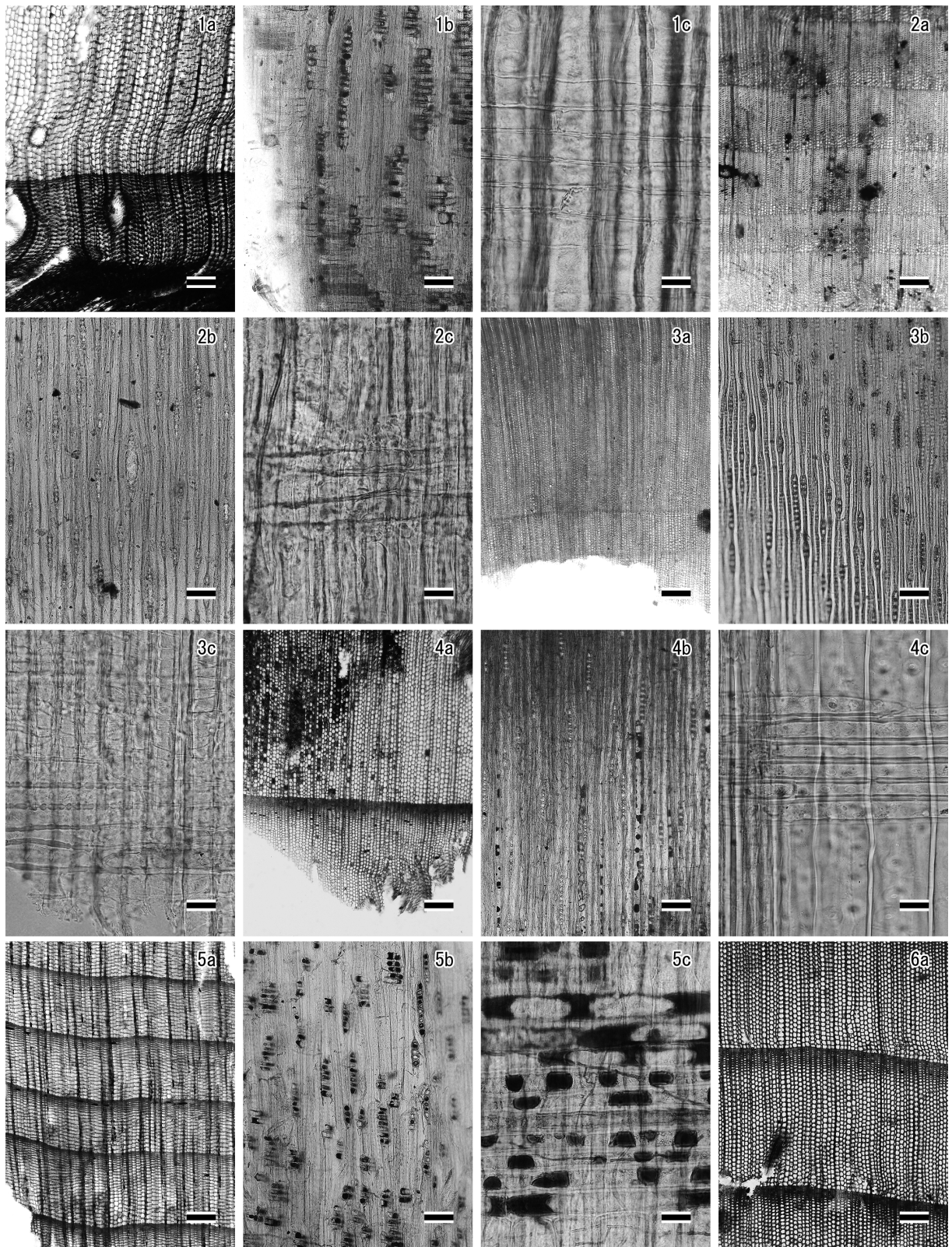


図 4-4 一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. モミ属(No. 75)、2a-2c. マツ属複雑管束亜属(No. 139)、3a-3c. イヌガヤ(No. 161)、4a-4c. スギ(No. 60)、  
5a-5c. アスナロ(No. 57)、6a. ヒノキ(No. 3)

a: 横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b: 接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c: 放射断面(スケール=25  $\mu\text{m}$ )

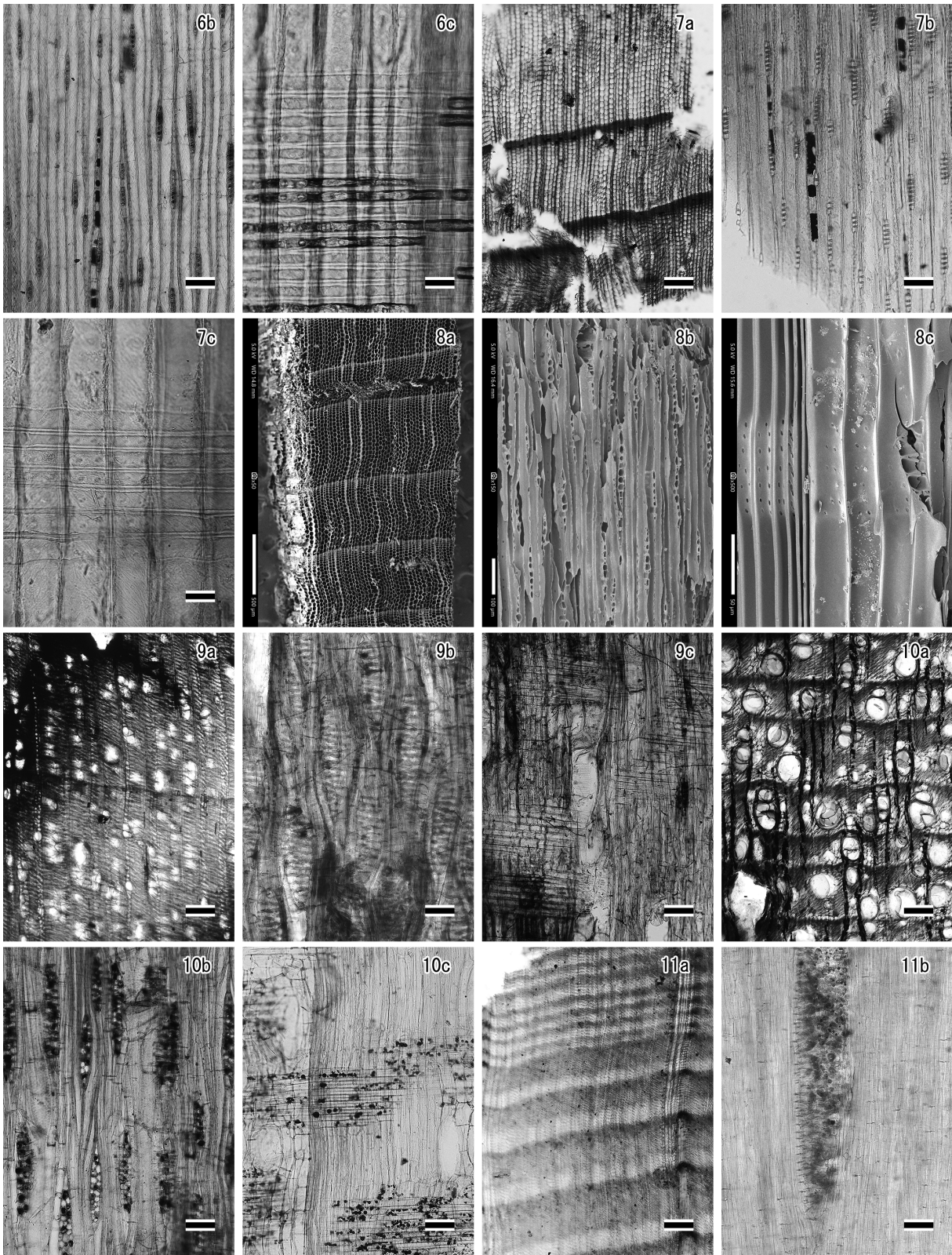


図 4-5 一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真(2)

6b-6c. ヒノキ(No.3)、7a-7c. サワラ(No.118)、8a-8c. ヒノキ科(No.191)、9a-9c. モクレン属(No.187)、10a-10c. クスノキ(No.170)、11a-11b. ヤマグルマ(No.115)

a:横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b:接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c:放射断面(スケール=6-7:25  $\mu\text{m}$ ・9-10:100  $\mu\text{m}$ )

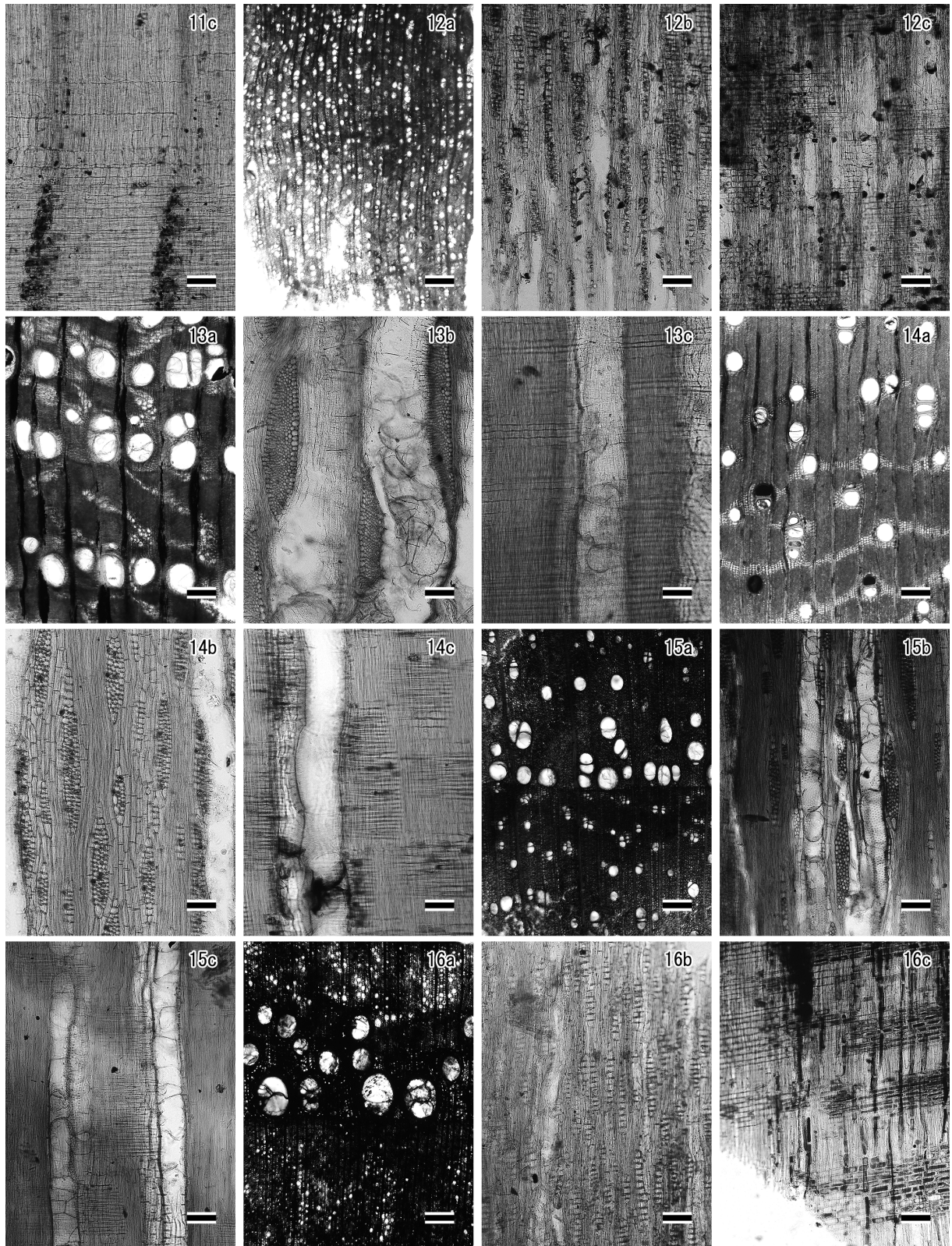


図 4-6 一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真(3)

11c. ヤマグルマ(No. 115)、12a-12c. サクラ属(No. 56)、13a-13c. エノキ属(No. 44)、14a-14c. ムクノキ(No. 27)、  
15a-15c. クワ属(No. 51)、16a-16c. クリ(No. 141)

a:横断面(スケール=250  $\mu$ m)、b:接線断面(スケール=100  $\mu$ m)、c:放射断面(スケール=100  $\mu$ m)

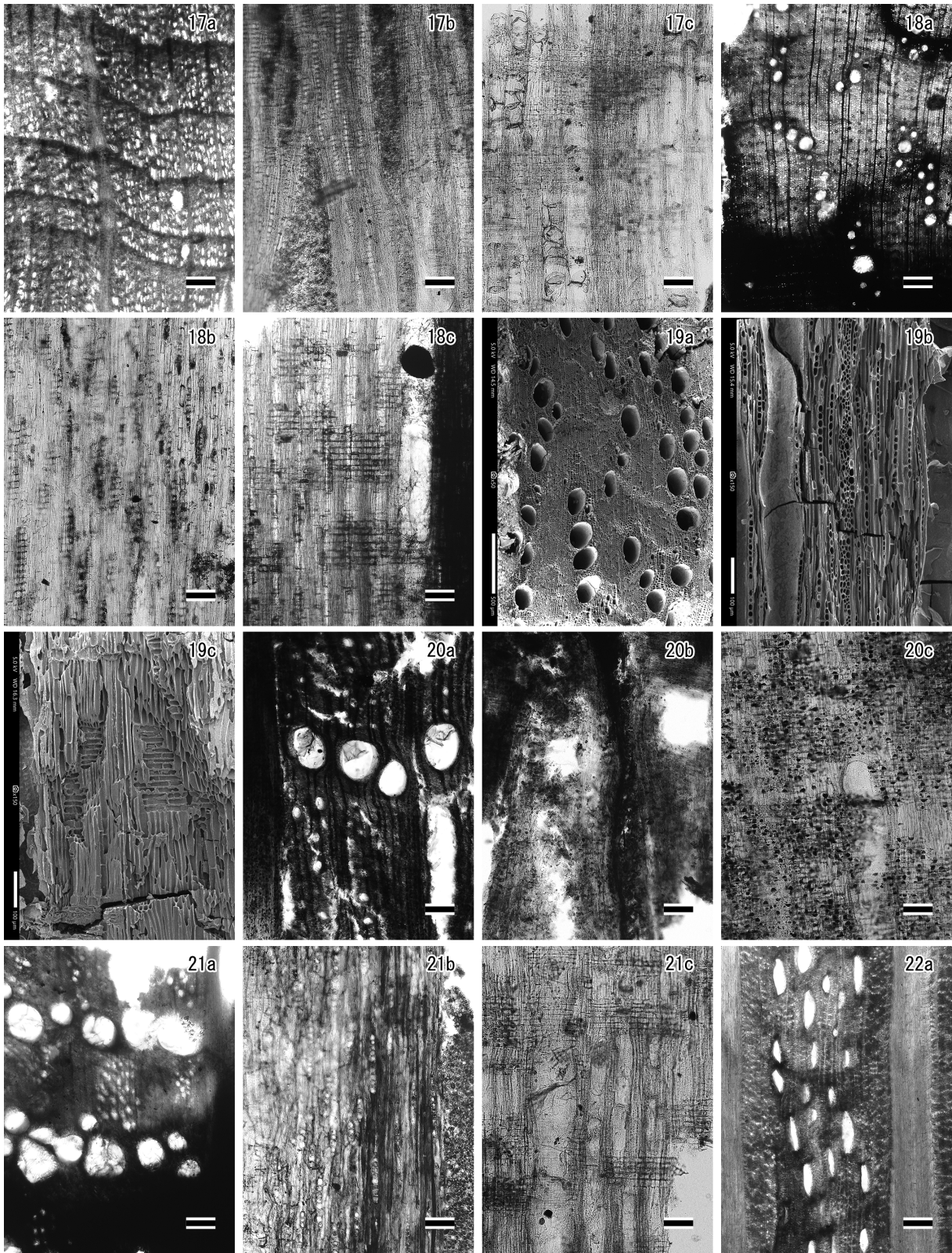


図 4-7 一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真(4)

17a-17c. ブナ属(No. 116)、18a-18c. スダジイ(No. 157)、19a-19c. ツブラジイ(No. 197)、20a-20c. コナラ属クヌギ節(No. 63)、21a-21c. コナラ属コナラ節(No. 98)、22a. コナラ属アカガシ亜属(No. 34)

a:横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b:接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c:放射断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )

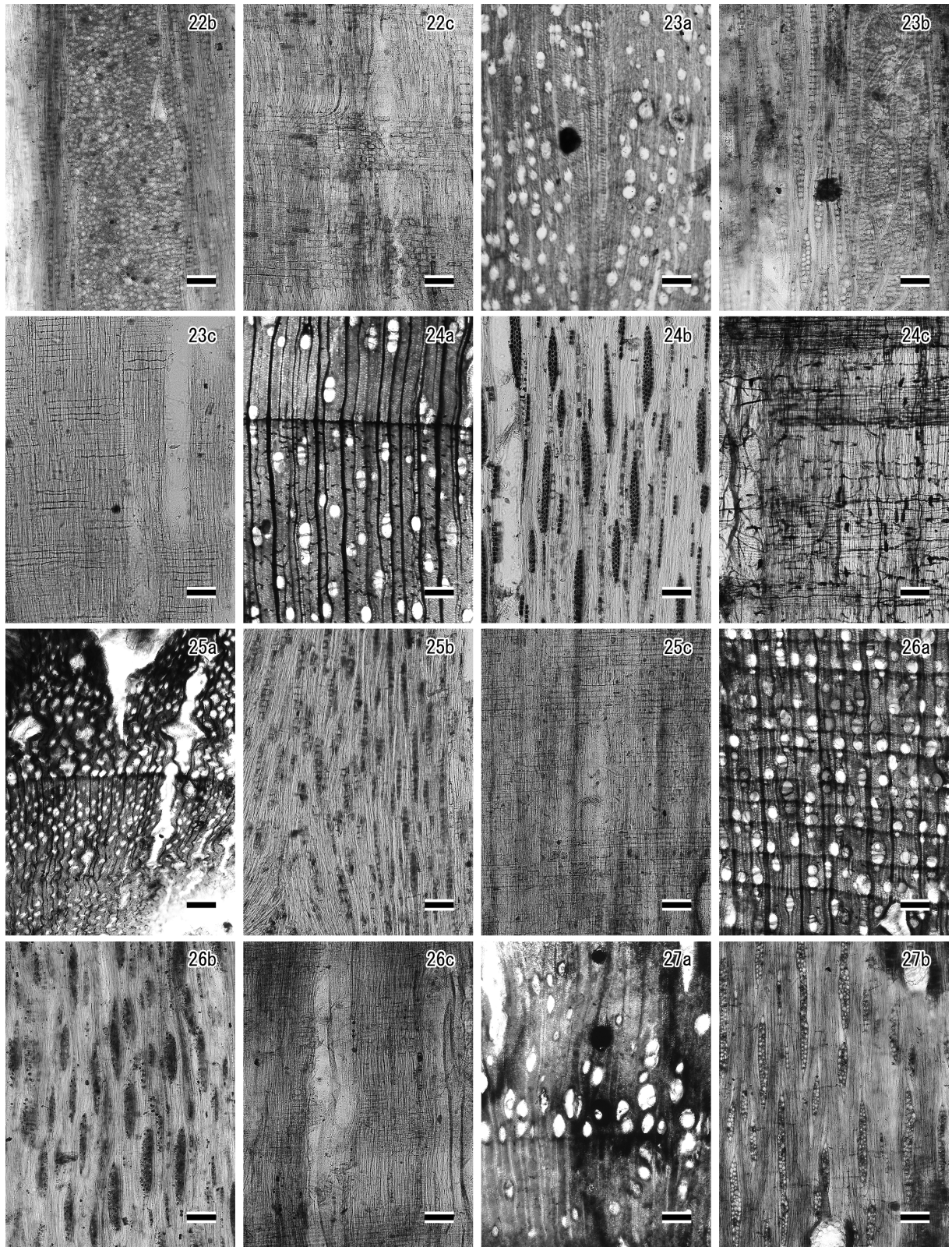


図 4-8 一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真(5)

22b-22c. コナラ属アカガシ亜属(No. 34)、23a-23c. ハンノキ属ハンノキ亜属(No. 101)、24a-24c. カバノキ属(No. 91)、25a-25c. ニシギ属(No. 182)、26a-26c. カエデ属(No. 77)、27a-27b. ムクロジ(No. 156)

a:横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b:接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c:放射断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )

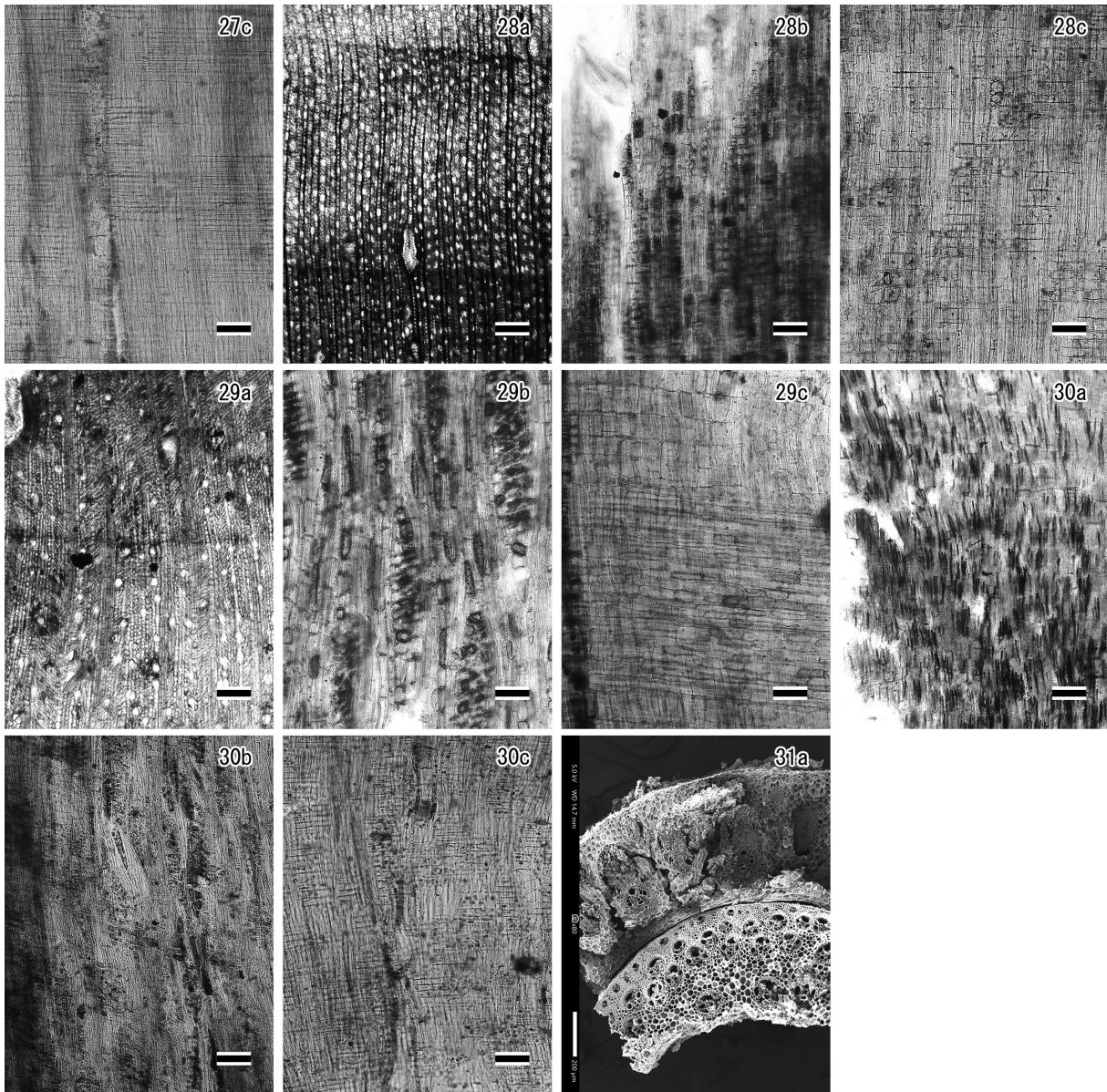


図 4-9 一色青海遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真(6)

27c. ムクロジ(No. 156)、28a-28c. サカキ(No. 172)、29a-29c. モチノキ属(No. 153)、30a-30c. 広葉樹(No. 192)、31a. イネ科(No. 202)

a:横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b:接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c:放射断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )

植田弥生・野村敏江 2008 「一色青海遺跡出土木製品・木材の樹種同定」『一色青海遺跡Ⅱ 本文・遺物図版編』48-64, 愛知県埋蔵文化財センター

樋上 昇 2010 『木製品から考える地域社会—弥生から古墳へ—』雄山閣

松葉礼子 1998 「一色青海遺跡の樹種同定」『一色青海遺跡 自然科学・考察編』69-74, 愛知県埋蔵文化財センター

# 第5章 総括

## 第1節 一色青海遺跡の遺構分布状況

2018年度以降の4ヶ年度にわたって実施された一色青海遺跡の発掘調査によって、検出された遺構は、方形周溝墓2基、溝(中世以降)2条、溝(弥生時代、方形周溝墓周溝を含む)13条、竪穴建物跡22棟がある。遺跡内の遺構分布状況については過去の調査で明らかになっており、新たに実施された調査で検出された遺構の分布状況は過去の調査で想定された範囲に収まる状況となった。

溝(200SD・600SD)と旧河道(400NR)の前後関係は、今回報告する調査区内全域に関わりがあるが、18区内では200SD(新)・400NR(古)の前後関係が確認できた(600SDは200SDが完全に重複したためか検出されなかった)。19区・21区でも200SD(新)・600SD・400NR(古)の順の前後関係があらためて確認された。

方形周溝墓は墓域として想定されている18区で010SZ、020SZの2基、23区では014SZ1基が検出された。こちらも居住域として多数の竪穴建物跡が構築された後、居住域としては廃絶し、後に方形周溝墓が造成され墓域となっている状況は、過去の調査の93区、09区等で確認されている状況と一致する。

竪穴建物跡は居住域として想定されている18区では010SZ、020SZの盛土下と010SZ、020SZの西側。21区では調査区南西隅部の居住域推定範囲。23区では方形周溝墓014SZ(93年度調査と同番号)墳丘下で検出された竪穴建物跡が複数存在し、014SZの北側と西側でも検出されている。

## 第2節 特筆すべき遺構(18区302SI)

一色青海遺跡の竪穴建物跡の特徴として、同一位置で複数の竪穴建物跡が重複して検出されることや火災住居が多く検出されていることが挙げられる。

中でも特筆すべき遺構として18区の302SIがある。302SIは炭化物と被熱した土器が多数検出された火災竪穴建物跡である。複数の竪穴建物が重複する内の1棟で、308SIに後続し330SIに先行する、3棟の中間に位置する竪穴建物跡である。

302SI内で検出された土器は破損し破片が重複した状態のままで被熱していた。調査中には土器が竪穴建物内の所定の位置に配置されたまま被熱し、火災と建物部材の崩落によって破損したものと推定した。ところが土器の分類・接合作業を行った結果、多数の破片が重複する土器破片群の中には複数の土器が混在し、さらに土器破片群をまたいで接合する個体が複数存在したことなどを踏まえると、土器が被熱する以前に破片化していたことが推定されるにいたった。

また、302SIで検出された土器のうちの一定数は、土の中に破片の一部が埋没した状況で被熱し、土中にあった部分は被熱を免れ、露出した部分が赤変するという状態が観察できた(E-52等)。

これらの状況から、竪穴建物が機能を停止した後、土器が破片化し、竪穴建物内に土砂が流入、土器片の一部が埋没した状態で火を受けたという順序が推定できる。すなわち竪穴建物の機能停止から火を受けるまでには、土砂が流入するまでの一定程度の時間差が生じることから、機能停止後の竪穴建物が火災にあったと考えられる。廃絶後の火災については、これを焼却とすべき指摘もある(石黒立人氏：指導時の助言)。

### 第3節 重複する竪穴建物跡の方位

18区の302SIをはじめとする重複する竪穴建物のグループは、長軸を一定の方位（北方向を0度として、時計回りに30度前後と300度前後）に指向しつつ建替えが行われている。これの比較として21区、23区の竪穴建物跡の方位についても概要を記す。

18区330SI、302SI、308SIのグループ（図5-1）では、古いほうから順に、北方向を0度とした角度は、いずれも時計回りに308SIは約298度（西北西-東南東）、302SIは約308度（西北西-東南東）、330SIは約32度（北北東-南南西）が長軸となっている。

同じく18区279SI、310SI、326SI、274SIのグループ（図5-1）では、古いほうから順に、同じく北を0度として時計回りに279SIは約25度（北北東-南南西）、310SIは約304度（西北西-東南東）、326SIは約299度（西北西-東南東）、274SIは約28度（北北東-南南西）が長軸となっている。

この2つのグループでは、似通った方位の変遷が見られた。重複する中で最も新しい竪穴建物跡（330SI・274SI）は南北に近い方向の長軸を持ち、それ以前（302SI・308SI・326SI・310SI）は東西に近い方向の長軸となっている。さらに前の段階の279SIは南北に近い長軸を持っており、建替毎に建物の向きや規模を選択し、向きを変更する際にはほぼ直交する方位を選択していたことが推定される。

この方位の変更の原因については、建物周囲の地形の変化（河道や溝の位置の変化等）、居住域内の通路や他の建物などの変化に影響を受けた（規制を受けた）ものと考えられるが確認はない。

一方、23区内で検出された竪穴建物跡の長軸方向は、上述の一定の方位（北を0度として、時計回りに30度前後と300度前後）以外にも様々な方位を示す（図5-3・4）。

23区北東部に位置する竪穴建物跡の長軸の角度は、いずれも北を0度として時計回りに、005SIは約295度（西北西-東南東）、056SIは約297度（西北西-東南東）に長軸が指向している。

23区中央、014SZの盛土下に位置する竪穴建物群の長軸方向の角度は、古い方から順に、いずれも北を0度として時計回りに、23-066SIは約17度（北北東-南南西）、065SIは約322度（北西-南東）、069SIは約293度（西北西-東南東）、051SIは約64度（東北東-西南西）、035SIは約48度（北東-南西）、053SIは約47度（北東-南西）、044SIは約270度（東-西）、052SIは約54度（北西-南東）と、18区内のグループとは異なった長軸の方位を指向する竪穴建物跡も含まれている。また09区で西半部が既出で、23区西壁沿いに位置する217SIは時計回りに約34度（北北東-南南西）の長軸を持つ。

21区で検出された21-066SIは北を0度として時計回りに約49度（北東-南西）、これに近接して21-066SIに先行する1313SIも約50度とほぼ同じ方位である。21-066SIと1313SIの東に隣接する1280SIも約56度（北東-南西）と、近い長軸方向を指向する。これらは21区北半部を流れる旧河道400NRや溝200SD・600SDに面しているため、この方位を指向したものと考えられる（図5-2）。

### 第4節 放射性炭素年代測定の結果について

18区で検出された炭化材や木質遺物の放射性炭素年代測定結果を報告する（表5-1）。

18区内で検出された火災竪穴建物跡で採取した炭化材や旧河道400NRで出土した木質遺物よりサンプルを採取し、放射性炭素年代測定を行なった。

18区内の竪穴建物跡の279SI（試料No.2）、302SI（試料No.3、試料No.4、試料No.5）、310SI（試料No.6）の分析結果は、土器などから想定された年代よりも古く考えられるものもある。これらについては、採取されたサンプルの状況（年輪の内側のみが残存していた等）による古木効果との指摘がある（第4章第1節）。そのため、各遺構間の前後関係を裏付けるほどの精度の年代は得ることができ

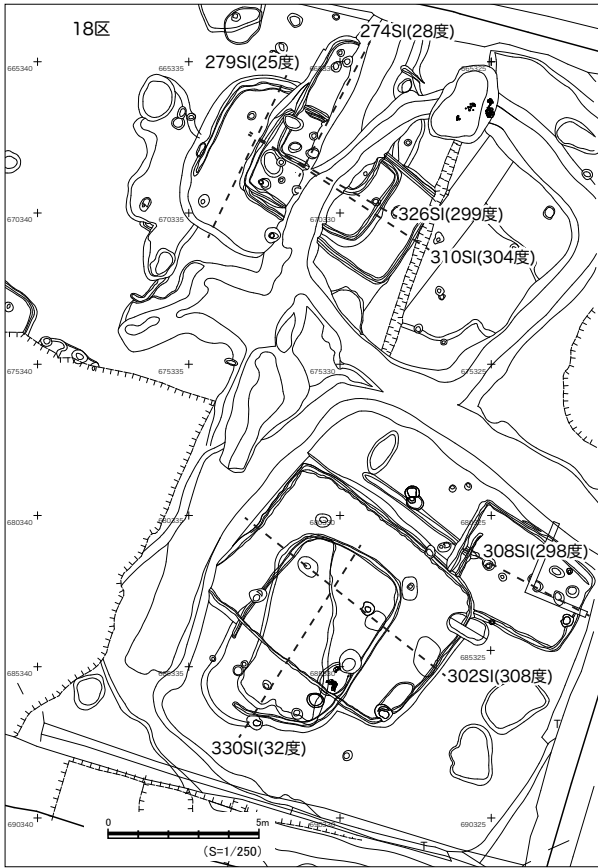


図 5-1 18 区の竖穴建物跡の方位

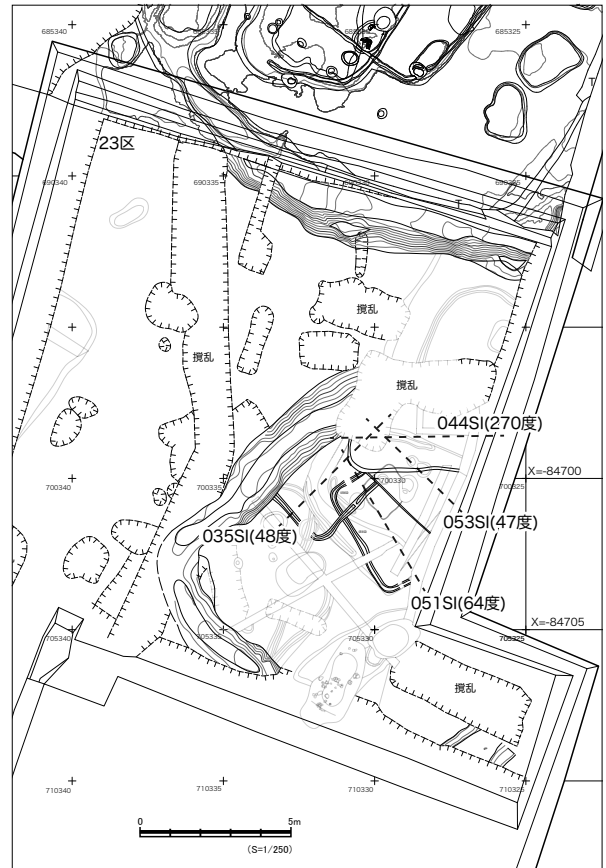


図 5-3 23 区上層の竖穴建物跡の方位

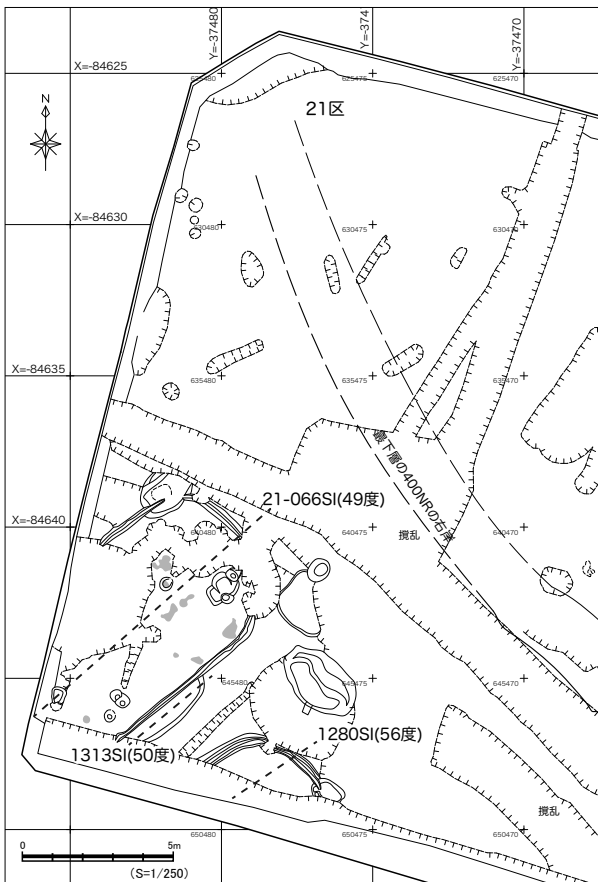


図 5-2 21 区の竖穴建物跡の方位

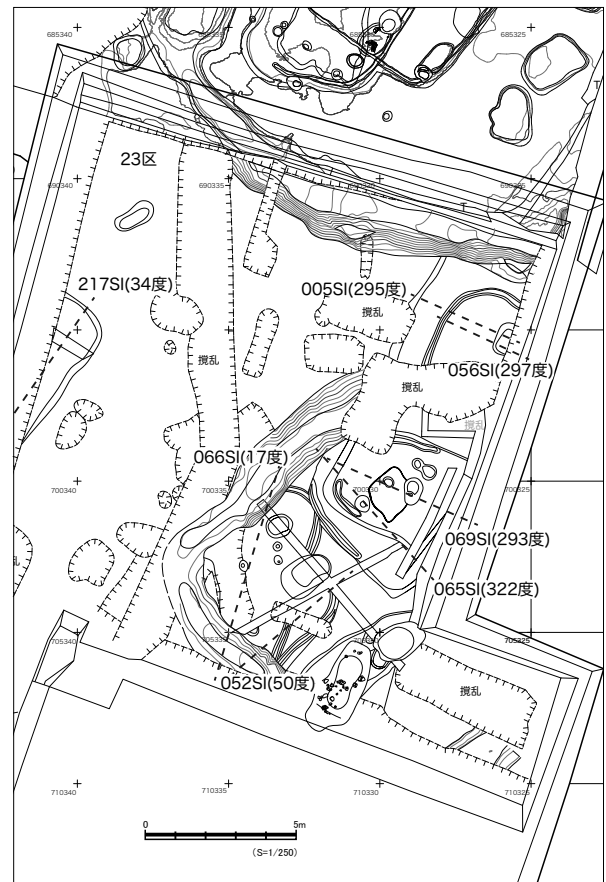


図 5-4 23 区下層の竖穴建物跡の方位

なかった。

放射性炭素年代測定結果内では、いずれも 400NR 出土の資料であるが、No.9 は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。この測定結果は 400NR 下層部分が埋没した年代に近い時期を示すものと考えたい。

過去の調査結果等を踏まえると、400NR は一色青海遺跡の中でも最も古い時期から継続する遺構である。ここで示された年代が一色青海遺跡の遺構年代の上限に近いものと考えられることから、400NR に後続するはずの 18 年度の各遺構出土資料の年代は、少なからず古木効果等の影響を受けているものと考えられる。

表 5-1 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（表 4-2 と同じ）

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-41207 021SD 試料No. 1	-23.20 $\pm$ 0.25	2210 $\pm$ 20	2210 $\pm$ 20	358-348 cal BC (6.9%) 317-281 cal BC (26.9%) 257-208 cal BC (34.3%)	361-203 cal BC (95.4%)
PLD-41208 279SI 試料No. 2	-21.83 $\pm$ 0.21	2221 $\pm$ 20	2220 $\pm$ 20	360-351 cal BC (6.5%) 301-210 cal BC (61.7%)	372-341 cal BC (14.0%) 326-204 cal BC (81.4%)
PLD-41209 302SI 試料No. 3	-25.50 $\pm$ 0.21	2104 $\pm$ 22	2105 $\pm$ 20	171- 94 cal BC (68.2%)	189-54 cal BC (95.4%)
PLD-41210 302SI 試料No. 4	-23.09 $\pm$ 0.21	2131 $\pm$ 20	2130 $\pm$ 20	200-155 cal BC (50.7%) 136-115 cal BC (17.5%)	345-322 cal BC (5.0%) 206- 91 cal BC (89.1%) 71- 61 cal BC (1.3%)
PLD-41211 302SI内375SL 試料No. 5	-12.25 $\pm$ 0.23	2284 $\pm$ 20	2285 $\pm$ 20	395-366 cal BC (68.2%)	401-357 cal BC (82.4%) 284-253 cal BC (11.1%) 246-236 cal BC (1.9%)
PLD-41212 310SI 試料No. 6	-27.12 $\pm$ 0.23	2165 $\pm$ 21	2165 $\pm$ 20	349-315 cal BC (36.2%) 209-176 cal BC (32.0%)	356-284 cal BC (49.5%) 256-250 cal BC (0.5%) 235-161 cal BC (44.2%) 130-119 cal BC (1.1%)
PLD-41213 030SK 試料No. 7	-23.16 $\pm$ 0.21	2406 $\pm$ 20	2405 $\pm$ 20	488-409 cal BC (68.2%)	703-696 cal BC (1.0%) 541-402 cal BC (94.4%)
PLD-41214 400NR 試料No. 8	-26.06 $\pm$ 0.22	2101 $\pm$ 20	2100 $\pm$ 20	169- 94 cal BC (68.2%)	183-52 cal BC (95.4%)
PLD-41215 400NR 試料No. 9	-27.43 $\pm$ 0.44	2089 $\pm$ 22	2090 $\pm$ 20	161-131 cal BC (24.8%) 119- 88 cal BC (26.8%) 76- 56 cal BC (16.6%)	175-47 cal BC (95.4%)
PLD-41216 400NR 試料No. 10	-27.23 $\pm$ 0.26	2237 $\pm$ 22	2235 $\pm$ 20	370-354 cal BC (13.2%) 292-231 cal BC (55.0%)	384-347 cal BC (21.7%) 319-207 cal BC (73.7%)

表 6-1 一色青海遺跡 18 区遺構一覧表

調査区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	新旧関係(古→新)	備考
1H118	001SD	685330 <sup>6</sup> 85335	2面	-	2.45	0.68	断面図参照	2018_07_23	弥生土器壺		010SZ周溝
1H118	002SD	685320 <sup>6</sup> 90325	2面	-	2.26	0.79	断面図参照	2018_07_19	弥生土器壺・石鏃・剥片		010SZ周溝
1H118	007SD	660315 <sup>6</sup> 65320	2面	-	1.59	0.70	断面図参照	2018_08_02	磨製石斧		93区075Z周溝
1H118	010SZ	675335 <sup>6</sup> 90320	2面	12.23	-11.98	0.71	断面図参照	2018_08_02			方形周溝墓
1H118	018SK	670325	1面	1.51	0.71	0.06	2.5Y4/2暗灰黄色シルト (10YR3/2黒褐色シルトブ ロック状に混じる)	2018_08_02	石鏃		
1H118	020SZ	665320 <sup>6</sup> 75325	2面	10.01	8.87	0.62	断面図参照	2018_08_02			方形周溝墓
1H118	021SD	665320 <sup>6</sup> 70320	2面	-	1.77	0.65	断面図参照	2018_08_02	弥生土器壺・鏃・石鏃・ 磨製石斧		020SZ周溝
1H118	029SD	670315 <sup>6</sup> 70320	2面	-	-1.68	0.26	断面図参照	2018_08_03			方形周溝墓周溝
1H118	100SK	660335	1面	2.28	1.35	0.18	2.5Y4/1黄灰色シルト (5Y5/2灰オリープ色シルト 質極細粒砂、φ5mm以下の炭 少し混じる)	2018_08_07	弥生土器壺等		
1H118	175SD	675330 <sup>6</sup> 85335	1面	-	1.20	2.37	断面図参照	2018_08_07	牛馬頭骨・歯		
1H118	185SK	670330 <sup>6</sup> 70335	1面	4.73	1.93	0.13	175SD 1層目	2018_08_07	羽釜・磨製石斧		
1H118	200SD	660340 <sup>6</sup> 65340	2面	-	12.35	2.54	断面図参照	2018_08_07	弥生土器壺・台付壺・ 壺・木製品・鍛未成品・ 容器未成品	400NR→200SD	
1H118	234SK	665340	2面	1.63	1.00	0.13	断面図参照	2018_08_10	剥片		焼成土坑か
1H118	240SK	665335	2面	1.53	1.22	0.12	断面図参照	2018_08_10			
1H118	274SI	665325 <sup>6</sup> 65330	2面	2.97	1.45	0.24	断面図参照	2018_10_04	弥生土器壺	279SI→310SI→326SI→ 274SI	竪穴建物
1H118	279SI	665330 <sup>6</sup> 70335	2面	5.57	3.72	0.49	断面図参照	2018_10_12	敲石	279SI→310SI→326SI→ 274SI	竪穴建物
1H118	280SK	665330 <sup>6</sup> 70335	2面	3.59	2.59	0.17	断面図参照	2018_10_12	弥生土器壺		竪穴建物?
1H118	285SK	660325 <sup>6</sup> 665320	2面	-2.90	1.75	0.09	断面図参照	2018_10_22			
1H118	302SI	675335 <sup>6</sup> 90325	2面	8.55	7.92	2.34	断面図参照	2018_10_22	磨製石斧・磨石・台付壺	308SI→302SI→330SI	竪穴建物(焼失住居)
1H118	303SK	685330	2面	0.59	0.51	0.17	断面図参照	2018_10_22			
1H118	305SK	680330 <sup>6</sup> 85325	2面	-	-	-	-	2018_10_22			330SIの埋土の一つ
1H118	306SX	680330 <sup>6</sup> 85330	2面	6.24	3.24	0.82	断面図参照	2018_10_22	弥生土器壺・鏃・台付壺		竪穴建物か
1H118	308SI	680320 <sup>6</sup> 80325	2面	4.78	2.85	0.27	断面図参照	2018_10_22	弥生土器細頸壺	308SI→302SI→330SI	竪穴建物
1H118	310SI	665325 <sup>6</sup> 70325	2面	-5.80	3.82	0.28	断面図参照	2018_10_22		279SI→310SI→326SI→ 274SI	竪穴建物
1H118	326SI	665330 <sup>6</sup> 70325	2面	4.25	1.45	0.26	断面図参照	2018_10_26	弥生土器壺	279SI→310SI→326SI→ 274SI	竪穴建物
1H118	328SI	670330 <sup>6</sup> 70335	2面	0.82	0.46	0.10	断面図参照	2018_10_26			
1H118	330SI	680325	2面	7.17	4.24	0.62	断面図参照	2018_10_26	弥生土器壺・磨製石斧	308SI→302SI→330SI	竪穴建物
1H118	333SK	665330	2面	0.91	0.55	0.08	断面図参照	2018_10_31	弥生土器壺		
1H118	334SK	685330	2面	0.57	0.48	0.20	断面図参照	2018_10_31			330SI内土坑
1H118	335SK	685330	2面	0.39	0.35	0.23	断面図参照	2018_10_31	弥生土器壺		330SI柱穴
1H118	336SK	680330	2面	0.24	0.24	0.19	5Y3/1オリープ黒色シルト (10Y5/1灰色シルト質極細 粒砂(地山)混じる)	2018_10_31			
1H118	337SK	685330	2面	0.36	0.34	0.39	5Y2/1黒色シルト(10Y5/1灰 色シルト質極細粒砂(地 山)混じる)	2018_10_31			330SI柱穴
1H118	339SK	680330	2面	0.74	0.55	0.39	5Y4/1灰色シルト	2018_11_03			330SI柱穴
1H118	352SK	680325	2面	0.74	0.50	0.43	断面図参照	2018_11_07			302SI柱穴
1H118	366SK	675330 <sup>6</sup> 80330	2面	0.51	0.45	0.39	断面図参照	2018_11_07			302SI柱穴
1H118	367SK	680330	2面	0.56	0.41	0.37	断面図参照	2018_11_07			302SI柱穴
1H118	368SK	680325 <sup>6</sup> 85325	2面	0.80	0.74	0.72	断面図参照	2018_11_07			302SI柱穴
1H118	377SK	680325	2面	0.44	0.41	0.38	断面図参照	2018_11_01			330SI柱穴
1H118	400NR	665355 <sup>6</sup> 60365	2面	-	20.63	2.54	断面図参照	2018_11_01		400NR→200SD	

表 6-2 一色青海遺跡 19 区遺構一覧表

調査区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	新旧関係(古→新)	備考
1H119	030SK	645395	2面	2.03	1.26	0.30	7.5Y4/1灰色シルト	2019_06_26	弥生土器		
1H119	054SD	665385~ 665395	2面	-12.05	-2.80	0.18	断面図参照	2019_08_02	弥生土器		
1H119	070SD	655390~ 660380	2面	13.49	1.78	0.21	断面図参照	2019_08_02	弥生土器		
1H119	093SX	645415	2面	5.49	-5.23	0.12	10YR2/2黒褐色シルト	2019_09_02	弥生土器		
1H119	094SK	640415	2面	-2.34	1.27	0.20	10YR4/2灰黄褐色シルト	2019_09_20	弥生土器		
1H119	200SD	645445~ 660435	2面	-9.40	-7.68	1.68	断面図参照	2019_09_13	弥生土器・木器	400NR→600SD→ 200SD	既往調査検出の大溝
1H119	400NR	635435~ 670370	2面	-	-11.20	-2.60	断面図参照	2019_09_13	弥生土器・木器	400NR→600SD→ 200SD	既往調査検出の自然流路
1H119	600SD	635435~ 660435	2面	-20.80	7.68	1.38	断面図参照	2019_09_20	弥生土器・木器	400NR→600SD→ 200SD	既往調査検出の大溝

表 6-3 一色青海遺跡 21 区遺構一覧表

21

調査区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	新旧関係(古→新)	備考
1HI21	001SK	640480	1面	4.1	-2.71	0.84	断面図参照	2021_07_21	弥生土器、石		
1HI21	007SK	650460	1面	2.49	1.16	0.3	断面図参照	2021_07_21	弥生土器、石		
1HI21	012SK	625465~ 630465	1面	1.59	1.18	0.17	断面図参照	2021_09_30	弥生土器、石、炭化物		
1HI21	013SK	640465	1面	1.08	0.85	0.14	断面図参照	2021_07_19	弥生土器、石		
1HI21	020SK	630470	1面	1.47	0.57	0.38	断面図参照	2021_07_16	弥生土器、石、炭化物		
1HI21	035SK	620475~ 625480	1面	-4.15	-1.16	0.37	断面図参照	2021_07_16	弥生土器、石、炭化物		
1HI21	21_058SK	625465	1面	-1.15	0.92	0.72	断面図参照	2021_09_29	弥生土器		
1HI21	21_066SI	640475~ 645480	2面	-9	-5.5		断面図参照	2021_09_29	弥生土器、石、炭化物	1313SI→21_066SI	
1HI21	082SD	630440~ 635450	2面	-22.25	-5.05	1.4	断面図参照	2021_07_19	弥生土器、木	400NR→600SD→ 200SD→082SD	
1HI21	200SD	645440~ 645455	2面	-29.55	9.43	1.72	断面図参照	2021_09_15	弥生土器、石、木 炭化物	400NR→600SD→ 200SD→082SD	
1HI21	400NR	655455~ 635480	2面	-44.4	-25	2.39	断面図参照	2021_09_27	弥生土器、石、木 炭化物	400NR→600SD→ 200SD→082SD	
1HI21	600SD	635440~ 640450	2面	-19.5	-9.05	-0.67	断面図参照	2021_09_15	弥生土器、石、木 炭化物	400NR→600SD→ 200SD→082SD	
1HI21	826SD	645475	1面	-3.39	0.31	0.15	断面図参照	2021_09_29			
1HI21	1280SI	645475	2面	-3.1	-2.95	0.19	断面図参照	2021_09_15	弥生土器、石、炭化物		
1HI21	1313SI	640480~ 645480	2面	-3.3	-0.75	0.2	断面図参照	2021_09_27	弥生土器	1313SI→066SI	

表 6-4 一色青海遺跡 23 区遺構一覧表

23

調査区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	新旧関係(古→新)	備考
1HI23	002SD	690330~ 690325	1面	-10.62	-1.42	1.12	断面図参照	2023_07_24	弥生土器、石、木 炭化物	002SD→001SK~ 003SK	
1HI23	005SX	690320~ 695325	2面	-3.95	-3.21	0.26	断面図参照	2023_08_22	弥生土器、炭化物		
1HI23	009SK	690336	1面	1.7	1.4	0.32	断面図参照	2023_07_19	弥生土器、石		
1HI23	016SK	695336	1面	1.32	0.85	0.16	断面図参照	2023_07_24	弥生土器		焼成土坑か
1HI23	030SD	695325~ 700330	1面	-12.925	1.02	0.65	断面図参照	2023_07_27	弥生土器、石、木	027SX→030SD	
1HI23	217SI	690335~ 695340				0.25	断面図参照	2023_08_28	弥生土器、石		
1HI23	035SI	700331		-2.77	-2.16	0.15	断面図参照	2023_08_21		035SI→053SI	
1HI23	040SD	720336	1面	-1.46	1.78	0.45	断面図参照	2023_07_27	弥生土器	041SX→040SD→ 033SD	
1HI23	044SI	695326	2面	-3.68	-2.23	0.32	断面図参照	2023_08_08	弥生土器、石	053SI→044SI	
1HI23	051SI	695330~ 700330	2面	4.03	-2.34	0.05	断面図参照	2023_08_10	弥生土器、石	065SI→051SI→053SI →044SI	
1HI23	052SI	700331	2面	4.03	-3.19	0.03	1.10YR5/1灰黄褐色シルト 粘性弱い炭化物粒状に混じ る(052SI)	2023_08_03	弥生土器		
1HI23	053SI	695325~ 700330	2面	-2.29	1.9	0.13	断面図参照	2023_08_03	弥生土器、石	051SI→053SI	
1HI23	056SI	690326	2面	-2.69	-2.51	0.02	断面図参照	2023_08_04	弥生土器		
1HI23	058SK	700325~ 705330	2面	-4.37	1.82	0.41	断面図参照	2023_08_18	弥生土器		
1HI23	060SK	700325~ 705330	2面	1.68	1.13	0.42	断面図参照	2023_08_31	弥生土器		
1HI23	061SK	705330	2面	3.26	1.17	0.41	断面図参照	2023_08_31	弥生土器		
1HI23	062SK	700325~ 705330	2面	-1.95	0.58	0.04	断面図参照	2023_08_22	弥生土器		
1HI23	065SI	695325~ 700330	2面	-5.39	-4.77	0.12	断面図参照	2023_08_31	弥生土器、石、炭化物	066SI→065SI→069SI	
1HI23	066SI	700331	2面	-5.47	-2.6	0.12	断面図参照	2023_08_31	弥生土器	066SI→065SI	
1HI23	067SK	700325~ 705330	2面	-1.5	0.58	0.15	断面図参照	2023_08_31	弥生土器、炭化物		
1HI23	069SI	695325~ 700330	2面	-3.58	3.41	0.31	断面図参照	2023_09_05	弥生土器、石	065SI→069SI	

表 6-5 一色青海遺跡出土土器観察表 -1

登録番号	器種	調査区	グリッド	遺構・層位・取り上げ番号	日付	備考
18区						
E-1	甕	1HI18	660335	100SK 検出 点上げ d-00003	20180807	
E-2	甕	1HI18	665325	175SD 点上げ d-00015	20180907	
E-3	甕	1HI18	665330	274SK 一括 d-125	20181004	
E-4	甕	1HI18	665325	274SK c区 d-63	20181019	
E-5	壺	1HI18	680325	010SZ マウンド盛土 北西区	20181011	
E-6	甕	1HI18	680325	010SZ マウンド盛土 北西区 d-00050	20181011	
E-7	壺	1HI18	680330	001SD(c区) 東西アゼ d-00100	20181102	
E-8	壺	1HI18	680330	001SD(d区) 取上げNo.2 d-120	20181004	
E-9	壺	1HI18	680330	001SD(d区) 取上げNo.3 d-121	20181004	
E-10	甕	1HI18	680330	001SD(d区) 取上げNo.4 d-123	20181004	
E-11	甕	1HI18	680330	001SD(d区) 取上げNo.4 d-124	20181004	
E-12	壺	1HI18	690325	001SD	20181108	
E-13	甕	1HI18	670325	020SZ 南北畔 南側	20181102	
E-14	壺	1HI18	670320	021SD(c区)下層 d-113 ※図面あり	20180927	
E-15	壺	1HI18	665320	021SD(b区)下層 d-114 ※図面あり	20180927	
E-16	壺	1HI18	665325	021SD d-00036	20181002	
E-17	壺	1HI18	670320	021SD(c区) 点上げ d-00032	20180928	
E-18	壺	1HI18	665320	021SD(b区) アゼ d-00093	20181102	
E-19	壺	1HI18	665325	021SD 一括 d-117	20181004	
E-20	壺	1HI18	670325	021SD 南アゼ	20181101	
E-21	壺	1HI18	665320	007SD(a区)下層 d-112 ※図面あり	20180927	
E-22	壺	1HI18	670315	029SD d-00076	20181025	
E-23	鉢	1HI18	665330	326SI 取上げ③ d-138	20181029	
E-24	壺	1HI18	665325	326SI 取上げ④ d-149	20181029	
E-25	壺	1HI18	670325	326SI 取上げ⑥ d-141	20181029	
E-26	壺	1HI18	670325	326SI 取上げ⑦ d-142	20181029	
E-27	壺	1HI18	670325	326SI 取上げ⑧ d-143	20181029	
E-28	壺	1HI18	665325	326SI 取上げ⑬ d-148	20181029	
E-29	甕	1HI18	665320	326SI d-150	20181102	
E-30	壺	1HI18	665325	279SI(f区)床直?	20181023	
E-31	甕	1HI18	665330	279SI 取上げ③ d-128	20181029	
E-32	甕	1HI18	665330	279SI 取上げ⑤ d-130	20181029	
E-33	甕	1HI18	665330	279SI 取上げ① d-126	20181029	
E-34	甕	1HI18	665330	279SI d-217	20181103	
E-35	壺	1HI18	665330	333SK(279内土坑) d-00101	20181102	
E-36	壺	1HI18	665335	280SK(279に切られる 元竪穴?) d-00104	20181105	
E-37	壺	1HI18	680320	306SK(a区)	20181029	
E-38	壺	1HI18	680330	306SK(a区) d-00071	20181025	
E-39	壺	1HI18	680330	306SK(a区) d-00075	20181025	
E-40	甕	1HI18	680330 6 85330	306SK(c区)	20181019	口縁部内面に使用による傷か
E-41	壺	1HI18	680325	330SI(d区) d-154	20181031	
E-42	甕	1HI18	680325	330SI(b区) d-153	20181031	
E-43	甕	1HI18	680325	330SI(d区) d-154	20181031	
E-44	甕	1HI18	—	330SI	20181108	
E-45	甕	1HI18	685330	330SI 壁溝 d-00092	20181101	
E-46	甕	1HI18	680325	330SI d-155	20181106	底面布目痕
E-47	壺	1HI18	685330	303SK ③ d-158	20181031	裏面波状紋を撮影
E-48	甕	1HI18	685330	303SK ① d-156	20181031	
E-49	甕	1HI18	685330	303SK ② d-157	20181031	
E-50	甕	1HI18	—	305SK(c区)	20181030	
E-51	甕	1HI18	685330	335SK d-00091	20181101	

表 6-6 一色青海遺跡出土土器観察表-2

登録番号	器種	調査区	グリッド	遺構・層位・取り上げ番号	日付	備考
E-52	円窓付土器	1HI18	675330	302SI 取上げ② d-162	20181105	円窓付
E-53	壺	1HI18	675330	302SI 取上げ① d-161	20181105	
E-54	壺	1HI18	675330	302SI 取上げ②-2 d-162	20181105	
E-55	壺	1HI18	675330	302SI 取上げ②-2 d-162	20181105	
E-56	壺	1HI18	675330	302SI 取上げ②-2 d-162	20181105	底部付近磨耗
E-57	壺	1HI18	675330 6 80330	302SI(b区)	20181019	
E-58	甕	1HI18	675352 6 80325 67 5330 680 330	302SI(b区)	20181019	
		1HI18	680320	南北アゼ 302SI	20181102	
E-59	甕	1HI18	675330	302SI 取上げ①-2 d-161	20181105	
E-60	甕	1HI18	675330	302SI 取上げ② d-162	20181105	
E-61	壺	1HI18	680325	302SI 取上げ⑦ d-167	20181105	
E-62	壺	1HI18	—	302SI (a区)	20181106	
E-63	壺	1HI18	680330	302SI 取上げ⑥ d-166	20181105	
E-64	壺	1HI18	675325	302SI 取上げ⑧ d-168	20181105	
E-65	甕	1HI18	680325	302SI 取上げ⑨ d-169	20181105	
E-66	甕	1HI18	685325	302SI(c区) d-170	20181107	
E-67	甕	1HI18	675325	302SI 取上げ⑤ d-165	20181105	
E-68	鉢	1HI18	680325	302SI 取上げ⑨ d-169	20181105	
E-69	壺	1HI18	680325	308SI d-00111	20181110	
E-70	壺	1HI18	-	308SI(d区)	20181108	
E-71	鉢	1HI18	680325	308SI(d区) d-00072	20181025	
E-72	壺	1HI18	665340	200SD 点上げ d-00048	20181010	
E-73	壺	1HI18	665345	200SD	20181009	
E-74	壺	1HI18	665345	200SD	20181009	
E-75	壺	1HI18	665340	200SD 点上げ d-00048	20181010	
E-76	壺	1HI18	665345	200SD	20181009	
E-77	甕	1HI18	665350	200SD(上層)	20180919	
E-78	甕	1HI18	665345	200SD	20181009	
E-79	壺	1HI18	665350	200SD上層	20181017	
E-80	壺	1HI18	-	カクラン 200SD下層	20181026	
E-81	壺	1HI18	-	200SD下層	20181026	
E-82	甕	1HI18	670350	200SD ⑬5Y6/1・5Y4/1の両層 d-00097	20181102	
E-83	甕	1HI18	665350	200SD上層 d-00051	20181011	
E-84	甕	1HI18	-	200SD下層?	20181105	底部穿孔、底面木葉痕
E-85	壺	1HI18	665340	234SK d-173	20180926	
E-86	壺	1HI18	665340	234SK d-173	20180926	
E-87	壺	1HI18	665340	234SK d-173	20180926	
E-88	壺	1HI18	665340	234SK d-173	20180926	
E-89	壺	1HI18	665325	285SK 取上げ③ d-220	20181029	指定器高(30.3)
E-90	甕	1HI18	665325	285SK 取上げ③ d-220	20181029	推定器高(22.1)
E-91	甕	1HI18	665325	285SK 取上げ① d-218	20181029	
E-92	甕	1HI18	665325	285SK 取上げ② d-219	20181029	

19区						
E-93	甕	1HI19	645395	030SK d-004	20190626	
E-94	甕	1HI19	645395	030SK d-010	20190626	
E-95	甕	1HI19	645395	030SK d-009	20190626	
E-96	甕	1HI19	665395	054SD d-028	20190805	
E-97	甕	1HI19	655390	070SD d-024	20190801	
E-98	甕	1HI19	655390	070SD d-025	20190801	

表 6-7 一色青海遺跡出土土器観察表 -3

登録番号	器種	調査区	グリッド	遺構・層位・取り上げ番号	日付	備考
E-100	壺	1HI19	650440	200SD d-039	20190807	
E-101	壺	1HI19	655435	200SD d-040	20190808	
E-102	甕	1HI19	660430	200SD	20190806	
E-103	甕	1HI19	655435	200SD	20190809	
E-104	鉢	1HI19	650440	200SD	20190808	
E-105	壺	1HI19	655430	600SD d-055	20190903	
E-106	壺	1HI19	655435	600SD d-057	20190904	
E-107	甕	1HI19	655435	600SD d-050	20190829	
E-108	高杯	1HI19	655435	600SD d-052	20190829	
E-109	壺	1HI19	655430	400NR d-090	20191002	
E-110	壺	1HI19	650435	400NR	20191005	底面木葉痕。外面胴部下半～底面にかけて磨耗
E-111	壺	1HI19	650435	400NR d-108	20191015	
E-112	壺	1HI19	655435	400NR d-066	20190917	底面木葉痕
E-113	壺	1HI19	640430	400NR d-061	20190909	
E-114	甕	1HI19	650440	400NR	20191007	
E-115	甕	1HI19	650440	400NR	20191007	
E-116	甕	1HI19	635435	400NR	20190909	
E-117	甕	1HI19	640430	400NR d-074	20190926	
E-118	甕	1HI19	650435	400NR	20190926	
E-119	甕	1HI19	640430	400NR d-073	20190926	
E-120	甕	1HI19	650430	400NR d-016	20190724	
E-121	甕	1HI19	640415	400NR d-070	20190920	
E-122	深鉢	1HI19	650440	400NR	20191007	
E-123	壺	1HI19	640430	400NR d-062	20190909	

21区						
登録番号	器種	調査区	グリッド	遺構・層位・取り上げ番号	日付	備考
E-124	壺	1HI21	625465	012SK d-040	20210714	
E-125	甕	1HI21	625465	012SK d-248	20210930	底部穿孔
E-126	甕	1HI21	625465	012SK d-248	20210930	底部穿孔 底面木葉痕
E-127	円窓付土器	1HI21	640465	013SK d-050	20210719	
E-128	甕	1HI21	640465	400NR上層(013SK) d-051	20210729	
E-129	甕	1HI21	630470	020SK d-045	20210716	表面胴部下半タタキ痕
E-130	甕	1HI21	620475	035SK d-053	20210719	
E-131	甕	1HI21	625465	058SK d-247	20210929	
E-132	壺	1HI21	645480	066SI機能面 d-100	20210901	
E-133	甕	1HI21	645480	066SI掘方 d-219	20210907	
E-134	甕	1HI21	635475 6 35480 64 0475 640 480	066SI北側崩落土	20210910	
E-135	甕	1HI21	645480	066SI機能面 d-099	20210901	
E-136	甕	1HI21	645480	066SI機能面 南側南東セクション	20210901	底部穿孔
E-137	甕	1HI21	645485	066SIセクション③層	20210921	
E-138	甕	1HI21	645475	1280SI下層 d-243	20210929	
E-139	壺	1HI21	640445	200SD	20210826	
E-140	甕	1HI21	645445	200SD	20210806	表面頸部以下にタタキ痕か
E-141	甕	1HI21	645450	200SD	20210811	
E-142	甕	1HI21	635450	200SD下層	20210930	
E-143	甕	1HI21	635455	200SD下層 d-241	20210929	
E-144	壺	1HI21	645440	600SD	20210902	
E-145	壺	1HI21	635440	600SD上層 d-229	20210908	口縁部内面線刻
E-146	壺	1HI21	635440	600SD上層	20210908	
E-147	壺	1HI21	6354445	600SD上層	20210910	
E-148	壺	1HI21	635445	600SD上層 d-242	20210929	
E-149	甕	1HI21	640440	600SD上層	20210908	
E-150	甕	1HI21	645440	600SD上層	20210910	

表 6-8 一色青海遺跡出土土器観察表 -4

登録番号	器種	調査区	グリッド	遺構・層位・取り上げ番号	日付	備考
E-151	甕	1HI21	635445	600SD上層	20210930	
E-152	甕	1HI21	635445	600SD上層	20210930	
E-153	甕	1HI21	635440	600SD上層	20210907	
E-154	甕	1HI21	645440	600SD上層	20210907	
E-155	壺	1HI21	640445	400NR上層	20210930	
E-156	甕	1HI21	655450	400NR上面 d-088	20210827	底部穿孔
E-157	甕	1HI21	640455	400NR上層 d-061	20210729	
E-158	壺	1HI21	625465	検1(400NR上面) d-025	20210614	
E-159	壺	1HI21	625465	検1(400NR上面) d-025	20210614	
E-160	甕	1HI21	625465	検1(400NR上面) d-025	20210614	外面胴部に圧痕あり
E-161	甕	1HI21	625465	検1(400NR上面) d-025	20210614	底部穿孔
E-162	高杯	1HI21	625465	検1(400NR上面) d-025	20210614	
E-163	甕	1HI21	630460	トレンチ2 400NR上層 d-059	20210728	
E-164	甕	1HI21	630460	トレンチ2 400NR上層	20210728	
E-165	甕	1HI21	625465	調査区北壁トレンチ d-001 包含層	20210602	内面胴部帯状にヨゴレ
E-166	円窓付土器	1HI21	640450	トレンチ1	20210726	円窓付
E-167	壺	1HI21	645460	トレンチ1	20210726	
E-168	甕	1HI21	640455	トレンチ1	20210726	底面木葉痕

23区						
E-169	壺	1HI23	690335	009SK(出土状況図化土器)	20230718	
E-170	甕	1HI23	690335	009SK(出土状況図化土器)	20230718	
E-171	甕	1HI23	695340	016SK(出土状況図に書かれていたもの)	20230724	
E-172	甕	1HI23	690325	050SD	20230802	
E-173	壺	1HI23	700325	044SIアゼ中土器(出土状況写真有)	20230809	
E-174	甕	1HI23	700325	044SIアゼ中土器(出土状況写真有)	20230809	
E-175	甕	1HI23	695325	053SI d-10	20230810	
E-176	深鉢	1HI23	700325	東側アゼ(053SI)	20230905	底面布目痕
E-177	壺	1HI23	695325	051SI・053SI東西アゼ上層	20230904	
E-178	壺	1HI23	700330	065SI 単独アゼ東側	20230901	底面線刻
E-179	壺	1HI23	700325	069SI d-070	20230905	
E-180	壺	1HI23	695325 7 00325	069SI d-050	20230904	
E-181	壺	1HI23	695325 7 00325	069SI d-062	20230904	
E-182	甕	1HI23	705325	058SK d-012	20230810	
E-183	壺	1HI23	705330	061SK d-34	20230828	
E-184	甕	1HI23	695330	060SK d-40	20230831	
E-185	甕	1HI23	695330	060SK	20230831	
E-186	甕	1HI23	705330	061SK d-26	20230828	

表 6-9 一色青海遺跡出土石器観察表

登録番号	年度+登録番号	調査区	面	グリッド	取上番号	日付	遺構	器種	掲載縮尺	法量				石材	備考
										長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
S-1	S1804	1H18	1	670325	-	20180913	175SD	磨製石鏃	2/3	27.2	18.1	1.7	1.3	泥岩	
S-2	S1801	1H18	1	665325	-	20180906	175SD	磨石鏃石類	1/4	115.5	63.6	39.3	468.8	濃飛流紋岩	
S-3	S1802	1H18	1	670335	16	20180912	185SK	扁平片刃石斧	1/2	52.6	36.5	12.1	39.3	ハイアロクラスタイト	
S-4	S1803	1H18	1	670325	19	20180913	018SK	石鏃か	2/3	26.4	9.7	3.5	1.0	安山岩(下呂石)	
S-5	S1817	1H18	2	680320	52	20181012	010SZ	礫石	1/4	99.0	56.6	21.0	107.9	凝灰質砂岩	
S-6	S1819	1H18	2	680320 680325	-	20181017	010SZ	礫石	1/4	37.2	26.8	20.2	19.5	凝灰質砂岩	
S-7	S1816	1H18	2	680320	53	20181012	010SZ	磨石鏃石類	1/4	125.0	62.4	33.4	417.5	ホルンフェルス	
S-8	S1812	1H18	2	680335	-	20181003	001SD	扁平片刃石斧	1/2	58.8	35.4	9.7	39.0	ハイアロクラスタイト	
S-9	S1813	1H18	2	680330	122	20181004	001SD	磨石鏃石類	1/4	55.9	49.0	38.0	141.0	濃飛流紋岩	出土状況あり
S-10	S1810	1H18	2	680320	27		002SD	製作途上	2/3	20.8	16.3	2.2	1.1	チャート	
S-11	S1809	1H18	2	670320	25	20180927	021SD	石鏃	2/3	28.9	14.2	5.6	2.2	チャート	無茎 平基 完形
S-12	S1827	1H18	2	665325	88	20181031	021SD	柱状片刃石斧	1/2	56.4	17.3	8.9	16.9	ハイアロクラスタイト	
S-13	S1811	1H18	2	670320	-	20181002	021SD	磨石鏃石類	1/4	136.2	51.7	52.4	509.8	濃飛流紋岩	
S-14	S1828	1H18	2	665325	89	20181031	021SD	磨石鏃石類	1/4	124.5	82.7	57.8	788.3	濃飛流紋岩	
S-15	S1820	1H18	2	660320	6	20181017	007SD	柱状片刃石斧	1/2	105.2	28.8	26.2	159.2	ハイアロクラスタイト	
S-16	S1806	1H18	2	665335	-	20180919	240SK	磨石鏃石類	1/4	65.0	59.8	35.5	195.0	安山岩	
S-17	S1824	1H18	2	665330	85	20181029	279SI	磨石鏃石類	1/4	135.2	52.2	40.2	438.1	濃飛流紋岩	
S-18	S1822	1H18	2	-	-	20181025	306SX	不明石製品	2/3	35.7	18.1	6.9	4.5	結晶片岩	
S-19	S1821	1H18	2	680325	68	20181023	302SI	柱状片刃石斧	1/2	84.9	24.6	17.1	74.3	ハイアロクラスタイト	
S-20	S1831	1H18	2	685325	105	20181105	302SI	扁平片刃石斧	1/2	33.9	28.1	7.1	13.2	ハイアロクラスタイト	
S-21	S1834	1H18	2	680325	109	20181108	302SI	製作途上	1/2	75.2	49.7	19.7	98.6	ハイアロクラスタイト	
S-22	S1832	1H18	2	680330	106	20181105	302SI	磨石鏃石類	1/4	82.6	56.4	40.7	298.4	安山岩	
S-23	S1837	1H18	2	680325	172	20181108	302SI併	磨石鏃石類	1/4	93.4	93.9	37.9	521.2	ホルンフェルス	出土状況あり
S-24	S1835	1H18	2	685325	108	20181108	362SK	大型蛤刃石斧(欠)	1/2	135.6	58.7	36.6	472.6	ハイアロクラスタイト	
S-25	S1830	1H18	2	680330	102	20181103	330SI	扁平片刃石斧	1/2	74.2	35.4	12.3	67.3	ハイアロクラスタイト	
S-26	S1829	1H18	2	680330	151	20181031	330SI	台石・礫石	1/4	204.8	199.7	122.7	6000.0		台石 出土状況あり
S-27	S1836	1H18	2	-	-	20181108	330SI	磨石鏃石類(欠)	1/4	61.4	73.9	18.8	98.1	砂質凝灰岩	
S-28	S1825	1H18	2	-	-	20181030	305SK	不明石製品(穿孔)	2/3	41.2	29.7	12.1	14.6	結晶片岩	
S-29	S1833	1H18	2	680320	-	20181106	308SI	石鏃か	2/3	32.8	19.2	5.0	3.1	泥岩	
S-30	S1823	1H18	2	-	-	20181026	200SD	扁平片刃石斧	1/2	45.8	21.3	7.3	8.8	ハイアロクラスタイト	磨斧刃部
S-31	S1818	1H18	2	-	-	20181017	200SD	大型蛤刃石斧(欠)	1/2	144.8	65.9	43.6	588.7	塩基性岩	
S-32	S1814	1H18	2	660340	-	20181009	200SD	磨石鏃石類	1/4	65.8	42.7	38.1	152.1	濃飛流紋岩	
S-33	S1815	1H18	2	665345	-	20181009	200SD	磨石鏃石類	1/4	115.4	46.4	36.0	290.8	濃飛流紋岩	
S-34	S1807	1H18	2	665335	22	20180919	234SK	剥片	2/3	37.4	14.4	7.8	3.4	ホルンフェルス	焼成土坑か
S-35	S1808	1H18	2	665340	23	20180921	234SK	剥片	2/3	37.2	18.2	8.2	3.7	安山岩(下呂石)	焼成土坑か
S-36	S1805	1H18	2	660355	20	20180918	検出2	石鏃	2/3	23.4	14.8	6.0	2.1	チャート	
S-37	S1826	1H18	2	685330	87	20181030	検出2	磨石鏃石類	1/4	134.9	57.0	59.1	647.6	濃飛流紋岩	
S-38	S1908	1H19	2	645415	69	20190919	094SK	礫石	1/4	222.5	151.3	75.5	2200.0	砂岩	
S-39	S1903	1H19	2	655435	30	20190805	200SD	磨石鏃石類	1/4	80.7	71.3	50.7	406.8	閃緑岩	
S-40	S1904	1H19	2	655440	32	20190806	200SD	台石(欠)	1/4	172.9	95.7	66.9	1482.7		
S-41	S1905	1H19	2	645440	46	20190826	600SD	剥片	2/3	66.2	65.5	28.8	139.7	安山岩	
S-42	S1902	1H19	2	650430	14	20190710	トレンチ4(600SD)	扁平片刃石斧	1/2	46.8	27.6	6.8	17.2	ハイアロクラスタイト	
S-43	S1906	1H19	2	655430	48	20190829	600SD	磨製石斧	1/2	68.0	52.7	32.8	186.9	ハイアロクラスタイト	
S-44	S1909	1H19	2	660420	77	20190925	400NR	扁平片刃石斧	1/2	63.8	63.7	23.7	92.0	ハイアロクラスタイト	
S-45	S1907	1H19	2	660430	-	20190918	400NR	磨石鏃石類	1/4	98.1	42.1	34.6	207.3	濃飛流紋岩	
S-46	S1910	1H19	2	655425	-	20190927	400NR	磨石鏃石類	1/4	88.2	67.1	39.0	328.0	濃飛流紋岩	
S-47	S1901	1H19	1	640425	2	20190618	検出1(400NR)	柱状片刃石斧	1/2	73.2	16.9	11.2	24.3	ハイアロクラスタイト	
S-48	S2102	1H21	1	640480	31	20210615	001SK	磨製石鏃	2/3	37.0	27.7	4.2	5.3	泥岩	
S-49	S2101	1H21	1	640480	30	20210615	001SK	礫石	1/4	73.3	33.1	21.9	61.3	凝灰岩	
S-50	S2104	1H21	1	650460	42	20210714	007SK	磨石鏃石類	1/4	61.1	72.3	47.6	326.1	砂岩	
S-51	S2109	1H21	2	640480	224	20210907	066SI	剥片	2/3	36.4	19.8	9.7	5.5	チャート	
S-52	S2111	1H21	2	640480	238	20210928	066SI	台石	1/4	341.8	223.0	130.2	12400.0		
S-53	S2110	1H21	2	645475	232	20210910	1280SI	石鏃	2/3	21.2	16.7	8.3	2.2	安山岩(下呂石)	
S-54	S2108	1H21	2	650445	65	20210823	200SD	磨製石斧(両刃)	1/2	62.8	66.1	26.2	132.0	ハイアロクラスタイト	
S-55	S2105	1H21	2	635445	56	20210726	トレンチ1(200SD)	磨石鏃石類	1/4	48.9	48.8	39.3	126.2	安山岩(下呂石)	
S-56	S2106	1H21	2	635445	57	20210727	トレンチ1(200SD)	磨石鏃石類	1/4	90.7	62.7	32.5	283.1	砂岩	
S-57	S2107	1H21	2	635450	58	20210727	トレンチ1(400NR)	磨製石鏃	2/3	40.1	14.8	2.8	2.3	泥岩	
S-58	S2103	1H21	1	630460	-	20210623	包含層	打製石鏃 製作途上	2/3	50.0	23.0	9.8	9.4	安山岩(下呂石)	
S-59	S2112	1H21	-	-	-	20210930	表探	扁平片刃石斧	1/2	78.3	46.9	13.9	81.3	ハイアロクラスタイト	
S-60	S2301	1H23	1	690335	2	20230718	009SK	剥片	2/3	23.1	13.9	5.4	1.7	チャート	
S-61	S2302	1H23	2	705330	3	20230728	043SX	剥片	2/3	21.7	22.0	4.9	1.6	チャート	
S-62	S2303	1H23	2	700325	-	20230802	053SI	扁平片刃石斧	1/2	18.1	14.8	4.4	0.9	ハイアロクラスタイト	
S-63	S2304	1H23	2	700330	16	20230821	066SI	打製石鏃	2/3	47.5	12.9	4.5	2.4	安山岩(下呂石)	
S-64	S2305	1H23	2	700330	17	20230821	066SI	石鏃(欠)	2/3	25.4	13.7	6.0	1.8	安山岩(下呂石)?	
S-65	S2307	1H23	2	695325	19	20230828	065SI	石鏃か	2/3	25.4	10.2	6.3	1.5	チャート	
S-66	S2310	1H23	2	695325 700325	66	20230904	069SI	磨製石鏃	2/3	30.1	16.1	2.1	1.4	泥岩	
S-67	S2309	1H23	2	695325 700325	49	20230904	069SI	大型蛤刃石斧(欠)	1/2	168.8	64.5	46.7	784.7	ハイアロクラスタイト	
S-68	S2308	1H23	2	695325 700325	57	20230904	069SI	礫石	1/4	83.9	48.6	33.4	161.6	凝灰質砂岩	
S-69	S2306	1H23	2	700330	18	20230825	061SK	剥片	2/3	73.8	23.8	6.0	10.6	塩基性岩	

表 6-10 一色青海遺跡出土木器観察表

登録番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	DOT	日付	長さ	幅	厚さ	樹種	木取り	実測番号	写真番号	備考
W-1	直柄平織未成品	1H118	-	200SD	下層	-	181026	(15.1)	(16.0)	3.8	コナラ属アカガシ垂属	柱目	18-21①	5	18-21①~③は同一個体
								(7.5)	(11.4)	2.8			18-21②		
								(14.3)	(8.6)	2.7			18-21③		
W-2	直柄平織未成品	1H118	-	200SD	下層	d-090	181031	37.6	16.2	2.8	コナラ属アカガシ垂属	柱目	18-73	6/7	
W-3	直柄平織未成品	1H118	675355	200SD	一	d-056	181017	(21.8)	(15.4)	3.0	コナラ属アカガシ垂属	柱目	18-63	8	
W-4	縦斧柄(大型蛤刃石斧)	1H118	665350	200SD	上層	d-058	181019	(11.3)	10.6	(7.3)	コナラ属コナラ節	柱目	18-64-1	9/10	
W-5	容器未成品	1H118	665350	200SD	一	d-064	181019	23.7	26.8	14.2(蓋さ)	ブナ属	1/4分割材 横木取り	18-66	11/12	
W-6	板	1H118	-	200SD	下層	-	181029	(14.2)	(4.6)	0.6	ヒノキ	板目	18-24-1	13	
W-7	板	1H118	-	200SD	下層	-	181026	(9.7)	(6.2)	1.3	ヒノキ	板目	18-32	14	
W-8	板	1H118	665350 665345	200SD	(下層)	-	181010	(9.6)	1.9	0.4	ヒノキ	板目	18-8-1	15	
W-9	板	1H118	-	200SD	下層	-	181026	(5.3)	(12.5)	1.1	コナラ属コナラ節	柱目	18-19-1	16	
W-10	板	1H118	665345 665350	200SD	-	-	181016	(13.3)	(2.7)	0.8	ヒノキ	板目	18-29-1	17	
W-11	建築材or土木材	1H121	640445	200SD	-	d-066	210825	219.4	15.4	13.4	コナラ属アカガシ垂属	1/4分割材	21-6	1/2	
W-12	把手臼	1H121	640440	600SD	上層	d-217	210907	42.1(高さ)	(27.1)	(19.3)	クスノキ	芯持丸木	21-33	18/19	復元径:断面位置外径で52cm
W-13	榫未成品	1H121	645475	600SD	上層	d-250	210930	(146.7)	9.8	3.3	サカキ	柱目	21-35	3	
W-14	丸棒(弓?)	1H121	635445	600SD	上層	d-214	210907	(93.6)	3.7	2.8	イヌガヤ	芯持丸木	21-24	4	
W-15	角棒	1H119	645430	600SD	-	d-044	190826	37.3	3.3	2.0	スギ	柱目	19-12	20	
W-16	穿孔板	1H119	655430	600SD	-	d-056	190904	(27.0)	5.6	0.9	スギ	板目	19-19	21	
W-17	直柄平織	1H118	-	400NR	-	-	181031	(8.2)	(7.9)	1.5	コナラ属アカガシ垂属	柱目	18-28-1	22	
W-18	直柄平織未成品	1H119	-	400NR	-	d-097	191005	48.5	32.9	7.3	コナラ属アカガシ垂属	1/16分割材	19-40	23/24/25	
W-19	組合せ直柄多又織	1H119	635435	400NR	-	d-103	191009	(30.3)	(12.3)	1.9	コナラ属アカガシ垂属	柱目	19-46	26/27	
W-20	横斧柄(柱状片刃石斧)	1H119	650435	400NR	-	d-107	191016	31.3	8.6	16.9	クリ	芯持	19-50	28/29	
W-21	竪柱	1H119	655425	400NR	-	-	191009	(98.2)	(8.5)	(7.6)	ヒノキ	芯持丸木	19-98	30	
W-22	矢板	1H119	640425	400NR	-	d-072	190924	(35.3)	10.1	5.7	スギ	1/2分割材	19-22	31/32	
W-23	杭	1H121	640450 645455 655455 645450 650450	400NR	下層	-	210917	(42.5)	5.4	4.6	ヒノキ	芯持丸木	21-49	33	
W-24	板	1H118	690320	002SD	下層	d-055	181012	23.0	9.7	2	ヒノキ	柱目	18-62	34	
W-25	矢板	1H121	630450	082SD	-	d-062	210730	(55.4)	19.9	5.3	スギ	柱目	21-5	35/36	
W-26	板	1H118	665325	274SK	-	-	181031	(5.9)	(1.9)	0.6	ヒノキ	追柱目	18-27-1	37	
W-27	板	1H118	-	305SK(d区)	-	-	181030	(3.3)	(3.0)	0.8	エノキ属	柱目	18-26	38	
W-28	手斧屑	1H118	680320	302SK 南北アゼ	-	-	181102	(4.8)	(3.5)	0.6	ヒノキ	追柱目	18-35	39	
W-29	角棒	1H119	-	-	-	-	-	15.7	4.6	2.8	ヒノキ	板目	19-92-1	40	



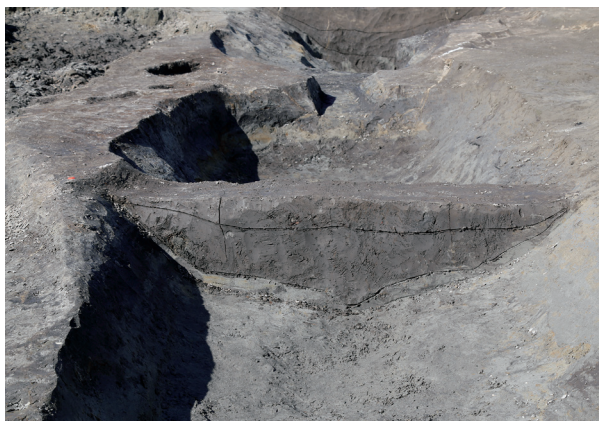
18区遠景（北より：手前の道路は県道馬飼井堀線）



18区 175SD/185SK 完掘状況（南より）



18区 175SD/185SK 完掘状況（南より）



18区 175SD 断面（北より）



18区 175SD 南半部完掘状況（北より）



18区 中近世遺構完掘状況・方形周溝墓検出状況（北西より）



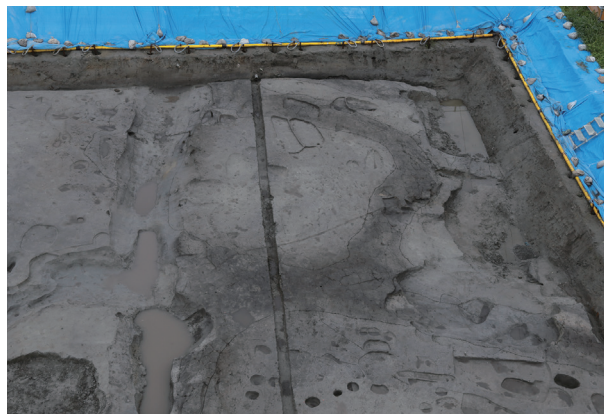
18区 018SK 断面（西より）



18区 100SK 断面状況（より）



18区 010SZ 検出状況（南西より）



18区 020SZ 検出状況（南より）



18区 010SZ・020SZ 完掘状況（南西から）



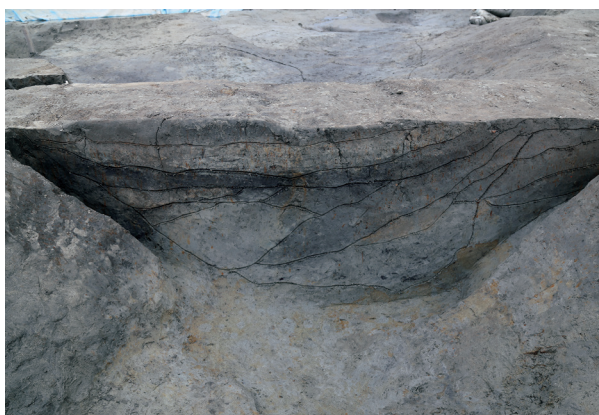
18区 002SD 断面（西から）



18区 020SZ・010SZ 完掘状況（北西から）



18区 020SZ 完掘状況（北から）



18区 021SD 断面状況（東から）



18区 021SD 遺物出土状況（北から）



18区 021SD 遺物出土状況（東から）



18区 007SD 遺物出土状況（北西より）



18区 279SI・020SZ 周辺完掘状況 (上より・写真上方が北)



18区 274SI 完掘状況 (南より)



18区 279SI 土器出土状況 (北より)



18区 279SI 完掘状況と周辺の遺構 (北より)



18区 326・310SI 完掘状況 (西より)



18区 302SI・330SI・308SI周辺完掘状況（上より・写真上方が北）



18区 306SK 完掘状況（南より）



18区 306SK 完掘状況（北より）



18区 330SI 完掘状況（南より）



18区 330SI内 303SK 遺物出土状況（北より）



18区 302SI 炭化物検出状況（北より）



18区 302SI 南東角の炭化物検出状況（東より）



18区 302SI 南西角の炭化物検出状況（南より）



18区 302SI 北東角の炭化物検出状況（東より）



18区 302SI 北西角遺物検出状況（北東より）



18区 302SI 完掘状況 (西より)



18区 302SI内 352SK 断面状況 (西より)



18区 302SI内 366SK 断面状況 (北より)



18区 302SI内 366SK 炭化材検出状況 (北より)



18区 302SI内 367SK 断面状況 (北より)



18区 302SI内 368SK 断面状況 (西より)



18区 308SI 完掘状況 (西より)



18区 308SIと周辺の遺構 (東より)



18区 328SI 完掘状況 (北より)



18区 328SI 断面状況 (北より)



18区 280SK (北より)



18区 285SK 遺物検出状況 (南より)



18区 234SK 遺物出土状況 (北より)



18区 200SD 完掘・断面状況 (南西より)



18区 200SD 掘出土状況 (18-73 : 北より)



18区 400NR 左岸肩部 (南西より)



19区 遠景 (西より)



19区 200SD・600SD 完掘状況 (南東より)



19区 030SK (北東より)



19区 054SD 遺物検出状況 (西より)



19区 070SD 遺物出土状況 (北東より)



19区 093SK 完掘・断面状況 (東より)



19区 200SD・600SD 断面状況 (南東より)



19区 400NR 左岸部の側方堆積 (西より)



21区 遠景 (北西より)



21区 012SK (南より)



21区 020SK 断面状況 (南西より)



21区 21\_066SI 炭化材出土状況 (南より)



21区 21\_066・1313SI 状況 (南東より)



21区 1280SI (南より)



21区 200SD・600SD 完掘・断面状況 (南東より)



21区 400NR 完掘状況 (南西より)



23区北半部 (南西より)



23区 009SK 遺物出土状況 (北より)



23区 016SK 遺物出土状況 (北より)



23区 002SD 完掘・断面状況 (東より)



23区 030SD 完掘状況 (上より; 写真上方向が北東)



23区 030SD(西) 断面状況 (北より)



23区 030SD(東) 断面状況 (南東より)



23区 040SD 断面状況 (南より)



23区 005SI 完掘状況 (北より)



23区 044SI 遺物出土状況 (西より)



23区 21\_066・065・069SI 検出状況 (東より)



23区 065SI 完掘・069SI 床面検出状況 (東より)



23区 21\_066 完掘状況 (南東より)



23区 069SI 完掘状況 (西より)



23区 058・060・061SK 断面状況 (北東より)



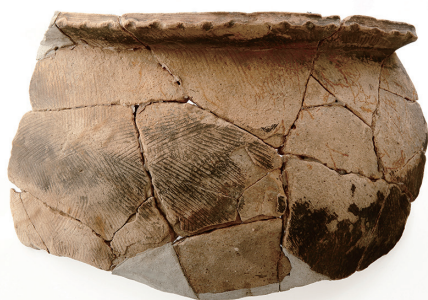
23区 058SK 完掘状況 (南より: 下面に 061SK を検出)



E-81-1



E-81-2



E-82



E-83



E-84



E-85



E-86



E-87



E-88





E-99



E-100



E-101



E-102



E-103



E-104



E-105



E-106



E-107



E-108-1



E-108-2





E-120



E-122-1



E-122-2



E-124



E-126



E-128



E-121



E-123



E-125



E-127



E-129





E-141



E-142



E-143



E-144



E-145



E-146



E-147



E-148



E-149



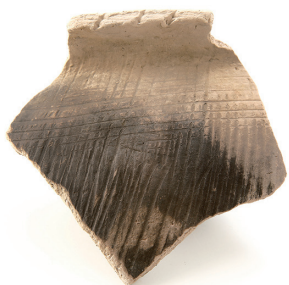
E-150



E-151



E-152



E-153



E-154



E-155



E-156



E-157



E-158-1



E-159



E-158-2



E-160



E-161



E-162



E-163-1



E-164



E-163-2



E-166



E-165



E-167



E-169



E-168



E-170



E-171



E-172



E-173



E-174



E-175



E-176-1



E-176-2



E-177



E-179



E-178





18区 302SI 出土遺物



18区 326SI 出土遺物



S-1



S-2



S-3



S-4



S-5

S-6

S-7



S-8



S-9



S-10



S-8



S-11



S-12



S-13

S-14



S-15



S-16



S-17

S-18



S-19



S-20



S-21



S-24



S-22



S-23



S-26



S-28



S-25 拡大



S-25



S-27



S-29



S-31



S-32



S-30



S-33



S-30 拡大



S-34



S-35



S-36



S-37



S-38



S-40



S-39



S-47



S-42 拡大



S-42



S-43



S-41



S-44 拡大



S-44



S-45



S-46



S-48



S-49



S-51



S-52



S-50



S-53



S-54



S-55



S-56



S-57



S-58



S-59



S-60



S-61



S-63



S-64



S-65



S-62



S-66 拡大



S-66



S-68



S-67



S-69



W-1



W-2



W-3



W-4



W-6



W-7



W-5



W-9





W-8



W-10



W-16



W-15



W-11



W-17



W-19



W-13



W-14



W-21



W-23



W-12



W-18



W-20



W-24



W-26



W-22



W-27



W-28



W-25



W-29

# 報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき 4							
書名	一色青海遺跡Ⅳ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第 233 集							
編著者名	鈴木 恵介・永井 宏幸・樋上 昇・柳原 麻子・伊藤 茂・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹・Zaur Lomtadze・小林 克也							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いっしきあおかいいせき 一色青海遺跡	いなざわいっしきあおかいちょう 稲沢市一色青海町、 ぎちようちよう いぼりのぐちよう 儀長町、井堀野口町、 へいわちようすがたに 平和町須ヶ谷	232203	270013	35 度 14 分 9 秒	136 度 45 分 20 秒	2018.6~11 2019.5~10 2021.5~10 2023.6~9	4,580	日光川 上流流 域下水 道浄化 センタ ー建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
一色青海遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴建物跡 22 棟 方形周溝墓 2 基、 溝 13 条、土坑		弥生土器、石器、木器		焼失した大型竪穴 建物跡、木器に残る 鉄製工具の使用痕跡	
	集落跡	鎌倉時代 ～ 室町時代	溝 2 条					
文書番号	発掘届出 (30 埋セ第 7 号・2018.4.13) (31 埋セ第 4 号・2019.4.1) (3 埋セ第 1-1 号・2021.4.1) (5 埋セ第 11 号・2023.4.6) 発掘届出 (30 教生第 184 号・2018.4.16) (31 教生第 273 号・2019.4.19) (3 文芸第 128 号・2021.4.9) (5 文芸第 134 号・2023.4.18) 終了届・保管証・発見届 (30 埋セ第 90 号・2018.11.19) (31 埋セ第 91 号・2019.11.1) (3 埋セ第 104 号・2021.10.19) (5 埋セ第 73 号・2023.9.14) 鑑定結果通知 (30 教生第 3184 号・2018.12.25) (31 教生第 4167 号・2020.3.27) (3 文芸第 1736 号・2021.10.27) (5 文芸第 1077 号・2023.9.26)							
要約	三宅川の右岸自然堤防上に形成された弥生時代中期後葉の大規模集落跡で、平成3年度より30年以上に渡って発掘調査が行われてきた。これまでに267棟の竪穴建物跡、28棟の掘立柱建物跡などが確認されてきた。今回の平成30年度から令和5年度までの調査では、さらに竪穴建物跡を22棟確認し、竪穴建物跡の総数は289棟となった。また、平成21年度の調査で見つかった河道の続きを確認し、多量の土器・石器・木器が出土した。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第233集

## 一色青海遺跡Ⅳ

2026年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社